

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	カブコウチダイン チュウバダいがく 学校法人 中部大学								
フリガナ大学の名称	チュウバダいがく 中部大学 (Chubu University)								
大学本部の位置	愛知県春日井市松本町1200番地								
大学の目的	<p>中部大学は「不言実行、あてになる人間」を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>本学は、数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献する科学技術者を養成することを目的として、令和5年4月に、<b>理工学部（数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科）</b>を設置する予定である。そのうち、<b>数理・物理サイエンス学科</b>は、特に時代と社会の要請に対応するため、本学において新たに設置する学科である。</p> <p>同学科は、数理科学・物理科学分野の知識と技術を身につけ、自律的に学び、考え、自ら課題を発見・設定し解決する実践力を持った、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」を養成することを目的としている。またこのため、学生には、数理科学（数学、データサイエンス等）・物理科学（物理学、物質科学、宇宙・地球科学等）の分野の知識および技術を基盤として、自律的に学ぶ力、自由な発想力、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、課題の発見力と解決のための実践力、判断力、コミュニケーション能力を修得させることを教育研究上の目的としている。</p> <p>本学は、これらの人材養成を行うために必要かつ適切な入学定員及び収容定員を確保し、同学科における教育の質の保証に努めることを目的として、定員を変更したいと考えている。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	備考
	理工学部 [College of Science and Engineering]	年	人	年次 人	人	学士 (理学) [Bachelor of Science]	年 月 第 年次 令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次	愛知県春日井市 松本町1200番地	※令和4年4月 設置届出予定
	数理・物理サイエンス学科 [Department of Mathematical and Physical Sciences]	4	40 (0)	3年次 2 (0)	164 (0)				
	AIロボティクス学科 [Department of Artificial Intelligence and Robotics]	4	80 (0)	3年次 2 (0)	324 (0)	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次		
	宇宙航空学科 [Department of Astronautics and Aeronautics]	4	80 (0)	3年次 2 (0)	324 (0)	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次		
工学部 [College of Engineering]	4	160	3年次 2	644	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	昭和39年4月 第1年次 平成25年4月 第3年次	愛知県春日井市 松本町1200番地		
機械工学科 [Department of Mechanical Engineering]	4	80	3年次 2	324	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	平成30年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次			
都市建設工学科 [Department of Civil Engineering]	4	110	3年次 2	444	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	昭和39年4月 第1年次 平成25年4月 第3年次			
建築学科 [Department of Architecture]	4	90	3年次 2	364	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	昭和41年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次			

新設	情報工学科 [Department of Computer Science]	4	120	3年次 2	484	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	平成12年4月 第1年次 平成25年4月 第3年次	愛知県春日井市 松本町1200番地				
	ロボット理工学科 (廃止) [Department of Robotic Science and Technology]	4	0 (80)	3年次 0 (2)	0 (324)	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	平成26年4月 第1年次 平成28年4月 第3年次					
	電気電子システム工学科 [Department of Electrical and Electronic Engineering]	4	160	3年次 2	644	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	平成30年4月 第1年次 平成32年4月 第3年次					
学部	宇宙航空理工学科 (廃止) [Department of Astronautics and Aeronautics]	4	0 (80)	3年次 0 (2)	0 (324)	学士 (工学) [Bachelor of Engineering]	平成30年4月 第1年次 令和2年4月 第3年次					
	経営情報学部 [College of Business Administration and Information Science]	4	300	3年次 6	1,212	学士 (経営情報学) [Bachelor of Business Administration and Information Science]	平成28年4月 第1年次 平成30年4月 第3年次					
経営総合学科 [Department of Management Synthesis]												
部	国際関係学部 [College of International Studies]	4	140	3年次 5	570	学士 (国際学) [Bachelor of International Studies]	平成28年4月 第1年次 平成30年4月 第3年次					
	国際学科 [Department of International Studies]											
等	人文学部 [College of Humanities]	4	80	3年次 2	324	学士 (人文学) [Bachelor of Humanities]	平成10年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次					
	日本語日本文化学科 [Department of Japanese Language and Culture]											
	英語英米文化学科 [Department of English Language and Culture]							70	3年次 2	284	学士 (人文学) [Bachelor of Humanities]	平成10年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次
	コミュニケーション学科 [Department of Communications]							70	3年次 2	284	学士 (人文学) [Bachelor of Humanities]	平成10年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次
	心理学科 [Department of Psychology]							90	3年次 2	364	学士 (人文学) [Bachelor of Humanities]	平成14年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次
概要	歴史地理学科 [Department of History and Geography]	4	90	3年次 2	364	学士 (人文学) [Bachelor of Humanities]	平成16年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次					
	応用生物学部 [College of Bioscience and Biotechnology]	4	110	3年次 2	444	学士 (応用生物学) [Bachelor of Bioscience and Biotechnology]	平成13年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次					
	応用生物化学科 [Department of Biological Chemistry]											
要	環境生物科学科 [Department of Environmental Biology]	4	110	3年次 2	444	学士 (応用生物学) [Bachelor of Bioscience and Biotechnology]	平成13年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次					

新 設 学 部 等 の 概 要	食品栄養科学科 [Department of Food and Nutritional Sciences]	4	140	3年次 2	564	学士 (応用生物学) [Bachelor of Bioscience and Biotechnology ]	平成17年4月 第1年次 平成22年4月 第3年次	愛知県春日井市 松本町1200番地
	生命健康科学部 [College of Life and Health Sciences]							
	生命医科学科 [Department of Biomedical Sciences]	4	60	—	240	学士 (生命医科学) [Bachelor of Biomedical Science]	平成18年4月 第1年次	
	保健看護学科 [Department of Nursing]	4	100	—	400	学士 (看護学) [Bachelor of Nursing]	平成18年4月 第1年次	
	理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	4	40	—	160	学士 (理学療法学) [Bachelor of Physical Therapy]	平成22年4月 第1年次	
	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4	40	—	160	学士 (作業療法学) [Bachelor of Occupational Therapy]	平成22年4月 第1年次	
	臨床工学科 [Department of Clinical Engineering]	4	40	—	160	学士 (臨床工学) [Bachelor of Clinical Engineering]	平成22年4月 第1年次	
	スポーツ保健医療学科 [Department of Lifelong Sports and Health Sciences]	4	80	—	320	学士 (スポーツ保健 医療学) [Bachelor of Lifelong Sports and Health Sciences]	平成23年4月 第1年次	
現代教育学部 [College of Contemporary Education]								
幼児教育学科 [Department of Early Childhood Education]	4	80	3年次 2	324	学士 (教育学) [Bachelor of Education]	平成20年4月 第1年次 平成25年4月 第3年次		
現代教育学科 [Department of Contemporary Education]	4	80	3年次 2	324	学士 (教育学) [Bachelor of Education]	平成20年4月 第1年次 平成25年4月 第3年次		
計	—	2,640 (2,600)	3年次 49 (47)	10,658 (10,494)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	理工学部 数理・物理サイエンス学科〔定員増〕 40 (3年次編入学定員) 2 AIロボティクス学科〔定員増〕 80 (3年次編入学定員) 2 宇宙航空学科〔定員増〕 80 (3年次編入学定員) 2 (令和4年4月設置届出予定) 工学部 ロボット理工学科(廃止) (△80) (3年次編入学定員) (△2) 宇宙航空理工学科(廃止) (△80) (3年次編入学定員) (△2) ※令和5年4月学生募集停止 (3年次編入募集定員は令和7年4月学生募集停止)							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
		— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位			
教	学部等の名称	専任教員等					兼任教員等		
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
員	新	理工学部	人	人	人	人	人	人	
		数理・物理サイエンス学科	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	69 (69)
組	設	AIロボティクス学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	73 (73)
		宇宙航空学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	83 (83)
の	概	工学部							
		機械工学科	12 (12)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	105 (105)
要	分	都市建設工学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	112 (112)
		建築学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	127 (127)
		応用化学科	9 (9)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	104 (104)
		情報工学科	9 (9)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	107 (107)
		電気電子システム工学科	12 (12)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	118 (118)
		創造理工学実験教育科	2 (2)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		工学部付	5 (5)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
		経営情報学部							
		経営総合学科	14 (14)	6 (6)	3 (3)	3 (3)	26 (26)	0 (0)	62 (62)
		経営情報学部付	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		国際関係学部							
		国際学科	11 (11)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	90 (90)
		人文学部							
		日本語日本文化学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	82 (82)
		英語英米文化学科	4 (4)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	78 (78)
		コミュニケーション学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	9 (9)	0 (0)	87 (87)
		心理学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	115 (115)
		歴史地理学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	90 (90)
		人文学部付	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	90 (90)
		応用生物学部							
		応用生物化学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	68 (68)
		環境生物科学科	5 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	78 (78)
		食品栄養科学科	9 (9)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	18 (18)	6 (6)	94 (94)
		応用生物学部付	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	7 (7)	0 (0)
		生命健康科学部							
		生命医科学科	10 (10)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	4 (4)	92 (92)
		保健看護学科	8 (8)	6 (6)	7 (7)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	106 (106)
		理学療法学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	104 (104)
		作業療法学科	4 (4)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	104 (104)

教 員 組 の 概 要	新	臨床工学科	5 (5)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	11 (11)	1 (1)	125 (125)	
		スポーツ保健医療学科	4 (4)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	110 (110)	
		生命健康科学部付	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	
	設	現代教育学部								
		幼児教育学科	4 (4)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	88 (88)	
		現代教育学科	9 (9)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	119 (119)	
		現代教育学部付	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	
	分	教育実習センター	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	4 (4)	
		計	218 (218)	99 (99)	48 (48)	14 (14)	379 (379)	18 (18)	— (—)	
	既 設 の 概 要	組 織	人間力創成総合教育院	15 (15)	10 (10)	7 (7)	3 (3)	35 (35)	0 (0)	0 (0)
			創造的リベラルアーツセンター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
			大学企画室	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
			教育戦略部門 学生相談室	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
			生物機能開発研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
			生命健康科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
研究戦略部門 AI数理データサイエンスセンター			2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	
実験動物教育研究センター			0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
国際・地域戦略部門 国際センター			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
臨地実習推進部			3 (3)	2 (2)	3 (3)	7 (7)	15 (15)	13 (13)	0 (0)	
創発学院			2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
中等高等学術研究所			1 (1)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
学術推進機構 先端研究センター			12 (12)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
URA組織			1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
学長付			2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
計	41 (41)	23 (23)	16 (16)	12 (12)	92 (92)	15 (15)	— (—)			
合計	259 (259)	122 (122)	64 (64)	26 (26)	471 (471)	33 (33)	— (—)			
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		135 (135)		71 (71)		206 (206)			
	技 術 職 員		23 (23)		5 (5)		28 (28)			
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)		0 (0)		7 (7)			
	そ の 他 の 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)			
計		166 (166)		76 (76)		242 (242)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	435,701.24 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	435,701.24 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地	132,957.34 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	132,957.34 m <sup>2</sup>				
	小 計	568,658.58 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	568,658.58 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	8,003.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	8,003.00 m <sup>2</sup>				
	合 計	576,661.58 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	576,661.58 m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		179,015.26 m <sup>2</sup> (176,671.62 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	179,015.26 m <sup>2</sup> (176,671.62 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	112 室	198 室	856 室	5 室 (補助職員 6人)	7 室 (補助職員 2人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		大学全体		469 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	791,000 [193,000] (743,000 [188,000])	23,500 [13,000] (23,500 [13,000])	14,200 [9,300] (14,200 [9,300])	16,700 (16,300)	5,278 (5,193)	15 (15)		
	計	791,000 [193,000] (743,000 [188,000])	23,500 [13,000] (23,500 [13,000])	14,200 [9,300] (14,200 [9,300])	16,700 (16,300)	5,278 (5,193)	15 (15)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		12,203.43 m <sup>2</sup>		950 席	800,000 冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		11,730.11 m <sup>2</sup>		全天候型フィールド2面、野球場1面、テニスコート4面、弓道場5人立ち、アーチェリー場6人立ち、室内温水プール25m×7コース					
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		548千円	548千円	548千円	548千円	— 千円	— 千円
		共同研究費等		56,900千円	56,900千円	56,900千円	56,900千円	— 千円	— 千円
		図書購入費	54,491千円	54,491千円	54,491千円	54,491千円	54,491千円	— 千円	— 千円
	設備購入費	548,842千円	572,862千円	678,222千円	672,542千円	635,242千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		理工学部	1,620千円	1,360千円	1,380千円	1,400千円	— 千円	— 千円	
		工学部	1,620千円	1,360千円	1,380千円	1,400千円	— 千円	— 千円	
		経営情報学部	1,380千円	1,120千円	1,140千円	1,160千円	— 千円	— 千円	
		国際関係学部	1,420千円	1,160千円	1,180千円	1,200千円	— 千円	— 千円	
		人文学部	1,420千円	1,160千円	1,180千円	1,200千円	— 千円	— 千円	
		応用生物学部							
		(応用生物化学科、環境生物科学科、食品栄養科学科食品栄養科学専攻)	1,620千円	1,360千円	1,380千円	1,400千円	— 千円	— 千円	大学全体
		(食品栄養科学科管理栄養科学専攻)	1,620千円	1,360千円	1,440千円	1,400千円	— 千円	— 千円	
		生命健康科学部							
		(生命医科学科)	1,850千円	1,710千円	1,730千円	1,750千円	— 千円	— 千円	
(保健看護学科)		1,700千円	1,560千円	1,580千円	1,600千円	— 千円	— 千円		
(理学療法学科) (作業療法学科)	1,700千円	1,510千円	1,530千円	1,600千円	— 千円	— 千円			
(臨床工学科)	1,650千円	1,460千円	1,480千円	1,550千円	— 千円	— 千円			
(スポーツ保健医療学科)	1,570千円	1,410千円	1,430千円	1,450千円	— 千円	— 千円			
現代教育学部	1,370千円	1,150千円	1,170千円	1,190千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金 等						

大学等の名称	中部大学大学院								
	学部の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	工学研究科								
	機械工学専攻								
	（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（工学）	0.50	昭和46年度	
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.16	昭和48年度	
	電気電子工学専攻								
	（博士前期課程）	2	18	—	36	修士（工学）	0.63	昭和46年度	
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.08	昭和48年度	
	建設工学専攻								
	（博士前期課程）	2	16	—	32	修士（工学）	0.37	昭和51年度	
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.16	昭和51年度	
	応用化学専攻								
	（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（工学）	1.30	昭和48年度	
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.16	昭和51年度	
	情報工学専攻								
	（博士前期課程）	2	16	—	32	修士（工学）	1.09	平成16年度	
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.58	平成16年度	
	創造エネルギー理工学専攻								
	（博士前期課程）	2	6	—	12	修士（工学）	0.16	平成26年度	
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.16	平成28年度	
	ロボット理工学専攻								
	（博士前期課程）	2	12	—	24	修士（工学）	1.20	平成30年度	
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.87	令和2年度	
	宇宙航空理工学専攻								
	（修士課程）	2	12	—	12	修士（工学）	—	令和4年度	
	経営情報学研究科								
	経営情報学専攻								
	（博士前期課程）	2	15	—	30	修士（経営情報学）	0.03	平成8年度	
	（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（経営情報学）	0.11	平成10年度	
	経営学専攻								
	（修士課程）	2	20	—	40	修士（経営学）	0.05	平成18年度	
国際人間学研究科									
国際関係学専攻									
（博士前期課程）	2	4	—	8	修士（国際関係学）	0.87	平成16年度		
（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（国際関係学）	0.00	平成16年度		
言語文化専攻									
（博士前期課程）	2	4	—	8	修士（言語文化学）	0.75	平成16年度		
（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（言語文化学）	0.16	平成16年度		
心理学専攻									
（博士前期課程）	2	4	—	8	修士（心理学）	0.12	平成16年度		
（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（心理学）	0.00	平成16年度		
歴史学・地理学専攻									
（博士前期課程）	2	4	—	8	修士（歴史学）	0.25	平成20年度		
（博士後期課程）	3	2	—	6	修士（地理学） 博士（歴史学） 博士（地理学）	0.16	平成22年度		

愛知県春日井市  
松本町1200番地

既設大学等の状況	応用生物学研究科										
	応用生物学専攻										
	(博士前期課程)	2	24	—	48	修士(応用生物学)	1.37	平成17年度			
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(応用生物学)	0.27	平成19年度			
	生命健康科学研究科										
	生命医科学専攻										
	(博士前期課程)	2	12	—	24	修士(生命医科学)	0.62	平成23年度			
	(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(生命医科学)	0.77	平成25年度			
	看護学専攻										
	(修士課程)	2	6	—	12	修士(看護学)	0.16	平成23年度			愛知県春日井市 松本町1200番地
	リハビリテーション学専攻										
	(修士課程)	2	6	—	12	修士(リハビリテーション学)	0.66	平成26年度			
	保健医療学専攻										
(修士課程)	2	6	—	12	修士(保健医療学)	0.16	平成31年度				
教育学研究科											
教育学専攻											
(修士課程)	2	12	—	24	修士(教育学)	0.12	平成24年度				
大 学 の 名 称	中部大学										
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地			
	年	人	年次 人	人		倍					
工学部											
機械工学科	4	160	3年次 2	644	学士 (工学)	1.01	昭和39年度				
都市建設工学科	4	80	3年次 2	324	学士 (工学)	1.00	昭和39年度				
建築学科	4	110	3年次 2	444	学士 (工学)	1.03	昭和39年度				
応用化学科	4	90	3年次 2	364	学士 (工学)	0.96	昭和41年度				
情報工学科	4	120	3年次 2	484	学士 (工学)	1.01	平成12年度				
ロボット理工学科	4	80	3年次 2	324	学士 (工学)	1.09	平成26年度				
電気電子システム工 学科	4	160	3年次 2	644	学士 (工学)	1.10	平成30年度				
宇宙航空理工学科	4	80	3年次 2	324	学士 (工学)	1.00	平成30年度				
経営情報学部											
経営総合学科	4	300	3年次 6	1,212	学士 (経営情報学)	1.01	平成28年度	愛知県春日井市 松本町1200番地			
国際関係学部											
国際学科	4	140	3年次 5	570	学士 (国際学)	0.97	平成28年度				
人文学部											
日本語日本文化学科	4	80	3年次 2	324	学士 (人文学)	0.99	平成10年度				
英語英米文化学科	4	70	3年次 2	284	学士 (人文学)	0.97	平成10年度				
コミュニケーション 学科	4	70	3年次 2	284	学士 (人文学)	1.05	平成10年度				
心理学科	4	90	3年次 2	364	学士 (人文学)	1.02	平成14年度				
歴史地理学科	4	90	3年次 2	364	学士 (人文学)	0.96	平成16年度				
応用生物学部											
応用生物化学科	4	110	3年次 2	444	学士 (応用生物学)	1.00	平成13年度				
環境生物科学科	4	110	3年次 2	444	学士 (応用生物学)	1.06	平成13年度				
食品栄養科学科	4	140	3年次 2	564	学士 (応用生物学)	0.90	平成17年度				



既設大学の状況	生命健康科学部 生命医科学科	4	60	—	240	学士 (生命医科学)	1.03	平成18年度	愛知県春日井市 松本町1200番地
	保健看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	0.99	平成18年度	
	理学療法学科	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	1.04	平成22年度	
	作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.96	平成22年度	
	臨床工学科	4	40	—	160	学士 (臨床工学)	1.01	平成22年度	
	スポーツ保健医療学科	4	80	—	320	学士 (スポーツ保健医療学)	1.04	平成23年度	
	現代教育学部 幼児教育学科	4	80	3年次 2	324	学士 (教育学)	0.98	平成20年度	
	現代教育学部 現代教育学科	4	80	3年次 2	324	学士 (教育学)	1.05	平成20年度	
附属施設の概要	名称 目的	中部高等学術研究所（国際GISセンター、国際ESD・SDGsセンター） 国際的、学術的な共同研究 GIS（地理情報システム）、空間情報科学等に関する教育研究 ESD（持続可能な発展のための教育）・SDGs（持続可能な開発目標）事業							
	所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 平成8年4月 土地 大学全体として共用、建物 278.60㎡							
	名称 目的	先端研究センター 工学の基礎及び複数の学問分野の統合された学内プロジェクト研究 革新的な研究を開花させるための支援及び国際的研究活動の促進・支援							
	所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 令和2年4月 土地 大学全体として共用、建物 638.59㎡							
	名称 目的	超伝導・持続可能エネルギー研究センター 新エネルギーの技術開発及び直流超伝導送電システムの研究開発							
	所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 平成20年6月 土地 大学全体として共用、建物 680.21㎡							
	名称 目的	生物機能開発研究所 生物のもつ未知の機能の探索・開発研究							
	所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 平成12年4月 土地 大学全体として共用、建物 165.60㎡							
	名称 目的	創発学術院 新たな学術の創発を目指した先端的萌芽的な研究							
所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 平成28年4月 土地 大学全体として共用、建物 188.66㎡								
名称 目的	AI数理データサイエンスセンター 数理学（数学、物理学、情報科学）AI（コンピューターサイエンス、 計算論的脳神経科学、システム科学）データサイエンス（統計学、機械学習） を基盤領域とした高度な研究及びその成果に基づく人材育成								
所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 令和3年4月 土地 大学全体として共用、建物 149.98㎡								
名称 目的	メディア教育センター 多様な情報メディアの教育への活用についての研究及びメディアを活用した 多角的な教育支援								
所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 平成13年4月 土地 大学全体として共用、建物 794.68㎡								
名称 目的	国際センター 実践的な語学教育及びオハイオ大学の連携による英語教育プログラム Preparation for Academic Study in English Overseasの実施 外国人留学生に対する日本語及び日本文化に関する教育								
所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 令和3年4月 土地 大学全体として共用、建物 957.80㎡								
名称 目的	看護実習センター 生命健康科学部保健看護学科における臨地実習教育								
所在地 設置年月 規模等	愛知県春日井市松本町1200番地 平成18年4月 土地 大学全体として共用、建物 222.69㎡								

附属施設の概要	名称	実験動物教育研究センター
	目的	動物実験、実験用動物の生産・飼育管理及び実験用動物に関する教育・研究
	所在地	愛知県春日井市松本町1200番地
	設置年月日 規模等	平成18年4月 土地 大学全体として共用、建物 1,153.59㎡
附属施設の概要	名称	教育実習センター
	目的	教職課程等における学外実習教育
	所在地	愛知県春日井市松本町1200番地
	設置年月日 規模等	平成20年4月 土地 大学全体として共用、建物 84.65㎡
附属施設の概要	名称	臨床検査技術教育・実習センター
	目的	生命健康科学部生命医科学科における臨床検査技術教育
	所在地	愛知県春日井市松本町1200番地
	設置年月日 規模等	平成21年4月 土地 大学全体として共用、建物 生命健康科学部と共用
附属施設の概要	名称	医療技術実習センター
	目的	生命健康科学部における臨床実習教育
	所在地	愛知県春日井市松本町1200番地
	設置年月日 規模等	平成22年4月 土地 大学全体として共用、建物 生命健康科学部と共用

## 学校法人中部大学 設置認可等に関わる組織の移行表

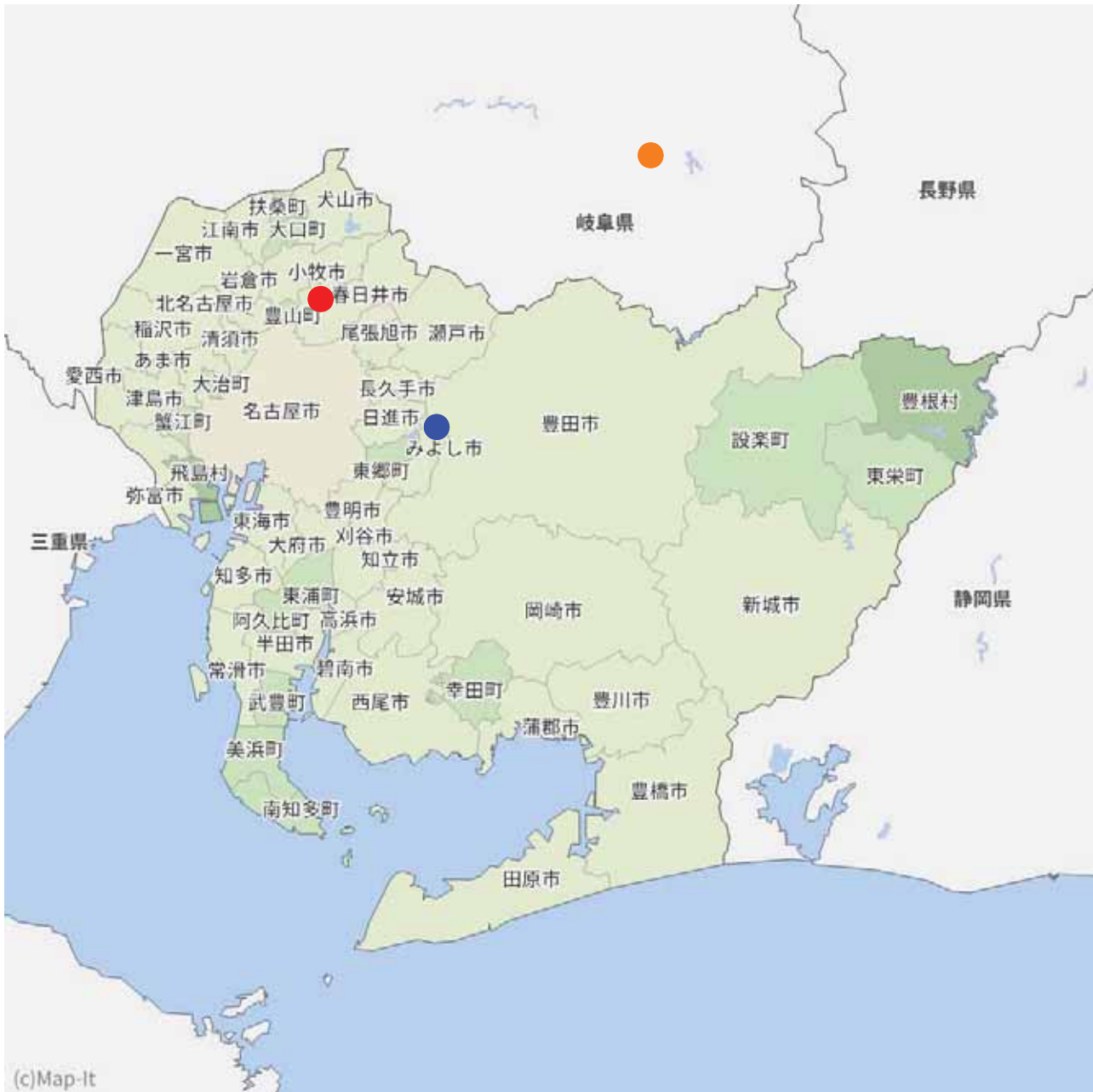
令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
<b>中部大学</b>				
<b>工学部</b>				
機械工学科	160	3年次 2	644	
都市建設工学科	80	3年次 2	324	
建築学科	110	3年次 2	444	
応用化学科	90	3年次 2	364	
情報工学科	120	3年次 2	484	
ロボット理工学科	80	3年次 2	324	
電気電子システム工学科	160	3年次 2	644	
宇宙航空理工学科	80	3年次 2	324	
<b>経営情報学部</b>				
経営総合学科	300	3年次 6	1,212	
<b>国際関係学部</b>				
国際学科	140	3年次 5	570	
<b>人文学部</b>				
日本語日本文化学科	80	3年次 2	324	
英語英米文化学科	70	3年次 2	284	
コミュニケーション学科	70	3年次 2	284	
心理学科	90	3年次 2	364	
歴史地理学科	90	3年次 2	364	
<b>応用生物学部</b>				
応用生物化学科	110	3年次 2	444	
環境生物科学科	110	3年次 2	444	
食品栄養科学科	140	3年次 2	564	
<b>生命健康科学部</b>				
生命医科学科	60	—	240	
保健看護学科	100	—	400	
理学療法学科	40	—	160	
作業療法学科	40	—	160	
臨床工学科	40	—	160	
スポーツ保健医療学科	80	—	320	
<b>現代教育学部</b>				
幼児教育学科	80	3年次 2	324	
現代教育学科	80	3年次 2	324	
計	2,600	3年次 47	10,494	

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>中部大学</b>				
<b>工学部</b>				
機械工学科	160	3年次 2	644	
都市建設工学科	80	3年次 2	324	
建築学科	110	3年次 2	444	
応用化学科	90	3年次 2	364	
情報工学科	120	3年次 2	484	
ロボット理工学科	0	0	0	令和5年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和7年4月募集停止）
電気電子システム工学科	160	3年次 2	644	
宇宙航空理工学科	0	0	0	令和5年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和7年4月募集停止）
<b>理工学部</b>				
数理・物理サイエンス学科	40	3年次 2	164	学部の設置（届出）
AIロボティクス学科	80	3年次 2	324	
宇宙航空学科	80	3年次 2	324	
<b>経営情報学部</b>				
経営総合学科	300	3年次 6	1,212	
<b>国際関係学部</b>				
国際学科	140	3年次 5	570	
<b>人文学部</b>				
日本語日本文化学科	80	3年次 2	324	
英語英米文化学科	70	3年次 2	284	
コミュニケーション学科	70	3年次 2	284	
心理学科	90	3年次 2	364	
歴史地理学科	90	3年次 2	364	
<b>応用生物学部</b>				
応用生物化学科	110	3年次 2	444	
環境生物科学科	110	3年次 2	444	
食品栄養科学科	140	3年次 2	564	
<b>生命健康科学部</b>				
生命医科学科	60	—	240	
保健看護学科	100	—	400	
理学療法学科	40	—	160	
作業療法学科	40	—	160	
臨床工学科	40	—	160	
スポーツ保健医療学科	80	—	320	
<b>現代教育学部</b>				
幼児教育学科	80	3年次 2	324	
現代教育学科	80	3年次 2	324	
計	2,640	3年次 49	10,658	

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
<b>中部大学大学院</b>			
<b>工学研究科</b>			
機械工学専攻			
博士前期課程	10	—	20
博士後期課程	4	—	12
電気電子工学専攻			
博士前期課程	18	—	36
博士後期課程	4	—	12
建設工学専攻			
博士前期課程	16	—	32
博士後期課程	4	—	12
応用化学専攻			
博士前期課程	10	—	20
博士後期課程	4	—	12
情報工学専攻			
博士前期課程	16	—	32
博士後期課程	4	—	12
創造IT・IT-理工学専攻			
博士前期課程	6	—	12
博士後期課程	4	—	12
ロボット理工学専攻			
博士前期課程	12	—	24
博士後期課程	4	—	12
宇宙航空理工学専攻			
修士課程	12	—	24
<b>経営情報学研究科</b>			
経営情報学専攻			
博士前期課程	15	—	30
博士後期課程	3	—	9
経営学専攻			
修士課程	20	—	40
<b>国際人間学研究科</b>			
国際関係学専攻			
博士前期課程	4	—	8
博士後期課程	2	—	6
言語文化専攻			
博士前期課程	4	—	8
博士後期課程	2	—	6
心理学専攻			
博士前期課程	4	—	8
博士後期課程	2	—	6
歴史学・地理学専攻			
博士前期課程	4	—	8
博士後期課程	2	—	6
<b>応用生物学研究科</b>			
応用生物学専攻			
博士前期課程	24	—	48
博士後期課程	6	—	18
<b>生命健康科学研究科</b>			
生命医学専攻			
博士前期課程	12	—	24
博士後期課程	3	—	9
看護学専攻			
修士課程	6	—	12
リハビリテーション学専攻			
修士課程	6	—	12
保健医療学専攻			
修士課程	6	—	12
<b>教育学研究科</b>			
教育学専攻			
修士課程	12	—	24
計	265	—	578

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>中部大学大学院</b>				
<b>工学研究科</b>				
機械工学専攻				
博士前期課程	10	—	20	
博士後期課程	4	—	12	
電気電子工学専攻				
博士前期課程	18	—	36	
博士後期課程	4	—	12	
建設工学専攻				
博士前期課程	16	—	32	
博士後期課程	4	—	12	
応用化学専攻				
博士前期課程	10	—	20	
博士後期課程	4	—	12	
情報工学専攻				
博士前期課程	16	—	32	
博士後期課程	4	—	12	
創造IT・IT-理工学専攻				
博士前期課程	6	—	12	
博士後期課程	4	—	12	
ロボット理工学専攻				
博士前期課程	12	—	24	
博士後期課程	4	—	12	
宇宙航空理工学専攻				
修士課程	12	—	24	
<b>経営情報学研究科</b>				
経営情報学専攻				
博士前期課程	15	—	30	
博士後期課程	3	—	9	
経営学専攻				
修士課程	20	—	40	
<b>国際人間学研究科</b>				
国際関係学専攻				
博士前期課程	4	—	8	
博士後期課程	2	—	6	
言語文化専攻				
博士前期課程	4	—	8	
博士後期課程	2	—	6	
心理学専攻				
博士前期課程	4	—	8	
博士後期課程	2	—	6	
歴史学・地理学専攻				
博士前期課程	4	—	8	
博士後期課程	2	—	6	
<b>応用生物学研究科</b>				
応用生物学専攻				
博士前期課程	24	—	48	
博士後期課程	6	—	18	
<b>生命健康科学研究科</b>				
生命医学専攻				
博士前期課程	12	—	24	
博士後期課程	3	—	9	
看護学専攻				
修士課程	6	—	12	
リハビリテーション学専攻				
修士課程	6	—	12	
保健医療学専攻				
修士課程	6	—	12	
<b>教育学研究科</b>				
教育学専攻				
修士課程	12	—	24	
計	265	—	578	

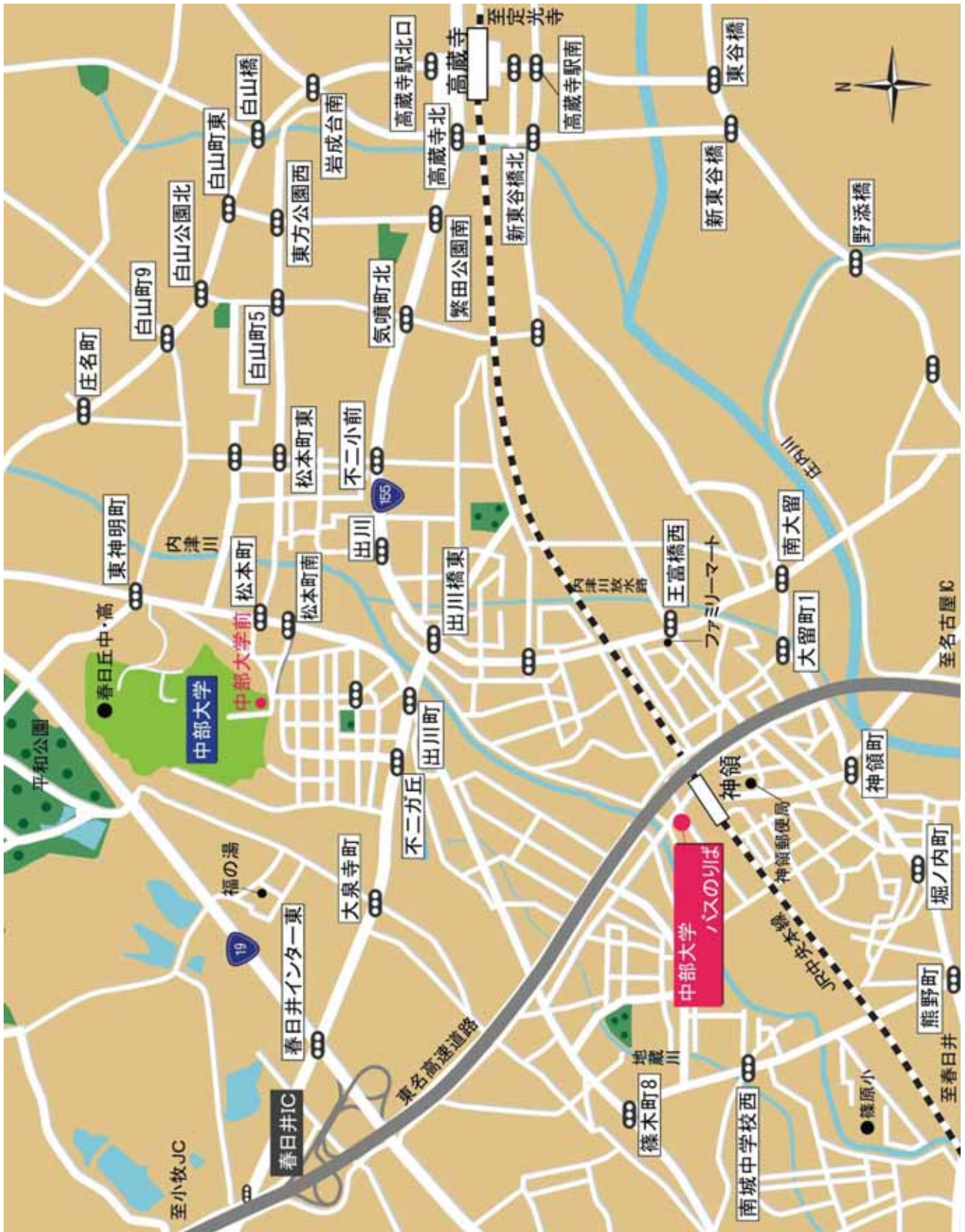
# 愛知県



● 春日井校地

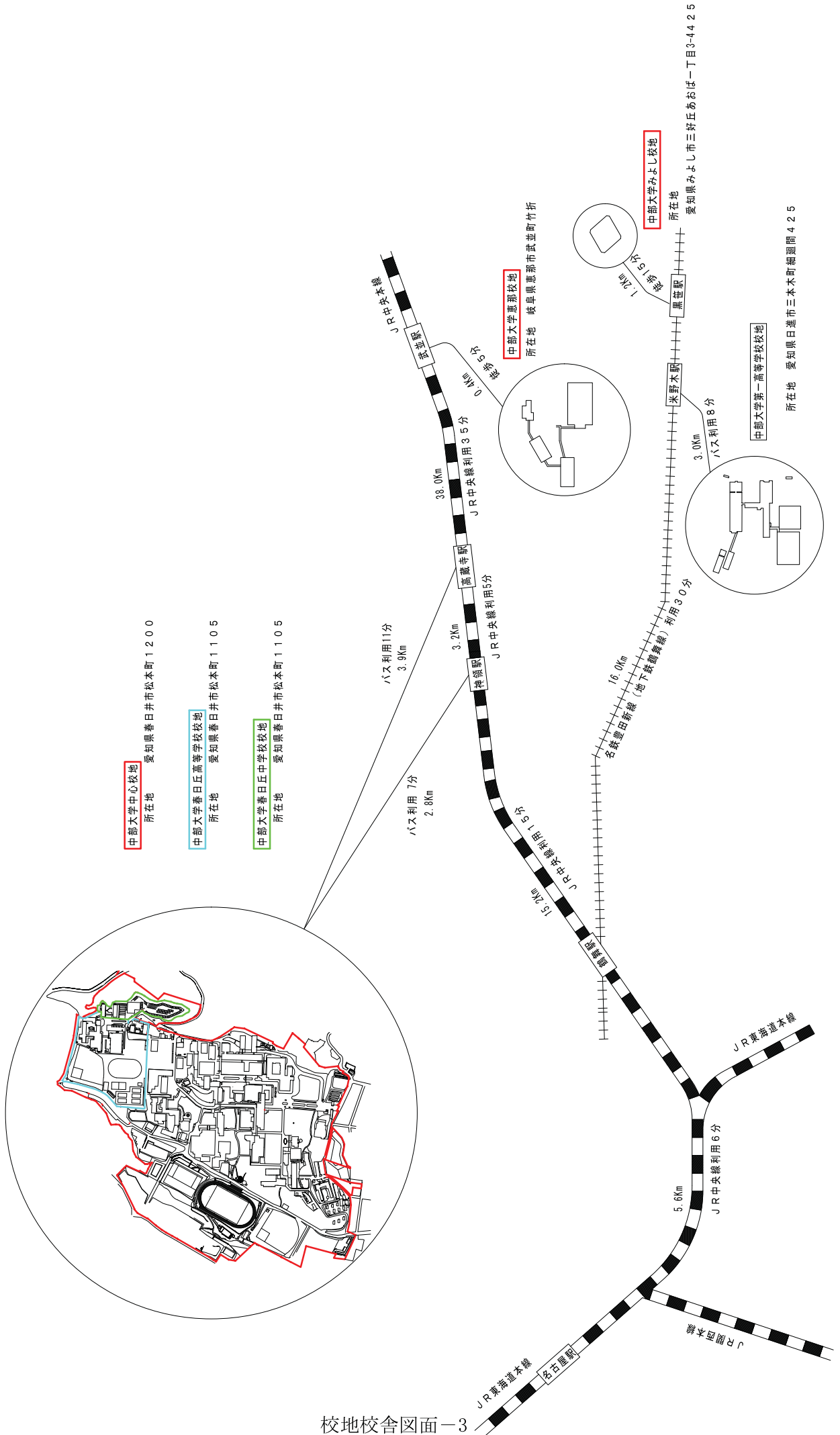
● 恵那校地

● みよし校地

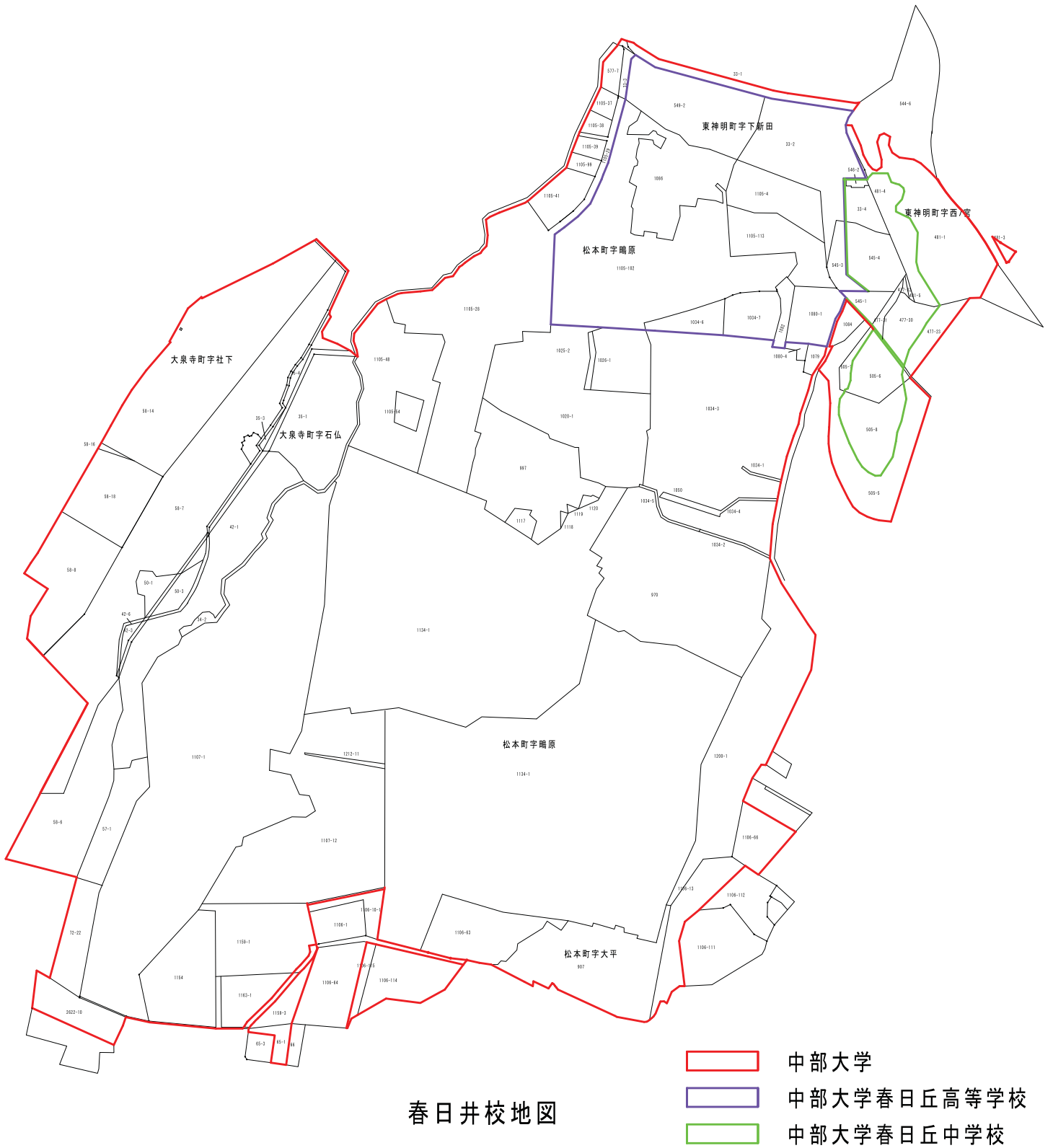


# アクセスマップ

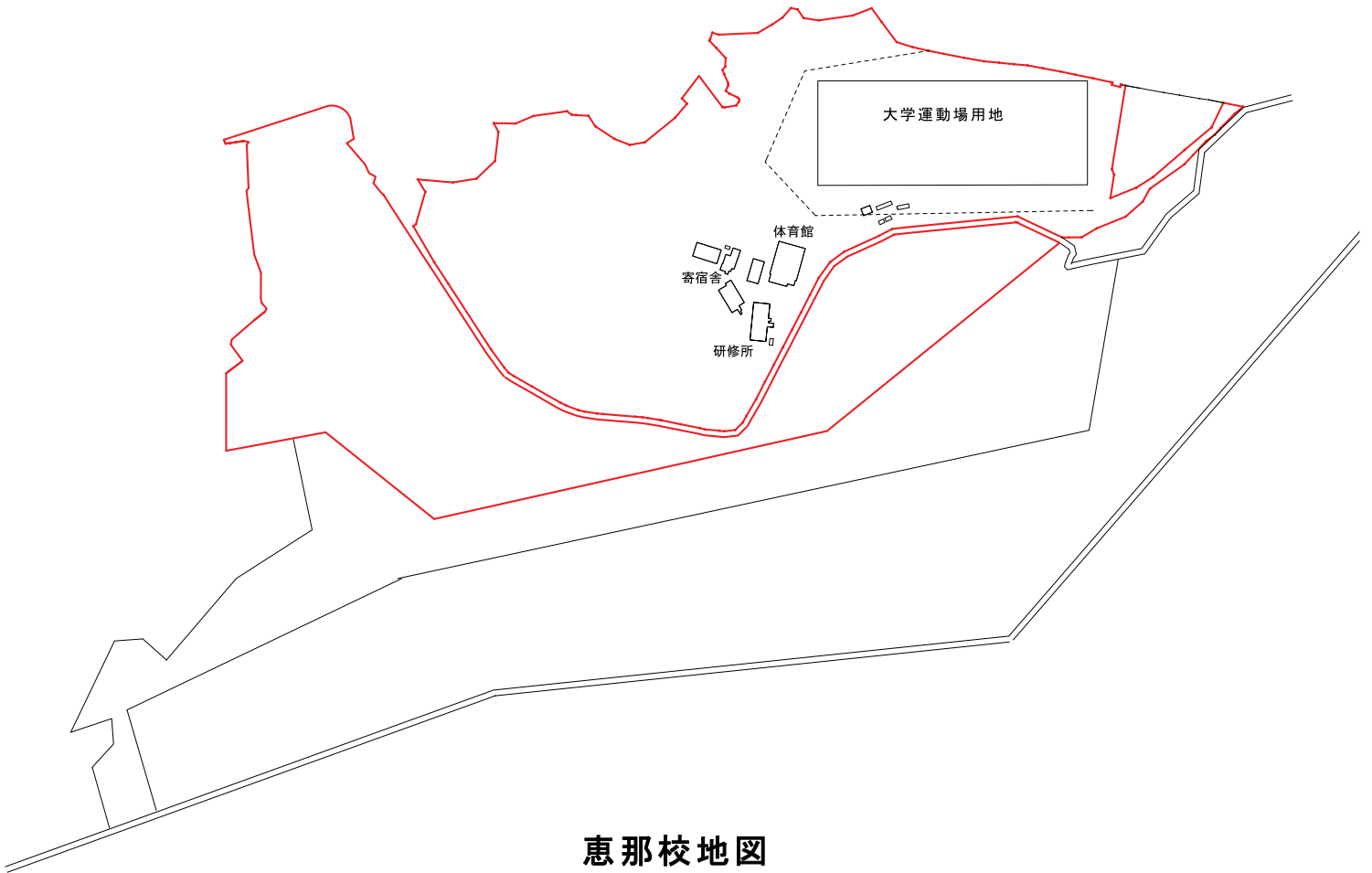
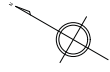
私立大学の位置及び近隣の環境



校地校舎図面-3





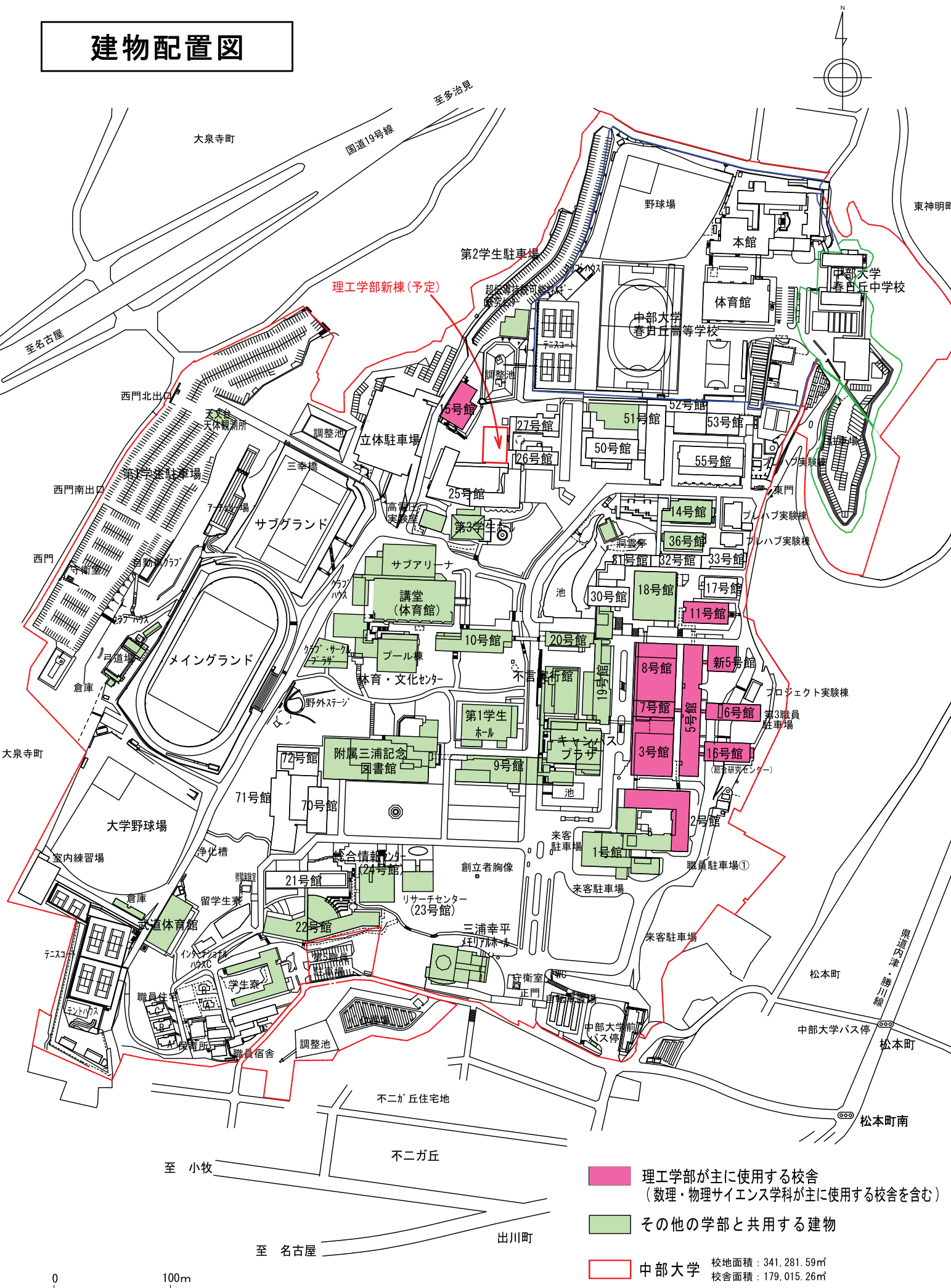


### 恵那校地図

 中部大学



# 建物配置図



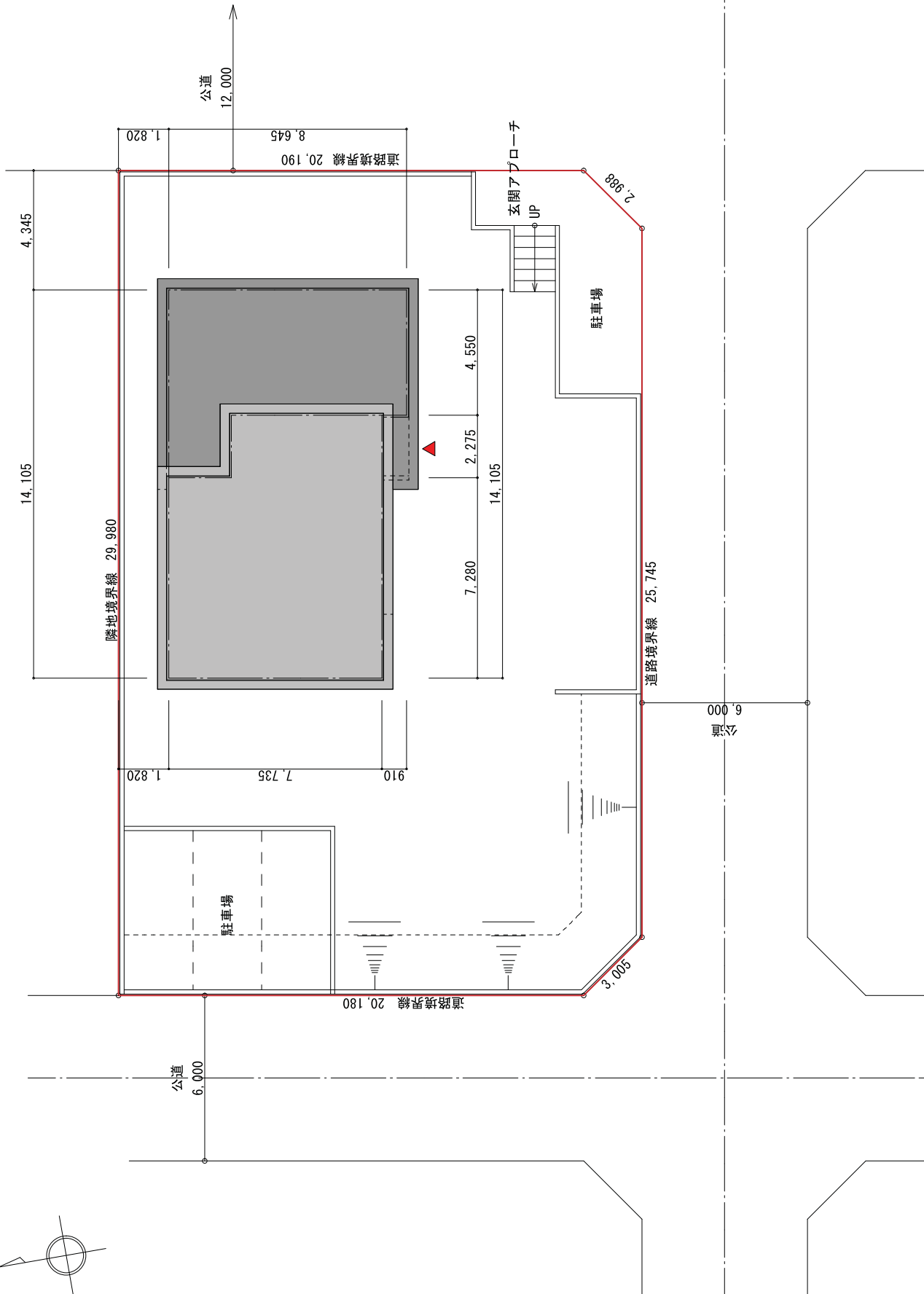
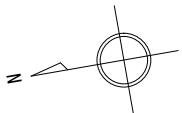
- 理工学部が主に使用する校舎  
(数理・物理サイエンス学科が主に使用する校舎を含む)
- その他の学部と共用する建物
- 中部大学 校地面積: 341,281.59㎡  
校舎面積: 179,015.26㎡
- 中部大学春日丘高等学校
- 中部大学春日丘中学校

校舎等建物配置図 (春日井校地)  
校地校舎図面-7



### 校舎等建物配置図（恵那校地）

耕地面積：226,794.13㎡



# 中部大学学則(案)

## 第1章 目的

第1条 中部大学(以下「本学」という。)は、教育基本法並びに建学の精神にのっとり、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力をもつ有為な人材を育成し、もって人類・社会の発展と学術・文化の進展に寄与することを目的とする。

## 第2章 学部・学科及び収容定員

第2条 本学に置く学部・学科は次のとおりとし、学生はその一学部・学科を専修するものとする。

工学部	機械工学科、都市建設工学科、建築学科、応用化学科、情報工学科、電気電子システム工学科
経営情報学部	経営総合学科
国際関係学部	国際学科
人文学部	日本語日本文化学科、英語英米文化学科、コミュニケーション学科 心理学科、歴史地理学科
応用生物学部	応用生物化学科、環境生物科学科、食品栄養科学科(食品栄養科学専攻、管理栄養科学専攻)
生命健康科学部	生命医科学科、保健看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科、スポーツ保健医療学科
現代教育学部	幼児教育学科、現代教育学科(現代教育専攻、中等教育国語数学専攻)
理工学部	数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科

2 学部及び学科ごとの教育研究上の目的は、別表1のとおりとする。

3 前項の目的を踏まえ、次の各号に掲げる方針を別に定める。

- (1) 卒業の認定及び学位の授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)
- (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
- (3) 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

第3条 本学の学部及び学科の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	160	2	644
	都市建設工学科	80	2	324
	建築学科	110	2	444
	応用化学科	90	2	364
	情報工学科	120	2	484

	電気電子システム工学科	160	2	644
	計	720	12	2,904
経営情報学部	経営総合学科	300	6	1,212
	計	300	6	1,212
国際関係学部	国際学科	140	5	570
	計	140	5	570
人文学部	日本語日本文化学科	80	2	324
	英語英米文化学科	70	2	284
	コミュニケーション学科	70	2	284
	心理学科	90	2	364
	歴史地理学科	90	2	364
	計	400	10	1,620
応用生物学部	応用生物化学科	110	2	444
	環境生物科学科	110	2	444
	食品栄養科学科			
	食品栄養科学専攻	60	2	244
	管理栄養科学専攻	80	0	320
	計	360	6	1,452
生命健康科学部	生命医科学科	60	0	240
	保健看護学科	100	0	400
	理学療法学科	40	0	160
	作業療法学科	40	0	160
	臨床工学科	40	0	160
	スポーツ保健医療学科	80	0	320
	計	360	0	1,440
現代教育学部	幼児教育学科	80	2	324
	現代教育学科			
	現代教育専攻	60	2	244
	中等教育国語数学専攻	20	0	80
	計	160	4	648
理工学部	数理・物理サイエンス学科	40	2	164
	AIロボティクス学科	80	2	324
	宇宙航空学科	80	2	324
	計	200	6	812

#### 第4条 削除

### 第3章 修業年限・学年・学期及び休業日

第5条 本学の修業年限は4年とし、在学期間は通算8年を超えてはならない。

第6条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第7条 学年を分けて、次の2学期とする。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

第8条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日であっても授業又は試験を実施することがある。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 開学記念日 11月19日
- (4) 学園創立記念日 12月8日
- (5) 春季休業日
- (6) 夏季休業日
- (7) 冬季休業日

2 前項第5号から第7号までの休業期間は、別に定める。

3 必要がある場合は、第1項の休業日を臨時に変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

#### 第4章 教育課程・履修方法及び単位認定

第9条 本学の学部・学科の教育課程は、別表2のとおりとする。

2 学生は、所属する学部・学科所定の教育課程を履修しなければならない。

3 学生は、前項に定める教育課程のほか、他の学部・学科が開設する授業科目を履修することができる。

第9条の2 学生は、本学が定める科目群の授業科目を副専攻として履修することができる。

2 副専攻の種類、科目群その他の必要事項は、別に定める。

第9条の3 本学に日本語教員養成講座を置く。

2 日本語教員養成講座の授業科目その他の必要事項は、別に定める。

第10条 本学が教育上有益と認めるときに限り、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。以下「他の大学」という。）との協議に基づき、学生は学長の許可を得て当該大学の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により履修し、修得した授業科目の単位は60単位を超えない範囲で、本学卒業に必要な単位に算入する。

3 他の大学での履修の期間は、原則として1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合には、協議の上、更に1年以内に限り延長することができるが、履修の期間は、通算して2年を超えることはできない。

4 他の大学での履修の期間は、本学の在学期間に算入する。

第10条の2 本学が教育上有益と認めるときに限り、学長の許可を得て、学生が短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を行った場合は、本学における授業科目の履修とみなし、必要な単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は前条第2項による単位数と合わせて60単位を



超えないものとする。

第 11 条 本学が教育上有益と認めるときに限り、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学において修得したものとみなすことができる。

2 本学が教育上有益と認めるときに限り、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を本学における履修とみなし必要な単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし又は与えることのできる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 10 条第 2 項及び前条第 2 項による単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 11 条の 2 第 52 条の 2 の規定による科目等履修生（大学の学生以外の者に限る。）として一定の単位を修得した者が本学に入学した場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したものと認められるときは、修得した単位数、その修得に要した期間等を勘案して、2 年を超えない範囲の期間をその者の修業年限に通算することができる。

第 12 条 教育課程の授業科目は、全学共通教育科目及び学部教育科目に分ける。

第 13 条 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部・学科		免許状の種類
工学部	機械工学科 都市建設工学科 建築学科 電気電子システム工学科	高等学校教諭一種免許状（工業）
	情報工学科	高等学校教諭一種免許状（工業） 高等学校教諭一種免許状（情報）
	応用化学科	高等学校教諭一種免許状（工業） 高等学校教諭一種免許状（理科）
経営情報学部	経営総合学科	高等学校教諭一種免許状（商業）
国際関係学部	国際学科	高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（公民）
人文学部	日本語日文化学科	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
	英語英米文化学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民）

	心理学科	高等学校教諭一種免許状（公民）
	歴史地理学科	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
応用生物学部	応用生物化学科	高等学校教諭一種免許状（農業） 高等学校教諭一種免許状（理科）
	環境生物科学科	高等学校教諭一種免許状（農業） 高等学校教諭一種免許状（理科）
	食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	高等学校教諭一種免許状（農業） 高等学校教諭一種免許状（理科）
	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	栄養教諭一種免許状
生命健康科学部	保健看護学科	養護教諭一種免許状
現代教育学部	幼児教育学科	幼稚園教諭一種免許状
	現代教育学科 現代教育専攻	小学校教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（理科）
	現代教育学科 中等教育国語数学専攻	中学校教諭一種免許状（国語） 中学校教諭一種免許状（数学）
理工学部	数理・物理サイエンス学科	高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（理科）

第 13 条の 2 本学応用生物学部応用生物化学科、環境生物科学科又は食品栄養科学科の食品衛生コースにおいて、食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）に定める所要の単位を修得した者は、同法及び同法施行令（昭和 28 年政令第 229 号）の規定に基づく食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得することができる。

2 本学応用生物学部食品栄養科学科において、管理栄養科学専攻（以下「管理栄養科学専攻」という。）の課程を履修して卒業した者は、栄養士法（昭和 22 年法律第 245 号）に規定する栄養士の免許を取得することができる。

3 管理栄養科学専攻において、栄養士法施行令（昭和 28 年政令第 231 号）及び管理栄養士学校指定規則（昭和 41 年文部・厚生令第 2 号）の規定に基づき定められた所要の単位を修得して卒業した者は、管理栄養士国家試験の受験資格を取得することができる。

4 前 2 項に規定する栄養士の免許及び管理栄養士国家試験の受験資格を取得しようとする者が履修すべき授業科目、単位数その他の必要事項は、別に定める。

第 13 条の 3 本学国際関係学部国際学科、人文学部日本語日本文化学科、コミュニケーション学科、歴史地理学科又は応用生物学部環境生物科学科において、学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）及び博物館法施行規則（昭和 30 年文部省令第 24 号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 前項の資格を取得しようとする者のために学芸員課程を置き、課程に関する授業科目、

単位数その他の必要事項は、別に定める。

第13条の4 本学現代教育学部幼児教育学科において、保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）の規定に基づき定められた所要の単位を修得しなければならない。

2 前項の資格を取得しようとする者が履修すべき授業科目、単位数その他の必要事項は、別に定める。

第13条の5 本学生命健康科学部保健看護学科において、保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）の規定に定める保健師国家試験の受験資格を得ようとする者は、別に定める選考を経て、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（昭和26年文部省・厚生省令第1号別表）に定める所要の単位を修得しなければならない。

第13条の6 司書の資格を取得しようとする者は、図書館法（昭和25年法律第118号）及び図書館法施行規則（昭和25年文部省令第27号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 前項の資格を取得しようとする者のために司書課程を置き、課程に関する授業科目、単位数その他の必要な事項は、別に定める。

第14条 各授業科目は、必修科目、選択必修科目及び選択科目に分ける。

2 学生は、その履修しようとする授業科目を定めて、あらかじめ学長に申告しなければならない。

3 前項により履修科目として申告できる単位数は、各学部・各学年ごとに別に定める単位数の上限を超えることができない。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、履修科目として申告することができる単位数の上限を超えて申告を認めることができるものとする。

第15条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習、製図、実技は、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。

2 前項の各授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。その場合の単位数は、前項のとおりとする。

第16条 一の授業科目の履修が終わったときには、試験・実習報告・実習状況・平素の学修状況等によってその成績を評価し、合格した者には、その科目の修了を認め単位を与える。

2 試験及び評価に関する事項は、別に定める。

第17条 教育課程の各授業科目の履修に係る学修進行の制限については、別に定める。

## 第5章 卒業及び学位

第18条 学部を卒業するには、4年以上在学し、かつ、教育課程に定める科目を履修し、別表2に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

第 19 条 学部を卒業した者に学士の学位を授与する。

2 学士の学位は、専攻分野により次のとおりとする。

工学部	学士（工学）
経営情報学部	学士（経営情報学）
国際関係学部	学士（国際学）
人文学部	学士（人文学）
応用生物学部	学士（応用生物学）
生命健康科学部	
生命医科学科	学士（生命医科学）
保健看護学科	学士（看護学）
理学療法学科	学士（理学療法学）
作業療法学科	学士（作業療法学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
スポーツ保健医療学科	学士（スポーツ保健医療学）
現代教育学部	学士（教育学）
理工学部	
数理・物理サイエンス学科	学士（理学）
AI ロボティクス学科	学士（工学）
宇宙航空学科	学士（工学）

3 学位の授与に関しては、中部大学学位規程（昭和 46 年 4 月 1 日制定）の定めるところによる。

## 第 6 章 外国人留学生に関する授業科目等の特例

第 20 条 この章において「外国人留学生」とは、外国籍を有し、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学した者をいう。

第 21 条 外国人留学生に対する教育上の必要から第 9 条に規定するもののほか、各学部において日本語に関する科目を開設することができる。

2 外国人留学生に係る卒業の要件として修得すべき単位数は、第 18 条の規定にかかわらず、外国人留学生が日本語に関する科目を履修し、所要の単位を修得した場合は、別に定めるところにより、全学共通教育科目（教養課題教育科目に限る。）の単位に代えることができる。

## 第 7 章 入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍

第 22 条 入学の時期は、学年の始めとする。再入学、編入学及び転入学の場合も同様とする。

第 23 条 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法（昭和22年法律第26号。以下「法」という。）第90条第2項の規定により他の大学に入学した者で、その後本学において、大学教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

第24条 入学志願者は、所定の書類に検定料を添えて、所定の期日までに願出なければならない。

2 入学志願の手続に関する事項は、別に定める。

第25条 入学を許可すべき者は、入学志願者について選考の上、決定する。

2 入学者選考に関する事項は、別に定める。

第26条 次の各号の一に該当する者で、本学の第3年次に編入学を志願する者については、選考の上、学長が入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者又は法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (2) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号。以下「施行規則」という。）附則第7条に規定する者
- (3) 短期大学を卒業した者
- (4) 高等専門学校、国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者
- (5) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（法第90条第1項に規定するも者に限る。）
- (7) 外国の短期大学を卒業した者又は外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（法第90条第1項に規定する者に

限る。)

(8) 高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（法第90条第1項に規定する者に限る。）

2 前項により入学した者の在学期間及び既修単位の認定に関する事項については、別に定める。

3 第24条の規定は、第1項の規定により編入学を志願する場合に準用する。

第26条の2 次の各号の一に該当する者は、收容定員に欠員のある場合には、選考の上、学長が相当年次に入学を許可することがある。

(1) 他の大学の学生で当該学部長又は学長の承認を得て本学に転入学を志願する者

(2) 大学を卒業した者又は法第104条第4項の規定により、学位を授与された者で本学に編入学を志願する者

(3) 施行規則附則第7条の規定により、本学に編入学を志願する者

(4) 短期大学を卒業した者で本学に編入学を志願する者

(5) 高等専門学校、国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者で本学に編入学を志願する者

(6) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（法第90条第1項に規定する入学資格を有する者に限る。）で、本学に編入学を志願する者

(7) 外国の短期大学を卒業した者又は外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（法第90条第1項に規定する者に限る。）で、本学に編入学を志願する者

(8) 高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（法第90条第1項に規定する者に限る。）で、本学に編入学を志願する者

2 前項により入学した者の在学期間及び既修単位の認定に関する事項については、別に定める。

3 第24条の規定は、第1項の規定により編入学を志願する場合に準用する。

第26条の3 第26条第1項及び第26条の2第1項による入学者選考に関する事項は、別に定める。

第27条 入学を許可された者は、指定の期日までに、次の手続をとらなければならない。

(1) 保証人連署の誓約書を提出すること。

(2) 住民票又はこれに代るものを提出すること。

(3) 所定の授業料等を納付すること。

2 故なく、前項の手続をしないときは、入学許可はその効力を失う。

第28条 病気その他やむを得ない理由により、2か月以上修学することができない者は、

理由書（病気による場合は医師の診断書）を添えて学長に願い出て、許可を得て休学することができる。

2 休学できる期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由があるときは、許可を得て延長することができる。

3 休学の期間は、通算して4年を超えてはならない。

第29条 病気その他の理由により、修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は、教授会の議を経て休学を命ずることができる。

第30条 休学期間は、第5条に規定する在学期間に算入しない。

第31条 休学の理由が終って復学しようとする者は、理由書（病気による休学の場合は医師の診断書）を添えて、学長に願い出て、許可を得なければならない。

第32条 他の大学に転学しようとする者又は他の大学の入学試験に応じようとする者は、理由書を添えて、学長に願い出て、許可を得なければならない。

第33条 現に在籍している学部・学科の学生が、他の学部・学科に転学部・転学科を志望する場合は、願い出により、選考の上、学長は、教授会の議を経て第2年次又は第3年次に転学部・転学科を許可することができる。

2 前項に関する事項については、別に定める。

第34条 退学しようとする者は、理由書（病気による場合は医師の診断書）を添えて、学長に願い出て、許可を得なければならない。

第35条 本学が教育上有益と認めるときに限り、外国の大学との協議に基づき、学生は、学長の許可を得て当該大学に留学することができる。

2 第10条第2項、第3項及び第4項の規定は、前項の場合にこれを準用する。ただし、外国の大学との協定に基づく2学位プログラムによる留学の場合は、原則として2年間の履修を必要とするため、第10条第3項の適用を除外する。

第36条 次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。

- (1) 第5条に規定する在学期間を超えた者
- (2) 第28条第3項に規定する休学期間を超えた者
- (3) 休学期間が終っても所定の手続きをしない者
- (4) 死亡した者
- (5) 授業料納付の義務を怠り、督促しても納付しない者

第37条 第34条の規定による退学者及び前条第5号の規定による除籍者については、本人の願い出により、学長は、教授会の議を経て再入学させることができる。

## 第8章 授業料、入学料及び検定料

第38条 本学の各学部の授業料、入学料及び検定料の額は、次の表のとおりとする。ただし、第5条に規定する修業年限を超えて在学する者及び私費外国人留学生の授業料の額並びに入学試験において複数日の受験又は複数学科の受験を出願する者の検定料の額については、別に定めることができる。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計
授業料	工学部	(円) 930,000	(円) 940,000	(円) 950,000	(円) 960,000	(円) 3,780,000
	経営情報学部	730,000	740,000	750,000	760,000	2,980,000
	国際関係学部	770,000	780,000	790,000	800,000	3,140,000
	人文学部	770,000	780,000	790,000	800,000	3,140,000
	応用生物学部	930,000	940,000	950,000	960,000	3,780,000
	生命健康科学部					
	生命医科学科	990,000	1,000,000	1,010,000	1,020,000	4,020,000
	保健看護学科	960,000	970,000	980,000	990,000	3,900,000
	理学療法学科	960,000	970,000	980,000	990,000	3,900,000
	作業療法学科	960,000	970,000	980,000	990,000	3,900,000
	臨床工学科	930,000	940,000	950,000	960,000	3,780,000
	スポーツ保健医療学科	880,000	890,000	900,000	910,000	3,580,000
	現代教育学部	720,000	730,000	740,000	750,000	2,940,000
	理工学部	930,000	940,000	950,000	960,000	3,780,000
入学料	280,000円					
検定料	35,000円					

第39条 授業料の納付は、各年次に係る授業料について、春学期及び秋学期の2期に区分して行うものとし、それぞれの期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

2 前項の授業料は、春学期にあつては4月1日から10日までに、秋学期にあつては10月1日から10日までに納付しなければならない。ただし、新たに入学を許可された者は、指定の期日までに春学期の授業料を納付しなければならない。

第39条の2 春学期又は秋学期の全期間を休学する者のその期の授業料は、納付を免除する。ただし、別に定める在籍料を指定の期日までに納付しなければならない。

第40条 秋学期の納付の時期前に退学する者の納付する授業料の額は、授業料の年額の2分の1に相当する額とする。

第41条 経済的理由によって納付が困難な者については、その者の申請に基づいて、納付を猶予することができる。

第42条 入学料は、入学するときに納付しなければならない。ただし、再入学する者にその他別に定める者については、入学料の納付を免除する。

第42条の2 検定料は、入学、編入学又は再入学を出願するときに納入しなければならない。

第42条の3 既納の授業料、入学料及び検定料は、返付しない。ただし、入学手続き時に納付された授業料の取扱いについては、別に定めることができる。



## 第9章 賞罰

第43条 学生として表彰に値する行為があったときには、学長は、教授会の議を経て、これを表彰することがある。

第44条 学生が本学の定める諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があったときは、学長は、教授会の議を経て、これを懲戒する。

- 2 懲戒は、訓告、停学及び退学とする。
- 3 懲戒に関する事項は、別に定める。

## 第10章 研究生及び聴講生

第45条 本学において特定の事項について研究することを願い出た者があるときは、本学の学生の修学を妨げない場合に限り、選考の上、研究生として許可することがある。

- 2 研究生を志願することのできる者は、本学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者とする。

第46条 研究生の研究期間は半年とする。ただし、事情によって延長することができる。

- 2 研究期間が終了したときは、研究生としての在籍証明書を交付することができる。

第47条 研究生の研究料は、1か月28,000円とし、指定の期日までに納付しなければならない。

- 2 検定料は、35,000円とし、願い出と同時に納付しなければならない。
- 3 既納の研究料及び検定料は、理由のいかんを問わず返付しない。

第48条 本学の授業科目のうち特定の科目を聴講することを願い出た者があるときは、本学の学生の修学を妨げない場合に限り、選考の上、聴講生として許可することがある。

- 2 聴講生を志願することのできる者は、第23条に規定する入学資格を有する者又は本学教授会において適当と認められた者とする。

第49条 聴講生の聴講期間は、聴講科目について授業の行われる期間とする。

- 2 聴講科目の試験に合格した者には、証明書を交付することができる。
- 3 聴講生として修得した単位は、本学正規の課程の単位としては認められない。

第50条 聴講生の聴講料は、1科目につき20,000円とし、指定の期日までに納付しなければならない。

- 2 既納の聴講料は、理由のいかんを問わず返付しない。

第51条 研究生及び聴講生に対しては、本学の学生に関する規定を準用する。

## 第11章 特別聴講学生

第52条 他の大学又は外国の大学に在学中の学生で本学の授業科目の履修を希望する者があるときは、当該大学との協議に基づき、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。

- 2 特別聴講学生については、別に定める。

### 第11章の2 科目等履修生

第 52 条の 2 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を履修し、単位を修得しようとする者がある場合、学部において適当と認めたときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

第 52 条の 3 削除

第 52 条の 4 科目等履修生の入学の時期は、当該授業科目の授業が行われる学期の始めとする。

第 52 条の 5 科目等履修生の授業料は、1 単位につき 15,000 円とし、指定の期日までに納付しなければならない。

2 検定料は、5,000 円とし、願い出と同時に納付しなければならない。

3 既納の授業料及び検定料は、理由のいかんを問わず返付しない。

第 52 条の 6 その他科目等履修生に対しては、本学の学生に関する規定を準用する。

## 第 12 章 職員組織

第 53 条 本学に、学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及び技術職員を置く。

2 学長は、本学を代表し、校務全般をつかさどり、所属職員を統督する。

3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

4 第 1 項に定めるほか、必要に応じてその他必要な職員を置くことができる。

## 第 13 章 協議会及び教授会

第 54 条 本学に重要な事項を審議するため、中部大学協議会を置く。

2 中部大学協議会に関する事項は、別に定める。

第 55 条 学部に教授会を置く。

第 55 条の 2 教授会は、教授をもって組織する。

2 前項の組織には、審議事項に応じ、准教授その他の教育職員を加えることができる。

第 56 条 教授会は、次の各号に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べるができるものとする。

## 第 14 章 図書館

第 57 条 本学に附属三浦記念図書館を置く。

2 附属三浦記念図書館の管理・運営その他必要な事項は、別に定める。

## 第15章 学生寮

第58条 本学に学生寮を置き、学生の願い出により選考の上、入寮を許可する。

2 学生寮に関する規則は、別に定める。

## 第16章 公開講座

第59条 地方文化の向上発展に資するために、適宜地方の実情に即した公開講座を開催することがある。

## 第17章 雑則

第60条 この学則の施行に関し必要な事項は、施行細則で定める。

### 附 則

この学則は、昭和39年4月1日から施行する。

<昭和40年4月1日から平成6年3月31日までの改正附則は省略>

### 附 則

1 この学則は、平成6年4月1日から施行する。

2 第3条の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	
		平成3年度～ 平成10年度	平成11年度
工学部	機械工学科	220	160
	電気工学科	160	140
	土木工学科	120	100
	建築学科	120	100
	電子工学科	180	160
	工業化学科	120	100
	工業物理学科	80	40
	計	1000	800
経営情報学部	経営情報学科	260	260
	計	260	260
国際関係学部	国際関係学科	110	110
	国際文化学科	110	110
	計	220	220

3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第9条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

4 この学則施行の際、平成2年4月1日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 5 この学則の施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

この学則は、平成 6 年 6 月 1 日から施行し、改正後の第 54 条の 2 の規定は、平成 6 年 4 月 1 日から適用する。

#### 附 則

この学則は、平成 6 年 6 月 1 日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。  
 2 第 3 条の規定にかかわらず、平成 3 年度から平成 11 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	
		平成 3 年度～ 平成 10 年度	平成 11 年度
工学部	機械工学科	220	160
	電気工学科	160	140
	土木工学科	120	100
	建築学科	120	100
	電子工学科	180	160
	工業化学科	20	100
	工業物理学科	80	40
	計	1000	800
経営情報学部	経営情報学科	260	260
	計	260	260
国際関係学部	国際関係学科	110	110
	国際文化学科	110	110
	計	220	220

- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第 9 条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。  
 4 この学則施行の際、平成 3 年 4 月 1 日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。  
 5 この学則の施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	
		平成3年度～平成10年度	平成11年度
工学部	機械工学科	220	160
	電気工学科	160	140
	土木工学科	120	100
	建築学科	120	100
	電子工学科	180	160
	工業化学科	120	100
	工業物理学科	80	40
	計	1000	800
経営情報学部	経営情報学科	260	260
	計	260	260
国際関係学部	国際関係学科	110	110
	国際文化学科	110	110
	計	220	220

- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第9条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の際、平成4年4月1日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則の施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

### 附 則

- 1 この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	
		平成3年度～平成10年度	平成11年度
工学部	機械工学科	220	160
	電気工学科	160	140
	土木工学科	120	100
	建築学科	120	100
	電子工学科	180	160
	工業化学科	120	100

	工業物理学科	80	40
	計	1000	800
経営情報学部	経営情報学科	260	260
	計	260	260
国際関係学部	国際関係学科	110	110
	国際文化学科	110	110
	計	220	220

- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第9条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の際、平成5年4月1日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の額による。
- 5 この学則の施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、工学部、経営情報学部及び国際関係学部に係る平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	
		平成3年度～ 平成10年度	平成11年度
工学部	機械工学科	220	160
	電気工学科	160	140
	土木工学科	120	100
	建築学科	120	100
	電子工学科	180	160
	工業化学科	120	100
	工業物理学科	80	40
	計	1000	800
経営情報学部	経営情報学科	260	260
	計	260	260
国際関係学部	国際関係学科	110	110
	国際文化学科	110	110
	計	220	220

- 3 人文学部に係る3年次編入学定員の規定は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成12年度からこれを適用する。
- 4 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第9条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則施行の際、平成6年4月1日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係

る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の額による。

- 6 この学則の施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 工学部工業化学科は、改正後の第 2 条の規定にかかわらず、平成 11 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 第 3 条の規定にかかわらず、工学部、経営情報学部及び国際関係学部に係る平成 11 年度の入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
工学部	機械工学科	220
	電気工学科	160
	土木工学科	120
	建築学科	120
	電子工学科	180
	応用化学科	120
	工業物理学科	80
	計	1000
経営情報学部	経営情報学科	260
	計	260
国際関係学部	国際関係学科	110
	国際文化学科	110
	計	220

- 4 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第 9 条別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則施行の際、平成 6 年 4 月 1 日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の額による。
- 6 この学則施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 工学部工業物理学科は、改正後の第 2 条の規定にかかわらず、平成 12 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとし、当該学科に係る適用規定は、なお従前の例による。
- 3 工学部土木工学科、建築学科、応用化学科及び情報工学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 14 年度からこれを適用し、工学部、経営情報学部及び国際関係学部の平成 12 年度の収容定員は、改正後の第 3 条の規定にか

かわらず、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	220	15	910
	電気工学科	140	10	640
	土木工学科	110	10	490
	建築学科	120	10	500
	電子工学科	160	10	720
	応用化学科	120	10	500
	情報工学科	120	0	120
	工業物理学科	0	0	240
	計	990	65	4,120
経営情報学部	経営情報学科	260	20	1,080
	計	260	20	1,080
国際関係学部	国際関係学科	110	10	460
	国際文化学科	100	10	450
	計	210	20	910

- 4 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第9条別表及び第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則施行の際、平成7年4月1日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 6 この学則施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

## 附 則

- 1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 工学部、経営情報学部及び国際関係学部の平成13年度の収容定員は、改正後の第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	200	15	890
	電気工学科	110	10	590
	土木工学科	100	10	470
	建築学科	120	10	500
	電子工学科	120	10	660
	応用化学科	100	10	480
	情報工学科	120	0	240
	工業物理学科	0	0	160
	計	870	65	3,990
経営情報学部	経営情報学科	250	20	1,070



	計	250	20	1,070
国際関係学部	国際関係学科	110	10	460
	国際文化学科	90	10	430
	計	200	20	890

- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表（第9条関係）及び第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 平成13年度以降に人文学部各学科、工学部情報工学科及び応用生物学部各学科に入学する学生に係る教養教育科目については、改正後の別表（第9条関係）教養教育科目（Ⅱ）を適用する。
- 5 この学則施行の際、平成8年4月1日以前に入学した者を除き、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 6 この学則施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

この学則は、平成13年5月22日から施行し、平成13年1月6日から適用する。

#### 附 則

この学則は、平成13年5月24日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

#### 附 則

この学則は、平成13年11月21日から施行し、平成13年10月1日から適用する。

#### 附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 経営情報学部経営情報学科、経営学科及び人文学部コミュニケーション学科、心理学科に係る3年次編入学定員の規定は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成16年度からこれを適用し、工学部機械工学科、建築学科、応用化学科及び経営情報学部経営情報学科の平成14年度の入学定員は、改正後の第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
工学部	機械工学科	190
	建築学科	120
	応用化学科	100
経営情報学部	経営情報学科	140

- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表（第9条関係）及び第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の額による。
- 5 この学則施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 工学部機械工学科、建築学科、応用化学科及び経営情報学部経営情報学科の平成15年度の入学定員は、第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
工学部	機械工学科	180
	建築学科	120
	応用化学科	100
経営情報学部	経営情報学科	130

- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表（第9条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の額による。
- 5 この学則施行の日以後において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 工学部電気工学科、土木工学科及び電子工学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 人文学部英語英米学科及び歴史地理学科に係る3年次編入学定員の規定は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成18年度からこれを適用する。
- 4 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表（第9条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 6 この学則施行の日以降において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

### 附 則

- 1 この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 工学部情報工学科、人文学部日本語日本文化学科及び応用生物学部食品栄養科学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 19 年度からこれを適用する。
- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表（第 9 条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則施行の日以降において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

### 附 則

この学則は、平成 17 年 5 月 24 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

### 附 則

この学則は、平成 17 年 10 月 14 日から施行し、平成 17 年 10 月 1 日から適用する。

### 附 則

この学則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

### 附 則

- 1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表（第 9 条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の日以降において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

### 附 則

- 1 この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表（第 9 条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の日以降において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

この学則は、平成 19 年 12 月 26 日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 工学部機械工学科、同電子情報工学科及び現代教育学部幼児教育学科、同児童教育学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 22 年度からこれを適用する。
- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表 2（第 9 条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 この学則施行の日以降において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第 38 条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

この学則は、平成 21 年 1 月 21 日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 国際関係学部国際関係学科、同国際文化学科及び同中国語中国関係学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 23 年度からこれを適用する。
- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表 2（第 9 条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表 2（第 9 条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 経営情報学部経営情報学科及び経営会計学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 25 年度からこれを適用する。
- 3 削除
- 4 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第 12 条、第 18 条及び第 21

条第2項並びに別表1（第2条関係）及び別表2（第9条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

5 この学則施行の際、現に在学する者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

6 この学則施行の日以降において、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、改正後の第38条の規定にかかわらず、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

#### 附 則

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表2（第9条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表2（第9条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。

2 工学部ロボット理工学科に係る3年次編入学定員の規定は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成28年度からこれを適用する。

3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表2（第9条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表2（第9条関係）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

2 経営情報学部経営情報学科、経営学科、経営会計学科及び国際関係学部国際関係学科、国際文化学科、中国語中国関係学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成31年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 経営情報学部及び国際関係学部に係る3年次編入学定員の規定は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成30年度からこれを適用する。

4 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第13条第2項及び別表2（第

9条関係)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 現代教育学部現代教育学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 31 年度からこれを適用する。
- 3 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第 13 条第 2 項及び別表 2 (第 9 条関係)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 工学部電気システム工学科及び電子情報工学科は、改正後の第 2 条の規定にかかわらず、平成 33 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 工学部電気電子システム工学科及び宇宙航空理工学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、平成 32 年度からこれを適用する。
- 4 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第 13 条第 2 項及び別表 2 (第 9 条関係)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の第 13 条第 2 項及び別表 2 (第 9 条関係)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に在学する者については、改正後の別表 2 (第 9 条関係)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

この学則は、2020 年 5 月 1 日から施行する。

#### 附 則

- 1 この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に在学するものについては、改正後の第 13 条の 3 及び別表 2 (第 9 条関係)にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、現に在学するものについては、改正後の別表2（第9条関係）にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この学則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 工学部ロボット理工学科及び宇宙航空理工学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、2026年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 理工学部数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科及び宇宙航空学科に係る3年次編入学定員の規定は、改正後の第3条の規定にかかわらず、2025年度からこれを適用する。
- 4 この学則施行の際、現に在学するものについては、改正後の別表2（第9条関係）にかかわらず、なお従前の例による。

別表1（第2条第2項関係）

## 教育研究上の目的

学部・学科	教育研究上の目的
工学部	個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識並びにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身共に健全な技術者（教育者、研究者を含む。）を育成する。
機械工学科	数学と物理学における基礎的な理解力・応用力と、これらに基づいた機械工学の最も基礎的・普遍的な専門知識と概念を修得させるとともに、各種機械の設計・製作・評価・管理に関する学術分野の教育を行い、主として力学・制御、エネルギー・流体、生産プロセス及び工学設計の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成する。
都市建設工学科	土木工学を基盤として、人間が生活する上で安心・安全かつ快適な社会基盤の整備や持続発展可能な地球環境の開発・保全に関する学術分野の教育を行い、主として、計画、設計、施工、管理などの専門的又は実務的な領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。
建築学科	建築は機能を満たし、安全、快適で美しさが求められる。歴史、都市、社会との関わりを基礎に、空間創造のための建築デザイン、安全な建築を造るための材料と構造、建築内外の環境の学術分野の教育を行う。そして、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画の領域の知識を修得し、デザイン能力があり、人間の幸福を実現できる有能な人間を育成する。
応用化学科	物質の変化に関する化学の基礎的概念を理解させ、これに基づいた化学の専門知識を修得させるとともに、化学計測、無機・有機及びナノ複合材料、エネルギー、環境に関する学術分野の教育を行い、主として環境化学、物理化学、無機化学、有機化学及び化学工学の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成する。
情報工学科	情報工学の技術と知識の基礎を身に付け、システムモデルを構築する能力を伸ばすための教育を行い、主としてソフトウェア、通信ネットワーク、ハードウェア、システム制御に関する知識・能力を修得した有能な人間を育成する。
電気電子システム工学科	地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。



経営情報学部	豊かな教養、自立心と公益心とともに、企業経営と情報技術に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、自ら学び続ける能力を身に付け、広く国際的視野から物事を考え実行する専門職業人/有識社会人となる有為の人間を育成する。
経営総合学科	経営総合学科は、経営、情報、会計、経済、法律等の諸分野にわたる基本的な考え方、知識、スキルを修得し、自立心、公益意識、広い視野から物事を考える力、行動力を備えて、企業や組織の発展に将来貢献する人材として社会に役立つ人間を育成する。
国際関係学部	社会科学並びに人文科学の立場から、国際関係・国際文化の動向・諸要因を政治・経済・社会・文化等の諸分野について総合的・包括的、グローバルかつローカルな視点から考察し、国際化する社会のさまざまな現場で、実際に活躍できる有為の人間を育成する。
国際学科	国際社会の政治・経済・社会・文化現象を社会科学・人文科学の立場を中心として考察し、国際社会の動向や諸要因の分析、国際開発や政策研究等の諸問題、人類の多様な文化的価値の解明、他文化理解やコミュニケーション能力の向上等について総合的・包括的に教育研究し、英語・中国語を中心とした外国語の修得とともに国際的な知識や視野を備え、国際社会で幅広く活躍できるグローバル人材を育成する。
人文学部	人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成する。
日本語日本文化学科	世界の中の日本という視点から、日本語や日本文化を深く理解し、国際社会の中での日本文化の意義を探求し、あわせてそのための読解力、思考力、表現力の練磨をとおして教養ある社会人を育成する。
英語英米文化学科	高度な英語運用能力を養い、英語圏の言語、社会・文化に対する深くて確かな知識と理解力を持ち、積極的に国際社会に参加できる逞しい人間を育成する。
コミュニケーション学科	現代のメディア・コミュニケーションについての理論と実践的技術を学び、情報の収集、吟味、加工・編集、発信のプロセスを深く理解し、高度情報社会で自立的な判断ができる人間を育成する。
心理学科	基礎的な研究方法や技術を学び、認知、教育・文化、発達・社会、臨床などの各分野の専門知識を深く理解し、また統合し、こころの問題に対処できる力量をもった健全で成熟した社会人を育成する。
歴史地理学科	あらゆる事象や問題を「歴史的経緯」と「地理的視野」をあわせて統合的に考察・学習し、現代を生きてゆくために必要な深い洞察力と見識、歴史的・地理学的センスを身に付けた人間を育成する。

応用生物学部	現代の生物科学の爆発的な発展の状況を受け、21世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全及び食育環境の向上を目的とする産業及び民政部門で活躍する職業人を育成する。
応用生物化学科	バイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、微生物や動植物の多様な生物機能の利用技術を支え、発展させるとともに、先端の生物科学の情報にも精通し、人類の生存に有用な手段を提供し、広くバイオ産業界で活躍しうる人間を育成する。
環境生物科学科	環境に関わるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、環境の状況を科学的に評価し、循環型社会の実現と地球環境問題を解決する能力のある人間を育成するとともに、あらゆる産業・社会分野において環境問題に極めて意識の高い職業人・技術者・社会人を育成する。
食品栄養科学科	最先端のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する基礎教育を基盤として、現代の食を取り巻く種々の状況・問題を理解、解決するための知識や技術を習得し、食品産業界のみではなく、医薬品・健康産業や生物生産業など広い分野で活躍できる「食と健康」に関するプロフェッショナルを育成する。
生命健康科学部	生活習慣病の拡大や感染症の増加など21世紀型の健康・医療に関する諸課題に対して、豊かな人間性ととも医学と生命科学の基礎を修得し、十分なバイオ・創薬・医用工学技術あるいは保健・看護学を基盤とした専門的技術を身につけて、学際的な新たな立場で対応できる有能な人間を育成することを通じて社会に貢献する。
生命医科学科	豊かな人間性の涵養教育及び医学と生命科学の基礎教育を徹底した上で、21世紀型の疾病と健康不安のしくみを解明し、これを予防し診断・治療するための薬物、資材、機器、技術を開発する研究者、技術者、並びに生活・職場環境を保健予防の視点で保全する専門家、並びに関連学問領域の教育研究者の候補を育成する。
保健看護学科	看護学の専門教育並びに医学と生命科学の基礎的教育を通じて、豊かな人間性を備え、人間の尊厳と権利を擁護でき、人々に信頼される実践力をもち、保健・医療・福祉チームにおいて、国際社会の動向を見据えたグローバルな視野でコラボレーション、リーダーシップを発揮できる看護師、保健師を育成する。
理学療法学科	医科学・医療・福祉を総合的に捉えた障害者支援科学を教育研究し、豊かな人間性を備え、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や障害者の増加と高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての理学療法士を養成する。
作業療法学科	医科学・医療・福祉を総合的に捉えた障害者支援科学を教育研究し、豊かな人間性を備え、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や障害者の増加と高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての作業療法士を養成する。

臨床工学科	医科学・医療を総合的に捉えた上で、最先端の医療機器の操作・維持管理について教育研究し、豊かな人間性を備え、幅広い総合性と高い専門性を修得して、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての臨床工学技士を養成する。
スポーツ保健医療学科	人間の健康の保持・増進と疾病予防等の病気に関する十分な知識を備えた上で、現代病の発症予防と健康の増幅に有用な水泳、エアロビクス運動、レクリエーションなどの健康運動（健康・生涯スポーツ等）の理論と実技を習得し、その知識・技術を科学的・医学的根拠に基づいて的確に活用して、中高年者、心身の障害者、その他の理由で身体運動が不活発な者を主な対象とした「健康運動」の安全かつ効果的な実践を適切に指導できる「健康運動を活用する保健医療の推進者」としての専門性を備えた人材を育成する。
現代教育学部	次世代教育、特に、家庭、学校、地域社会における教育の重要性を基本とし、次代を担う乳幼児、児童生徒の健全な育成を中心的課題として広く教育研究を行い、もって人格形成基盤を体系的に支援することができる優れた教育者、保育者を養成し、社会の期待と発展に寄与することを目的とする。
幼児教育学科	乳幼児期の人間形成の基盤作りを専門的に支援・指導する専門職業人を養成する。その基本的な教育目標は、保育士資格と幼稚園教諭一種免許の取得を可能とし、その資格・免許を基に複雑で変化の激しい環境の下で生じる個別的な課題の解決に向けて創造的に実践できる人材を育成する。
現代教育学科	児童生徒の成長発達、教育、支援について学際的に教育研究して、「次世代教育」のあり方についての理論と技能を修得し、社会が求める多様な教育実践と教育支援活動を積極的に推進する人材を育成する。
理工学部	科学技術の根幹をなす数学、自然科学、および幅広い工学分野の先進科学技術を基礎として、新しい時代に即した理学と工学を融合した教育・研究を展開し、推進する。数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献する科学技術者を育成する。
数理・物理サイエンス学科	数理科学（数学、データサイエンス等）・物理科学（物理学、物質科学、宇宙・地球科学等）の分野の知識および技術を基盤として、自律的に学ぶ力、自由な発想力、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、課題の発見力と解決のための実践力、判断力、コミュニケーション能力を修得させ、数理科学・物理科学分野の知識と技術を身に付け、自律的に学び、考え、自ら課題を発見・設定し解決する実践力を持った、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」を育成する。

AI ロボティクス学科	AI ロボティクス分野の基礎となる理学、工学設計、プログラミング、制御・信号処理、AI 等の基盤的専門知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術（人間生活に直結したサービス系、介護、診断系や産業系のロボット等）やシステム・インテグレーションできる技術に関する教育を行い、理学的素養とロボット領域における知識・能力、技術を身に付けたロボット共存社会を支えるグローバルな科学技術者を育成する。
宇宙航空学科	理学、流体力学、熱力学、構造力学、材料力学、制御工学、情報工学、電気・電子工学等の基盤的専門知識を修得させるとともに、推進工学、生産システム、航空機システム、ロケットシステム、宇宙機システム、宇宙航行、航空宇宙機設計等の学際的・複合的な宇宙航空学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代航空宇宙産業における設計・開発・製造・利用技術に関わる科学技術者を育成する。

別表2 (第9条関係)

## 全学共通教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【初年次教育科目】</b>			芸術の表現		1
スタートアップセミナー	1		映像を読む		2
<b>【キャリア教育科目】</b>			教育をみつめて		2
自己開拓		1	哲学と思考		2
社会人基礎知識		2	<b>(社会リテラシー)</b>		
<b>【スキル教育科目】</b>			現代社会と法		2
英語スキルⅠ	1		日本の憲法		2
英語スキルⅡ	1		政治と社会		2
英語スキルⅢ		1	現代経済とビジネス		2
英語スキルⅣ		1	生活環境と人間		2
日本語スキル A		2	心と身体		2
日本語スキル B		2	<b>(科学技術リテラシー)</b>		
情報スキル入門		2	数学の思考法		2
情報スキル活用		2	物理と自然		2
<b>【外国語教育科目】</b>			化学と物質		2
留学英語 A (TOEFL)		1	生物と環境		2
留学英語 B (TOEFL)		1	生命と医療		2
資格英語 A (英検)		1	科学技術と社会		2
資格英語 B (TOEIC)		1	地球と生命		2
イングリッシュワークショップ		1	データサイエンスのための数		2
パセオアカデミック L&S A		2	理要論		
パセオアカデミック L&S B		2	問題解決のための統計学入門		2
パセオアカデミック R&W A		2	<b>【リベラルアーツ教育科目】</b>		
パセオアカデミック R&W B		2	リベラルアーツ課題演習 A		2
パセオコンテンツ A		1	リベラルアーツ課題演習 B		2
パセオコンテンツ B		1	リベラルアーツ課題演習 C		2
ドイツ語入門Ⅰ		1	<b>【特別課題教育科目】</b>		
ドイツ語入門Ⅱ		1	人類と資源		2
フランス語入門Ⅰ		1	持続学のすすめ		2
フランス語入門Ⅱ		1	地域の防災と安全		2
中国語入門Ⅰ		1	地球を観る		2
中国語入門Ⅱ		1	グローバル環境論		2
スペイン語入門Ⅰ		1	地域共生実践		2
スペイン語入門Ⅱ		1	<b>【健康とスポーツ】</b>		
ポルトガル語入門Ⅰ		1	健康科学	1	
ポルトガル語入門Ⅱ		1	スポーツ A		1
韓国語入門Ⅰ		1	スポーツ B		1
韓国語入門Ⅱ		1	スポーツ C		1
実践外国語 A		1	<b>【スポーツ活動】</b>		
実践外国語 B		1	スポーツ活動 A		1
語学研修 A		1	スポーツ活動 B		1
語学研修 B		1	スポーツ活動 C		1
<b>【教養課題教育科目】</b>			スポーツ活動 D		1
<b>(人文リテラシー)</b>			スポーツ活動 E		1
世界の歴史と日本		2	スポーツ活動 F		1
日本の歴史と文化		2	スポーツ活動 G		1
芸術の世界		2	スポーツ活動 H		1

※ スキル教育科目の内、英語スキルⅠ及び英語スキルⅡは、国際関係学部国際学科、人文学部英語英米文化学科においては、選択とする。

※ スキル教育科目の内、日本語スキル **A** は、生命健康科学部保健看護学科においては、必修とする。

工学部 機械工学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【工学部共通教育科目】</b>		
<b>(共通基礎科目)</b>		
基礎数学		3
基礎物理学		2
微分積分学Ⅰ	3	
微分積分学Ⅱ	3	
線形代数		3
力学		2
物質の科学		2
基礎化学		2
創造理工学実験Ⅰ	2	
創造理工学実験Ⅱ	2	
基礎化学実験		2
<b>(専門基盤科目)</b>		
ベクトル解析		2
データサイエンスの基礎		2
微分方程式		2
応用数学		2
基礎電磁気学		2
熱学		2
基礎材料化学		2
生物と工学		2
<b>(複合領域科目)</b>		
物質の量子論的基礎と量子コン		2
ピュータ入門		
管理工学		2
環境工学		2
安全工学		2
工学倫理		2
社会と工学		2
企業と工学		2
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
インターンシップ C		1
<b>【学科専門教育科目】</b>		
<b>(機械工学基礎)</b>		
工業力学	3	
工業力学応用		2
<b>(力学・制御分野)</b>		
材料力学 A	2	
材料力学 A 演習	1	
材料力学 B		2
材料力学 C		2
機械力学 A	2	
機械力学 B		2
制御工学 A	2	
制御工学 B		2
計測工学		2
ロボット工学		2
<b>(エネルギー・流体分野)</b>		
熱力学 A	2	

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
熱力学 B		2
伝熱工学		2
エネルギー変換		2
水力学 A	2	
水力学 B		2
流体力学		2
<b>(生産プロセス分野)</b>		
機械材料学 A	2	
機械材料学 B		2
機械材料学 C		2
生産加工学 A	2	
生産加工学 B		2
生産加工学 C		2
<b>(メカトロ基礎)</b>		
電子計算機応用		2
電気回路		2
電子応用機器		2
<b>(工学設計)</b>		
機械製図 A	1	
機械製図 B	1	
機構学		2
機械設計 A	2	
機械設計 B	2	
CAD 製図	1	
機械設計製図 A	1	
機械設計製図 B		1
CAD/CAM		1
コンピュータ応用工学		1
<b>(総合機械工学)</b>		
機械工学実習 A	2	
機械工学実習 B	2	
機械工学実験 A	2	
機械工学実験 B	2	
機械創成実習		2
創造工学演習		1
先端機械工学 A		2
先端機械工学 B		1
総合機械工学		1
自動車工学		2
航空宇宙工学		2
工作機械		2
機械工学技術英語 A		1
機械工学技術英語 B		1
総合工学概論		2
<卒業研究>	4	

工学部 機械工学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）、 日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	外国語教育科目					
	教養課題教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部教育科目	学部共通教育科目	学科で定める必修科目を含めて	16 単位以上	84 単位以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目を含めて	68 単位以上			
		卒業研究（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。



工学部 都市建設工学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【工学部共通教育科目】</b>			総合工学概論		2
<b>(共通基礎科目)</b>			<b>(建設構造)</b>		
基礎数学		3	構造力学Ⅰ	2	
基礎物理学		2	構造力学Ⅰ演習	1	
微分積分学Ⅰ		3	構造力学Ⅱ		2
微分積分学Ⅱ		3	鋼・コンクリート構造設計学		2
線形代数		3	<b>(建設材料)</b>		
力学		2	建設材料学	2	
物質の科学		2	建設材料実験	2	
基礎化学		2	コンクリート工学Ⅰ	2	
創造理工学実験Ⅰ	2		コンクリート工学Ⅱ		2
創造理工学実験Ⅱ		2	コンクリート工学演習		1
基礎化学実験		2	維持管理工学		2
<b>(専門基盤科目)</b>			<b>(都市水工)</b>		
ベクトル解析		2	水理学Ⅰ	2	
データサイエンスの基礎		2	水理学Ⅰ演習	1	
微分方程式		2	水理学Ⅱ		2
応用数学		2	水道工学		2
基礎電磁気学		2	河川工学		2
熱学		2	海岸工学		2
基礎材料化学		2	<b>(地盤防災)</b>		
生物と工学		2	土の力学Ⅰ	2	
<b>(複合領域科目)</b>			土の力学実験演習Ⅰ	2	
物質の量子論的基礎と量子コン		2	土の力学Ⅱ		2
ピュータ入門			土の力学実験演習Ⅱ		2
管理工学		2	地盤工学		2
環境工学	2		地盤設計学		2
安全工学		2	<b>(都市環境)</b>		
工学倫理	2		都市と環境	2	
社会と工学		2	社会システム計画		2
企業と工学		2	交通システム学		2
インターンシップ A		1	都市計画		2
インターンシップ B		2	まちづくり工学		2
インターンシップ C		1	建設環境工学		2
<b>【学科専門教育科目】</b>			都市防災工学		2
<b>(建設一般)</b>			<b>(創成科目)</b>		
建設基礎数学	2		建設創成工学	2	
建設応用数学	2		部門創成 A	2	
基本製図	1		部門創成 B	2	
測量学講義・実習Ⅰ	3		<卒業研究>	4	
測量学講義・実習Ⅱ		3			
都市情報化実習		1			
建設技術英語	1				
特別講義	2				
総合講義	2				
施工法		2			
都市建設工学自主活動A		1			
都市建設工学自主活動B		1			
機械工学概論		2			
電気工学概論		2			
建築学概論		2			

工学部 都市建設工学科 履修方法（卒業の要件）

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位 以上	124 単位 以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）、 日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を 含む]				
	外国語教育科目					
	教養課題 教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部 教育 科目	学部共通教育科目	学科で定める必修科目・選択必修 科目を含めて	14 単位 以上	84 単位 以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目・選択必修 科目を含めて	70 単位 以上			
		卒業研究（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

## 工学部 建築学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【工学部共通教育科目】</b>			建築自主活動 B		1
<b>(共通基礎科目)</b>			総合工学概論		2
基礎数学		3	<b>(意匠系)</b>		
基礎物理学		2	建築デザイン基礎	2	
微分積分学 I		3	建築デザイン I	2	
微分積分学 II		3	建築デザイン II	2	
線形代数		3	建築デザイン III		2
力学		2	建築デザイン IV		2
物質の科学		2	<b>(計画系)</b>		
基礎化学		2	建築計画 A	2	
創造理工学実験 I	2		建築計画 B	2	
創造理工学実験 II		2	建築計画 C		2
基礎化学実験		2	都市計画	2	
<b>(専門基盤科目)</b>			地域住宅計画		2
ベクトル解析		2	建築・都市計画演習		2
データサイエンスの基礎		2	<b>(歴史系)</b>		
微分方程式		2	建築史 A	2	
応用数学		2	建築史 B		2
基礎電磁気学		2	建築史 C		2
熱学		2	<b>(環境・設備系)</b>		
基礎材料化学		2	建築環境工学 A	2	
生物と工学		2	建築環境工学 B	2	
<b>(複合領域科目)</b>			建築設備 A	2	
物質の量子論的基礎と量子コン		2	建築設備 B		2
ピュータ入門			建築環境システム演習		2
管理工学		2	<b>(構造系)</b>		
環境工学		2	構造力学 I	2	
安全工学		2	構造力学 II	2	
工学倫理		2	構造力学 III		2
社会と工学		2	構造設計 A	2	
企業と工学		2	構造設計 B		2
インターンシップ A		1	構造力学演習	1	
インターンシップ B		2	構造計画演習		2
インターンシップ C		1	<b>(材料系)</b>		
<b>【学科専門教育科目】</b>			建築生産概論	2	
<b>(建築学基礎・総合)</b>			建築材料 I	2	
建築学入門	2		建築材料 II		2
建築数理	2		建築施工	2	
建築構法 I	2		建築材料演習		2
建築構法 II	2		<卒業研究>	4	
基礎製図 A	2				
基礎製図 B	2				
建築 CAD 演習	1				
建築法規	2				
建築と社会 A	2				
建築と社会 B	2				
建築防災	2				
建築工学演習	2				
ゼミナール A		1			
ゼミナール B		1			
建築自主活動 A		1			

工学部 建築学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語必修科目 2 単位、英語またはその他の外国語 2 単位、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	外国語教育科目					
	教養課題教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部教育科目	学部共通教育科目	学科で定める必修科目を含めて	6 単位以上	84 単位以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目・選択必修科目を含めて	68 単位以上			
		卒業研究（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

工学部 応用化学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【工学部共通教育科目】</b>		
<b>(共通基礎科目)</b>		
基礎数学		3
基礎物理学		2
微分積分学Ⅰ		3
微分積分学Ⅱ		3
線形代数		3
力学		2
物質の科学		2
基礎化学		2
創造理工学実験Ⅰ	2	
創造理工学実験Ⅱ		2
基礎化学実験	2	
<b>(専門基盤科目)</b>		
ベクトル解析		2
データサイエンスの基礎		2
微分方程式		2
応用数学		2
基礎電磁気学		2
熱学		2
基礎材料化学		2
生物と工学		2
<b>(複合領域科目)</b>		
物質の量子論的基礎と量子コン		2
ピュータ入門		
管理工学		2
環境工学		2
安全工学		2
工学倫理		2
社会と工学		2
企業と工学		2
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
インターンシップ C		1
<b>【学科専門教育科目】</b>		
<b>(応用化学基礎)</b>		
基礎分析化学	2	
基礎無機化学	2	
基礎有機化学	2	
基礎物理化学	2	
基礎化学工学	2	
<b>(無機化学)</b>		
無機化学 A		2
無機化学 B		2
無機化学演習		1
材料化学		2
無機プロセス化学		2
<b>(有機化学)</b>		
理論有機化学		2
有機化学 A		2
有機化学 B		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
有機化学 C		2
有機化学演習		1
生物有機化学		2
有機材料化学		2
<b>(物性化学)</b>		
物理化学 A		2
物理化学 B		2
物理化学演習		1
物性化学		2
電気化学		2
セラミック材料		2
高分子化学		2
<b>(環境化学工学)</b>		
分析化学		2
機器分析化学 A		2
機器分析化学 B		2
化学工学 A		2
化学工学 B		2
化学工学 C		2
化学工学演習		1
環境化学		2
<b>(応用化学実験)</b>		
応用化学分析実験	2	
無機化学実験 A	1	
無機化学実験 B	1	
有機化学実験 A	1	
有機化学実験 B	1	
物理化学実験 A	1	
物理化学実験 B	1	
化学工学実験	1	
有機合成化学実験	1	
材料化学実験	1	
応用化学創成実験		2
創成実習		1
<b>(応用化学一般)</b>		
バイオテクノロジー		2
応用化学セミナー		1
化学英語セミナーA		1
化学英語セミナーB		1
機械工学概論		2
電気工学概論		2
生物概論		2
地学概論		2
総合工学概論		2
<卒業研究>	4	

工学部 応用化学科 履修方法（卒業の要件）

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位 以上	124 単位 以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）、 日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を 含む]				
	外国語教育科目					
	教養課題 教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部 教育 科目	学部共通教育科目	学科で定める必修科目を含めて	16 単位 以上	84 単位 以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目を含めて	68 単位 以上			
		卒業研究（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

工学部 情報工学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【工学部共通教育科目】</b>		
<b>(共通基礎科目)</b>		
基礎数学		3
基礎物理学		2
微分積分学Ⅰ	3	
微分積分学Ⅱ		3
線形代数	3	
力学		2
物質の科学		2
基礎化学		2
創造理工学実験Ⅰ	2	
創造理工学実験Ⅱ		2
基礎化学実験		2
<b>(専門基盤科目)</b>		
ベクトル解析		2
データサイエンスの基礎		2
微分方程式		2
応用数学		2
基礎電磁気学		2
熱学		2
基礎材料化学		2
生物と工学		2
<b>(複合領域科目)</b>		
物質の量子論的基礎と量子コン		2
ピュータ入門		
管理工学		2
環境工学		2
安全工学		2
工学倫理		2
社会と工学		2
企業と工学		2
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
インターンシップ C		1
<b>【学科専門教育科目】</b>		
<b>(離散数学)</b>		
情報数学	2	
形式言語とオートマトン		2
<b>(計算機システム)</b>		
計算機アーキテクチャ	2	
オペレーティングシステム		2
コンパイラ		2
<b>(ソフトウェアとプログラミング)</b>		
データ構造とアルゴリズム	2	
計算論とプログラミング言語論		2
情報処理演習	1	
C言語基礎	3	
C言語応用	3	
プログラム演習	1	
オブジェクト指向言語		3
ソフトウェア工学		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
データベース	2	
データベース演習		1
<b>(情報通信と高度情報処理)</b>		
情報セキュリティ	2	
情報理論		2
通信ネットワーク		2
画像情報処理		2
コンピュータグラフィックス		2
知能情報工学		2
機械学習		2
ヒューマンコンピュータイン		2
タラクション		
数値解析	2	
オペレーションズリサーチ		2
<b>(回路と信号処理)</b>		
デジタル回路	2	
システム制御工学		2
デジタル信号処理		2
音声情報処理		2
<b>(総合情報工学)</b>		
情報工学実験Ⅰ	1	
情報工学実験Ⅱ	1	
情報技術者演習 A		1
情報技術者演習 B		1
情報技術英語 A		1
情報技術英語 B		1
企業情報システムと倫理		2
創成 A	1	
創成 B		2
創成 C		2
創成 D		2
情報工学ゼミナール A	1	
情報工学ゼミナール B	1	
総合工学概論		2
<卒業研究>	4	

工学部 情報工学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）、 日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	外国語教育科目					
	教養課題教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部教育科目	学部共通教育科目	学科で定める必修科目・選択必修科目を含めて	16 単位以上	84 単位以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目・選択必修科目を含めて	68 単位以上			
		卒業研究（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。



工学部 電気電子システム工学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【工学部共通教育科目】</b>		
<b>(共通基礎科目)</b>		
基礎数学		3
基礎物理学		2
微分積分学Ⅰ	3	
微分積分学Ⅱ	3	
線形代数	3	
力学		2
物質の科学		2
基礎化学		2
創造理工学実験Ⅰ	2	
創造理工学実験Ⅱ	2	
基礎化学実験		2
<b>(専門基盤科目)</b>		
ベクトル解析		2
データサイエンスの基礎		2
微分方程式		2
応用数学		2
基礎電磁気学		2
熱学		2
基礎材料化学		2
生物と工学		2
<b>(複合領域科目)</b>		
物質の量子論的基礎と量子コン		2
ピュータ入門		
管理工学		2
環境工学		2
安全工学		2
工学倫理		2
社会と工学		2
企業と工学		2
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
インターンシップ C		1
<b>【学科専門教育科目】</b>		
<b>(電気電子基礎学)</b>		
電気数学演習	1	
電気磁気学Ⅰ	2	
電気磁気学Ⅱ	2	
電気磁気学Ⅲ	3	
電気回路AⅠ	2	
電気回路AⅡ	2	
電気回路演習Ⅰ	1	
電気回路演習Ⅱ	1	
電気回路BⅠ	2	
電気回路BⅡ		2
電子回路Ⅰ	2	
電子回路Ⅱ		2
<b>(電力・設備)</b>		
電力工学	2	
電力応用システム		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
電力設備システム		2
放電プラズマ・絶縁工学		2
新エネルギーシステム		2
電力システム工学		2
電気法規及び施設管理		2
<b>(電機・計測制御)</b>		
電気エネルギー変換機器Ⅰ		2
電気エネルギー変換機器Ⅱ		2
パワーエレクトロニクス A		2
パワーエレクトロニクス B		2
電気計測	2	
自動制御		2
電子計測システム		2
シーケンス工学		2
電気設計及び製図		2
<b>(材料・デバイス)</b>		
電気電子材料	2	
物性科学		2
半導体工学		2
電子デバイス工学	2	
光エレクトロニクス		2
<b>(システム・通信)</b>		
情報基礎		2
デジタル回路	2	
プログラミングⅠ		2
プログラミングⅡ		2
応用プログラミング		2
電磁波工学		2
通信方式		2
通信システム		2
ワイヤレス通信		2
通信法規		2
<b>(実験実習等)</b>		
電気電子工学実験 A	2	
電気電子工学実験 B	2	
電気電子工学実験 C	2	
電気電子工学実験 D	2	
電気電子工学実験 E	2	
電気電子システム創成 A		1
電気電子システム創成 B		1
ゼミナール		1
電気電子技術英語		1
総合工学概論		2
<卒業研究>	4	

工学部 電気電子システム工学科 履修方法（卒業の要件）

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位 以上	124 単位 以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）、 日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を 含む]				
	外国語教育科目					
	教養課題 教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部 教育 科目	学部共通教育科目	学科で定める必修科目を含めて	16 単位 以上	84 単位 以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目を含めて	68 単位 以上			
		卒業研究（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

経営情報学部 経営総合学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部基礎科目】</b>			経営史		2
経営学入門		2	キャリア開発論		2
情報科学入門		2	国際経営論		2
会計学入門		2	マーケティング論 B		2
ビジネス数学入門		2	広告論		2
経済学入門		2	デザイン経営		2
法学入門		2	サプライチェーンマネジメン ト		2
<b>【学部基本科目】</b>			経営戦略論		2
(経営)			消費者行動論		2
現代企業論		2	技術経営論		2
経営組織論		2	(情報)		
経営総合		2	プログラミング入門 C		4
流通論		2	データ構造とデータベース		2
マーケティング論 A		2	ネットワーク		2
経営管理論		2	ソフトウェア工学基礎		2
生産管理論		2	情報セキュリティ		2
(情報)			Web デザイン		2
プログラミング入門 A		3	(会計・ファイナンス)		
プログラミング入門 B		4	経営分析論		2
アルゴリズム入門		2	投資論		2
(会計・ファイナンス)			国際会計論		2
簿記基礎		2	監査論		2
財務会計論		2	ファイナンス論		2
管理会計論		2	英文会計		2
経営分析入門		2	(データサイエンス)		
ファイナンス入門		2	データ分析応用		2
(データサイエンス)			多変量データ分析		2
データ分析入門		2	シミュレーション		2
情報基礎数学		2	機械学習		2
(経済)			データマイニング		2
ミクロ経済学入門		2	(経済)		
マクロ経済学入門		2	金融論		2
(法律)			財政学		2
民法		2	国際経済学		2
(関連分野)			(法律)		
入門ビジネス英語		2	契約法		2
社会連携 A		4	会社法		2
社会連携 B		4	知的財産法		2
自主活動 A		1	(スポーツ)		
自主活動 B		1	スポーツビジネス		2
インターンシップ A		1	スポーツと健康		2
インターンシップ B		2	スポーツコーチング		2
インターンシップ C		1	(関連分野)		
<b>【学部専門科目】</b>			特別講義 A		2
(経営)			特別講義 B		2
経営環境		2	特別講義 C		2
人的資源マネジメント		2	特別講義 D		2
ベンチャービジネス		2	経営実践		2
アントレプレナーシップ		2	ビジネスプラン		2
組織心理学		2	フィールド研究 A		2
中小企業経営		2			

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
フィールド研究 B		2
【資格関連科目】		
（会計）		
簿記入門 A		2
簿記入門 B		2
簿記原理 A		2
簿記原理 B		2
工業簿記論 A		2
工業簿記論 B		2
（情報）		
IT 基礎 A		2
IT 基礎 B		2
（経営）		
リテールマーケティング A		2
リテールマーケティング B		2
【演習科目】		
基礎ゼミナール	1	
テーマゼミナール A		1
テーマゼミナール B		1
テーマゼミナール C		1
テーマゼミナール D		1
テーマゼミナール E		1
テーマゼミナール F		1
専門ゼミナール I	1	
専門ゼミナール II	1	
卒業演習 I	1	
卒業演習 II	1	
<卒業研究>	4	

経営情報学部 経営総合学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	8 単位以上			
	外国語教育科目	[英語必修科目 2 単位、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]			
	教養課題教育科目	人文リテラシー			14 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動					
学部教育科目	学部基礎科目	10 単位以上	80 単位以上		
	学部基本科目	24 単位以上			
	資格関連科目	2 単位以上			
	学部専門科目				
	演習科目	必修科目 5 単位 卒業研究 4 単位（必修）			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

国際関係学部 国際学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学科基礎科目】</b>			<b>(アドバンスト中国語科目)</b>		
<b>(導入科目)</b>			ビジネス中国語 A		2
SDGs 国際関係入門		2	ビジネス中国語 B		2
地域研究入門		2	資格中国語 A		2
法学概論		2	資格中国語 B		2
経済学概論		2	<b>(国際政治経済科目)</b>		
政治学概論		2	SDGs 国際関係論		2
世界史概論		2	国際政治学		2
文化人類学入門		2	国際政治史		2
社会学入門		2	国際法		2
世界の言語		2	国際機構		2
アジア研究入門		2	国際経済学		2
<b>(地域研究科目)</b>			国際金融論		2
東アジアから学ぶ A		2	国際協力論		2
東アジアから学ぶ B		2	国際公共政策論		2
東南アジアから学ぶ		2	<b>(多文化共生科目)</b>		
アフリカから学ぶ		2	文化人類学		2
西アジアから学ぶ		2	社会学		2
ヨーロッパから学ぶ		2	宗教人類学		2
ラテンアメリカから学ぶ		2	比較宗教学		2
北米から学ぶ		2	社会思想史		2
<b>(国際英語科目)</b>			フィールドワーク論		2
国際英語 I A		1	考古学		2
国際英語 I B		1	観光文化論		2
国際英語 I C		1	地誌 A		2
国際英語 II A		1	地誌 B		2
国際英語 II B		1	人文地理学		2
国際英語 II C		1	人間と環境		2
国際英語 III		2	文芸と社会		2
国際英語 IV		2	西洋文化史		2
<b>(中国語科目)</b>			世界遺産を学ぶ		2
中国語 A		2	博物館と文化		2
中国語 B		2	<b>(世界と日本研究科目)</b>		
中国語 C		1	国際ジェンダー論		2
中国語 D		1	比較社会論		2
<b>(地域言語科目)</b>			グローバルビジネス論		2
ドイツ語 I		2	民俗学		2
ドイツ語 II		2	世界の中の日本		2
フランス語 I		2	世界の民族音楽		2
フランス語 II		2	日本の歴史 A		2
スペイン語 I		2	日本の歴史 B		2
スペイン語 II		2	音声学		2
韓国語 I		2	日本語教授法 A		2
韓国語 II		2	日本語教授法 B		2
<b>【学科専門科目】</b>			日本語教授法 C		2
<b>(アドバンスト英語科目)</b>			日本語教授法 D		2
国際ビジネス英語 A		1	日本語教育実習		1
国際ビジネス英語 B		1	<b>【学科応用科目】</b>		
国際時事英語		1	<b>(実践科目)</b>		
国際観光・ホテル英語		1	海外留学 A		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
海外留学 B		2
海外留学 C		2
海外留学 D		2
フィールドワーク		1
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
インターンシップ C		1
(国際創造プロジェクト・演習科目)		
ハイブリッド・プロジェクト A		1
ハイブリッド・プロジェクト B		1
ハイブリッド・プロジェクト C		1
ハイブリッド・プロジェクト D		1
国際基礎演習	1	
国際応用演習 A	1	
国際応用演習 B	1	
国際専門演習 A	1	
国際専門演習 B	1	
<卒業研究>	4	

国際関係学部 国際学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	18 単位以上	
	キャリア教育科目			
	スキル教育科目	6 単位以上		
	外国語教育科目	[英語以外の外国語 2 単位、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]		
	教養課題教育科目	人文リテラシー		10 単位以上
		社会リテラシー		
		科学技術リテラシー		
	リベラルアーツ教育科目			
	特別課題教育科目			
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動				
学部教育科目	学部基礎科目	導入科目	8 単位以上	124 単位以上
		地域研究科目	6 単位以上	
		国際英語科目	6 単位以上	
		中国語科目		
		地域言語科目		
	学科専門科目	アドバンスト英語科目		
		アドバンスト中国語科目		
		国際政治経済科目	24 単位以上	
		多文化共生科目		
		世界と日本研究科目		
	学科応用科目	実践科目		
		国際創造プロジェクト・演習科目	必修科目を含めて 5 単位以上	
	卒業研究		4 単位（必修）	

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。



人文学部 日本語日本文化学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>		
図書館入門		2
情報サービス論		2
グローバル SDGs 人文学		2
上級日本語表現		2
文系パソコン活用 A		1
文系パソコン活用 B		1
ビジネススキルアップ A		2
ビジネススキルアップ B		2
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
インターンシップ C		1
長期海外研修 A		2
長期海外研修 B		2
長期海外研修 C		2
長期海外研修 D		2
<b>【基礎科目】</b>		
<b>(言語分野)</b>		
日本語学入門 A		2
日本語学入門 B		2
日本語学文献講読 A		2
日本語学文献講読 B		2
日本語教育概論 A		2
日本語教育概論 B		2
<b>(文学分野)</b>		
日本文学入門 A		2
日本文学入門 B		2
近現代文学講読 A		2
近現代文学講読 B		2
古典文学講読 A		2
古典文学講読 B		2
<b>(文化分野)</b>		
日本文化史入門		2
民俗学入門		2
伝承文化入門		2
宗教学入門		2
日本文化文献講読 A		2
日本文化文献講読 B		2
日本文化文献講読 C		2
日本文化文献講読 D		2
<b>【研究科目】</b>		
<b>(言語分野)</b>		
日本語講義 A		2
日本語講義 B		2
日本語の歴史		2
日本語研究史		2
現代日本語論 A		2
現代日本語論 B		2
日本語教育学講義 A		2
日本語教育学講義 B		2
日本語教授法 A		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
日本語教授法 B		2
日本語教授法 C		2
日本語教授法 D		2
<b>(文学分野)</b>		
日本文学史 A		2
日本文学史 B		2
古典文学講義 A		2
古典文学講義 B		2
近現代文学講義 A		2
近現代文学講義 B		2
日本文学特講 A		2
日本文学特講 B		2
日本文学特講 C		2
日本文学特講 D		2
<b>(文化分野)</b>		
日本の文化 A		2
日本の文化 B		2
民俗調査研究法 A		2
民俗調査研究法 B		2
民間伝承論 A		2
民間伝承論 B		2
伝統芸能論		2
遊戯論		2
<b>【演習科目】</b>		
基礎演習	1	
日本語学演習 A		1
日本語学演習 B		1
日本文学演習 A		1
日本文学演習 B		1
日本文化演習 A		1
日本文化演習 B		1
<b>【関連科目】</b>		
書道 A		2
書道 B		2
言語学 A		2
言語学 B		2
考古学 A		2
考古学 B		2
比較文化論		2
漢文学		2
中国文学		2
日本語教育実習		1
<卒業研究>	4	

人文学部 日本語日本文化学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目		必修科目 1 単位	18 単位以上	124 単位以上
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目		6 単位以上		
	外国語教育科目		[英語必修科目 2 単位を含む]		
	教養課題教育科目	人文リテラシー	10 単位以上		
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ		必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目			90 単位以上	
	基礎科目	言語分野	「入門」・「概論」科目から 12 単位以上、 「講読」科目から 4 単位以上取得		
		文学分野			
		文化分野			
	研究科目	言語分野	10 単位以上		
		文学分野			
		文化分野			
演習科目		必修科目を含めて 3 単位以上			
関連科目					
卒業研究		4 単位（必修）			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

人文学部 英語英米文化学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			英語のしくみ A		2
図書館入門		2	英語のしくみ B		2
情報サービス論		2	英語の歴史 A		2
グローバル SDGs 人文学		2	英語の歴史 B		2
上級日本語表現		2	グローバル英語 A		2
文系パソコン活用 A		1	グローバル英語 B		2
文系パソコン活用 B		1	早期英語教育論 A		2
ビジネススキルアップ A		2	早期英語教育論 B		2
ビジネススキルアップ B		2	応用言語学 A		2
インターンシップ A		1	応用言語学 B		2
インターンシップ B		2	英語で学ぶ言語習得論 A		2
インターンシップ C		1	英語で学ぶ言語習得論 B		2
長期海外研修 A		2	長期海外研修 E		2
長期海外研修 B		2	長期海外研修 F		2
長期海外研修 C		2	長期海外研修 G		2
長期海外研修 D		2	<b>【英米文化研究科目】</b>		
<b>【基礎科目】</b>			英米の文学 A		2
専門基礎	1		英米の文学 B		2
言語学入門 A		2	英米の歴史と社会 A		2
言語学入門 B		2	英米の歴史と社会 B		2
英米文化入門 A		2	英米の文化 A		2
英米文化入門 B		2	英米の文化 B		2
異文化適応入門		2	日・欧・米比較文化論 A		2
<b>【英語コミュニケーション科目】</b>			日・欧・米比較文化論 B		2
Integrated English A	2		異文化コミュニケーション論 A		2
Integrated English B	2		異文化コミュニケーション論 B		2
Integrated English C		2	英語で学ぶオーストラリア事情		2
Integrated English D		2	英語で学ぶイギリス事情		2
Integrated English E		2	英語で学ぶアメリカ事情		2
Integrated English F		2	英語で学ぶ世界事情		2
English for Academic Purposes A	2		長期海外研修 H		2
English for Academic Purposes B	2		長期海外研修 I		2
English for Academic Purposes C		2	長期海外研修 J		2
English for Academic Purposes D		2	<b>【演習科目】</b>		
TOEIC 演習 A	1		英語英米文化演習 A	1	
TOEIC 演習 B	1		英語英米文化演習 B	1	
TOEIC 演習 C	1		英語英米文化演習 C	1	
Communicative Grammar A		2	英語英米文化演習 D	1	
Communicative Grammar B		2	<b>【自主研究】</b>		
Academic Writing A	1		自主研究		1
Academic Writing B	1		English for Social Change		1
ビジネス英語 A		1	<b>【関連科目】</b>		
ビジネス英語 B		1	日本語教授法 A		2
観光英語 A		1	日本語教授法 B		2
観光英語 B		1	日本語教授法 C		2
通訳英語		1	日本語教授法 D		2
翻訳英語		1	<卒業研究>	4	
発音クリニック		1			
<b>【英語研究科目】</b>					
英語の発音 A		2			
英語の発音 B		2			

人文学部 英語英米文化学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	18 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	6 単位以上			
	外国語教育科目	[英語以外の外国語 2 単位以上を含む]			
	教養課題教育科目	人文リテラシー			10 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目		90 単位以上		
	基礎科目	必修科目を含めて 8 単位以上			
	英語コミュニケーション科目	必修科目を含めて 28 単位以上			
	英語研究科目	32 単位以上			
	英米文化研究科目				
	演習科目	4 単位（必修）			
	自主研究				
	関連科目				
卒業研究	4 単位（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			記録撮影技法		2
図書館入門		2	<b>【文化情報デザイン発展科目】</b>		
情報サービス論		2	データベース・デザイン A		1
グローバル SDGs 人文学		2	データベース・デザイン B		1
上級日本語表現		2	Web デザイン A		2
文系パソコン活用 A		1	Web デザイン B		2
文系パソコン活用 B		1	言語情報デザイン A		2
ビジネススキルアップ A		2	言語情報デザイン B		2
ビジネススキルアップ B		2	映像情報デザイン A		2
インターンシップ A		1	映像情報デザイン B		2
インターンシップ B		2	映像情報デザイン C		2
インターンシップ C		1	映像情報デザイン D		2
長期海外研修 A		2	音響情報デザイン A		2
長期海外研修 B		2	音響情報デザイン B		2
長期海外研修 C		2	画像情報デザイン A		2
長期海外研究 D		2	画像情報デザイン B		2
<b>【文化情報デザイン基礎科目】</b>			アニメーションデザイン A		2
(基礎知識科目)			アニメーションデザイン B		2
社会学		2	<b>【プロジェクト科目】</b>		
心理学		2	フレッシュマンセミナー	1	
言語コミュニケーション		2	文化情報デザイン・プロジェクト A	1	
社会の心理		2	文化情報デザイン・プロジェクト B	1	
社会とことば		2	文化情報デザイン・プロジェクト C	1	
メディア論		2	文化情報デザイン・プロジェクト D	1	
(分析手法科目)			<b>【関連科目】</b>		
談話分析		2	日本語教授法 A		2
映像分析		2	日本語教授法 B		2
音響分析		2	日本語教授法 C		2
メディアアート分析		2	日本語教授法 D		2
(メディア文化情報リテラシー獲得科目)			行動科学 A		2
メディア・クリティシズム A	2		行動科学 B		2
メディア・クリティシズム B	2		現代思想		2
メディア文化史		2	世界の中の日本 (歴史)		2
メディアの法と倫理		2	女性の歴史		2
比較文化論		2	技術の歴史		2
<b>【文化情報デザイン応用科目】</b>			地域と環境		2
(メディア文化情報リテラシー運用科目)			日本地誌		2
ジャーナリズム論		2	法学概論		2
マス・メディア論		2	政治学概論		2
(社会情報科目)			哲学概論		2
政治とメディア		2	経済学概論		2
広告と表現		2	アジアの歴史 A		2
映画と社会		2	ヨーロッパの歴史		2
地域とメディア		2	地域と都市		2
(情報収集・提供科目)			伝承文化入門		2
情報デザイン A		1	民俗学入門		2
情報デザイン B		1	考古学 A		2
文化情報アーカイブ論		2	考古学 B		2
調査票調査法		2	<卒業研究>	4	
取材学		2			
ライフストーリー調査法		2			

人文学部 コミュニケーション学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目		必修科目 1 単位	18 単位以上	124 単位以上
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目		6 単位以上		
	外国語教育科目		[外国語 4 単位（英語必修科目 2 単位を含む）、日本語スキル科目 2 単位を含む]		
	教養課題教育科目	人文リテラシー	10 単位以上		
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ		必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目			90 単位以上	
	文化情報デザイン基礎科目	基礎知識科目	必修を含めて 20 単位以上		
		分析手法科目			
		メディア文化情報リテラシー獲得科目			
	文化情報デザイン応用科目	メディア文化情報リテラシー運用科目	17 単位以上		
		社会情報科目			
		情報収集・提供科目			
	文化情報デザイン発展科目		15 単位以上		
	プロジェクト科目		5 単位（必修）		
	関連科目				
卒業研究		4 単位（必修）			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

人文学部 心理学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>		
図書館入門		2
情報サービス論		2
グローバル SDGs 人文学		2
上級日本語表現		2
文系パソコン活用 A		1
文系パソコン活用 B		1
ビジネススキルアップ A		2
ビジネススキルアップ B		2
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
インターンシップ C		1
長期海外研修 A		2
長期海外研修 B		2
長期海外研修 C		2
長期海外研修 D		2
<b>【心理学基礎科目】</b>		
心理学概論	2	
心理学統計法		2
臨床心理学概論		2
心理学統計法応用		2
心理データ解析 A		2
心理データ解析 B		2
心理学史		2
心理学研究法		2
心理学実験		2
公認心理師の職責		2
<b>【心理学発展科目】</b>		
(基礎心理学)		
感情・人格心理学		2
知覚・認知心理学		2
社会・集団・家族心理学		2
学習・言語心理学		2
障害者・障害児心理学		2
発達心理学		2
教育心理学 A		2
教育心理学 B		2
心理学的支援法		2
認知科学		2
神経・生理心理学		2
心理的アセスメント		2
文化心理学		2
社会心理学		2
生涯発達心理学		2
認知心理学文献購読		2
(実践心理学)		
福祉心理学		2
教育・学校心理学		2
司法・犯罪心理学		2
産業・組織心理学		2
健康・医療心理学		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
(心理学関連科目)		
精神疾患とその治療		2
人体の構造と機能及び疾病 関係行政論		2
<b>【心理学特別講義科目】</b>		
キャリアディベロップメント 特講 A		2
キャリアディベロップメント 特講 B		2
応用心理学特講		2
<b>【実習演習科目】</b>		
心理演習 (実験)	2	
心理演習 (調査)	2	
心理演習 (認知)		2
心理演習 (査定)		2
心理演習 (面接)		2
心理学実習		2
心理学プレゼミナール A	1	
心理学プレゼミナール B	1	
心理学ゼミナール I	1	
心理学ゼミナール II	1	
<b>【関連科目】</b>		
社会学		2
行動科学 A		2
行動科学 B		2
現代社会と福祉		2
哲学概論		2
経済学概論		2
法学概論		2
政治学概論		2
表現と倫理		2
現代思想		2
世界の中の日本 (歴史)		2
地域と環境		2
日本地誌		2
女性の歴史		2
技術の歴史		2
アジアの歴史 A		2
ヨーロッパの歴史		2
地域と都市		2
<卒業研究>	4	

人文学部 心理学科 履修方法 (卒業の要件)

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	18 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	6 単位以上			
	外国語教育科目	[英語 4 単位 (必修科目 2 単位を含む)を含む]			
	教養課題教育科目	人文リテラシー			10 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目		90 単位以上		
	心理学基礎科目	必修科目を含めて 12 単位以上			
	心理学発展科目	基礎心理学		26 単位以上	
		実践心理学			
		心理学関連科目			
	心理学特別講義科目				
	実習演習科目	必修科目を含めて 8 単位以上			
	関連科目				
卒業研究	4 単位 (必修)				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。



人文学部 歴史地理学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			<b>(研究科目)</b>		
図書館入門		2	日本史の文献を読む A		2
情報サービス論		2	日本史の文献を読む B		2
グローバル SDGs 人文学		2	日本思想史の文献を読む		2
上級日本語表現		2	アジア史の文献を読む A		2
文系パソコン活用 A		1	アジア史の文献を読む B		2
文系パソコン活用 B		1	アメリカ史の文献を読む		2
ビジネススキルアップ A		2	ヨーロッパ史の文献を読む A		2
ビジネススキルアップ B		2	ヨーロッパ史の文献を読む B		2
インターンシップ A		1	技術から歴史を探る		2
インターンシップ B		2	美術から歴史を探る		2
インターンシップ C		1	史料学		2
長期海外研修 A		2	史料調査方法論		2
長期海外研修 B		2	史料講読基礎 A		2
長期海外研修 C		2	史料講読基礎 B		2
長期海外研修 D		2	<b>【地理学分野】</b>		
<b>【基礎科目】</b>			<b>(テーマ科目)</b>		
歴史学への案内	2		地域と歴史		2
地理学への案内	2		地域と都市		2
文献講読の基礎	2		地域と経済		2
地域調査の基礎	2		地域と情報		2
<b>【専門共通科目】</b>			地域と環境		2
歴史学の方法		2	地理学特殊講義 A		2
世界の中の日本 A (地理)		2	地理学特殊講義 B		2
世界の中の日本 B (歴史)		2	地理学特殊講義 C		2
現代日本の地域性		2	日本地誌		2
日本とアジア A (地理)		2	アジア地誌		2
日本とアジア B (歴史)		2	世界地誌		2
フィールドワーク A		1	<b>(実習科目)</b>		
フィールドワーク B		1	地理学実習		1
<b>【歴史学分野】</b>			地理学野外実習		1
<b>(テーマ科目)</b>			<b>(研究科目)</b>		
日本の古代		2	地理学野外研究		2
日本の中世		2	<b>【演習科目】</b>		
日本の近世		2	基礎演習	1	
日本の近代		2	専門演習 A	1	
日本の現代		2	専門演習 B	1	
日本思想史		2	専門演習 C	1	
アジアの歴史 A		2	専門演習 D	1	
アジアの歴史 B		2	<b>【関連科目】</b>		
アメリカの歴史		2	政治学概論		2
ヨーロッパの歴史 A		2	法学概論		2
ヨーロッパの歴史 B		2	経済学概論		2
技術の歴史		2	文化人類学入門		2
女性の歴史		2	比較文化論		2
郷土の歴史		2	社会学		2
歴史学特殊講義 A		2	民俗学入門 A		2
歴史学特殊講義 B		2	民俗学入門 B		2
歴史学特殊講義 C		2	考古学 A		2
歴史学特殊講義 D		2	考古学 B		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
現代と心		2
行動科学Ⅰ		2
行動科学Ⅱ		2
表現と倫理		2
<卒業研究>	4	

人文学部 歴史地理学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目		必修科目 1 単位	18 単位以上	124 単位以上
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目		6 単位以上		
	外国語教育科目		[英語必修科目 2 単位を含む]		
	教養課題教育科目	人文リテラシー	10 単位以上		
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ		必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目			90 単位以上	
	基礎科目		8 単位（必修）		
	専門共通科目		6 単位以上		
	歴史学分野	テーマ科目	歴史学分野より 6 単位以上、地理学分野より 6 単位以上、計 20 単位以上		
		研究科目			
	地理学分野	テーマ科目			
		研究科目			
		実習科目			
	演習科目				5 単位（必修）
関連科目					
卒業研究		4 単位（必修）			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

応用生物学部 応用生物化学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部教育科目】</b>			微生物生態学		2
<b>(学部基礎科目)</b>			天然物化学実験	1	
基礎数学		2	分子生物学実験	1	
基礎化学		2	応用微生物学実験	1	
基礎生物学		2	遺伝子工学実験	1	
基礎地学		2	応用生物化学 A	2	
無機化学		2	応用生物化学 B	1	
有機化学 I	2		農学概論		2
有機化学 II	2		卒業研究	4	
有機化学 III		2	<b>(関連科目)</b>		
微生物学 I	2		環境問題入門		2
微生物学 II		2	食品化学 I		2
生物化学 I	2		食品化学 II		2
生物化学 II	2		食品分析学		2
分子生物学 I	2		環境化学		2
分子生物学 II	2		食品衛生学		2
分析化学	2		地球環境学		2
推計学入門		2	食品機能学		2
細胞生物学	2		食料資源流通学		2
機器分析化学		2	環境動物学		2
物理化学		2	自然保護論		2
応用微生物学	2				
科学ジャーナル講読		2			
基礎物理学		2			
生物倫理学		2			
基礎生物学・基礎化学実験	1				
分析化学実験	1				
有機化学実験	1				
微生物学実験	1				
食品化学基礎実験	1				
生物化学実験 A	1				
生物化学実験 B	1				
基礎物理学・基礎地学実験		1			
<b>(学科専門科目)</b>					
バイオの世界		2			
バイオ産業リスク予防学		2			
生物情報リテラシー		2			
分子生理学		2			
天然物化学		2			
プログラミング		2			
生物有機化学		2			
遺伝子工学		2			
動物細胞工学		2			
植物細胞工学		2			
応用タンパク質科学		2			
バイオインフォマティクス		2			
生体防御学		2			
ケミカルバイオロジー		2			
インターンシップ A		1			
インターンシップ B		2			
インターンシップ C		1			

応用生物学部 応用生物化学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上				
	外国語教育科目	[英語 4 単位 (必修科目 2 単位を含む)、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	教養課題教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部教育科目	学部基礎科目	学科で定める必修科目を含めて	30 単位以上	82 単位以上		
	関連科目					
	学科専門科目	学科で定める必修科目を含めて			20 単位以上	
卒業研究 (必修)						

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

応用生物学部 環境生物科学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部教育科目】</b>					
<b>(学部基礎科目)</b>					
基礎数学		2	バイオマス論		2
基礎化学		2	植物遺伝資源論		2
基礎生物学		2	園芸生産学		2
基礎地学		2	生物機能形態学		2
無機化学		2	インターンシップ A		1
有機化学Ⅰ	2		インターンシップ B		2
有機化学Ⅱ	2		インターンシップ C		1
有機化学Ⅲ		2	環境生物科学セミナーA	1	
微生物学Ⅰ	2		環境生物科学セミナーB	1	
微生物学Ⅱ		2	環境生物科学演習	1	
生物化学Ⅰ	2		環境植物学実験	1	
生物化学Ⅱ		2	分子生物学実験	1	
分子生物学Ⅰ	2		水圏環境分析実験	1	
分子生物学Ⅱ	2		動物学実験	1	
分析化学		2	土壌圏環境実験	1	
推計学入門		2	農学概論		2
細胞生物学	2		フィールド実習		1
機器分析化学		2	卒業研究	4	
物理化学		2	<b>(関連科目)</b>		
基礎物理学		2	食品化学Ⅰ		2
生物倫理学		2	食品化学Ⅱ		2
基礎生物学・基礎化学実験	1		プログラミング		2
分析化学実験	1		食品衛生学		2
有機化学実験	1		バイオインフォマティクス		2
微生物学実験	1				
食品化学基礎実験	1				
生物化学実験 A	1				
生物化学実験 B	1				
基礎物理学・基礎地学実験		1			
<b>(学科専門科目)</b>					
環境問題入門		2			
環境生物科学入門		2			
動物科学		2			
自然保護論		2			
生物多様性概論		2			
植物科学		2			
地球環境学		2			
植物生理学		2			
環境化学		2			
動物生理学		2			
環境動物学		2			
生態学概論		2			
土壌圏環境学		2			
環境分析学		2			
細胞工学		2			
環境工学		2			
水圏環境学		2			
動物栄養学		2			
環境評価学		2			

応用生物学部 環境生物科学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上				
	外国語教育科目	[英語 4 単位 (必修科目 2 単位を含む)、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	教養課題教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部教育科目	学部基礎科目	学科で定める必修科目を含めて	30 単位以上	82 単位以上		
	関連科目					
	学科専門科目	学科で定める必修科目を含めて			20 単位以上	
卒業研究 (必修)						

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部教育科目】</b>			食品学実験	1	
<b>(学部基礎科目)</b>			食品分析学実験	1	
基礎数学		2	食品栄養・機能学実験	1	
基礎化学		2	食品製造・加工学実習		1
基礎生物学		2	農学概論		2
基礎地学		2	卒業研究	4	
無機化学		2	(関連科目)		
有機化学Ⅰ	2		環境問題入門		2
有機化学Ⅱ	2		環境化学		2
有機化学Ⅲ		2	動物生理学		2
微生物学Ⅰ	2		水圏環境学		2
微生物学Ⅱ		2	遺伝子工学		2
生物化学Ⅰ	2		バイオインフォマティクス		2
生物化学Ⅱ	2		ケミカルバイオロジー		2
分子生物学Ⅰ	2		地球環境学		2
分子生物学Ⅱ		2	応用タンパク質科学		2
分析化学		2	バイオマス論		2
推計学入門		2			
細胞生物学	2				
機器分析化学		2			
物理化学		2			
応用微生物学		2			
基礎物理学		2			
生物倫理学		2			
基礎生物学・基礎化学実験	1				
分析化学実験	1				
有機化学実験	1				
微生物学実験	1				
食品化学基礎実験	1				
生物化学実験 A	1				
生物化学実験 B	1				
基礎物理学・基礎地学実験		1			
<b>(専攻専門科目)</b>					
食糧問題入門		2			
基礎食品栄養科学		2			
食品栄養科学入門		2			
食品化学Ⅰ	2				
食品化学Ⅱ	2				
応用食品栄養科学		2			
食品分析学		2			
食品リスク予防学		2			
基礎食品栄養・機能学		2			
食品機能学		2			
食品製造加工学		2			
食品衛生学		2			
食料資源流通学		2			
栄養生化学		2			
インターンシップ A		1			
インターンシップ B		2			
インターンシップ C		1			
食品栄養科学セミナー	1				



応用生物学部 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻 履修方法 (卒業の要件)

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上				
	外国語教育科目	[英語 4 単位 (必修科目 2 単位を含む)、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	教養課題教育科目	人文リテラシー	14 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上					
スポーツ活動						
学部教育科目	学部基礎科目	学科で定める必修科目を含めて	30 単位以上	82 単位以上		
	関連科目					
	専攻専門科目	専攻で定める必修科目を含めて			20 単位以上	
卒業研究 (必修)						

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部教育科目】</b>			食品安全学	2	
<b>〔学部基礎科目〕</b>			食品学基礎実験	1	
基礎化学		2	食品機能学実験	1	
基礎生物学		2	食品安全学実験	1	
無機化学		2	食品分析学実験	1	
有機化学Ⅰ		2	調理学	2	
有機化学Ⅱ		2	基礎調理学実習	1	
微生物学Ⅰ		2	応用調理学実習	1	
微生物学Ⅱ		2	調理学実験	1	
分子生物学Ⅰ		2	<b>(基礎栄養学)</b>		
分子生物学Ⅱ		2	基礎栄養学Ⅰ	2	
分析化学		2	基礎栄養学Ⅱ	2	
推計学入門		2	栄養学実験	1	
細胞生物学		2	<b>(応用栄養学)</b>		
応用微生物学		2	応用栄養学	2	
科学ジャーナル講読		2	ライフステージ栄養学	2	
分析化学実験		1	スポーツ栄養学	2	
微生物学実験	1		応用栄養学実習	1	
<b>〔学科・専攻関連科目〕</b>			<b>(栄養教育論)</b>		
食糧問題入門		2	栄養教育論Ⅰ	2	
環境問題入門		2	栄養教育論Ⅱ	2	
食品栄養科学入門		2	栄養カウンセリング論	2	
環境化学		2	栄養教育演習	1	
動物生理学		2	栄養教育実習	1	
遺伝子工学		2	<b>(臨床栄養学)</b>		
バイオインフォマティクス		2	臨床栄養学総論	2	
ケミカルバイオロジー		2	臨床栄養学各論	2	
地球環境学		2	栄養アセスメント論	2	
応用タンパク質科学		2	栄養ケアマネジメント論	2	
バイオマス論		2	臨床栄養学実習	1	
園芸生産学		2	臨床栄養管理実習	1	
<b>〔専攻専門科目〕</b>			<b>(公衆栄養学)</b>		
<b>(社会・環境と健康)</b>			公衆栄養学	2	
健康管理概論	2		公衆栄養活動論	2	
健康心理学	2		食事調査演習	1	
公衆衛生学	2		公衆栄養学実習	1	
<b>(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち)</b>			<b>(給食経営管理論)</b>		
生化学Ⅰ	2		給食経営管理論Ⅰ	2	
生化学Ⅱ	2		給食経営管理論Ⅱ	2	
基礎生化学実験	1		給食経営管理基礎実習	1	
生化学実験	1		給食経営管理応用実習	1	
形態機能学Ⅰ	2		<b>(総合演習)</b>		
形態機能学Ⅱ	2		管理栄養士総合基礎演習	1	
形態機能学実験	1		管理栄養士総合応用演習	1	
運動生理学	2		<b>(臨地実習)</b>		
臨床医科学Ⅰ	2		臨地実習演習	1	
臨床医科学Ⅱ	2		臨地実習	4	
<b>(食べ物と健康)</b>			<b>(関連科目)</b>		
食品学総論	2		現代食育論		2
食品学各論	2		海外研修		2
			食品機能学		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
食品製造加工学		2
学校栄養指導論		2
食品分析学		
社会福祉概論		2
健康栄養学特論		2
卒業演習		2
<卒業研究>	4	

応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		22 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上				
	外国語教育科目	[英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	教養課題教育科目	人文リテラシー	12 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上					
スポーツ活動						
学部教育科目	学部基礎科目	専攻で定める必修科目を含めて	6 単位以上	102 単位以上		
	学科・専攻関連科目					
	専攻専門科目	専攻で定める必修科目を含めて	91 単位以上			
卒業研究（必修）						

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

生命健康科学部 生命医科学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			臨床検査総論		1
生命科学入門		1	病態臨床化学		1
医科学入門	1		輸血検査学		1
生と死の文化人類学		2	輸血・移植検査学		1
リハビリテーション概論		1	医療安全管理学		2
生命工学入門		1	血液形態科学		1
<b>【生命健康科学基盤科目】</b>			臨床血液学		2
(人体の構造と機能)			臨床生理学		2
解剖・組織学	2		放射線医学総論		2
生理学	2		(生命医科学(演習))		
生化学	2		病態解析医学演習		1
栄養治療学		1	分子制御医科学演習		1
生命物理化学		2	免疫・衛生学演習		1
分子生物学概論	1		形態・病理学演習		1
臨床心理学		2	医用工学演習		1
(疾病と障害の病態及び医療)			(生命医科学技術総合実習)		
病理学	2		組織・病理学基礎実習	2	
臨床病理学		1	生体構築科学技術実習		1
薬理学		1	生化学系基礎実習	2	
微生物学	2		分子生物学基礎実習	2	
免疫学	1		分子分析先端科学技術実習		1
疾病病態学概論	2		実験動物・基礎生理学実習	1	
疾病治療学概論	2		微生物学実習		2
生体防御学		1	免疫学実習		1
遺伝・実験動物学		1	環境衛生学実習		1
生涯発達看護論		1	人体情報学実習		1
(保健医療と社会)			臨床検査総論実習		1
公衆衛生学		2	血液検査学実習		1
環境衛生学		2	医療安全管理学実習		1
学校保健学		1	臨床生理学実習		2
生命倫理学	1		(保健予防医科学)		
社会福祉学		2	保健予防医科学総論		1
<b>【学科専門科目】</b>			感染症予防医科学		1
(生命医科学(基礎))			医動物学		1
基礎生物学	2		腫瘍医学		1
基礎化学	2		医療情報・経済学		1
基礎物理学		2	精神医学		1
基礎数学		2	感染防御技術論		1
臨床化学		2	スポーツ医学		1
ゲノム科学・遺伝子操作論	2		予防栄養学		1
情報科学概論		1	保健予防創薬基礎学		1
生物化学分析学		1	(先端医用工学)		
睡眠医学		2	生体力学		2
(生命医科学(複合))			バイオメディカルマテリアル学		2
生体高次構築科学		1	医療計測・情報学		2
微生物学概論		1	医用機器学		2
細胞検査学		1	先端医用工学実験		2
細胞基礎科学		1	(総合演習・研究)		
臨床検査総合管理学総論		2	インターンシップA		1
臨床検査総合管理学各論		2	インターンシップB		2
品質保証管理学		2	インターンシップC		1

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
臨床評価実習		1
総合臨床実習 A		3
総合臨床実習 B		8
総合臨床演習		1
卒業演習	4	
卒業研究	4	

生命健康科学部 生命医科学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		21 単位以上	128 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	4 単位以上				
	外国語教育科目	[英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）を含む。]				
	教養課題教育科目	人文リテラシー	12 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上					
スポーツ活動						
学部教育科目	学部共通科目	学科で定める必修科目を含めて	25 単位以上	94 単位以上		
	生命健康科学基盤科目					
	学科専門科目	学科で定める必修科目を含めて	53 単位以上			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

生命健康科学部 保健看護学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>		
生命科学入門	1	
医科学入門		1
生と死の文化人類学		2
リハビリテーション概論	1	
生命工学入門	1	
<b>【生命健康科学基盤科目】</b> (人体の構造と機能)		
解剖学	2	
生理学	2	
生化学	2	
栄養治療学	1	
(疾病と障害の病態及び医療)		
臨床心理学	2	
病理学	2	
臨床病理学		1
薬理学	2	
微生物学	2	
免疫学		1
疾病病態治療学 A	2	
疾病病態治療学 B	2	
(保健医療と社会)		
公衆衛生学	2	
環境衛生学		2
生命倫理学		1
社会福祉学	2	
<b>【学科専門科目】</b> (看護介入領域)		
看護学概論	2	
看護学概論演習	1	
看護アセスメント実習	1	
看護倫理学概論	1	
人間関係論演習	1	
基礎看護技術 I (生活援助)	2	
基礎看護技術 II (治療支援)	2	
看護過程演習	2	
生涯保健看護学 I (人のライフサイクル)	1	
生涯保健看護学 II (家族の看護)	1	
在宅看護学 I (概論)	1	
在宅看護学 II (方法論)	2	
在宅看護学 III (演習)	1	
慢性期看護学 I (概論・回復期支援)	2	
慢性期看護学 II (セルフケア支援)	1	
急性期看護学 I (救急・クリティカルケア看護)	2	
急性期看護学 II (周手術期看護)	1	
急性期・セルフケア支援実習	1	

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
老年看護学 I (概論)	1	
老年看護学 II (老年の疾病と看護)	2	
老年看護学 III (演習)	1	
小児看護学 I (概論)	1	
小児看護学 II (小児の疾病と看護)	2	
小児看護学 III (演習)	1	
母性看護学 I (概論)	1	
母性看護学 II (周産期および新生児の看護)	2	
母性看護学 III (演習)	1	
精神看護学 I (概論・精神疾患と看護)	2	
精神看護学 II (演習)	1	
疾病治療看護演習	1	
地域保健看護学	1	
学校保健看護学	1	
産業保健看護学		1
健康教育学		2
公衆衛生看護学概論		1
公衆衛生看護活動展開論		1
公衆衛生看護管理論		1
公衆衛生看護学演習 I (対象別保健活動)		1
公衆衛生看護学演習 II (地域診断と施策化)		2
疫学・保健統計学 I (疫学・統計の基礎)	2	
疫学・保健統計学 II (疫学・統計の応用)		2
保健医療福祉行政論 I (行政活動の基礎)	1	
保健医療福祉行政論 II (行政活動の発展的知識)		2
養護活動論		2
養護健康相談活動		2
(看護実践領域)		
生活援助臨地実習	1	
看護過程実践臨地実習	2	
在宅看護学臨地実習	2	
セルフケア支援臨地実習	2	
急性期看護学臨地実習	2	
継続的治療支援臨地実習	2	
高齢者ライフレビュー臨地実習	1	
老年看護学臨地実習	3	
小児看護学臨地実習	2	
母性看護学臨地実習	2	
精神看護学臨地実習	2	



授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ（保健師基礎実習）		4
公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ（保健師応用実習）		2
統合看護臨地実習 （看護発展領域）	2	
看護制度論	1	
看護マネジメント論	1	
エンドオブライフケア	1	
災害保健看護学	1	
国際保健看護学	1	
看護海外セミナー		2
総合看護論	2	
看護研究概論	2	
卒業研究	4	

生命健康科学部 保健看護学科 履修方法（卒業の要件）

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	17 単位 以上	124 単 位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	6 単位以上			
	外国語教育科目	[必修科目 4 単位、英語スキルⅢ・Ⅳ及び 外国語教育科目から 2 単位以上]			
	教養課題 教育科目	人文リテラシー			8 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動					
学部 教育 科目	学部共通科目	学科で定める必修科目を含めて 106 単位以上			
	生命健康科学基盤科目				
	学科専門科目				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

生命健康科学部 理学療法学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			小児科学	1	
生命科学入門	1		臨床検査総論		1
医科学入門	1		放射線医学総論		2
生と死の文化人類学		2	スポーツ医学	1	
リハビリテーション概論	1		栄養と疾病予防	1	
生命工学入門		1	臨床心理学演習		1
<b>【生命健康科学基盤科目】</b>			(リハビリテーション医学)		
(人体の構造と機能Ⅰ)			リハビリテーション医学 A (総論・神経系)	1	
解剖・組織学	2		リハビリテーション医学 B (運動器等)	1	
生理学	2		精神障害リハビリテーション	1	
生化学		1	リハビリテーション工学		1
栄養治療学		1	(医療英語)		
生命物理化学		2	医療英語 A (専門基礎系)		1
分子生物学概論		1	医療英語 B (理学・作業専門系)		1
(疾病と障害の病態及び医療)			<b>【学科専門科目】</b>		
病理学	1		(基礎理学療法学)		
臨床病理学		1	理学療法の基礎 A	2	
臨床心理学	1		理学療法の基礎 B	2	
生涯発達看護論		1	運動学実習	1	
薬理学	1		臨床運動学実習	1	
微生物学		2	(理学療法管理学)		
免疫学		1	理学療法管理学	2	
疾病病態学概論		2	(理学療法評価学)		
疾病治療学概論		2	理学療法評価学	2	
(保健医療と社会)			理学療法評価学演習	1	
公衆衛生学		2	理学療法評価学実習	1	
環境衛生学		2	臨床理学療法評価学演習	1	
学校保健学		1	疾患別評価学実習	2	
生命倫理学		1	(理学療法治療学)		
社会福祉学		1	日常生活活動治療学	2	
<b>【理学療法学科・作業療法学科</b>			日常生活活動治療学演習	1	
<b>共通専門基礎科目】</b>			運動障害理学療法学	2	
(人体の構造と機能Ⅱ)			中枢神経障害理学療法学	2	
臨床解剖学	1		内部障害理学療法学	2	
臨床解剖学実習	1		スポーツ外傷系理学療法学	2	
人体構造学演習	1		発達障害理学療法学	2	
体表解剖学実習	1		運動器系理学療法学実習	1	
臨床生理学	1		中枢神経系理学療法学実習	1	
臨床生理学実習	1		内部障害・メタボリック科学演習	1	
運動学	2		スポーツ外傷系理学療法学演習	1	
健康増進学		1	発達障害理学療法学演習		1
人間発達学	1		物理療法学	1	
(疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進)			物理療法学実習	1	
内科学	1		義肢装具学	1	
外科学	1		義肢装具学演習	1	
一般臨床医学	1		(地域理学療法学)		
臨床神経学	2		地域理学療法学	2	
精神医学	2		地域リハビリテーション学演習		1
老年医学	1				
整形外科学	2				

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
老年期障害理学療法学	1	
老年期障害理学療法学演習 (臨床実習)	1	
臨床見学実習	1	
地域リハビリテーション実習	1	
臨床評価実習	5	
臨床総合実習 (研究法)	13	
理学療法研究法		2
統計学		2
理学療法事例研究演習 A (内部 障害系)		1
理学療法事例研究演習 B (筋骨 格障害系)		1
理学療法事例研究演習 C (中枢 神経障害系)		1
卒業研究	4	

生命健康科学部 理学療法学科 履修方法（卒業の要件）

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	21 単位 以上	128 単 位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	6 単位以上[英語 4 単位 (必修科目 2 単位 を含む)、情報スキル入門 2 単位を含む。]			
	外国語教育科目				
	教養課題 教育科目	人文リテラシー			12 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部 教育 科目	学部共通科目	必修科目を含めて 14 単位以上	107 単位 以上		
	生命健康科学基盤科目				
	理学療法学科・作業療法 学科共通専門基礎科目	必修科目を含めて 26 単位以上			
	学科専門科目	必修科目を含めて 67 単位以上			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

生命健康科学部 作業療法学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			臨床神経学	2	
生命科学入門		1	精神医学	2	
医科学入門	1		老年医学	1	
生と死の文化人類学		2	整形外科学	2	
リハビリテーション概論	1		小児科学	1	
生命工学入門		1	臨床検査総論		1
<b>【生命健康科学基盤科目】</b>			放射線医学総論		2
(人体の構造と機能Ⅰ)			(リハビリテーション医学)		
解剖・組織学	2		リハビリテーション医学 A (総論・神経系)	1	
生理学	2		リハビリテーション医学 B (運動器等)	1	
生化学		1	精神障害リハビリテーション	1	
栄養治療学		1	リハビリテーション工学		1
生命物理化学		2	(医療英語)		
分子生物学概論		1	医療英語 A (専門基礎系)		1
(疾病と障害の病態及び医療)			医療英語 B (理学・作業専門系)		1
臨床心理学	1		<b>【学科専門科目】</b>		
病理学	1		(基礎作業療法学)		
臨床病理学		1	作業療法学入門	1	
薬理学	1		作業学講義	2	
微生物学		2	作業学実習 A (基礎)	1	
免疫学		1	作業学実習 B (応用)	1	
疾病病態学概論		2	(作業療法管理学)		
疾病治療学概論		2	作業療法管理学Ⅰ	1	
生涯発達看護論		1	作業療法管理学Ⅱ	1	
(保健医療と社会)			(作業療法評価学)		
公衆衛生学		2	運動障害評価学	2	
環境衛生学		2	精神障害評価学	2	
学校保健学		1	運動障害評価学実習	1	
生命倫理学		1	精神障害評価学実習	1	
社会福祉学		1	発達期障害評価学	2	
<b>【理学療法学科・作業療法学科</b>			発達期障害評価学実習	1	
<b>共通専門基礎科目】</b>			(作業治療学)		
(人体の構造と機能Ⅱ)			運動障害作業療法学	2	
臨床解剖学	1		運動障害作業療法学演習	1	
臨床解剖学実習	1		ハンドセラピー学		1
体表解剖学及び実習	1		中枢神経障害作業療法学	2	
臨床生理学	1		中枢神経障害作業療法学演習	1	
臨床生理学実習	1		内部障害作業療法学	1	
スポーツ医学		1	高齢期障害作業療法学	1	
作業運動学入門		2	作業療法事例研究法	1	
作業運動学	2		精神障害作業療法学	2	
作業運動学実習	1		精神障害作業療法学演習	1	
健康増進学		1	認知・高次脳機能障害作業療法学	1	
人間発達学	1		SST入門		1
(疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進)			発達期障害作業療法学Ⅰ	1	
臨床心理学演習	1		発達期障害作業療法学Ⅱ	1	
栄養と疾病予防	1		発達期障害作業療法学演習	1	
内科学	1		装具作業療法学	2	
外科学	1		装具作業療法学演習		1
一般臨床医学	1				

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
日常生活活動支援学	2	
日常生活活動支援学演習	1	
職業関連活動作業療法学	1	
ジョブコーチ入門		1
(地域作業療法学)		
地域作業療法学	1	
高齢期障害地域作業療法学	1	
精神障害地域作業療法学	1	
発達期障害地域作業療法学	1	
特別支援教育と作業療法		1
国際協力とリハビリテーション		1
生活環境論	1	
(臨床実習)		
作業療法入門実習	1	
臨床見学実習 A (I)	1	
臨床見学実習 A (II)	1	
臨床見学実習 B	1	
臨床評価実習		
総合臨床実習 A	3	
総合臨床実習 B	8	
(研究法)	8	
作業療法研究法		
作業療法研究法演習	1	
統計学	1	2
身体障害作業療法事例研究法演習		1
精神障害作業療法事例研究法演習		1
高齢期障害作業療法事例研究法演習		1
発達期障害作業療法事例研究法演習		1
高次脳機能作業療法事例研究法演習		1
卒業研究	4	

生命健康科学部 作業療法学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	21 単位以上	128 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	6 単位以上[英語 4 単位 (必修科目 2 単位を含む)、情報スキル入門 2 単位を含む。]			
	外国語教育科目				
	教養課題教育科目	人文リテラシー			12 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目	必修科目を含めて 9 単位以上	107 単位以上		
	生命健康科学基盤科目				
	理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目	必修科目を含めて 25 単位以上			
	学科専門科目	必修科目を含めて 72 単位以上			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。



生命健康科学部 臨床工学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			<b>(保健医療と社会Ⅱ)</b>		
生命科学入門		1	感染症予防医科学		1
医科学入門	1		医療情報経済学		1
生と死の文化人類学		2	<b>(臨床工学の基礎)</b>		
リハビリテーション概論		1	臨床工学のための基礎物理学	2	
生命工学入門	1		臨床工学のための基礎数学	2	
<b>【生命健康科学基盤科目】</b>			応用数学	1	
<b>(人体の構造と機能Ⅰ)</b>			電気工学Ⅰ	2	
解剖・組織学	2		電気工学Ⅱ	2	
生理学	1		電磁気工学		1
生化学	1		電子工学Ⅰ	2	
栄養治療学		1	電子工学Ⅱ		2
生命物理化学		2	基礎工学実習	1	
分子生物学概論		1	電気工学実習	1	
<b>(疾病と障害の病態及び医療Ⅰ)</b>			電子工学実習	1	
病理学	1		機械工学	2	
臨床病理学		1	システム・制御工学	1	
薬理学	1		情報処理工学Ⅰ	2	
微生物学	2		情報処理工学Ⅱ		1
免疫学	1		情報処理工学実習	1	
疾病病態学概論		2	臨床工学概論	2	
疾病治療学概論		2	<b>(医療英語)</b>		
生体防御学		1	医療英語 A (専門基礎系)		1
遺伝・実験動物学		1	医療英語 B (臨床工学専門系)	1	
生涯発達看護論	1		<b>【学科専門科目】</b>		
臨床心理学		1	<b>(生体・医用工学)</b>		
<b>(保健医療と社会Ⅰ)</b>			バイオメディカルマテリアル学	2	
公衆衛生学	2		生体力学	1	
環境衛生学		2	物性工学	1	
学校保健学		1	計測工学	2	
生命倫理学	1		<b>(医用機器学)</b>		
社会福祉学		1	医療治療機器学 A (治療機器)	2	
<b>【学科専門基礎科目】</b>			医用治療機器学 B (手術用機器)	1	
<b>(人体の構造と機能Ⅱ)</b>			医用治療機器学実習	1	
基礎医学実習	1		生体計測装置学	1	
臨床生理学	1		生体計測装置学実習	1	
<b>(疾病と障害の病態及び医療Ⅱ)</b>			医用生体学演習	1	
臨床薬理学		1	<b>(生体機能代行技術学)</b>		
臨床微生物学		1	人工心肺装置学 A (基礎・原理・操作方法)	2	
内科学	1		人工心肺装置学 B (心筋保護・補助循環・自己血回収)	1	
内分泌・腎臓内科学		1	人工心肺装置学実習	1	
臨床血液学	1		血液浄化装置学 A (血液透析・腹膜透析)	2	
外科学	1		血液浄化装置学 B (血漿交換・吸着療法)	1	
一般臨床医学		1	血液浄化装置学実習	1	
臨床神経学		2	人工呼吸装置学 A (種類・原理・構造)	2	
老年医学		1			
小児科学		1			
感染防御技術論		1			
救急医学	1				
放射線医学総論	2				
臨床検査総論	1				

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
人工呼吸装置学 B (周辺機器・患者管理)	1	
人工呼吸装置学実習 (医用安全管理学)	1	
医用機器安全管理学 A (医用電気機器、医療ガスの安全管理)	2	
医用機器安全管理学 B (システム安全・電磁環境)	1	
医用機器安全管理学実習	1	
臨床工学関係法規 (臨床実習)	1	
臨床実習 A (血液浄化装置実習)	3	
臨床実習 B (手術室実習)	1	
臨床実習 C (集中治療室実習)	1	
臨床実習 D (医療機器管理業務実習) (演習・研究)	1	
総合基礎医学特論	2	
総合基礎工学特論	2	
臨床工学特論	2	
卒業研究	4	

生命健康科学部 臨床工学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	21 単位以上	128 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	4 単位以上[英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）を含む。]			
	外国語教育科目				
	教養課題教育科目	人文リテラシー			12 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目	必修科目を含めて 15 単位以上	107 単位以上		
	生命健康科学基盤科目				
	学科専門基礎科目	必修科目を含めて 32 単位以上			
	学科専門科目	必修科目 46 単位			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			脳外科学		1
生命科学入門		1	放射線医学総論		2
医科学入門	1		臨床検査総論		1
生と死の文化人類学		2	(保健医療に関わる救急医学)		
リハビリテーション概論		1	救急医学 A	2	
生命工学入門		1	救急医学 B		2
<b>【生命健康科学基盤科目】</b>			救急医学 C		1
(人体の構造と機能)			救急救命模擬実習 A		2
解剖・組織学	2		救急救命模擬実習 B		2
生理学	1		救急救命模擬実習 C		2
生化学	1		救急救命模擬実習 D		2
栄養治療学	1		救急救命模擬実習 E		2
生命物理化学		2	救急救命模擬実習 F		2
分子生物学概論		1	スポーツ医学	2	
臨床心理学		1	スポーツ障害等予防法実習	1	
(疾病と障害の病態及び医療)			救急関連施設見学実習		1
病理学	1		救急医学臨床実習 A		2
臨床病理学		1	救急医学臨床実習 B		2
薬理学	1		(保健医療の基本)		
微生物学		2	人間関係学概論		2
免疫学	1		予防医療総論	2	
疾病病態学概論		2	健康管理・増進学	2	
疾病治療学概論		2	保健心理学	2	
生体防御学		1	健康栄養医学		2
遺伝・実験動物学		1	生活不活発者の保健学	2	
(保健医療と社会)			高齢者保健論	1	
公衆衛生学	2		ライフサイクル保健論	2	
環境衛生学		2	保健医療教育論		2
学校保健学		1	地域保健医療支援技術演習		1
生命倫理学	1		(保健医療のための健康運動の理論)		
社会福祉学		1	人体の構造と機能入門		2
生涯発達看護論	1		生涯スポーツ論	2	
<b>【学科専門科目】</b>			運動処方論	2	
(保健医療を支える医学の基礎)			健康運動トレーニング論	2	
生体力学		2	運動生理学	2	
運動器バイオメカニクス		1	健康運動コーチング論	2	
臨床解剖学		1	生体計測論・実技		1
臨床生理学		1	スポーツマネジメント論	2	
障害者生理学		1	健康運動上級コーチング論		2
臨床薬理学		1	(保健医療のための健康運動の実践指導)		
臨床微生物学		1	コンディショニング実技	1	
(保健医療に関わる臨床医学の基本)			トレーニング実技	1	
内科学	2		パフォーマンスの科学		1
外科学	1		健康運動指導実技		1
臨床神経学		2	健康運動指導論		2
精神医学	2		運動処方の理論・実技		1
老年医学		1	レクリエーション支援論		2
整形外科学	2		水中運動実技	1	
小児科学		1	エアロビック指導論		2
産婦人科学		1			

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
エアロビック指導実技		1
障害者健康運動指導論・実技		1
水泳指導論		2
水泳指導実技		1
レクリエーション支援実技		2
(保健医療英語)		
保健医療英語		2
(演習・研究)		
海外スポーツ保健医療セミナー		2
野外スポーツ保健医療実習		1
総合スポーツ保健医療学演習	1	
卒業研究	4	

生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		21 単位以上	128 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	4 単位以上				
	外国語教育科目	[英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）を含む。]				
	教養課題教育科目	人文リテラシー	12 単位以上			
		社会リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上					
スポーツ活動						
学部教育科目	学部共通科目	必修科目を含めて	13 単位以上	87 単位以上		
	生命健康科学基盤科目					
	学科専門科目	必修科目を含めて	47 単位以上			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

## 現代教育学部 幼児教育学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			<b>(発展科目)</b>		
<b>(基礎科目)</b>			教育方法学	2	
教育研究入門 A	2		教育と社会		2
教育研究入門 B	2		教育課程と保育の計画		2
多文化共生と教育		2	幼児理解とカウンセリング		2
人権教育論		2	表現活動 (造形)		1
教育統計学基礎		2	表現活動 (身体)		1
教育統計学		2	表現活動 (音楽) A		1
教育ドラマ論		2	表現活動 (音楽) B		1
キャリアデザイン論		2	言葉と生活		1
レクリエーション理論		2	幼児造形		1
生涯学習論		2	健康と体育		1
<b>(実践科目)</b>			人間関係と生活		1
教育ドラマ演習		2	幼児音楽		1
地域フィールドスタディ		2	保育内容指導 (健康)		1
教育データ解析		2	保育内容指導 (人間関係)		1
レクリエーション演習		2	保育内容指導 (言葉)		1
器楽演奏実技		1	保育内容指導 (音楽表現)		1
インターンシップ A		1	保育内容指導 (造形表現)		1
インターンシップ B		2	保育内容指導 (環境)		1
インターンシップ C		1	保育総合活動 (音・身・造)		2
<b>【学科専門科目】</b>			保育内容総論		1
<b>(基幹科目)</b>			環境と生活		1
幼児教育課題研究 A	2		現代食育論		2
幼児教育課題研究 B	2		子どもの遊び研究		2
教職論	2		子どもの外国語研究		2
教育原理	2		保育・教育インターンシップ		1
教育心理学	2		保育・教職実践演習 (幼稚園)		2
保育原理	2		<b>(実習科目)</b>		
保育の心理学		2	教育実習指導 (幼稚園)		1
子どもの家庭支援の心理学		2	教育実習 (幼稚園)		4
子どもの理解と援助		1	保育実習指導 A		1
社会福祉		2	保育実習指導 B		1
子ども家庭福祉		2	保育実習 I		4
社会的養護 A		2	保育実習指導 C		1
社会的養護 B		1	保育実習 II		2
子ども家庭支援論		2	保育実習指導 D		1
子どもの保健		2	保育実習 III		2
子どもの健康と安全		1	<卒業研究>	4	
子どもの食と栄養 A		1			
子どもの食と栄養 B		1			
乳児保育		2			
乳児保育演習		1			
特別支援教育 (幼児)		2			
障害児保育 A		1			
障害児保育 B		1			
子育て支援		1			

現代教育学部 幼児教育学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目		必修科目 1 単位	22 単位以上	124 単位以上
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目		6 単位以上 下記①～③の全てを含む		
	外国語教育科目		①英語必修科目 2 単位 ②英語スキルⅢ・Ⅳ・ポルトガル語入門Ⅰ・Ⅱから 2 単位 ③日本語スキル・情報スキルから 2 単位		
	教養課題教育科目	人文リテラシー	14 単位以上		
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
	健康とスポーツ		必修科目を含めて 1 単位以上		
スポーツ活動					
学部教育科目	学部共通科目	基礎科目	必修科目 4 単位を含めて 10 単位以上	86 単位以上	
		実践科目			
	学科専門科目	基幹科目	必修科目 12 単位を含めて 24 単位以上		
		発展科目	必修科目 2 単位を含めて 26 単位以上		
		実習科目			
卒業研究		4 単位			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。



授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			観察実習		1
<b>(基礎科目)</b>			教職実践演習 (小・中)		2
教育研究入門 A	2		<b>(小学校教育科目)</b>		
教育研究入門 B	2		国語科研究		1
多文化共生と教育		2	社会科研究		1
人権教育論		2	算数科研究		1
教育統計学基礎		2	理科研究		1
教育統計学		2	生活科研究		1
教育ドラマ論		2	音楽科研究		1
キャリアデザイン論		2	体育科研究		1
レクリエーション理論		2	家庭科研究		1
生涯学習論		2	図画工作研究		1
<b>(実践科目)</b>			外国語研究		1
教育ドラマ演習		2	国語科教育法		2
地域フィールドスタディ		2	社会科教育法		2
教育データ解析		2	算数科教育法		2
レクリエーション演習		2	理科教育法		2
器楽演奏実技		1	生活科教育法		2
インターンシップ A		1	音楽科教育法		2
インターンシップ B		2	体育科教育法		2
インターンシップ C		1	家庭科教育法		2
<b>【学科共通科目】</b>			図画工作教育法		2
発達心理学		2	外国語教育法		2
発達臨床心理学		2	道徳教育の指導法 A		2
対人関係論		2	生徒指導・進路指導 A		2
国際理解教育論		2	特別活動指導法 A		1
現代社会と教育 A		2	総合的な学習の時間の指導法 A		1
現代社会と教育 B		2	教育相談 A		2
キャリア開発 A		1	小学校教育実習指導		1
キャリア開発 B		1	小学校教育実習		4
現代教育課題研究 A		2	<b>(中学校理科教育科目)</b>		
現代教育課題研究 B		2	環境生物学入門		2
<b>【専攻専門科目】</b>			地球科学教育論		2
<b>(基幹科目)</b>			科学教育演習 A (中学物理)		1
教職入門		2	科学教育演習 B (中学化学)		1
教育原理 (小・中)		2	科学教育演習 C (中生物)		1
教育心理学 (小・中)		2	科学教育演習 D (中学地学)		1
教育方法学 A		1	理科教育法 I (中学校)		2
教育方法学 B		1	理科教育法 II (中学校)		2
特別ニーズ教育 A		1	理科教育法 III (中学校)		2
特別ニーズ教育 B		1	理科教育法 IV (中学校)		2
教育課程論 A		2	理科概論 A (中学物理)		2
教育課程論 B		2	理科概論 B (中学化学)		2
教育の方法と技術 A (情報通信技術の活用を含む)		2	理科概論 C (中生物)		2
教育の方法と技術 B (情報通信技術の活用を含む)		2	理科概論 D (中学地学)		2
マイクロティーチング演習		2	理科実験 A (中学物理)		1
学校制度と社会		2	理科実験 B (中学化学)		1
絵画表現基礎		1	理科実験 C (中生物)		1
観察実習指導		1	理科実験 D (中学地学)		1
			理科特講 A (中学物理)		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
理科特講 B (中学化学)		2
理科特講 C (中学生物)		2
理科特講 D (中学地学)		2
道德教育の指導法 B		2
生徒指導・進路指導 B		2
特別活動指導法 B		1
総合的な学習の時間の指導法 B		1
教育相談 B		2
中学校教育実習指導		1
中学校教育実習		4
(特別支援教育科目)		
特別支援教育総論		2
知的障害児の心理		2
知的障害児の生理・病理		2
知的障害児の教育 A		2
知的障害児の教育 B		2
肢体不自由児の生理と病理		1
病弱児の生理と病理		1
肢体不自由児の心理		1
病弱児の心理		1
肢体不自由児の教育		2
病弱児の教育		2
教育アセスメント		2
重複障害児の心理と教育		1
LD 児の心理と教育		1
視覚障害児の心理と教育		1
聴覚障害児の心理と教育		1
特別支援学校教育実習指導		1
特別支援学校教育実習		2
<卒業研究>	4	

現代教育学部 現代教育学科 現代教育専攻 履修方法（卒業の要件）

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目		必修科目 1 単位	16 単位 以上	124 単位 以上
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目		6 単位以上 下記①～③の全てを含む ①英語必修科目 2 単位 ②英語スキルⅢ・Ⅳ・ポルトガル語入門 Ⅰ・Ⅱから 2 単位 ③日本語スキル・情報スキルから 2 単位		
	外国語教育科目				
	教養課題 教育科目	人文リテラシー	8 単位以上		
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ		必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部 教育 科目	学部共通科目	基礎科目	必修科目 4 単位を含めて 10 単位以上	84 単位 以上	
		実践科目			
	学科共通科目		必修科目 4 単位を含めて 6 単位以上		
	専攻専門科目	基幹科目	必修科目 6 単位を含めて 10 単位以上		
		小学校教育科目			
		中学校理科教育科目			
特別支援教育科目					
卒業研究		4 単位			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【学部共通科目】</b>			教職実践演習（中学校）		2
（基礎科目）			（中学校国語教育科目）		
教育研究入門 A	2		国語科教育法Ⅰ（中学校）		2
教育研究入門 B	2		国語科教育法Ⅱ（中学校）		2
多文化共生と教育		2	国語科教育法Ⅲ（中学校）		2
人権教育論		2	国語科教育法Ⅳ（中学校）		2
教育統計学基礎		2	日本語学概論		2
教育統計学		2	日本語音声学		2
教育ドラマ論		2	日本語文法論		2
キャリアデザイン論		2	日本語教育学		2
レクリエーション理論		2	言語表現法演習 A		1
生涯学習論		2	言語表現法演習 B		1
（実践科目）			日本語学研究法		2
教育ドラマ演習		2	日本近現代文学概論		2
地域フィールドスタディ		2	日本古典文学概論		2
教育データ解析		2	日本近現代文学演習		1
レクリエーション演習		2	日本古典文学演習		1
器楽演奏実技		1	日本近現代文学研究法		2
インターンシップ A		1	日本古典文学研究法		2
インターンシップ B		2	漢文学概論		2
インターンシップ C		1	漢文学演習		1
<b>【学科共通科目】</b>			書写・書道 A		2
発達心理学		2	書写・書道 B		2
発達臨床心理学		2	日本語学講読		2
対人関係論		2	日本語教授法		2
国際理解教育論		2	近代文学講読 A		2
現代社会と教育 A		2	近代文学講読 B		2
現代社会と教育 B		2	古典講読 A		2
キャリア開発 A		1	古典講読 B		2
キャリア開発 B		1	現代文学講読		2
現代教育課題研究 A		2	日本文化論 A		2
現代教育課題研究 B		2	日本文化論 B		2
<b>【専攻専門科目】</b>			国語教育課題研究		2
（基幹科目）			（中学校数学教育科目）		
教職入門（中学校）		2	数学科教育法Ⅰ（中学校）		2
教育基礎論		2	数学科教育法Ⅱ（中学校）		2
学校教育心理学		2	数学科教育法Ⅲ（中学校）		2
教育方法学（中学校）		1	数学科教育法Ⅳ（中学校）		2
特別ニーズ教育（中学校）		1	数学基礎演習		1
教育課程論（中学校）		2	代数学概論		2
教育の方法と技術（情報通信技術 の活用を含む）		2	代数学演習		1
教育制度論		2	代数学		2
道德教育の指導法（中学校）		2	代数学研究法		2
生徒指導・進路指導（中学校）		2	幾何学概論		2
特別活動指導法（中学校）		1	幾何学		2
総合的な学習の時間の指導法（中 学校）		1	幾何学演習		1
教育相談（中学校）		2	幾何学研究法		2
中学校教育実習指導		1	解析学概論		2
中学校教育実習		4	解析学演習		1
			解析学		2
			解析学研究法		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
確率統計概論		2
確率統計演習		1
確率統計研究法		2
計算機実習 A		1
計算機実習 B		1
代数学続論		2
幾何学続論		2
計算機概論		2
代数学応用		2
数理解析入門		2
英語で数学		2
数学教育課題研究		2
離散数学		2
情報数理解析		2
物理数学		2
<卒業研究>	4	

現代教育学部 現代教育学科 中等教育国語数学専攻 履修方法（卒業の要件）

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目		必修科目 1 単位	16 単位 以上	124 単位 以上
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目		6 単位以上 下記①～③の全てを含む ①英語必修科目 2 単位 ②英語スキルⅢ・Ⅳ・ポルトガル語入門 Ⅰ・Ⅱから 2 単位 ③日本語スキル・情報スキルから 2 単位		
	外国語教育科目				
	教養課題 教育科目	人文リテラシー	8 単位以上		
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ		必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部 教育 科目	学部共通科目	基礎科目	必修科目 4 単位を含めて 10 単位以上	84 単位 以上	
		実践科目			
	学科共通科目		必修科目 4 単位を含めて 6 単位以上		
	専攻専門科目	基幹科目	必修科目 6 単位を含めて 10 単位以上		
		中学校国語教育 科目			
中学校数学教育 科目					
卒業研究		4 単位			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

教職に関する専門科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
(教育の基礎的理解に関する科目)		
教職概論		2
教育原論		2
学習・発達論		1
特別支援教育論		1
教育行政学		2
学校教育社会論		2
教育課程総論		2
(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)		
道徳教育の方法		2
総合的な学習の時間の指導法		1
特別活動論		1
教育方法論(情報通信技術の活用を含む)		2
生徒指導・進路指導		2
生徒指導論(養護・栄養)		1
学校教育相談		2
(教育実践に関する科目)		
教育実習 A		3
教育実習 B		5
教育実習(養護教諭)		5
教育実習(栄養教諭)		2
教職実践演習(中・高)		2
教職実践演習(養護教諭)		2
教職実践演習(栄養教諭)		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
(教科及び教科の指導法に関する科目)		
職業指導(工業)		2
職業指導(商業)		2
職業指導(農業)		2
情報と職業		2
工業科教育法 I		2
工業科教育法 II		2
理科教育法 I		2
理科教育法 II		2
社会科・公民科教育法 I		2
社会科・公民科教育法 II		2
社会科・地理歴史科教育法 I		2
社会科・地理歴史科教育法 II		2
国語科教育法 A I		2
国語科教育法 A II		2
国語科教育法 B I		2
国語科教育法 B II		2
英語科教育法 A I		2
英語科教育法 A II		2
英語科教育法 B I		2
英語科教育法 B II		2
農業科教育法 I		2
農業科教育法 II		2
情報科教育法 I		2
情報科教育法 II		2
商業科教育法 I		2
商業科教育法 II		2

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

理工学部 数理・物理サイエンス学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
<b>【理工系教育圏科目】</b> (共通基礎科目)			サイエンスゼミナール (数学)	2	
数学基礎		2	代数学		2
物理概論		2	代数学演習		1
微分積分学Ⅰ	3		代数学統論		2
微分積分学Ⅱ	3		代数学統論演習		1
線形代数	3		集合と位相		2
基礎力学	2		集合と位相演習		1
基礎化学		2	解析学		2
創造理工学実験	2		解析学演習		1
基礎化学実験 (専門基盤科目)		2	解析学統論		2
ベクトル解析		2	解析学統論演習		1
微分方程式		2	応用解析学 A		2
応用数学		2	応用解析学演習 A		1
基礎電磁気学	2		応用解析学 B		2
熱学		2	応用解析学演習 B		1
基礎材料化学		2	幾何学		2
生物と工学		2	幾何学演習		1
応用線形代数		2	幾何学統論		2
数理科学 A		2	幾何学統論演習		1
数理科学 B		2	確率論		2
データサイエンスの基礎	2		確率論演習		1
問題解決のためのアルゴリズム とデータ構造		2	応用数理科学		2
人工知能アルゴリズムの活用		2	数理科学講読		1
データサイエンスプログラミング		1	数理サイエンス総合講義 (物理学)		2
(複合領域科目)			物理数学		2
管理工学		2	物理学実験		2
環境工学		2	物理科学実験 A		2
安全工学		2	物理科学実験 B		2
工学倫理		2	基礎力学演習	1	
社会と工学		2	熱力学		2
企業と工学		2	熱力学演習		1
物質の量子論的基礎と量子コン ピュータ入門		2	力学		2
AI のための脳神経科学		2	力学演習		1
インターンシップ A		1	基礎電磁気学演習	1	
インターンシップ B		2	電磁気学		2
<b>【学科専門教育科目】</b> (理工学一般)			電磁気学演習		1
生物概論		2	振動と波動		2
実験計測学概論		2	統計力学		2
電気・電子回路		2	統計力学演習		1
放射線科学		2	量子力学Ⅰ		2
計算機概論	2		量子力学演習Ⅰ		1
数値計算演習		1	量子力学Ⅱ		2
科学英語		2	量子力学演習Ⅱ		1
サイエンスコミュニケーション		2	物理光学		2
先端数理・物理サイエンス		2	プラズマ物理学		2
			流体・連続体力学		2
			素粒子・原子核 (物質科学)		2
			化学基礎		2



授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
有機化学		2
無機固体化学		2
半導体物理		2
固体物理学		2
電気化学		2
材料科学概論 (地学)		2
地学概論		2
地球物理学 A		2
地球物理学 B		2
宇宙物理学 A		2
宇宙物理学 B		2
<卒業研究>	4	

理工学部 数理・物理サイエンス学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	8 単位以上			
	外国語教育科目	[英語 4 単位（必修科目 2 単位を含む）、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]			
	教養課題教育科目	人文リテラシー			14 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学部教育科目	理工系教育圏科目	学科で定める必修科目を含めて	80 単位以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目・選択必修科目を含めて			
		卒業研究（必修）			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

理工学部 AI ロボティクス学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【理工系教育圏科目】</b>		
(共通基礎科目)		
数学基礎		2
物理概論		2
微分積分学Ⅰ	3	
微分積分学Ⅱ	3	
線形代数	3	
基礎力学		2
基礎化学		2
創造理工学実験	2	
基礎化学実験		2
(専門基盤科目)		
ベクトル解析		2
微分方程式		2
応用数学	2	
基礎電磁気学		2
熱学		2
基礎材料化学		2
生物と工学		2
応用線形代数		2
数理科学 A		2
数理科学 B		2
データサイエンスの基礎		2
問題解決のためのアルゴリズム		2
とデータ構造		
人工知能アルゴリズムの活用		2
データサイエンスプログラミング		1
(複合領域科目)		
管理工学		2
環境工学		2
安全工学		2
工学倫理		2
社会と工学		2
企業と工学		2
物質の量子論的基礎と量子コン		2
ピューター入門		
AI のための脳神経科学	2	
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
<b>【学科専門教育科目】</b>		
(理学)		
初等力学	2	
マルチボディダイナミクスⅠ	2	
マルチボディダイナミクスⅡ		2
(工学設計)		
図学入門	2	
ロボット工学概論	2	
材料工学	2	
ロボット製図		1
CAD・CAM・CAE		2

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
加工学		2
(プログラミング)		
ロボットプログラミング入門	2	
ロボットプログラミングⅠ	2	
ロボットオペレーティングシ	2	
ステム		
ロボットプログラミングⅡ	2	
(制御・信号処理)		
電気回路	2	
アナログ電子回路	2	
デジタル電子回路	2	
自動制御工学	2	
シーケンス制御		2
制御回路設計	2	
デジタル信号処理	2	
センサ工学		2
アクチュエータ工学		2
ロボットモーション	2	
ロボットインテリジェンス		2
ヒューマンロボットインタラ		2
クション		
音声情報処理		1
ロボットフロンティア		2
(AI)		
ロボットビジョン	2	
機械学習		2
データサイエンス活用		1
深層学習		2
(創成科目)		
ロボティクス入門Ⅰ	2	
ロボティクス入門Ⅱ	2	
加工実習	2	
プロジェクト演習A	1	
プロジェクト演習B	1	
ロボティクス演習	1	
ゼミナールA	1	
ゼミナールB	1	
リフレッシュ英語A		1
リフレッシュ英語B		1
英語コミュニケーションA	1	
英語コミュニケーションB	1	
自主活動A		1
自主活動B		1
<卒業研究>	4	

理工学部 AI ロボティクス学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	8 単位以上			
	外国語教育科目	[英語スキル I・II 科目 2 単位を含む]			
	教養課題教育科目	人文リテラシー			14 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動					
学部教育科目	理工系教育圏科目	15 単位以上	80 単位以上		
	学科専門教育科目	64 単位以上 【卒業研究（必修）を含む】			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

理工学部 宇宙航空学科 教育科目

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
<b>【理工系教育圏科目】</b>		
(共通基礎科目)		
数学基礎		2
物理概論		2
微分積分学Ⅰ	3	
微分積分学Ⅱ	3	
線形代数	3	
基礎力学		2
基礎化学		2
創造理工学実験	2	
基礎化学実験		2
(専門基盤科目)		
ベクトル解析		2
微分方程式		2
応用数学		2
基礎電磁気学		2
熱学		2
基礎材料化学		2
生物と工学		2
応用線形代数		2
数理科学 A		2
数理科学 B		2
データサイエンスの基礎		2
問題解決のためのアルゴリズム		2
とデータ構造		
人工知能アルゴリズムの活用		2
データサイエンスプログラミング		1
(複合領域科目)		
管理工学		2
環境工学		2
安全工学		2
工学倫理		2
社会と工学		2
企業と工学		2
物質の量子論的基礎と量子コン		2
ピュータ入門		
AI のための脳神経科学		2
インターンシップ A		1
インターンシップ B		2
<b>【学科専門教育科目】</b>		
(理学)		
力学基礎	2	
力学基礎演習	1	
振動・波動学		2
電磁気学	2	
(空力・推進)		
流体力学	2	
流体力学演習	1	
空気力学		2
熱力学	2	

授 業 科 目	単位数	
	必修	選択
熱力学演習	1	
伝熱工学		2
宇宙航空プラズマ工学		2
推進工学		2
(材料・構造・生産工学)		
材料力学	2	
材料力学演習	1	
構造力学		2
構造力学演習		1
航空宇宙材料		2
生産システム		2
(制御・飛行力学・宇宙)		
制御工学	2	
制御工学演習	1	
飛行力学		2
電気・電子回路	2	
電気・電子回路演習	1	
数値解析演習		1
メカトロニクス		2
宇宙航空デバイス		2
ソフトウェア		2
宇宙空間情報応用		2
(航空宇宙機設計)		
航空宇宙機設計演習	1	
ロケットシステム		2
宇宙機システム		2
航空機システム		2
機械製図演習	1	
CAD演習		1
(総合宇宙航空理工学)		
宇宙航空理工学概論	2	
機械工作実習 A	2	
機械工作実習 B	2	
宇宙航空理工学実験 A	1	
宇宙航空理工学実験 B	1	
宇宙航空理工学特別講義 A		1
宇宙航空理工学特別講義 B		1
先端宇宙航空理工学		2
工場見学	1	
工場実習		1
宇宙航空理工学科学技術英語	2	
A		
宇宙航空理工学科学技術英語		2
B		
宇宙航空理工学科学技術英語		2
C		
<卒業研究>	4	

理工学部 宇宙航空学科 履修方法（卒業の要件）

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語 4 単位、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]			
	外国語教育科目				
	教養課題教育科目	人文リテラシー			14 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
	健康とスポーツ	1 単位以上			
スポーツ活動					
学部教育科目	理工系教育圏科目	16 単位以上	80 単位以上		
	学科専門教育科目	64 単位以上 【卒業研究（必修）を含む】			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

## 学則の変更事項を記載した書類

1. 理工学部及び数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科を設置すること。（第2条第1項関係）
2. 理工学部の数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科の入学定員、3年次編入学定員及び収容定員を規定すること及び工学部のロボット理工学科及び宇宙航空理工学科の入学定員、3年次編入学定員及び収容定員を削除すること。（第3条関係）
3. 理工学部数理・物理サイエンス学科において取得できる教育職員免許状の種類を規定すること。（第13条関係）
4. 理工学部の授業料を規定すること。（第38条関係）
5. 理工学部及び数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科の教育研究上の目的を規定すること。  
（別表1（第2条第2項）関係）
6. 理工学部及び数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科の授業科目及び単位数を規定すること。  
（別表2（第9条）関係）
7. この改正学則は、令和5（2023）年4月1日から施行し、編入学定員の適用日を規定すること。（附則関係）

## 中部大学学則の一部を改正する学則 新旧対照表

(新)	(旧)																																																																																																																																		
<p>第1条 (省略)</p> <p>第2条 本学に置く学部・学科は次のとおりとし、学生はその一学部・学科を専修するものとする。 (工学部～現代教育学部 省略)</p> <p style="text-align: center;"><u>理工学部 数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科</u></p> <p style="text-align: center;">(第2条2 省略)</p> <p>第3条 本学の学部及び学科の収容定員は、次のとおりとする。</p>	<p>第1条 (省略)</p> <p>第2条 本学に置く学部・学科は次のとおりとし、学生はその一学部・学科を専修するものとする。 (工学部～現代教育学部 省略)</p> <p style="text-align: center;">(新規)</p> <p style="text-align: center;">(第2条2 省略)</p> <p>第3条 本学の学部及び学科の収容定員は、次のとおりとする。</p>																																																																																																																																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学部</th> <th style="width: 15%;">学科</th> <th style="width: 10%;">入学定員</th> <th style="width: 10%;">3年次編入学定員</th> <th style="width: 15%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">工学部</td> <td>機械工学科</td> <td style="text-align: center;">160</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">644</td> </tr> <tr> <td>都市建設工学科</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">324</td> </tr> <tr> <td>建築学科</td> <td style="text-align: center;">110</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">444</td> </tr> <tr> <td>応用化学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">364</td> </tr> <tr> <td>情報工学科</td> <td style="text-align: center;">120</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">484</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> </tr> <tr> <td>電気電子システム工学科</td> <td style="text-align: center;">160</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">644</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;"><u>720</u></td> <td style="text-align: center;"><u>12</u></td> <td style="text-align: center;"><u>2,904</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">理工学部</td> <td>数理・物理サイエンス学科</td> <td style="text-align: center;"><u>40</u></td> <td style="text-align: center;"><u>2</u></td> <td style="text-align: center;"><u>164</u></td> </tr> <tr> <td>AIロボティクス学科</td> <td style="text-align: center;"><u>80</u></td> <td style="text-align: center;"><u>2</u></td> <td style="text-align: center;"><u>324</u></td> </tr> <tr> <td>宇宙航空学科</td> <td style="text-align: center;"><u>80</u></td> <td style="text-align: center;"><u>2</u></td> <td style="text-align: center;"><u>324</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;"><u>200</u></td> <td style="text-align: center;"><u>6</u></td> <td style="text-align: center;"><u>812</u></td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	工学部	機械工学科	160	2	644	都市建設工学科	80	2	324	建築学科	110	2	444	応用化学科	90	2	364	情報工学科	120	2	484	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	電気電子システム工学科	160	2	644	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)		計	<u>720</u>	<u>12</u>	<u>2,904</u>	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	理工学部	数理・物理サイエンス学科	<u>40</u>	<u>2</u>	<u>164</u>	AIロボティクス学科	<u>80</u>	<u>2</u>	<u>324</u>	宇宙航空学科	<u>80</u>	<u>2</u>	<u>324</u>	計	<u>200</u>	<u>6</u>	<u>812</u>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学部</th> <th style="width: 15%;">学科</th> <th style="width: 10%;">入学定員</th> <th style="width: 10%;">3年次編入学定員</th> <th style="width: 15%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">工学部</td> <td>機械工学科</td> <td style="text-align: center;">160</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">644</td> </tr> <tr> <td>都市建設工学科</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">324</td> </tr> <tr> <td>建築学科</td> <td style="text-align: center;">110</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">444</td> </tr> <tr> <td>応用化学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">364</td> </tr> <tr> <td>情報工学科</td> <td style="text-align: center;">120</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">484</td> </tr> <tr> <td>ロボット理工学科</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">324</td> </tr> <tr> <td>電気電子システム工学科</td> <td style="text-align: center;">160</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">644</td> </tr> <tr> <td>宇宙航空理工学科</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">324</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">880</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">4,036</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> <td style="text-align: center;">(省略)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">(新規)</td> <td>(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> </tr> <tr> <td>(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> </tr> <tr> <td>(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> </tr> <tr> <td>(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	工学部	機械工学科	160	2	644	都市建設工学科	80	2	324	建築学科	110	2	444	応用化学科	90	2	364	情報工学科	120	2	484	ロボット理工学科	80	2	324	電気電子システム工学科	160	2	644	宇宙航空理工学科	80	2	324		計	880	16	4,036	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)
学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員																																																																																																																															
工学部	機械工学科	160	2	644																																																																																																																															
	都市建設工学科	80	2	324																																																																																																																															
	建築学科	110	2	444																																																																																																																															
	応用化学科	90	2	364																																																																																																																															
	情報工学科	120	2	484																																																																																																																															
	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)																																																																																																																															
	電気電子システム工学科	160	2	644																																																																																																																															
	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)																																																																																																																															
	計	<u>720</u>	<u>12</u>	<u>2,904</u>																																																																																																																															
(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)																																																																																																																															
理工学部	数理・物理サイエンス学科	<u>40</u>	<u>2</u>	<u>164</u>																																																																																																																															
	AIロボティクス学科	<u>80</u>	<u>2</u>	<u>324</u>																																																																																																																															
	宇宙航空学科	<u>80</u>	<u>2</u>	<u>324</u>																																																																																																																															
	計	<u>200</u>	<u>6</u>	<u>812</u>																																																																																																																															
学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員																																																																																																																															
工学部	機械工学科	160	2	644																																																																																																																															
	都市建設工学科	80	2	324																																																																																																																															
	建築学科	110	2	444																																																																																																																															
	応用化学科	90	2	364																																																																																																																															
	情報工学科	120	2	484																																																																																																																															
	ロボット理工学科	80	2	324																																																																																																																															
	電気電子システム工学科	160	2	644																																																																																																																															
	宇宙航空理工学科	80	2	324																																																																																																																															
		計	880	16	4,036																																																																																																																														
(省略)	(省略)	(省略)	(省略)	(省略)																																																																																																																															
(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)																																																																																																																															
	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)																																																																																																																															
	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)																																																																																																																															
	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)																																																																																																																															



(新)		(旧)																																																					
第4条～第12条 (省略)		第4条～第12条 (省略)																																																					
<p>第13条 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。</p> <p>2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。</p>		<p>第13条 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。</p> <p>2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。</p>																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">学部・学科</th> <th style="text-align: center;">免許状の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">理工学部</td> <td style="text-align: center;">数理・物理サイエ</td> <td style="text-align: center;">高等学校教諭一種免許状(数学)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ンス学科</td> <td style="text-align: center;">高等学校教諭一種免許状(理科)</td> </tr> </tbody> </table>		学部・学科		免許状の種類	理工学部	数理・物理サイエ	高等学校教諭一種免許状(数学)	ンス学科	高等学校教諭一種免許状(理科)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">学部・学科</th> <th style="text-align: center;">免許状の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> </tr> </tbody> </table>		学部・学科		免許状の種類	(新規)	(新規)	(新規)																																						
学部・学科		免許状の種類																																																					
理工学部	数理・物理サイエ	高等学校教諭一種免許状(数学)																																																					
	ンス学科	高等学校教諭一種免許状(理科)																																																					
学部・学科		免許状の種類																																																					
(新規)	(新規)	(新規)																																																					
(工学部～現代教育学部 省略)		(工学部～現代教育学部 省略)																																																					
第13条の2～第18条 (省略)		第13条の2～第18条 (省略)																																																					
<p>第19条 学部を卒業した者に学士の学位を授与する。</p> <p>2 学士の学位は、専攻分野により次のとおりとする。 (工学部～現代教育学部 省略)</p>		<p>第19条 学部を卒業した者に学士の学位を授与する。</p> <p>2 学士の学位は、専攻分野により次のとおりとする。 (工学部～現代教育学部 省略)</p>																																																					
<p style="text-align: center;"><u>理工学部</u></p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>数理・物理サイエ</u></td> <td style="text-align: center;"><u>ンス学科</u></td> <td style="text-align: center;"><u>学士(理学)</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>AIロボティクス</u></td> <td style="text-align: center;"><u>学科</u></td> <td style="text-align: center;"><u>学士(工学)</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>宇宙航空</u></td> <td style="text-align: center;"><u>学科</u></td> <td style="text-align: center;"><u>学士(工学)</u></td> </tr> </table>		<u>数理・物理サイエ</u>	<u>ンス学科</u>	<u>学士(理学)</u>	<u>AIロボティクス</u>	<u>学科</u>	<u>学士(工学)</u>	<u>宇宙航空</u>	<u>学科</u>	<u>学士(工学)</u>	(新規)																																												
<u>数理・物理サイエ</u>	<u>ンス学科</u>	<u>学士(理学)</u>																																																					
<u>AIロボティクス</u>	<u>学科</u>	<u>学士(工学)</u>																																																					
<u>宇宙航空</u>	<u>学科</u>	<u>学士(工学)</u>																																																					
第20条～第37条 (省略)		第20条～第37条 (省略)																																																					
<p>第38条 本学の各学部の授業料、入学料及び検定料の額は、次の表のとおりとする。ただし、第5条に規定する修業年限を超えて在学する者及び私費外国人留学生の授業料の額並びに入学試験において複数日の受験又は複数学科の受験を出願する者の検定料の額については、別に定めることができる。</p>		<p>第38条 本学の各学部の授業料、入学料及び検定料の額は、次の表のとおりとする。ただし、第5条に規定する修業年限を超えて在学する者及び私費外国人留学生の授業料の額並びに入学試験において複数日の受験又は複数学科の受験を出願する者の検定料の額については、別に定めることができる。</p>																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">1年次</th> <th style="text-align: center;">2年次</th> <th style="text-align: center;">3年次</th> <th style="text-align: center;">4年次</th> <th style="text-align: center;">計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">授業料</td> <td style="text-align: center;">理工学部</td> <td style="text-align: center;">930,000</td> <td style="text-align: center;">940,000</td> <td style="text-align: center;">950,000</td> <td style="text-align: center;">960,000</td> <td style="text-align: center;">3,780,000</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">入学料</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">280,000円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">検定料</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">35,000円</td> </tr> </tbody> </table>		区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計	授業料	理工学部	930,000	940,000	950,000	960,000	3,780,000	入学料	280,000円					検定料	35,000円					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">1年次</th> <th style="text-align: center;">2年次</th> <th style="text-align: center;">3年次</th> <th style="text-align: center;">4年次</th> <th style="text-align: center;">計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">授業料</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> <td style="text-align: center;">(新規)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">入学料</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">280,000円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">検定料</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">35,000円</td> </tr> </tbody> </table>		区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計	授業料	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	入学料	280,000円					検定料	35,000円				
区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計																																																	
授業料	理工学部	930,000	940,000	950,000	960,000	3,780,000																																																	
入学料	280,000円																																																						
検定料	35,000円																																																						
区分		1年次	2年次	3年次	4年次	計																																																	
授業料	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)	(新規)																																																	
入学料	280,000円																																																						
検定料	35,000円																																																						
(工学部～現代教育学部 省略)		(工学部～現代教育学部 省略)																																																					

(新)	(旧)												
<p>第 39 条～第 60 条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">附 則 (省略)</p> <p>附 則</p> <p>1 この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>2 工学部ロボット理工学科及び宇宙航空理工学科は、改正後の第 2 条の規定にかかわらず、2026 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。</p> <p>3 理工学部数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科及び宇宙航空学科に係る 3 年次編入学定員の規定は、改正後の第 3 条の規定にかかわらず、2025 年度からこれを適用する。</p> <p>4 この学則施行の際、現に在学するものについては、改正後の別表 2 (第 9 条関係)にかかわらず、なお従前の例による。</p> <p>別表 1 (第 2 条第 2 項関係)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> </tr> <tr> <td>電気電子システム工学</td> <td>地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(削除)</td> <td style="text-align: center;">(削除)</td> </tr> </table>	(削除)	(削除)	電気電子システム工学	地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。	(削除)	(削除)	<p>第 39 条～第 60 条 (省略)</p> <p style="text-align: center;">附 則 (省略)</p> <p style="text-align: center;">(新 規)</p> <p>別表 1 (第 2 条第 2 項関係)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>ロボット理工学科</td> <td>ロボット理工学の基礎となる理学並びにシステム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等の基盤的工学知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術に関する教育を行い、ロボット領域における知識・能力、技術を身に付けたロボット共存社会を支えるグローバルな技術者を育成する。</td> </tr> <tr> <td>電気電子システム工学</td> <td>地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。</td> </tr> <tr> <td>宇宙航空理工学科</td> <td>宇宙航空理工学の基礎となる基盤的専門知識を修得させるとともに、航空機開発や宇宙航行等の学際的・複合的な宇宙航空理工学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代宇宙航空産業における開発製造技術に関わる生産現場のリーダーとなりうる技術者を育成する。</td> </tr> </table>	ロボット理工学科	ロボット理工学の基礎となる理学並びにシステム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等の基盤的工学知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術に関する教育を行い、ロボット領域における知識・能力、技術を身に付けたロボット共存社会を支えるグローバルな技術者を育成する。	電気電子システム工学	地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。	宇宙航空理工学科	宇宙航空理工学の基礎となる基盤的専門知識を修得させるとともに、航空機開発や宇宙航行等の学際的・複合的な宇宙航空理工学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代宇宙航空産業における開発製造技術に関わる生産現場のリーダーとなりうる技術者を育成する。
(削除)	(削除)												
電気電子システム工学	地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。												
(削除)	(削除)												
ロボット理工学科	ロボット理工学の基礎となる理学並びにシステム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等の基盤的工学知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術に関する教育を行い、ロボット領域における知識・能力、技術を身に付けたロボット共存社会を支えるグローバルな技術者を育成する。												
電気電子システム工学	地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。												
宇宙航空理工学科	宇宙航空理工学の基礎となる基盤的専門知識を修得させるとともに、航空機開発や宇宙航行等の学際的・複合的な宇宙航空理工学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代宇宙航空産業における開発製造技術に関わる生産現場のリーダーとなりうる技術者を育成する。												

<p>理工学部</p>	<p>科学技術の根幹をなす数学、自然科学、および幅広い工学分野の先進科学技術を基礎として、新しい時代に即した理学と工学を融合した教育・研究を展開し、推進する。数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献する科学技術者を育成する。</p>	<p>(新 規)</p>	<p>(新 規)</p>
<p>数理・物理サイエンス学科</p>	<p>数理科学（数学、データサイエンス等）・物理科学（物理学、物質科学、宇宙・地球科学等）の分野の知識および技術を基盤として、自律的に学ぶ力、自由な発想力、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、課題の発見力と解決のための実践力、判断力、コミュニケーション能力を修得させ、数理科学・物理科学分野の知識と技術を身に付け、自律的に学び、考え、自ら課題を発見・設定し解決する実践力を持った、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」を育成する。</p>	<p>(新 規)</p>	<p>(新 規)</p>
<p>AI ロボティクス学科</p>	<p>AI ロボティクス分野の基礎となる理学、工学設計、プログラミング、制御・信号処理、AI 等の基盤的専門知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術（人間生活に直結したサービス系、介護、診断系や産業系のロボット等）やシステム・インテグレーションできる技術に関する教育を行い、理学的素養とロボット領域における知識・能力、技術を身に付けたロボット共存社会を支えるグローバルな科学技術者を育成する。</p>	<p>(新 規)</p>	<p>(新 規)</p>
<p>宇宙航空学科</p>	<p>理学、流体力学、熱力学、構造力学、材料力学、制御工学、情報工学、電気・電子工学等の基盤的専門知識を修得させるとともに、推進工学、生産システム、航空機システム、ロケットシステム、宇宙機システム、宇宙航行、航空宇宙機設計等の学際的・複合的な宇宙航空学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代航空宇宙産業における設計・開発・製</p>	<p>(新 規)</p>	<p>(新 規)</p>

造・利用技術に関わる科学技術者を育成する。

別表2 (第9条関係)

(削 除)

別表2 (第9条関係)

工学部 ロボット理工学科 教育科目

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必 修	選 択		必 修	選 択
【工学部共通教育科目】 (共通基礎科目)			ロボットプログラミングⅡ	2	
基礎数学		3	ロボットビジョン		2
基礎物理学		2	機械学習 (制御・信号処理)		2
微分積分学Ⅰ	3		電気回路	2	
微分積分学Ⅱ		3	アナログ電子回路	2	
線形代数	3		デジタル電子回路	2	
力学		2	自動制御工学	2	
物質の科学		2	アクチュエータ工学	2	
基礎化学		2	制御回路設計	2	
創造理工学実験Ⅰ	2		デジタル信号処理	2	
創造理工学実験Ⅱ		2	センサ工学	2	
基礎化学実験 (専門基盤科目)		2	ロボットモーション	2	
ベクトル解析		2	ロボットインテリジェンス		2
データサイエンスの基礎		2	ロボットフロンティア (生体・医療科学)		2
微分方程式		2	生体の構造と機能	2	
応用数学		2	ヒューマンロボットインタラクシ ョン		2
基礎電磁気学		2	医療工学 (創成科目)		2
熱学		2	ロボット理 工学Ⅰ	2	
基礎材料化学		2			
生物と工学 (複合領域科目)		2			
物質の量子論 的基礎と量子 コンピュータ 入門		2			
管理工学		2			
環境工学		2			
安全工学		2			
工学倫理		2			
社会と工学		2			
企業と工学		2			
インターンシ		1			

	ップ A インターンシ ップ B 【学科専門教 育科目】 (理学) 初等力学 2 ロボット数学 2 材料力学 2 マルチボディ ダイナミクス I 2 マルチボディ ダイナミクス II (工学設計) 図学入門 2 ロボット工学 概論 2 ロボット製図 材料科学 1 加工学 2 (プログラミ ング) ロボットプロ グラミング入 門 2 ロボットプロ グラミング I 2 ロボットオペ レーティング システム 2	2	2	ロボット理 工学 II 2 加工実習 2 プロジェク ト演習 A 1 プロジェク ト演習 B 1 プロジェク ト演習 C 1 ロボット理 工学演習 A 1 ロボット理 工学演習 B 1 ロボット理 工学演習 C 1 ゼミナール A 1 ゼミナール B 1 リフレッシ ュ英語 A 1 リフレッシ ュ英語 B 1 英語コミュ ニケーショ ン A 1 英語コミュ ニケーショ ン B 1 科学技術英 語 A 1 科学技術英 語 B 1 自主活動 A 1 自主活動 B 1 <卒業研究> 4	1	1	1	1	1	1	4
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

工学部 ロボット理工学科 履修方法 (卒業の要件)

(削除)

全学 共通 教育 科目	初年次教育 科目		必修科目 1 単位	24 単 位 以 上	124 単 位 以 上
	キャリア教 育科目				
	スキル教育 科目		8 単位以上		
	外国語教育 科目		[英語スキル I、II 科 目 2 単位を含む]		
	教 養 課 題 教 育 科	人 文 リ テ ラ ー 社 会 リ テ ラ ー	14 単位以上		

	目	一				
		科学技術リテラシー				
		リベラルアーツ教育科目				
		特別課題教育科目				
		健康とスポーツ				必修科目を含めて 1 単位以上
		スポーツ活動				
学部教育科目	学部共通教育科目	学科で定める必修科目・選択必修科目を含めて	16 単位以上	84 単位以上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目・選択必修科目を含めて	68 単位以上			
		卒業研究（必修）				

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

(削除)

工学部 宇宙航空理工学科 教育科目

授業科目	単位数		授業科目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
【工学部共通教育科目】 (共通基礎科目)			材料力学演習	1	
基礎数学		3	構造力学		2
基礎物理学		2	構造力学演習		1
微分積分学 I	3		航空宇宙材料		2
微分積分学 II	3		航空宇宙機生産工学 (制御・飛行力学・宇宙)		2
線形代数	3		制御工学	2	
力学		2	制御工学演習	1	
物質の科学		2	飛行力学		2
基礎化学		2	電気・電子回路	2	
創造理工学	2		電気・電子回路演習	1	
実験 I			MATLAB 演習		1
創造理工学	2		メカトロニクス		2
			宇宙航空デバイス		2

	実験Ⅱ			ソフトウェア		2
	基礎化学実験	2		宇宙航行・宇宙利用		2
	(専門基盤科目)			宇宙空間情報応用		2
	ベクトル解析	2		(航空宇宙機設計)		
	データサイエンスの基礎	2		航空宇宙機設計演習	1	
	微分方程式	2		ロケット工学		2
	応用数学	2		衛星システム		2
	基礎電磁気学	2		ヘリコプター工学		2
	熱学	2		装備品		2
	基礎材料化学	2		機械製図	2	
	生物と工学	2		CAD・CATIA		1
	(複合領域科目)			(総合宇宙航空工学)		
	物質の量子論的基礎と量子コンピュータ入門	2		宇宙航空理工学概論	2	
	管理工学	2		機械実習 A	1	
	環境工学	2		機械実習 B	1	
	安全工学	2		宇宙航空理工学実験 A	1	
	工学倫理	2		宇宙航空理工学実験 B	1	
	社会と工学	2		宇宙航空理工学特別講義 A		1
	企業と工学	2		宇宙航空理工学特別講義 B		1
	インターンシップ A	1		先端宇宙航空理工学		2
	インターンシップ B	2		工場見学	1	
	【学科専門教育科目】			工場実習		1
	(理学)			経営工学		2
	力学基礎	2		宇宙航空理工学	2	
	力学基礎演習	1		科学技術英語 A		2
	振動・波動学	2		宇宙航空理工学		2
	電磁気学	2		科学技術英語 B		
	電磁気学演習	1		宇宙航空理工学		2
	(空力・推進)			科学技術英語 C		
	流体力学	2		<卒業研究>	4	
	流体力学演習	1				
	空気力学	2				

熱力学	2				
熱力学演習	1				
伝熱工学		2			
宇宙航空プラズマ理工学		2			
ジェットエンジン (材力・構造・生産工学)		2			
材料力学	2				

(削 除)

工学部 宇宙航空理工学科 履修方法 (卒業の要件)

全学共通教育科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位		24 単位以上	124 単位以上	
	キャリア教育科目					
	スキル教育科目	8 単位以上[英語 4 単位 (必修科目 2 単位を含む)、日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]				
	外国語教育科目					
	教養課題教育科目	人文学リテラシー	14 単位以上			
		社会学リテラシー				
		科学技術リテラシー				
	リベラルアーツ教育科目					
	特別課題教育科目					
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上				
スポーツ活動						
学部教育科	学部共通教育科目	学科で定める必修科目を含めて	16 単位以上	84 単位以上		



目	学科専門教育科目	学科で定める必修科目を含めて 卒業研究（必修）	68 単位 以上		
---	----------	----------------------------	----------------	--	--

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

理工学部 数理・物理サイエンス学科 教育科目

(新 規)

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必 修	選 択		必 修	選 択
【理工系教育 圏科目】 (共通基礎科 目)			サイエンスゼ ミナール (数学)	2	
代数学		2	代数学		2
数学基礎		2	代数学演習		1
物理概論		2	代数学続論		2
微分積分学Ⅰ	3		代数学続論演 習		1
微分積分学Ⅱ	3		集合と位相		2
線形代数	3		集合と位相演 習		1
基礎力学	2		解析学		2
基礎化学		2	解析学演習		1
創造理工学実 験	2		解析学続論		2
基礎化学実験 (専門基盤科 目)		2	解析学続論演 習		1
ベクトル解析		2	応用解析学A		2
微分方程式		2	応用解析学演 習A		1
応用数学		2	応用解析学B		2
基礎電磁気学	2		応用解析学演 習B		1
熱学		2	幾何学		2
基礎材料化学		2	幾何学演習		1
生物と工学		2	幾何学続論		2
応用線形代数		2	幾何学続論演 習		1
数理科学A		2	確率論		2
数理科学B		2	確率論演習		1
データサイエ ンスの基礎	2		応用数理科学		2
問題解決のた めのアルゴリ ズムとデータ 構造		2	数理科学講読		1
人工知能アル ゴリズムの活 用		2	数理サイエン ス総合講義 (物理学)		2
データサイエ ンスプログラ ミング (複合領域科 目)		1	物理数学		2
			物理学実験		2
			物理科学実験 A		2
			物理科学実験 B		2

<u>管理工学</u>		<u>2</u>	<u>基礎力学演習</u>	<u>1</u>	
<u>環境工学</u>		<u>2</u>	<u>熱力学</u>		<u>2</u>
<u>安全工学</u>		<u>2</u>	<u>熱力学演習</u>		<u>1</u>
<u>工学倫理</u>		<u>2</u>	<u>力学</u>		<u>2</u>
<u>社会と工学</u>		<u>2</u>	<u>力学演習</u>		<u>1</u>
<u>企業と工学</u>		<u>2</u>	<u>基礎電磁気学</u>	<u>1</u>	
<u>物質の量子論</u>		<u>2</u>	<u>演習</u>		
<u>的基礎と量子</u>			<u>電磁気学</u>		<u>2</u>
<u>コンピュータ</u>			<u>電磁気学演習</u>		<u>1</u>
<u>入門</u>			<u>振動と波動</u>		<u>2</u>
<u>AI のための脳</u>		<u>2</u>	<u>統計力学</u>		<u>2</u>
<u>神経科学</u>			<u>統計力学演習</u>		<u>1</u>
<u>インターンシ</u>		<u>1</u>	<u>量子力学 I</u>		<u>2</u>
<u>ップ A</u>			<u>量子力学演習</u>		<u>1</u>
<u>インターンシ</u>		<u>2</u>	<u>I</u>		
<u>ップ B</u>			<u>量子力学 II</u>		<u>2</u>
<u>【学科専門教</u>			<u>量子力学演習</u>		<u>1</u>
<u>育科目】</u>			<u>II</u>		
<u>( 理 工 学 一</u>			<u>物理光学</u>		<u>2</u>
<u>般)</u>			<u>プラズマ物理</u>		<u>2</u>
<u>生物概論</u>		<u>2</u>	<u>学</u>		
<u>実験計測学概</u>		<u>2</u>	<u>流体・連続体</u>		<u>2</u>
<u>論</u>			<u>力学</u>		
<u>電気・電子回</u>		<u>2</u>	<u>素粒子・原子</u>		<u>2</u>
<u>路</u>			<u>核</u>		
<u>放射線科学</u>		<u>2</u>	<u>(物質科学)</u>		
<u>計算機概論</u>	<u>2</u>		<u>化学基礎</u>		<u>2</u>
<u>数値計算演習</u>		<u>1</u>	<u>有機化学</u>		<u>2</u>
<u>科学英語</u>		<u>2</u>	<u>無機固体化学</u>		<u>2</u>
<u>サイエンスコ</u>		<u>2</u>	<u>半導体物理</u>		<u>2</u>
<u>ミュニケーシ</u>			<u>固体物理学</u>		<u>2</u>
<u>ョン</u>			<u>電気化学</u>		<u>2</u>
<u>先端数理・物</u>		<u>2</u>	<u>材料科学概論</u>		<u>2</u>
<u>理サイエンス</u>			<u>(地学)</u>		
			<u>地学概論</u>		<u>2</u>
			<u>地球物理学 A</u>		<u>2</u>
			<u>地球物理学 B</u>		<u>2</u>
			<u>宇宙物理学 A</u>		<u>2</u>
			<u>宇宙物理学 B</u>		<u>2</u>
			<u>&lt;卒業研究&gt;</u>	<u>4</u>	

理工学部 数理・物理サイエンス学科 履修方法 (卒業の要件)

(新 規)

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	24 単 位 以 上	124 単 位 以 上	
	キャリア教育科目				
	スキル教育科目	8 単位以上 [英語 4 単位 (必修科目 2 単位を含む)、			
	外国語教育科目	日本語スキル 2 単位、情報スキル 2 単位を含む]			
	教養 課題 教育 科目	人文リテラシー			14 単位以上
		社会リテラシー			
		科学技術リテラシー			
	リベラルアーツ教育科目				
	特別課題教育科目				
	健康とスポーツ	必修科目を含めて 1 単位以上			
スポーツ活動					
学 部 教 育 科 目	理工系教育圏科目	学科で定める必修科目を含めて	80 単 位 以 上		
	学科専門教育科目	学科で定める必修科目・選択必修科目を含めて			
		卒業研究 (必修)			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

理工学部 AI ロボティクス学科 教育科目			(新 規)		
授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必 修	選 択		必 修	選 択
【理工系教育 圏科目】 (共通基礎科 目)			加工学 (プログラミング)		2
数学基礎		2	ロボットプロ グラミング入 門	2	
物理概論		2	ロボットプロ グラミングI	2	
微分積分学I	3		ロボットオペ レーティング システム	2	
微分積分学II	3		ロボットプロ グラミングII (制御・信号 処理)	2	
線形代数	3		電気回路	2	
基礎力学		2	アナログ電子 回路	2	
基礎化学		2	デジタル電子 回路	2	
創造理工学実 験	2		自動制御工学	2	
基礎化学実験 (専門基盤科 目)		2	シーケンス制 御		2
ベクトル解析		2	制御回路設計	2	
微分方程式		2	デジタル信号 処理	2	
応用数学	2		センサ工学		2
基礎電磁気学 熱学		2	アクチュエー タ工学		2
基礎材料化学		2	ロボットモー ション	2	
生物と工学		2	ロボットイン テリジェンス		2
応用線形代数		2	ヒューマンロ ボットインタ ラクション		2
数理科学A		2	音声情報処理		1
数理科学B		2	ロボットフロ ンティア		2
データサイエ ンスの基礎		2	(AI)		
問題解決のた めのアルゴリ ズムとデータ 構造		2	ロボットビジ ョン	2	
人工知能アル ゴリズムの活 用		2	機械学習		2
データサイエ ンスプログラ ミング (複合領域科 目)		1	データサイエ ンス活用		1
管理工学		2	深層学習 (創成科目)		2
環境工学		2			
安全工学		2			
工学倫理		2			
社会と工学		2			
企業と工学		2			
物質の量子論		2			

的基礎と量子 コンピュータ 入門			ロボティクス 入門Ⅰ	2		
AIのための脳 神経科学	2		ロボティクス 入門Ⅱ	2		
インターンシ ップA		1	加工実習	2		
インターンシ ップB		2	プロジェクト 演習A	1		
【学科専門教 育科目】			プロジェクト 演習B	1		
(理学)			ロボティクス 演習	1		
初等力学	2		ゼミナールA	1		
マルチボディ ダイナミクス Ⅰ	2		ゼミナールB	1		1
マルチボディ ダイナミクス Ⅱ (工学設計)	2		リフレッシュ 英語A			1
図学入門	2		リフレッシュ 英語B			1
ロボット工学 概論	2		英語コミュニ ケーションA	1		
材料工学	2		英語コミュニ ケーションB	1		
ロボット製図 CAD・CAM・CAE		1 2	自主活動A			1
			自主活動B			1
			<卒業研究>	4		

理工学部 AI ロボティクス学科 履修方法 (卒業の要件)

(新 規)

全 学 共 通 教 育 科 目	初年次教育科 目	必修科目1単位			
	キャリア教育 科目				
	スキル教育科 目	8単位以上			
	外国語教育科 目	[英語スキルⅠ・Ⅱ 科目2単位を含む]			
	教養 課題 教育 科目	人文リ テラシ ニ	14単位以上	24 単 位 以 上	124 単 位 以 上
		社会リ テラシ ニ			
	リベラルア ーツ教育科目	科学技 術リテ ラシー			
特別課題教育 科目					
健康とスポ ーツ	必修科目を含めて1 単位以上				

	スポーツ活動			
学部 教育 科目	理工系教育圏 科目	15 単位以上	80 単 位 以 上	
	学科専門教育 科目	64 単位以上 【卒業研究（必修） を含む】		

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。

理工学部 宇宙航空学科 教育科目

(新 規)

授 業 科 目	単位数		授 業 科 目	単位数	
	必 修	選 択		必 修	選 択
【理工系教育 圏科目】 (共通基礎科 目)			熱力学演習	1	
数学基礎		2	伝熱工学		2
物理概論		2	宇宙航空ブ ラズマ理工 学		2
微分積分学Ⅰ	3		推進工学 (材料・構 造・生産工 学)		2
微分積分学Ⅱ	3		材料力学	2	
線形代数	3		材料力学演 習	1	
基礎力学		2	構造力学		2
基礎化学		2	構造力学演 習		1
創造理工学実 験	2		航空宇宙材 料		2
基礎化学実験 (専門基盤科 目)		2	生産システ ム		2
ベクトル解析		2	(制御・飛行 力学・宇宙)		
微分方程式		2	制御工学	2	
応用数学		2	制御工学演 習	1	
基礎電磁気学		2	飛行力学		2
熱学		2	電気・電子回 路	2	
基礎材料化学		2	電気・電子回 路演習	1	
生物と工学		2	数値解析演 習		1
応用線形代数		2	メカトロニ クス		2
数理科学A		2	宇宙航空デ バイス		2
数理科学B		2	ソフトウェア		2
データサイエ ンスの基礎		2			
問題解決のた めのアルゴリ ズムとデータ 構造		2			
人工知能アル ゴリズムの活 用		2			
データサイエ ンスプログラ		1			



理工学部 宇宙航空学科 履修方法 (卒業の要件)

(新 規)

全学 共通 教育 科目	初年次教育科目	必修科目 1 単位	24 単 位 以 上	124 単 位 以 上	
	キャリア教育 科目				
	スキル教育科 目	8 単位以上			
	外国語教育科 目	[英語 4 単位、日本 語スキル 2 単位、情 報スキル 2 単位を 含む]			
	教養 課題 教育 科目	人文リ テラシ ニ			14 単位以上
		社会リ テラシ ニ			
		科学技 術リテ ラシー			
	リベラルア ーツ教育科目				
	特別課題教育 科目				
	健康とスポ ーツ	1 単位以上			
スポーツ活動					
学 部 教 育 科 目	理工系教育圏 科目	16 単位以上	80 単 位 以 上		
	学科専門教育 科目	64 単位以上 【卒業研究 (必修) を含む】			

※ 授業科目の履修に関しては別に定める。



## 学則の変更の趣旨等を記載した書類 目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	3
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性	4
（1）中部大学に理工学部を設置する背景及び必要性	4
①理工学部の設置の背景	4
②理工学部の設置の必要性	5
（2）理工学部に3学科を設置する背景及び必要性	7
①-1 数理・物理サイエンス学科の設置の背景	7
①-2 数理・物理サイエンス学科の設置の必要性	8
②-1 AI ロボティクス学科の設置の背景	10
②-2 AI ロボティクス学科の設置の必要性	11
③-1 宇宙航空学科の設置の背景	12
③-2 宇宙航空学科の設置の必要性	13
④ 理工学部及び3学科の設置に関するアンケート調査	13
（3）学則変更（収容定員変更）の必要性	14
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	16
（1）教育課程の変更内容	16
①全学共通教育科目	16
②学部教育科目（理工系教育圏科目）	17
③学部教育科目（学科専門教育科目）	18
ア 数理・物理サイエンス学科	18
イ AI ロボティクス学科	20
ウ 宇宙航空学科	22
（2）教育方法及び履修指導方法の変更内容	24
①教育方法	24
ア 全学共通教育科目及び理工系教育圏科目	24
イ 数理・物理サイエンス学科	25
ウ AI ロボティクス学科	26
エ 宇宙航空学科	26
②履修指導方法	27
ア 全学共通教育科目及び理工系教育圏科目	27
イ 数理・物理サイエンス学科	27
ウ AI ロボティクス学科	28
エ 宇宙航空学科	28
③編入学後の履修指導方法及び教育上の配慮	29
（3）教員組織の変更内容	29
①数理・物理サイエンス学科	30
②AI ロボティクス学科	30
③宇宙航空学科	31
（4）施設・設備の変更内容	32
①校地、運動場等の整備計画	32

②校舎等施設・設備の整備計画	32
ア 数理・物理サイエンス学科	32
イ AI ロボティクス学科及び宇宙航空学科	32
ウ 全学共通施設	33
③図書等の資料及び図書館の整備計画	33

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### 1. 学則変更（収容定員変更）の内容

(1) 2023（令和5）年度から、中部大学に理工学部を設置するとともに入学定員及び収容定員を増加すること。

①理工学部に数理・物理サイエンス学科（入学定員40人、3年次編入学員2人）を設置すること。

②工学部ロボット理工学科（入学定員80人、3年次編入学員2人）の学生募集を停止し、理工学部にAIロボティクス学科（入学定員80人、3年次編入学員2人）を設置すること。

③工学部宇宙航空理工学科（入学定員80人、3年次編入学員2人）の学生募集を停止し、理工学部に宇宙航空学科（入学定員80人、3年次編入学員2人）を設置すること。

(2) 上記（1）に伴い、下記のとおり、工学部及び理工学部の入学定員及び3年次編入学定員の変更を行い、大学全体の入学定員（40人）及び収容定員（164人）を増加すること。

変更の詳細は、下表及び【資料1 収容定員変更の新旧対照表】のとおりである。

区 分	現 行		変 更	増 減
<b>【入学定員】</b>				
工学部	880人	→	720人	△160人
ロボット理工学科	80人	→	0人	△80人
宇宙航空理工学科	80人	→	0人	△80人
理工学部	0人	→	200人	200人
数理・物理サイエンス学科	0人	→	40人	40人
AIロボティクス学科	0人	→	80人	80人
宇宙航空学科	0人	→	80人	80人
<b>【3年次編入定員】</b>				
工学部	16人	→	12人	△4人
ロボット理工学科	2人	→	0人	△2人
宇宙航空理工学科	2人	→	0人	△2人
理工学部	0人	→	6人	6人
数理・物理サイエンス学科	0人	→	2人	2人
AIロボティクス学科	0人	→	2人	2人
宇宙航空学科	0人	→	2人	2人
<b>【入学定員】</b>				
大学定員	2,600人	→	2,640人	40人
<b>【3年次編入定員】</b>				
大学定員	47人	→	49人	2人

## 2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

### （1）中部大学に理工学部を設置する背景及び必要性

#### ①理工学部の設置の背景

学校法人中部大学は、昭和13年12月にその前身である名古屋第一工学校を開設して以来、約80年の歳月を経て、現在、中部大学に、工学部、経営情報学部、国際関係学部、人文学部、応用生物学部、生命健康科学部、現代教育学部の7学部及び工学研究科、経営情報学研究科、国際人間学研究科、応用生物学研究科、生命健康科学研究科、教育学研究科の大学院6研究科を設置し、併せて中部大学第一高等学校、中部大学春日丘高等学校、中部大学春日丘中学校を擁する総合の学園となっている。

中部大学は、「不言実行、あてになる人間」の育成を建学の精神として、「豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果を挙げ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献する」ことを基本理念として、教育と研究に邁進し、広く社会貢献や地域連携、更にはグローバル人材の育成に努力を傾注している。

また、中部大学工学部は、1964(昭和39)年4月に中部工業大学〔1984(昭和59)年4月に中部大学に名称変更〕設立と同時に設置され、大学院工学研究科は、工学部を基礎として1971(昭和46)年4月に設置されたが、現在の工学部は、機械工学科、都市建設工学科、建築学科、応用化学科、情報工学科、ロボット理工学科、電気電子システム工学科、宇宙航空理工学科の8学科で構成されている。

大学院工学研究科は、機械工学専攻、電気電子工学専攻、建設工学専攻、応用化学専攻、情報工学専攻、創造エネルギー理工学専攻、ロボット理工学専攻、宇宙航空理工学専攻の8専攻で構成され、工学関係分野の教育研究活動を展開しているが、大学院工学研究科は、人間形成に必要な教養、普遍的な幅広い基礎知識、専門知識並びにその応用力を修得し、時代の要請に応え、さらに時代を先取りする工学的技術開発とそれを支える基礎学理の教育研究を行って、発想を具現化するための複眼的な論理思考法を訓練し、これにより、地域社会から国際社会において幅広く柔軟に活躍できる能力を身に付け、開拓者精神が旺盛で心身共に健全な技術者の育成を行い、有能な人間の育成と研究成果を通じて社会に貢献することを目的としている。

現在の日本の科学技術は、20世紀の後半に社会のニーズに応えるキャッチアップ時代を終え、新たなニーズを生み出し社会をリードするフロントランナー時代に突入し、真に人類の福祉の向上に貢献する新しいものを作り出す技術が社会から強く求められている。現在の中部大学（以下「本学」という。）の工学部8学科及び工学研究科8専攻においては、建学の精神である「不言実行、あてになる人間」に基づき、このような21世紀の社会からあてにされる技術者を育成することを目指して、創造的実践能力を身に付けるための具体的な学修・教育目標を設定した教育プログラムを提供している。また、本学における工学教育では、①体験学修による「モノづくり」に対するデザイン能力、②社会環境の変化に対応するために必要な工学基礎、③チームで仕事をするためのコミュニケーション能力、④個の人間形成に必要な教養、高度化・複雑化する総合的視野の涵養などを教育研究の柱としている。

しかしながら、近年の急速な社会構造の変化や科学技術の進歩に伴い、それらの社会の変化に対応可能な科学技術の持続的発展と革新及びその科学技術の社会への応用を担う「理工系人材」の育成が急務となっている。

このため、本学ではこれまでの本学工学部における教育研究の内容及び方法を基盤として、数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身に付け、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献できる科学技術者を養成するため、数理・物理サイエンス学科、

AI ロボティクス学科、宇宙航空学科の3学科で構成される理工学部を設置する計画であり、これにより、数理・物理サイエンス分野、AI ロボティクス分野、宇宙航空分野を深化させ、先進的な技術力や論理的な思考力を備え、産業社会を牽引できる科学技術者を広く社会に輩出していくこととしたいと考えている。

## ②理工学部の設置の必要性

2021(令和3)年3月26日に閣議決定された「第6次 科学技術・イノベーション基本計画」(以下「第6次」という。)においては、これまでの科学技術・イノベーション政策を振り返るとともに、2016(平成28)年1月22日に閣議決定された「第5次科学技術基本計画」(以下「第5次」という。)以後の5年間で起きた国内外における情勢の変化やその変化を加速することとなった2020(令和2)年3月頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大等を踏まえ、我が国が目指す社会を改めて「Society 5.0」とした。「Society 5.0」は第5次において、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより経済的発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」(超スマート社会)を実現するための取組として提唱されたものであるが、2015(平成27年)の国連サミットにおいてすべての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられたSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)とも軌を一にするものであることから、我が国においては一体として様々な施策や取組が実施されてきた。**【資料2 第6次 科学技術・イノベーション基本計画(概要)】【資料3 第5次 科学技術基本計画(概要)】【資料4 持続可能な開発目標(SDGs)について(概要)】**

第6次では、これを国内外の情勢の変化を踏まえてさらに具体化させていく必要があるとし、「Society 5.0」の具体像として次の2点に集約している。

- (1)国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会
- (2)一人ひとりの多様な幸せ(well-being)が実現できる社会

すなわち、前者はSDGsの達成を見据えた持続可能な地球環境の実現や、災害や感染症等の脅威に対する持続可能で強靱な社会の構築等により実現する社会を指している。また後者は、誰もが能力を伸ばせる教育とそれを活かした多様な働き方を可能とする労働・雇用環境の実現等、経済的な豊かさや質的な豊かさにより実現する社会を指している。

さらに、Society 5.0の実現に必要な取組として、次の3つが必要であると説明されている。

- (1)サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革

Society5.0では、サイバー空間において、社会のあらゆる要素をデジタルツインとして構築し、制度やビジネスデザイン、都市や地域の整備などの面で再構成した上で、フィジカル空間に反映し社会を変革していくことになる。その際、高度な解析が可能となるような形で質の高いデータを収集・蓄積し、数理モデルやデータ解析技術により、サイバー空間内で高度な解析を行うという一連の基盤(社会基盤)が求められる。

- (2)新たな社会を設計し、価値創造の源泉となる「知」の創造

Society5.0への移行においては、新たな技術を社会で活用するにあたり生じる、倫理的・法的・社会的な課題に対応するためには、俯瞰的な視野で物事を捉える必要があり、自然科学のみならず、人文・社会科学を含めた「総合知」を活用できる仕組みが求められている。

- (3)新たな社会を支える人材の育成

Society5.0時代には、自ら課題を発見し解決手法を模索する、探究的な活動を通じて身に付く能力・資質が重要となる。世界に新たな価値を生み出す人材の輩出とそれを実現する教育・人材育成システムの実現が求められている。

本学理工学部における教育・研究は、これら3つの「Society5.0の実現に必要な取組」と密接な関連性を有している。

例えば、上記(1)の「サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革」においては、「数理・データサイエンス・AI」「AI技術」「宇宙」「量子技術」「バイオテクノロジー」などの教育や研究開発が重要となるが、本学理工学部では、学部の共通科目である「理工系教育圏科目」において、これらに関する基盤的な授業科目を複合的かつ系統的に配置するとともに、学科ごとに配置する「学科専門教育科目」において、それぞれの専門性に応じて、学生の知識と技術を深化させるための授業科目を配置している。また、自然科学のみならず、人文・社会科学を含めた「総合知」を高めるために、「倫理」「企業」「社会」「安全」等と理工系の科目を融合した授業科目も配置している。

また、本学理工学部の教育・研究上の目的は、以下のとおりであり、これは、上記(3)の「新たな社会を支える人材の育成」とも一致するものである。

(理工学部の教育研究上の目的)

理工学部は、科学技術の根幹をなす数学、自然科学、および幅広い工学分野の先進科学技術を基礎として、新しい時代に即した理学と工学を融合した教育・研究を展開し、推進する。数学や物理学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養を修得させるとともに、数理科学・物理科学分野のより専門的な知識、また、応用分野として、材料科学、電気・電子・情報工学、機械工学、AI技術等を融合したロボティクス分野、宇宙航空分野の専門知識を、講義、演習、実験・実習等を通して修得させる。これらのことにより、それぞれの分野を深化させ、先進的な技術力や論理的な思考力を備え、産業社会を牽引できる科学技術者を養成することを教育研究上の目的とする。

一方で、本学が所在する愛知県は日本列島のほぼ中央に位置し、高速道路、鉄道、港、空港をはじめとした主要な交通網が立体的に整備され一大拠点となすとともに、東京、大阪と並んで日本の三大都市圏を形成している。気候は太平洋の黒潮の影響を受け、全般的に温暖であり、工業、商業、農業がバランス良く発達し、日本経済の原動力として機能している。中でも製造業は、製造品出荷額等で43年連続日本一を記録し、事業所数では全国第2位、従業員数でも全国第1位となるなど日本一のモノづくり県を自負している。さらに、自動車産業をはじめとした輸送用機械産業、電気機器、業務用機器、産業機器などの機械産業、金属製品や鉄鋼、セラミックなどの材料産業などの11業種において製造品出荷額が全国1位である。**【資料5 愛知県の産業構造（抄）】**

愛知県は、今後の重点施策のひとつとして、「産業首都あいち」のモノづくりとデジタル技術を融合した革新的技術の社会実装に向けた取組や中小・小規模企業におけるデジタル技術の導入支援など、愛知発のイノベーション創出に向けた施策を推進している。また、愛知県の産業基盤を支える人材の育成のために、航空宇宙産業や次世代自動車高度モノづくりの人材育成に取組むなど次世代産業を支える人材の育成・確保を図るとともに、少子化や団塊世代の退職による技術者や研究者の減少や若年層の理科離れが予想される中、次世代を担う科学技術人材の育成にも力を入れている。**【資料6 あいちビジョン2030（抄）】**

このように、本学理工学部の設置は、「Society 5.0」及びそれらと軌を一にするSDGsの観点からも現代社会の強い要請に対して高い必要性を有するとともに、地域のニーズに対しても高い必要性を有している。よって、理工学部の設置の必要性は高く、かつ適時適切なものである。

資料2 第6次 科学技術・イノベーション基本計画（概要）

資料3 第5次 科学技術基本計画（概要）

資料4 持続可能な開発目標（SDGs）について（概要）

資料5 愛知県の産業構造（抄）

資料6 あいちビジョン2030（抄）

## （2）理工学部に3学科を設置する背景及び必要性

### ①-1 数理・物理サイエンス学科の設置の背景

2020（令和2）年の第201回国会において「科学技術基本法」が25年ぶりに改正され、法律名も「科学技術・イノベーション基本法」とされた。内容的には、自然科学と人文・社会科学を融合した「総合知」と「イノベーションの創出」を柱に据えており、科学技術・イノベーション政策は研究開発だけでなく社会的価値を生み出す政策へと変化してきている。

また、2015（平成27）年に文部科学省が策定した「理工系人材育成戦略」【資料7 理工系人材育成戦略（概要）】では、理工系人材に期待される役割として新しい価値の創造及び技術革新（イノベーション）、起業、新規事業化、産業基盤を支える技術の維持発展、第三次産業を含む多様な業界での力量発揮の4つが挙げられ、労働力人口が減少する中で、社会の持続・維持・発展のためには新しいアイデアと高い技術力を駆使し実用へと導くことのできる付加価値の高い理工系人材の質的充実・量的充実に向けた戦略的な育成が必要であり、その取り組みにおいては産官学の協働が不可欠であるとしている。2016（平成28年）に取りまとめられた「理工系人材育成に関する産官学行動計画」においても理工系人材は産業界においてイノベーション創出に欠くことのできない存在として人材需要が高まっている状況であり、産業界のニーズと高等教育のマッチング方策、専門教育の充実が行動計画の項目として挙げられている。

さらに2018（平成30）年改訂の高等学校学習指導要領（令和4年度入学者より適用）においても、理数教育の充実として理数を学ぶことの有用性や関心を高めるために生活や社会との関連を重視するとともに、科学的に探究する学習科目の充実、課題解決のための統計教育の充実、将来学術研究を通じた智の創出をもたらすことのできる創造性豊かな人材の育成を目指した「理数探究基礎」「理数探究」の新設を行っており、「理工系人材」の育成は社会的な要請が非常に大きく、その実施に向けて産官学一丸となって全力で取り組んでいる課題である。

先にも述べたとおり、本学の位置する中部地区、特に愛知県は、日本の「ものづくりの拠点」として発展を続けており、自動車産業をはじめとした輸送用機械産業、電気機器、業務用機器、産業機器などの機械産業、金属製品や鉄鋼、セラミックなどの材料産業などの11業種において製造品出荷額が全国1位である。【資料5 愛知県の産業構造（抄）】また、リニア中央新幹線をはじめとしたインフラ整備などのプロジェクトが進行しており、中部地区は日本のモノづくり産業の将来を牽引するにふさわしい状況を呈している。現代のものづくりでは「科学に基づくものづくり」が不可欠であり「もの」の「ことわり」である「物理学」がその基盤的技術から最先端技術までを支えている。また、歴史的にもニュートン力学に対する微分積分学など、物理を記述するために数学は必要であり、数学もまた物理とともに発展する表裏一体の学問である。ものづくりにおけるイノベーション創出のための理工系人材は、数学と物理学の素養を兼ね備えている必要がある。

一方で、労働力人口の減少は中部地区とて例外ではなく、また近年頻発する豪雨災害などの自然災害や新型コロナウイルスによるパンデミック、特に東海地方では南海トラフ地震に伴う大規模複合災害など、地域社会の持続可能性を脅かすリスク要因が横たわっている。さらに現在、社会全体の急速なデジタル化の進展に伴い、ものづくり分野においても事業環境

の変化に対応するため、様々な情報（ビッグデータ）の取り扱いや、製品やサービス、ビジネスモデルや産業構造自体を大きく変革するデジタルトランスフォーメーション（DX）の積極的な推進が進められている。このような新しい時代に即した理工系人材には、数学だけでなくその応用分野である情報理論等を含めた「数理科学」の素養が必要不可欠であり、また、幅広い産業分野で活躍するために、物理学においても物理と化学との境界領域である物質科学分野や、宇宙・地球科学分野などの物理学とその応用分野を含む「物理科学」の素養が必要不可欠である。数理科学・物理科学のさまざまな学問分野を幅広く学び、異なる学問分野間の相互作用（シナジー）が新しい学問領域の創成、イノベーションの創出に結実するのである。

以上の時代背景、地域と社会的なニーズを受け、数理科学・物理科学分野の知識と技術を身につけ、自律的に学び、考え、自ら課題を発見・設定し解決する実践力を持った、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」を養成し、人材を輩出することを目的として、中部大学理工学部にて数理・物理サイエンス学科を新規に設置するものである。

#### **資料5 愛知県の産業構造（抄）**

#### **資料7 理工系人材育成戦略（概要）**

### **①-2 数理・物理サイエンス学科の設置の必要性**

上記①-1 の数理・物理サイエンス学科の設置の背景で述べたような現在の社会状況等の中、2019(令和元)年6月11日に統合イノベーション戦略推進会議が決定した「AI戦略2019～人・産業・地域・政府すべてにAI～」において、私たちの社会は、デジタル・トランスフォーメーションにより大きな転換が進んでおり、その変革の大きなきっかけのひとつがAIであり、AIを作り、AIを活かし、新たな社会の在り方や、新たな社会にふさわしい製品・サービスをデザインし、そして、新たな価値を生み出すことができる、そのような人材がますます求められていると述べている。また、それらはビッグデータの集積・蓄積・分析の能力とも相まって、今後の社会や産業の活力を決定づける最大の要因であると言っても過言ではないと指摘している。【資料8 AI戦略2019（概要）】

また、関連の人材の育成・確保は緊急的課題であるとともに、長期的課題でもある。とりわけ「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・能力と、人文社会芸術の教養をもとに、新しい社会の在り方や製品・サービスをデザインする能力が重要であり、これまでの教育方法の抜本的な改善と、STEAM教育などの新たな手法の導入・強化や、実社会の課題解決的な学習を教科横断的に行うことが不可欠となり、まずは、様々な社会課題と理科・数学の関係を早い段階からしっかりと理解し、理科・数学の力で解決する思考の経験が肝要であるとも述べている。【資料8 AI戦略2019（概要）】

同じく、2021(令和3)年6月11日統合イノベーション戦略推進会議において決定された「AI戦略2021～人・産業・地域・政府すべてにAI～（「AI戦略2019」フォローアップ）」は、この認識には変化なく、むしろ新型コロナウイルス感染症の影響による人々の生活スタイルの変化やデジタル化の遅れの露呈を受けて、社会全体のデジタル・トランスフォーメーションは加速し、数理、データサイエンス、AIの素養を身に着けた人材の育成・確保はその重要性を増しているとしている。【資料9 AI戦略2021（概要）】

AI戦略2021では、教育改革の観点から、以下のような大目標を掲げ、具体的な取り組みを進めている。



ア 全ての高等学校卒業生が、「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的なリテラシーを修得。また、新たな社会の在り方や製品・サービスのデザイン等に向けた問題発見・解決学習の体験等を通じた創造性の涵養

イ データサイエンス・AI を理解し、各専門分野で応用できる人材（約 25 万人/年）

ウ データサイエンス・AI を駆使してイノベーションを創出し、世界で活躍できるレベルの人材の発掘・育成（約 2,000 人/年、そのうちトップクラス約 100 人/年）

エ 数理・データサイエンス・AI を育むリカレント教育を多くの社会人（約 100 万人/年）に実施（女性の社会参加を促進するリカレント教育を含む）

オ 留学生がデータサイエンス・AIなどを学ぶ機会を促進

これらのうち、アについては、初等中等教育レベルにおける「GIGA スクール構想」のもとで ICT 環境が整備されつつあり、今後はこの ICT 環境を生かした教育方法の確立と教員の確保が求められるが、教員の養成は大学等に課せられた責務でもある。

イ及びウについては、まさに高等教育機関の役割であり、大学等における優れたカリキュラムを認定する「数理・データサイエンス・AI 教育認定制度（リテラシーレベル）」が創設され、2021(令和 3)年 8 月までに、大学 59 件、短期大学 2 件、高等専門学校 6 件が認定されている。2022(令和 4)年 3 月には、同制度の「応用基礎レベル」の認定がスタートするなどの進展が見られ、各大学等においては、データサイエンスや AI に関する学部・学科の創設が進んでいる。【資料 10 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）】

#### 【資料 10 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）】

繰り返しになるが、(1)の②理工学部の設置の必要性でも述べたとおり、本学が所在する愛知県は日本列島のほぼ中央に位置し、高速道路、鉄道、港、空港をはじめとした主要な交通網が立体的に整備され一大拠点となすとともに、東京、大阪と並んで日本の三大都市圏を形成し、日本経済の原動力として機能している。中でも製造業は、製造品出荷額等で 43 年連続日本一を記録し、事業所数では全国第 2 位、従業員数でも全国第 1 位となるなど日本一のモノづくり県を自負している。また、航空宇宙産業や次世代自動車高度モノづくりの人材育成に取組むなど次世代産業を支える人材の育成・確保を図るとともに、少子化や団塊世代の退職による技術者や研究者の減少や若年層の理科離れが予想される中、次世代を担う科学技術人材の育成にも力を入れているが、さらに、「あいち DX 推進プラン 2025」を策定し、官民における DX を強力に推進するとしている。

#### 【資料 11 あいち DX 推進プラン 2025（抄）】

この中で、IoT 技術の著しい進展に鑑みモノづくりが盛んな当地域において、今後ますます地元での IoT 人材の育成が必要なることから、IoT 人材の確保・育成を図るため大学生等が IT 関連の新たな製品やサービスを開発するハッカソンを開催するとともに、県内産業の維持・発展に不可欠な IoT 人材を育成するため、県内の大学や経済団体と連携して、企業への長期インターンシップや企業と連携した PBL（課題解決型学習）の実施を調整するなど、数理科学、AI、データサイエンスの知識を身に付けた「デジタル人材の育成」を目標のひとつとしており、人材養成に関する大学等に対する要請や期待も高い。【資料 11 あいち DX 推進プラン 2025（抄）】

このような状況を踏まえ、本学においては、2021 年度から数理科学の基礎的素養を備えた人材の育成と数理科学、AI データサイエンスに関する教育・研究の推進を目的として、AI 数理データセンター（CMSAI）を設置し、数理科学、AI、データサイエンスに関する教育・研究はもとより、国内外の研究機関・民間企業等との共同研究、研究成果の学内外への発信等を行っている。具体的には、理工学部設置計画と連携したカリキュラムの策定、全学向け e-Learning 教材の開発及び世界的人材の招へいなどを通じて当該分野の高度な研究を推進している。さらには、同じく本学が 2021 年度に設置した創造的リベラルアーツセンターと連携し、学部横断型・学年縦断型の課題解決学習を中心とした教育プログラムの実践や ESD、SDGs など、本学の特色を

活かした教育活動の展開に貢献することとしている。これらの一連の大学改革において、ひとつの大きな目標として理工学部数理・物理サイエンス学科の設置（新設）を計画している。【資料

## 12 学園ビジョン 2021-2025 実行計画 学校法人中部大学(抄)】

以上のように、現在の我が国の社会状況や愛知県の産業構造と重点施策及びそれらに対応する本学の特色を活かした教育・研究の推進体制の整備状況等から、数理・物理サイエンス学科の設置の必要性は高いと考えている。

**資料 8 AI 戦略 2019 (概要)**

**資料 9 AI 戦略 2021 (概要)**

**資料 10 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)**

**資料 11 あいち DX 推進プラン 2025 (抄)**

**資料 12 学園ビジョン 2021-2025 実行計画 学校法人中部大学(抄)**

### ②-1 AI ロボティクス学科の設置の背景

現代社会において、ロボットは、産業用ロボットだけでなく、ペットロボットやクリーナーロボットなど家庭において一般に用いられ、高齢者や障害のある者に対しての身体機能の支援や再建に用いられ、更には、医療、宇宙産業などの広範な領域で必要とされている。これからは、単なる道具、機械としてのロボットから形を変えて人間社会の中に浸透し、人とロボットが共存する社会が形成されていく時代となってきた。特に我が国では、高齢化が進む中、農業や林業などでの労働力の不足をどのように解決していくかは重要な課題であり、今まさに、幅広い科学分野の知識を備えたロボットエンジニアを世に送り出すことが、社会からの喫緊の要請である。

一方で、ロボットの教育研究について世界に目を向けると、AI（人工知能）と Robotics（ロボット工学）の研究課題のランドマークとして、1997（平成 9）年から Robot Soccer World Cup（ロボカップ）の名称で、毎年、世界大会及び関連の会議が開催されている。この大会はロボット関連の教育の教材としても広範囲にわたる内容が含まれており、日本からも毎年数多くのチームが参加し、現代のロボット技術を支える人材育成を世界中で行っている。

最近では、2021（令和 3）年 11 月 25 日から 29 日までの間、愛知県において「ロボカップアジアパシフィック 2021 あいち」が開催され、自律型ロボットによる競技（オンサイト競技 15 種目、バーチャル競技 10 種目）、シンポジウム（ロボット・AI に関する基調講演及び研究発表）及び関連イベント（ロボット展示・体験、ワークショップ、講演会・セミナーなど）が行われた。

このように古くは、ロボットというものは単なる道具でしなかったが、現代社会においては、人とロボットが共存共栄していくことが求められている。その意味で単なるメカトロニクス時代は終焉を迎えている。ここでいう「ロボット」とは、「外界のデータを取り込み（感覚）、その意味を理解し（認識）、何をすべきかを判断し（決定）、結果として人に役立つように外界に働きかける（行動）システム」である。

そこで、本学では、ロボット共存社会を実現させることができるように、質の高い技術者を育成することを目指し、本分野の基礎となる物理、機械、電気電子、情報系の素養に関する教育と制御・メカトロニクスを含むロボットに関する基礎的な教育を行い、これらを基盤とする複合的な分野である新しいロボット技術（人間生活に直結した医療・バイオ関係の介護、診断、治療用のロボットや農林業用ロボット、産業用ロボット）に関する教育研究を行うために、2014（平成 26）年度に工学部にロボット理工学科を設置して、未来志向型の技術開発ができるロボットに関する技術者の育成に取り組んできた。さらに、2018（平成 30）年度には、工学研究科ロボット理

工学専攻（修士課程）を、2020(令和2)年度には、工学研究科ロボット理工学専攻（博士後期課程）を設置したところである。

これらの経緯等を踏まえつつ、理工学部を設置に伴い新設する数理・物理サイエンス学科及び隣接分野の教育・研究を行う宇宙航空学科との連携強化を図ることにより、AIロボティクス分野の教育・研究・社会貢献におけるさらなる発展と深化が期待される。

このため、工学部ロボット理工学科を廃止（学生募集停止）し、これまでの教育・研究を基盤として、理学的素養とロボット領域における知識・能力、技術を身に付けたロボット共存社会を支えるグローバルな科学技術者を養成することを目的として、理工学部に AI ロボティクス学科を設置するものである。

## ②-2 AI ロボティクス学科の設置の必要性

前述②-1 のとおりロボットは、ペットロボットやクリーナーロボットのような形で家庭に浸透し、医療現場ではダヴィンチに代表される手術ロボットや胃カメラの進化形としてのロボットカプセル、宇宙開発では日本が誇る「はやぶさ」に代表される探査ロボット、日本が世界をリードするヒューマノイドロボットなど、広範な領域にさまざまな形で進出している。

ロボットは、これからの自動車（自動運転のような次世代自動車）や家電製品と同じように、多機能や適応機能を実現するためにコンピュータ制御をベースとしたシステム設計を基盤としてつくられていくと考えられる。ロボット工学は、情報工学とはコンピュータを基盤とする点では共通性があるものの、ロボットのボディを制御し、実際の運動や力学的仕事、さらにはさまざまなモダリティでの人間とのインタラクションを通して、役に立つ仕事を行い社会における役割を果たしていくロボットを設計・制御する工学である。その要素技術の範囲は、従来の工学分野を横断するものであるが、最終的にロボットというシステムを設計するということでは、要素のシステムへの統合化とそのためのスキルが重要である。

特に、AI ロボティクスというキーワードは、「ものごとわり」を体系化・深化する理学と、「モノづくり」としての工学とを同時に学べる機会を学生に与えることとなるとともに、AI とロボティクスの技術を統合して活用・実践することができる。特に、少子高齢化が進行する現代社会では、産業や日常生活の様々な場面に AI、ロボット技術を導入することで、少ない労働者人口でも持続・発展可能な社会を実現する必要がある。

本学では、ロボットの要素技術とそれが統合されたロボットシステムを理解し、ロボットのプログラム開発を含む運用・利用やロボットシステムの設計開発を行うことができるエンジニアの育成という社会的要請に応える必要があるが、これにより、AI とロボティクスの技術を統合して活用・実践できる人材として、AI 開発技術者やデータサイエンティスト、ロボティクスエンジニアなどの、理学と工学の両分野の知識技能を持った、ロボット共存社会を支えるグローバルな科学技術者を育成できると考えている。

また、中部地区は自動車、工作機械、精密機械、航空機部品をはじめとする我が国随一の「モノづくり圏」の工業地帯であるとともに、これらの産業を支えている企業は、いずれもロボット共存社会に対応しようとしていることからわかるように新世代のロボット産業の中核にならんとしている地区でもあるが、特に愛知県は、モノづくり産業の集積地である。中でも自動車産業が盛んで経済の牽引役を果たしてきたが、1つの産業に寄りかかっているのは将来にわたって発展し続けるのは難しい。そこで愛知県では新たな柱の構築を目指し、介護などを支援する次世代ロボット産業の育成に力を入れている。2014(平成26)年11月には、産学行政が連携して、ロボットの研究開発や生産の拠点を形成し、新技術・新製品を創出していくことにより、世界に誇れるロ

ロボット産業拠点の形成を目的に、愛知県知事を会長として「あいちロボット産業クラスター推進協議会」が立ち上げられた。**【資料 13 あいちロボット産業クラスター推進協議会の概要】**

愛知県のロボット産業の現状（ロボット製造業の製造品出荷額等全国 2 位、事業所数全国 1 位、従業者数は全国 2 位）、製造品出荷額等の推移（長年全国 1 位を維持）、国内市場規模の推計（医療や介護・福祉等のサービス分野で使われるロボット中心に市場に大きく拡大する見込み。）等からも、愛知県は、自動車、航空宇宙に次ぐ第 3 の柱として次世代ロボット産業を大きく育て、当地域を世界に誇れるロボット産業拠点として発展させることに力を入れており、この分野の高度な人材需要が期待されている。**【資料 14 愛知県のロボット産業の概況】**

以上のような現在の我が国の社会状況や愛知県の重点施策、要請及びロボット産業の現状等から判断し、AI ロボティクス学科の設置の必要性は高いと考えている。

### **資料 13 あいちロボット産業クラスター推進協議会の概要**

### **資料 14 愛知県のロボット産業の概況**

## **③-1 宇宙航空学科の設置の背景**

我が国の航空宇宙産業が大きく飛躍するためには、航空宇宙関連の研究開発や人材育成等を担う機関が充実し、航空宇宙工学の分野を中心とした、産・学・官の連携が求められている。経済産業省、愛知県、企業メーカーからは、中部地域の航空宇宙産業の現場において、中心となってモノづくりの基盤を支える技術者には、航空工学分野に加えて宇宙工学分野の知識を備え、かつ、関連する中小企業をとりまとめ、統合した複合的システム全体を俯瞰できる能力、経営工学的発想ができる生産管理能力が求められており、大学においてはこれらの素養を修得した人材を企業とも連携して育成し、我が国の航空宇宙機部品産業の国際競争力を強化してほしいとの要望がなされてきた。**【資料 15 航空機製造に関する人材の構成及び育成面の課題】**

そこで、本学では、2018(平成 30)年 4 月に工学部宇宙航空理工学科を設置して、産業界と連携して次世代航空宇宙産業における生産現場のリーダーとなりうる専門技術者の育成に取り組んでおり、2022(令和 4)年 3 月には第 1 回卒業生を輩出したところである。また、2022(令和 4)年 4 月には、工学部宇宙航空理工学科の設置目標を更に高度に達成し、主として宇宙航空分野に関して、現状を把握し、課題・問題を発見し、種々の学問・技術を総合し、倫理的洞察力を含む総合的視野から、実現可能な解を見つけるとともに、自分の考えを人に伝えられ、人の意見も聴くことができる高度専門職業人を育成するために、工学研究科に、工学部宇宙航空理工学科を基礎とする「宇宙航空理工学専攻（修士課程）」を設置（2021 年 4 月届出済）する。**【資料 16 地域の航空機産業の目指す将来像のイメージ】**

これらの経緯を踏まえつつ、理工学部を設置に伴い新設する数理・物理サイエンス学科及び隣接分野の教育・研究を行う AI ロボティクス学科との連携強化を図ることにより、宇宙航空分野の教育・研究・社会貢献におけるさらなる発展と深化が期待される。

このため、工学部宇宙航空理工学科を廃止（学生募集停止）し、これまでの教育・研究を基盤として、航空宇宙産業及び関連する分野に従事し、生産・設計現場や中小企業をリードできる人材や、宇宙航空分野の国際的広がりに対応できるグローバルな科学技術者を育成することを目的として、理工学部に宇宙航空学科を設置するものである。

### **資料 15 航空機製造に関する人材の構成及び育成面の課題**

### **資料 16 地域の航空機産業の目指す将来像のイメージ**

### ③-2 宇宙航空学科の設置の必要性

本学の位置する中部地区、特に愛知県は、日本の「モノづくりの拠点」として発展し続けており、日本の航空機・部品生産額の約5割、航空機体部品では約7割を生産する中部地域は、我が国随一の航空宇宙産業の拠点となっている。大手機体メーカー（三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社 SUBARU）のほか、機体の軽量化や燃費の向上を図るうえで利用が拡大している炭素繊維複合材料の製造・研究開発を行う企業（東レ株式会社等）や工作機械を供給する企業も多数集積している。**【資料 17 全国と中部地域の航空機・部品生産額の推移等】****【資料 18 東海地域の主要メーカーの立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況】**

さらに、航空機産業に関連する空港・飛行場、航空専門学校、JAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）名古屋空港飛行拠点、国土交通省航空局など、研究開発から設計、製造、安全審査、保守管理まで一貫して取り組めるインフラが存在している。

これらの経験、立地状況に鑑み、国は、国内で唯一、世界に伍する航空機関連産業クラスターとして発展する可能性を有する地域として、東海地域を2011(平成23)年に国際戦略総合特区として、アジア等新興国の追随を許さない、欧米先進地域と肩を並べる日本で唯一の集積地「アジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定し、その位置づけを明確にしている。「アジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区」においては、伸びしろのある航空宇宙産業の今後約20年の進展の予測を踏まえ、アメリカのシアトル、フランスのトゥールーズと並ぶ、航空宇宙産業の世界三大拠点の一つとなることを目標としている。**【資料 19 航空宇宙産業の伸び率】****【資料 20 海外クラスターとの比較】**

最近では、2021(令和3)年3月26日付けで特区計画の変更認定申請が認められ、新たに2021年度以降の評価指標及び数値目標が設定されている。

一方、東海産業競争力協議会（日本再興戦略（閣議決定）のアクションプラン）では、航空機産業に携わる人材の確保、定着、育成が課題の一つとして指摘されている。特に中部地域では自動車産業等との競合の中で、裾野が広い宇宙航空分野の人材育成、特に実際の製作技術に関わる生産現場の人材の育成という社会的要請が生じている。

以上のような現在の我が国の社会状況や愛知県の重点施策、要請及び航空宇宙産業の現状等から判断し、宇宙航空学科の設置の必要性は高いと考えている。

**資料 17 全国と中部地域の航空機・部品生産額の推移等**

**資料 18 東海地域の主要メーカーの立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況**

**資料 19 航空宇宙産業の伸び率**

**資料 20 海外クラスターとの比較**

### ④ 理工学部及び3学科の設置に関するアンケート調査

本学では、理工学部の設置にあたり、2021年9月から11月にかけて、東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）を中心とする高等学校に対して、アンケート調査を実施した。289校に依頼文書を送付し回答を求めたところ、140校より回答（回答率48.5%）があった。**【資料 21 理工学部の設置に関するアンケート調査（高校）結果】**

アンケート調査の実施に当たっては、学部及び学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所（アクセス）を明示したうえで、以下のような質問項目に対して回答を求めた。

- ①数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見
- ②数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の中部地区における必要性

①の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見については、数理・物理サイエンス学科の設置を「大いに歓迎する」または「望ましい」との回答が85.7%、AIロボティクス学科の設置を「大いに歓迎する」または「望ましい」との回答が87.9%、宇宙航空学科の設置を「大いに歓迎する」または「望ましい」との回答が84.3%であった。

②の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の中部地区における必要性については、数理・物理サイエンス学科は「中部地区において必要性が高い」または「産業界の期待に応えられる可能性がある」との回答が77.2%、AIロボティクス学科は「中部地区において必要性が高い」または「産業界の期待に応えられる可能性がある」との回答が90.7%、宇宙航空学科は「中部地区において必要性が高い」または「産業界の期待に応えられる可能性がある」との回答が81.5%であった。

また、本学では、理工学部を設置にあたり、2021年9月から11月にかけて、東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）及び一部関東甲信越地区に拠点を置く企業692社に対して、アンケート調査を実施したところ、265社より回答（回答率38.3%）があった。**【資料22 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）結果】**

アンケート調査の実施に当たっては、学部及び学科の名称、設置の理念、養成する人材像、教育研究上の目的等を明示したうえで、以下のような質問項目に対して回答を求めた。

- ①数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見
- ②数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の必要性

①の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見においては、数理・物理サイエンス学科の設置を「大いに歓迎する」または「設置が望ましい」との回答が79.6%、AIロボティクス学科の設置を「大いに歓迎する」または「設置が望ましい」との回答が90.9%、宇宙航空学科の設置を「大いに歓迎する」または「設置が望ましい」との回答が81.9%であった。

②の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の必要性については、数理・物理サイエンス学科で受けた学生の必要性は「高いと考えられる」または「産業界の期待に応えることが可能」との回答が80.4%、AIロボティクス学科で教育を受けた学生の必要性は「高いと考えられる」または「産業界の期待に応えることが可能」との回答が94.7%、宇宙航空学科で教育を受けた学生の必要性は「高いと考えられる」または「産業界の期待に応えることが可能」との回答が83.8%であった。

以上のように、回答した企業の8割から9割が、数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置を望むとの意向を持ち、そこで教育を受けた学生の社会における必要性の高さを認識していることが分かる。

#### **資料21 理工学部の設置に関するアンケート調査（高校）結果**

#### **資料22 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）結果**

### **（3）学則変更（収容定員変更）の必要性**

このような背景の中において、本学は、社会の求めるニーズ対応の人材養成と将来の社会活動にとって必要となるシーズ発掘型の人材養成に応えるべく、近年、多くの教育研究組織体制の見直しと再構築に取り組んできている。これらの教育研究組織は、新規定員の増員と合わせて、工学部等の定員及び全学の編入学定員からの振替により、大学としての機能の最大化を図ってきた

ところであるが、今後、社会の要請に的確に応え新たな分野の人材養成を進め、かつ、入学定員の更なる適正な管理を推進するためには、他学科の学生定員の振替等で対応することには限界がある。

一方、本学は、「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月中央教育審議会答申）、「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月中央教育審議会答申）等の提言内容を真摯に踏まえるとともに、学長のリーダーシップの下で、企業等からの学士課程教育への厳しい評価も踏まえつつ、教育改革を推進し、教育の質の向上に努めている。

その実績として、受験生の高い評価を受け、毎年入学定員を上回る多くの志願者が集まり、適正な競争の下での入学者の確保が行われているとともに、入学した学生は、特色あるカリキュラムにより教育され、その結果、社会から高い評価を得るとともに、強い期待が示され、厳しい就職状況下においても高い就職率を維持している。

具体的には、理工学部と同系統の本学工学部の志願倍率は、2017（平成29）年度10.45倍、2018（平成30）9.15倍、2019（令和元）年度10.50倍、2020（令和2）年度10.57倍、2021（令和3）年度8.45倍（5か年平均では9.82倍）となっている。また、定員超過率は、2017（平成29）年度1.01倍、2018（平成30）1.05倍、2019（令和元）年度0.97倍、2020（令和2）年度1.10倍、2021（令和3）年度1.00倍（5か年平均では1.02倍）となっている。**【資料23 中部大学における過去5年間の入学志願者動向】**

このように、志願倍率では5か年の平均で9.82倍と高い倍率を維持している。定員超過率では、5か年の平均で1.02倍と安定しているとともに、2020（令和2）年度、2021（令和3）年度は、コロナ禍における非常に困難な状況下で1.00倍を維持している。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、受験生の「地元志向」が強まっているとともに、将来的にもますます「理工系人材」が必要な状況になっており、本学理工学部への進学を希望する学生の増加を見込むことができる。

一方就職において、求人社数については、全学で2016（平成28）年度17,171社、2017（平成29）年度17,708社、2018（平成30）年度18,564社、2019（令和元）年度18,509社、2020（令和2）年度17,966社（5か年平均17,983社）となっている。**【資料24 全国求人倍率と中部大学求人数の推移】**

また、工学部の各学科においても、2017（平成29）年度から2020（令和2）年度にかけて、概ね13,000社から14,000社から求人があり、90倍から180倍の求人倍率となっている。**【資料25 工学部の求人社数（業種別・学科別）の状況】**

就職率（就職者数/就職希望者）については、2016（平成28）年度、全学では98.8%、工学部においては99.4%、2017（平成29）年度、全学では99.3%、工学部においては99.7%、2018（平成30）年度、全学では99.6%、工学部においては100%、2019（令和元）年度、全学では99.7%、工学部においては100%、2020（令和2）年度において、全学では99.2%、工学部においては100%（5か年平均、全学99.3%、工学部99.8%）と高い就職率を維持している。**【資料26 学部別就職率の推移】**

#### **【資料27 工学部就職状況】**

以上のような、入学志願者数及び求人社数の増加と高い就職率による社会の評価と期待に応えるために、また、更なる教育の質保証と適切な教育環境を確保するとともに経営基盤の安定を図ることを目的として、理工学部数理・物理サイエンス学科の新設に伴う収容定員の増加が必要である。

**資料23 中部大学における過去5年間の入学志願者動向**

**資料24 全国求人倍率と中部大学求人社数の推移**

資料 25 工学部求人社数（業種別・学科別）の状況

資料 26 学部別就職率の推移

資料 27 工学部就職状況

### 3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

#### （1）教育課程の変更内容

理工学部各学科の教育課程は、「学士課程教育の構築に向けて（答申）中央教育審議会（平成 20 年 12 月 24 日）」における学士課程共通の学習成果に関する参考指針を踏まえ、一貫した学士課程教育として、組織的に取り組み、学生が学習成果を獲得できるかという観点に立って、全学共通教育科目及び学部教育科目（理工系教育圏科目、学科専門教育科目（卒業研究を含む。))の科目区分で編成して体系化を図っている。

収容定員の増加に伴う教育課程に関する変更内容については、以下のとおりであるが、各項目に示すとおり、変更前と同等以上の内容が担保されているとともに、他学部等の教育研究上の支障を来たすことはない。

#### ①全学共通教育科目

全学共通教育科目の教育課程は、全学部の学生の履修の対象となる教育区分、学部学科の教育では扱えない部分を補う教育区分、大学全体の教員が協力して教育する区分で体系化を図り、1・2年次に人格形成や人生設計に繋がる幅広い学習を保証することとし、「初年次教育科目」「キャリア教育科目」「スキル教育科目」「外国語教育科目」「教養課題教育科目」「リベラルアーツ教育科目」「特別課題教育科目」「健康とスポーツ」の科目区分により構成している。

初年次教育科目は、高校から大学の学びへの円滑な適応を促し、生活面や健康面からも新入生を見守り、学生同志が学び合うことを促す科目により構成している。

キャリア教育科目は、学生が人と関わる力や積極的に行動する力を身につけさせるため、グループワークを取り入れ、仲間との関わりの中で、ライフプランやキャリア・デザインを考えさせる科目により構成している。

スキル教育科目は（基礎英語・日本語・情報）、全学部に通じて大学教育を受けるために最低限必要とされる「学びのためのスキル」（共通基礎）を修得する科目により構成している。

外国語教育科目（発展英語、その他の外国語）は、大学4年間を通して、国際的視野を広げ、外国語によるコミュニケーション能力を高めるために、英語力を発展強化させるとともに、英語以外の外国語の学習機会を提供する科目により構成している。

教養課題教育科目は、社会との関わりにおける教養や実用的な一般教養を身につけさせるとともに、8学部が1つのキャンパスにあるという特色を活かし、専門分野以外の学問への興味を持たせ、関心の幅を広げる科目により構成している。

リベラルアーツ教育科目は、授業で取り組むべき課題をいくつか設定し、調査・発表・討論・協力というサイクルの繰り返しによって多面的なアプローチを試み、社会で必要とされる総合的人間力を育成する科目により構成している。

特別課題教育科目は、中部大学の研究の特色を活かしたその時代に合わせた科目により構成している。また、本学は、平成19年10月からユネスコが進めている「持続可能な発展のための教育（ESD）」の中部地区の拠点校として認定されている。

健康とスポーツ科目は、健康で充実した生活を過ごすために必要な知識と運動に関する基礎的素養を育成する科目により構成している。



## ②学部教育科目（理工系教育圏科目）

学部教育科目の教育課程は、理工系教育圏科目と学科専門教育科目で構成している。理工系教育圏科目は、各学科に共通する共通基礎科目、専門基盤科目、複合領域科目に区分し、学科毎に修得すべき単位数を定めている。

本学では、文理融合による幅広い教養と高度な専門性を、総合的な判断ができる人材を養成するため、学部間の横断的な括りとして、理工系教育圏、生物・生命教育圏、人文社会系教育圏の3つの教育圏の設置し、SDGs教育と発展型の副専攻制度を活用して、文理融合教育とリベラルアーツ教育の全学的実践を図ることを目指しているが、その中において、理工系教育圏科目は、理工学部と工学部における学修の基盤となるものであり、数学や物理学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系の要素も取り入れて、幅広い教養を修得させることを目的として開設する。

理工学部が養成する人材像及び教育研究上の目的については、「2-(1)-②」(6ページ)でも述べたように、以下のとおりである。

「理工学部は、科学技術の根幹をなす数学、自然科学、および幅広い工学分野の先進科学技術を基礎として、新しい時代に即した理学と工学を融合した教育・研究を展開し、推進する。数学や物理学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養を修得させるとともに、数理科学・物理科学分野のより専門的な知識、また、応用分野として、材料科学、電気・電子・情報工学、機械工学、AI技術等を融合したロボティクス分野、宇宙航空分野の専門知識を、講義、演習、実験・実習等を通して修得させる。これらのことにより、それぞれの分野を深化させ、先進的な技術力や論理的な思考力を備え、産業社会を牽引できる科学技術者を養成することを教育研究上の目的とする。」

理工系教育圏科目においては、これらの目的のうち主に「**数学や物理学などの基礎的な知識と技能**」「**人文・社会系学問を含む複合的で幅広い教養**」の修得を目指している。各科目区分の構成と概要及び「**数学や物理学などの基礎的な知識と技能**」「**人文・社会系学問を含む複合的で幅広い教養**」との対応関係は以下のとおりである。

### (1) 共通基礎科目

「共通基礎科目」の科目区分には、「数学基礎」「物理理論」「微分積分学Ⅰ」「微分積分学Ⅱ」「線形代数」「基礎力学」「基礎化学」「創造理工学実験」「基礎化学実験」を配置し、1年次に履修させる。この科目区分では主として、「**数学や物理学などの基礎的な知識と技能**」を修得する。

### (2) 専門基盤科目

「専門基盤科目」の科目区分には、「ベクトル解析」「微分方程式」「応用数学」「基礎電磁気学」「熱学」「基礎材料化学」「生物と工学」「応用線形代数」「数理科学 A」「数理科学 B」「データサイエンスの基礎」「問題解決のためのアルゴリズムとデータ構造」「人工知能アルゴリズムの活用」「データサイエンスプログラミング」を配置し、1年次後期から3年次前期にかけて履修させる。この科目区分では主として、「**数学や物理学などの基礎的な知識と技能**」を修得する。

### (3) 複合領域科目

「複合領域科目」の科目区分には、「管理工学」「環境工学」「安全工学」「工学倫理」「社会と工学」「企業と工学」「物質の量子論的基礎と量子コンピュータ入門」「AIのための脳神経科学」「インターンシップ A」「インターンシップ B」を配置し、1年次から3年次前期にかけて履修させる。この科目区分では主として、「**数学や物理学などの基礎的な知識と技能**」に加えて「**人文・社会系**」

学問を含む複合的で幅広い教養」を修得する。

### ③学部教育科目（学科専門教育科目）

学科専門教育科目は、各学科の人材養成の目的、学生に修得すべき知識・能力の体系等を設定した特色あるカリキュラムを編成している。学科専門教育科目は、以下のとおりである。

#### ア 数理・物理サイエンス学科

数理・物理サイエンス学科の学科専門教育科目は「理工学一般」「数学」「物理学」「物質科学」「地学」と区分しており、理工系教育圏科目、卒業研究と一貫した教育課程を体系的に編成している。

「理工学一般」では様々な分野の科目に関係する基礎的・応用的科目、「数学」は数学・数理科学の各分野を体系的に学修する科目、「物理学」は物理学を体系的に学修する科目、「物質科学」は化学の基礎から化学と物理学の境界領域を学修する科目、「地学」は地学の基礎から宇宙・地球科学を学修する科目である。

これらの学修を通じて、数理・物理サイエンス学科の教育研究上の目的を達成するための教育上の具体的な到達目標を以下のとおりとし、**太字で示す能力**を身に付けさせる。

- ①「**数理科学、物理科学の知識と技術**」を基盤として、「**自由な発想力と実践力**」で科学技術の発展とイノベーションを担うことのできる能力を修得させる。
- ②幅広い産業界で活躍できる、「**科学に基づいた論理的思考力・分析力**」を修得させる。
- ③数理科学、物理科学の様々な分野への関連性を活かし、身に付けた知識や技術とその応用力を駆使して、持続可能な社会・環境が直面する様々な課題に対して「**自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力**」を修得させる。

各科目区分の構成と概要及び具体的な到達目標 3 項目中に太字で示した「**数理科学、物理科学の知識と技術**」「**自由な発想力と実践力**」「**科学に基づいた論理的思考力・分析力**」「**自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力**」と各科目区分との対応関係は以下のとおりである。【資料 28 教育課程等の概要（理工学部数理・物理サイエンス学科）】

#### (1) 理工学一般

「理工学一般」の科目区分は、「生物概論」「実験計測学概論」「電気・電子回路」「放射線科学」「計算機概論」「数値計算演習」など現代の理工学分野において押さえておかなければならない知識や技術の修得と、「科学英語」や「サイエンスコミュニケーション」などでコミュニケーション能力の向上を図る。また、卒業研究につながる総合科目である「先端数理・物理サイエンス」「サイエンスゼミナール」で構成している。

この科目区分では主として、「**数理科学、物理科学の知識と技術**」「**自由な発想力と実践力**」「**科学に基づいた論理的思考力・分析力**」「**自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力**」を修得する。

#### (2) 数学

「数学」の科目区分では代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学や量子情報理論や機械学習などの数学および数理科学を体系的に講義と演習を通じて学習させる科目として、「代数学」「代数学演習」「代数学続論」「代数学続論演習」「集合と位相」「集合と位相演習」「解析学」「解析学演習」「解析学続論」「解析学続論演習」「応用解析学A」「応用解析学演習A」「応用解析学B」「応用解析学演習B」「幾何学」「幾何学演習」「幾何学続論」「幾何学続

論演習」「確率論」「確率論演習」「応用数理科学」「数理科学講読」「数理サイエンス総合講義」で構成している。

この科目区分では主として、「数理科学、物理学の知識と技術」「科学に基づいた論理的思考力・分析力」を修得する。

### (3)物理学

「物理学」の科目区分では力学、解析力学、電磁気学、熱力学、統計力学、量子力学、素粒子などといった物理学を体系的に講義、演習、そして実験を通じて学習させる科目として、「物理数学」「物理学実験」「物理科学実験A」「物理科学実験B」「基礎力学演習」「熱力学」「熱力学演習」「力学」「力学演習」「基礎電磁気学演習」「電磁気学」「電磁気学演習」「振動と波動」「統計力学」「統計力学演習」「量子力学I」「量子力学演習I」「量子力学II」「量子力学演習II」「物理光学」「プラズマ物理学」「流体・連続体力学」「素粒子・原子核」で構成している。

この科目区分では主として、「数理科学、物理学の知識と技術」「科学に基づいた論理的思考力・分析力」を修得する。

### (4)物質科学

「物質科学」の科目区分では基礎を含めた化学分野と、化学分野と物理分野との境界領域である固体物理、半導体物理、材料科学等の分野を学習させる科目として、「化学基礎」「有機化学」「無機固体化学」「半導体物理」「固体物理学」「電気化学」「材料科学概論」で構成している。

この科目区分では主として、「数理科学、物理学の知識と技術」「科学に基づいた論理的思考力・分析力」を修得する。

### (5)地学

「地学」の科目区分では地学の基礎から地球科学、宇宙科学を学習させる科目として、「地学概論」「地球物理学A」「地球物理学B」「宇宙物理学A」「宇宙物理学B」で構成している。

この科目区分では主として、「数理科学、物理学の知識と技術」「科学に基づいた論理的思考力・分析力」を修得する。

### (6)卒業研究

「卒業研究」は4年次に教員の指導を受け、1年間にわたって取り組む研究を通じて行われる研究実践からなる科目区分である。総合的な学習の集大成として位置づけられており、3年次までに修得した専門知識や技術を活用し、指導教員と相談して決めたテーマについて研究する。この卒業研究を通じて論理的思考力を高め、課題探求と課題解決の方法を実践して学ぶとともに、卒業研究のプレゼンテーションを行い、自らの研究テーマについての背景・目的・研究方法と研究成果について発表、説明、討論できる能力を身に付ける。

この科目では主として、「自由な発想力と実践力」「科学に基づいた論理的思考力・分析力」「自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力」を修得する。

## イ AI ロボティクス学科

AI ロボティクス学科の学科専門教育科目は、学科が定めた人材養成の目的、学生が修得すべき知識・能力の体系等を考慮した特色ある教育課程を編成している。本学科の学生が、科学的に正しく事象を理解し、科学技術者として科学技術の基本的な理念、知識、豊かな人間性や正しい倫理観をともに保持し、更に高い専門性を獲得し、人類社会に貢献する人材の育成を目指している。

学科専門教育科目は、「理学」「工学設計」「プログラミング」「制御・信号処理」「AI」「創成科目」「卒業研究」の7つの科目区分により構成し、理工系教育圏科目との連携を考慮し、教育課程を体系的に編成している。

これらの学修を通じて、AI ロボティクス学科の教育研究上の目的を達成するための、教育上の具体的な到達目標を以下のとおりとし、**太字で示す能力**を身に付けさせる。

- ① 専門職業人やその他の有識社会人として「**個の人間形成に必要な教養**」を身に付ける。
- ② 技術の進展や変化に柔軟に対応するために必要な「**学科専門分野の基礎**」を身に付ける。
- ③ 体験学習を通して「**ものづくり**」、「**デザイン能力**」を身に付ける。
- ④ 様々な立場の人が属するチームで円滑に仕事を進めるための十分な「**コミュニケーション能力**」を身に付ける。
- ⑤ 高度化・複雑化した社会の中で技術者として活躍するために必要な「**国際感覚**」「**総合的視野**」を身に付ける。

各科目区分の構成と概要及び具体的な到達目標 5 項目中に太字で示した、「**個の人間形成に必要な教養**」「**学科専門分野の基礎**」「**ものづくり**」「**デザイン能力**」「**コミュニケーション能力**」「**国際感覚**」「**総合的視野**」と各科目区分との対応関係は以下のとおりである。

### 【資料 29 教育課程等の概要（理工学部 AI ロボティクス学科）】

#### (1) 理学

この科目区分では、主として「**学科専門分野の基礎**」を修得する。ロボット工学において、ロボットの挙動を解析、理解するための基礎理論を学ぶ。「初等力学」で力学の基礎を学び、続く「マルチボディダイナミクス I, II」で複数の要素の組み合わせからなる構造物の運動学、動力学の計算法を学ぶ。

#### (2) 工学設計

この科目区分では、ロボットハードウェアの設計と製作を対象として、主として「**学科専門分野の基礎**」「**ものづくり**」「**デザイン能力**」を実習を通して修得する。「ロボット工学概論」ではロボット全般に渡る入門的な講義を行う。「図学入門」、「ロボット製図」では設計時に必要となる図面作成から CAD を使用する設計、デザインを学ぶ。「材料工学」、「加工学」では、ロボットハードウェアに使用する材料とその加工法を学ぶ。「CAD・CAM・CAE」では設計した図面データから、CAM、CAE システムを使用して部品の製作実習を行う。

#### (3) プログラミング

この科目区分では、主として「**学科専門分野の基礎**」「**デザイン能力**」を、実習を通して修得する。「ロボットプログラミング入門」「ロボットプログラミング I」「ロボットプログラミング II」では、C 言語、C++ 言語を学ぶ。また学科専門科目ではないが、共通科目群の「情報スキル活用」では学科教員が講師を担当して Python を学ぶ。これにより現在のロボットや人工知能のシステム開発で広く使用されている 3 言語をカバーする。

2 年次春開講の「ロボットオペレーティングシステム」は、オープンソースでありながらロボ

ット分野においてソフトウェア開発基盤の世界標準になりつつある ROS (Robot Operating System) 上でのロボット用ソフトウェア、ロボットシステムの開発手法を学ぶ。旧来の「メカトロニクス」教育を超える、十分な開発力を持つ人材の育成を目指す。

#### (4) 制御・信号処理

この科目区分では、主として「**学科専門分野の基礎**」「**デザイン能力**」「**総合的視野**」を修得する。電気電子回路から、制御工学、信号処理、センサ、アクチュエータ、人とロボットの相互作用まで、人工知能とロボット工学の基盤となる幅広い内容を学ぶ。多くの科目は「**学科専門分野の基礎**」に該当するが、「**ロボットインテリジェンス**」「**ヒューマンロボットインタラクション**」「**音声情報処理**」は、人とロボット、人工知能との相互作用やインタフェースを扱う科目であり、「**デザイン能力**」の修得を含む。「**ロボットフロンティア**」はロボットや人工知能に関する先端の研究内容を講義する科目であり、「**総合的視野**」を身に付けることができる。

#### (5) AI

この科目区分では、主として「**学科専門分野の基礎**」を修得する。4科目すべてが人工知能における機械学習やデータ処理を学ぶ科目である。「**ロボットビジョン**」は人工知能やロボットにおける視覚機能を実現する理論を学ぶ。「**機械学習**」と「**深層学習**」では、近年発展が目覚ましい機械学習の理論を学ぶ。「**データサイエンス活用**」では、大量のデータを人工知能の技術でいかに効率よく扱うか、実習を通して学ぶ。なお、人工知能に関する国内の代表的な資格試験の受験資格を得られるように、これらの科目の学習内容は構成されている。

#### (6) 創成科目

この科目区分には、講義で学ぶ内容に関連する実習や演習における体験を通して知識の定着を図る科目、少人数でゼミナール形式で行う科目、英語を幅広く学ぶ科目が含まれる。実習科目、演習科目では「**学科専門分野の基礎**」「**ものづくり**」「**デザイン能力**」「**コミュニケーション能力**」「**総合的視野**」を、ゼミナール形式の科目では「**個の人間形成に必要な教養**」「**コミュニケーション能力**」「**総合的視野**」を、英語科目では「**個の人間形成に必要な教養**」「**コミュニケーション能力**」「**国際感覚**」「**総合的視野**」を、それぞれ修得する。

実習科目、演習科目では、「**ロボティクス入門 I, II**」によりロボット工学の基礎を学び、マイコンを搭載した自律ロボットの製作を通して、必要な機能を考慮した機体の設計、プログラミング、モータの制御、センサ情報処理、様々な機能をシステムに統合して正しく機能させることなどを学ぶ。「**プロジェクト演習 A・B**」「**ロボティクス演習**」では、ROS を制御基盤とするロボット、および汎用のロボットアームを対象として、センサ情報の処理や動作計画、正確な動きを実現する制御手法などについて実習を通して学ぶ。その過程で「**学科専門分野の基礎**」「**ものづくり**」「**デザイン能力**」が修得される。少人数のグループで取り組むことにより、メンバー間の協調、協働が必要とされるので「**コミュニケーション能力**」「**総合的視野**」が涵養される。

ゼミナール形式の科目では、3年次春の「**ゼミナール A**」は、学生の見聞を広げるために、1週ずつ交代で各教員が日頃取り組んでいる研究内容について最新の結果を交えて解説する。受講生は講義で聞いた内容と自分が興味のある分野を考慮して、配属を希望する研究室を選択する。3年次秋は「**ゼミナール B**」において学生の希望に基づいて各教員が主宰する研究室に数人ずつ配属され、教員の指導の下で卒業研究につながる少人数教育を行う。卒業研究で必要とされる基礎を学び、指示された課題について調査した結果をレポートにまとめて発表し、討論する機会を設けることで、「**個の人間形成に必要な教養**」「**コミュニケーション能力**」「**総合的視野**」を修得する。

英語科目では、国際的視点から世界の動向を知り、海外に挑戦する人材を生み出すことを目指して、全学共通教育科目におけるスキル教育科目（英語スキル）、外国語教育科目（海外留学までをサポートする PASEO プログラム）に加えて、学科専門教育科目でも英語を取り上げ、体系化と強化を図っている。これにより、「**個の人間形成に必要な教養**」「**コミュニケーション能力**」「**国際感覚**」「**総合的視野**」を修得する。

入学時に、CASEC（英語コミュニケーション能力判定テスト）により、英語能力を評価して、本学語学センター教員の英語カウンセリングを受けながら、その後の学習を進める。また、英語上級能力者には、PASEO プログラムを利用し、積極的な留学指導を展開する。

全学の新入学生が受講する「英語スキルⅠ・Ⅱ」の学習の準備、補強を目的として、学科専門教育科目に「リフレッシュ英語 A・B」を配置する。高校における英語の学習量が少なかった入学生を想定して英語を学ぶための基本的な授業という位置づけである。この科目は、一般的な英語入門ではなく人工知能やロボット工学分野に進学するための題材を中心とした英語導入教育を行う。また全学共通科目の英語科目に加えて、2年次に学科専門教育科目として「英語コミュニケーション A・B」を配置し、英語でのコミュニケーション、プレゼンテーション法の修得を補強する。

#### (7) 卒業研究

「卒業研究」は「ゼミナール B」で配属された研究室で引き続き教員の指導を受け、1年間にわたって研究に取り組む科目であり、3年次までの学習で学んだ内容の集大成として位置づけられる。すなわち、学生個々の研究テーマで「**個の人間形成に必要な教養**」「**学科専門分野の基礎**」「**総合的視野**」が要求され、製作を伴うテーマでは「ものづくり」「**デザイン能力**」が求められる。日々の研究室の活動では教員や他の学生との十分な「**コミュニケーション能力**」が必要とされる。年度末には学科の卒業研究の発表会が開催されるので、そこで自らの研究成果を他者にわかりやすく発表し、討論できる「**コミュニケーション能力**」が求められる。長期間に渡る研究活動の実践により、上記の様々な能力を身に付ける。

#### ウ 宇宙航空学科

宇宙航空学科の学科専門教育科目は、学科の教育理念・目的に照らし、本学科の卒業生が、科学技術者として科学技術の基本的な理念、知識、豊かな人間性や正しい倫理観をともに保持し、航空宇宙産業及び関連する分野において、生産現場や中小企業でのモノづくりをリードできる能力を有し、同分野の国際的な広がりに対応できるグローバルな人材として活躍し、中部圏を中心とした我が国の航空宇宙産業の発展に貢献することを目指している。

これらを実現するため、学科専門教育科目は、「理学」「空力・推進」「材力・構造・生産工学」「制御・飛行力学・宇宙」「航空宇宙機設計」「総合宇宙航空理工学」の6つに区分し、理工系教育圏科目、卒業研究と一貫した教育課程を体系的に編成している。

「理学」は多くの科目に関係する基礎科目、「空力・推進」は流体系の科目、「材力・構造・生産工学」は航空宇宙機の機体を製造する上で必要な科目、「制御・飛行力学・宇宙」は航空宇宙機を運用するとともに宇宙利用する上で必須な科目、「航空宇宙機設計」は航空宇宙機を設計し、その情報を製造工程に引き渡す上で必要な科目、「総合宇宙航空理工学」は、宇宙航空学の基礎・基盤を始め、実験、実習、現場体験等の実践を通じて、総合的に学修する上で必要な科目として構成している。

これらの学修を通じて、宇宙航空学科の教育研究上の目的を達成するための教育上の具体的な到達目標を以下のとおりとし、**太字で示す能力**を身につけさせる。

- ①航空宇宙産業及び関連する分野において、生産現場や中小企業での「モノづくりをリードできる能力」を有する人材を養成する。
- ②宇宙航空分野の国際的な広がりに対応できる「英語力及びグローバルな能力」を有する人材を養成する。
- ③これらの人材を養成するために、「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」を修得させるとともに、企業等と連携して「実践的な技術や幅広い視野」を身に付けさせる教育を行う。

各科目区分の構成と概要及び具体的な到達目標 3 項目中に太字で示した「モノづくりをリードできる能力」「英語力及びグローバルな能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」「実践的な技術や幅広い視野」と各科目区分との対応関係は以下のとおりである。

**【資料 30 教育課程等の概要（理工学部宇宙航空学科）】**

(1) 理学

「理学」の科目区分は、多くの科目の基礎となる授業科目として、「力学基礎」「力学基礎演習」「振動・波動学」「電磁気学」で構成している。この科目区分では主として、「モノづくりをリードできる能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」を修得する。

(2) 空力・推進

「空力・推進」の科目区分は、航空宇宙機に作用する空気力や推進力を理解する上で基礎となる科目として、また、それらの理論を応用して製作されるエンジン関係を理解させるための科目として、「流体力学」「流体力学演習」「空気力学」「熱力学」「熱力学演習」「伝熱工学」「宇宙航空プラズマ理工学」「推進工学」で構成している。この科目区分では主として、「モノづくりをリードできる能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」「実践的な技術や幅広い視野」を修得する。

(3) 材力・構造・生産工学

「材力・構造・生産工学」の科目区分は、航空宇宙機の機体を製作する上で基礎となる材料力学、また、その理論に基づき展開される構造力学や生産工学関係を理解させるための科目として、「材料力学」「材料力学演習」「構造力学」「構造力学演習」「航空宇宙材料」「生産システム」で構成している。この科目区分では主として、「モノづくりをリードできる能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」「実践的な技術や幅広い視野」を修得する。

(4) 制御・飛行力学・宇宙

「制御・飛行力学・宇宙」の科目区分は、航空宇宙機を運用する上で基礎となる制御工学や電気電子回路工学等と、それらを応用して構築される飛行力学、宇宙航行及び宇宙利用に関連した科目として、「制御工学」「制御工学演習」「飛行力学」「電気・電子回路」「電気・電子回路演習」「数値解析演習」「メカトロニクス」「宇宙航空デバイス」「ソフトウエア」「宇宙空間情報応用」で構成している。この科目区分では主として、「モノづくりをリードできる能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」「実践的な技術や幅広い視野」を修得する。

(5) 航空宇宙機設計

「航空宇宙機設計」の科目区分は、航空宇宙機を設計する上で、またその情報を製造工程に引き渡す上で必要な科目として、「航空宇宙機設計演習」「ロケットシステム」「宇宙機システム」

「航空機システム」「機械製図演習」「CAD演習」で構成している。

この科目区分では主として、「モノづくりをリードできる能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」「実践的な技術や幅広い視野」を修得する。

#### (6) 総合宇宙航空理工学

「総合宇宙航空理工学」の科目区分は、宇宙航空学に関する総合的・実践的な科目として、講義だけでは理解が不十分な事柄を実験や実習で補強し、また、大学の授業だけでは修得できない実際的な事柄は、各分野の専門家から指導を受けたり、大学から外に出て工場見学や工場実習を行ったりして修得する。さらに、航空宇宙産業は基本的にはグローバルであるため、将来社会に出て役に立つ仕事ができるように実践的な英語を身に付けるための科目も加えて、「宇宙航空理工学概論」「機械工作実習A、B」「宇宙航空理工学実験A、B」「宇宙航空理工学特別講義A、B」「先端宇宙航空理工学」「工場見学」「工場実習」「宇宙航空理工学科学技術英語A、B、C」で構成している。

この科目区分では主として、「モノづくりをリードできる能力」「英語力及びグローバルな能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」「実践的な技術や幅広い視野」を修得する。

#### (7) 卒業研究

卒業研究は、4年次に教員の指導を受けながら1年間にわたって取り組む研究を通じて行われる研究実践からなる科目区分である。創成的な内容の科目としての集大成として位置づけられ、3年次までに修得した専門知識や実験経験を活用し、与えられたテーマについて研究する。また研究成果を口頭やポスター等によるプレゼンテーションで発表し、コミュニケーション力の向上を図る。

この科目では主として、「モノづくりをリードできる能力」「宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識」「実践的な技術や幅広い視野」を修得する。

**資料 28 教育課程等の概要（理工学部数理・物理サイエンス学科）**

**資料 29 教育課程等の概要（理工学部AIロボティクス学科）**

**資料 30 教育課程等の概要（理工学部宇宙航空学科）**

## (2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

収容定員の増加に伴う教育方法及び履修指導方法に関する変更内容については、以下のとおりであるが、各項目に示すとおり、変更前と同等以上の内容が担保されているとともに、他学部等の教育研究上の支障を来たすことはない。

### ①教育方法

#### ア 全学共通教育科目及び理工系教育圏科目

理工学部では、一貫した学士課程教育を構築するために、全学共通教育科目において、幅広い学習の保証、英語等の外国語教育におけるバランスのとれたコミュニケーション能力の育成やキャリア教育を、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すものとして教育課程の中に位置付けるなどの体系化を図っている。

特に、1年次における全学共通教育科目の「初年次教育科目（スタートアップセミナー）」は、高校から大学の学びへの円滑な適応を促し「キャリア教育科目」は、全学的な方針に沿い、1・



2年次段階からのキャリア教育に卒業生をはじめとする社会人を招くなど、卒業後の仕事、人生設計、社会とのかかわりの意味を大学生生活の早い時期から学びとるような仕組みを講じている。

学部教育科目は、理工系教育圏科目と学科専門教育科目で構成しているが、理工系教育圏科目は、理工学部の各学科に共通した科学技術者養成の基礎となる科目（共通基盤科目、専門基礎科目、複合領域科目）で構成し、主として講義、実験・実習の教育方法で実施する。

学科専門教育科目についての教育方法は、以下のとおりである。

## イ 数理・物理サイエンス学科

数理・物理サイエンス学科の専門教育科目の教育方法は、科目区分（理工学一般、数学、物理学、物質科学、地学、卒業研究）に応じた講義、演習、実験・実習で構成している。

特に、数理科学と物理学の幅広い知識と両者のシナジー効果がイノベーションにとって重要であるとの考えから、「線形代数学」や「微分積分学Ⅰ」「微分積分学Ⅱ」「データサイエンスの基礎」や「計算機概論」などの数理科学の基礎的な科目、「基礎力学」「基礎力学演習」や「基礎電磁気学」「基礎電磁気学演習」「創造理工学実験」などの物理学分野の基礎的な科目、卒業研究につながる「サイエンスゼミナール」など数理科学と物理学分野で共通で必要な最低限必要な科目を必修科目として重点的に取り組み、さらに数理科学および物理学の専門的事項に関する科目を相当数履修させるために、これらの必修科目に加えて、数学および物理学の基幹科目で構成された「選択必修科目カテゴリー1」から15単位、物理実験や数学ゼミなどで構成された「選択必修科目カテゴリー2」から5単位の合計20単位を選択必修科目とすることにより、学生の興味や関心、進路等により多様な学習が可能とし選択の機会を増やすよう考慮している。一方で、学生一人ひとりの履修計画の構築や進路選択等においては、教育研究上の専門性を明確化することも重要であるとの考えから、履修上の主とする分野として「数理サイエンス」及び「物理サイエンス」からどちらか一方を選択（分野ごとの定員は設けない）させ、主とする分野ごとに履修すべき科目区分や履修すべき単位数等を別途提示することとしている。これにより、教育研究上の指標・指針とするとともに、学生の学習意欲を促す。

「選択必修科目カテゴリー1」※( )内は単位数

代数学(2)、代数学演習(1)、集合と位相(2)、集合と位相演習(1)、解析学(2)、解析学演習(1)、応用解析学A(2)、応用解析学演習A(1)、応用解析学B(2)、応用解析学演習B(1)、幾何学(2)、幾何学演習(1)、確率論(2)、確率論演習(1)、応用数理科学(2)、物理数学(2)、熱力学(2)、熱力学演習(1)、力学(2)、力学演習(1)、電磁気学(2)、電磁気学演習(1)、振動と波動(2)、統計力学(2)、統計力学演習(1)、量子力学Ⅰ(2)、量子力学演習Ⅰ(1)、量子力学Ⅱ(2)、量子力学演習Ⅱ(1)

「選択必修科目カテゴリー2」※( )内は単位数

数値計算演習(1)、先端数理・物理サイエンス(2)、数理科学講読(1)、数理サイエンス総合講義(2)、物理学実験(2)、物理科学実験A(2)、物理科学実験B(2)

なお、これらの教育体系は、本学科が掲げる以下の教育方針を実現するために編成している。

- ①数理科学、物理学の知識と技術を基盤として、自由な発想力と実践力で科学技術の発展とイノベーションを担うことのできる能力を習得させる。
- ②幅広い産業界で活躍できる、科学に基づいた論理的思考力・分析力を習得させる。
- ③数理科学、物理学の様々な分野への関連性を活かし、身に付けた知識や技術とその応用力を駆使して、持続可能な社会・環境が直面する様々な課題に対して自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力を習得させる。

## ウ AI ロボティクス学科

AI ロボティクス学科の専門教育科目の教育方法は、科目区分（理学、工学設計、プログラミング、制御・信号、AI、創成科目、卒業研究）に応じた講義、演習、実験・実習で構成している。特に、創成科目の区分においては、ロボット工学に関する演習、実験・実習に重点をおいた授業方法により、創造的実践能力を身に付けた技術者の育成を目指している。

これらの教育体系は、本学科が掲げる以下の教育方針を実現するために編成しているものである。

- ① 本学科の学生には、専門職業人やその他の有識社会人として「個の人間形成に必要な教養」を身に付けさせる。
- ② ロボットが、産業、経済、政治、社会、個人に不可欠となりつつある現代、ロボット理工学分野の技術者には責任感と倫理観が強く求められており、それらを身に付けさせる。
- ③ 20世紀後半から急速に進展し続けている広く深いロボット技術に対応するために、関連分野の専門知識に対する基礎とその応用力だけでなく、幅広い周辺領域と知識統合する理学的視野を身に付けさせる。
- ④ 国際的な視野と教養、及び、これを得るために必要となる語学力とコミュニケーション能力（チームで問題に取り組む力）を身につけ、変化し続ける世界に生じる新たな問題に取り組む力を身に付けさせる。
- ⑤ 体験学習を通じた「モノづくり」に対するデザイン力を身に付けさせる。
- ⑥ 変化し続ける状況に対し柔軟に対応するために必要となる「複数の専門分野に跨がる基礎」を学び、「外界のデータを取り込み（感覚）、その意味を理解し（認識）、何をすべきかを判断し（決定）、結果として人に役立つように外界に働きかける（行動）システム」としてのロボットを生み出せる実践力を身に付けさせる。

## エ 宇宙航空学科

宇宙航空学科の学科専門教育科目の教育方法は、科目区分（理学、空力・推進、材力・構造・生産工学、制御・飛行力学・宇宙、航空宇宙機設計、総合宇宙航空理工学）に応じた講義、演習、実験・実習で構成している。

宇宙航空学科の教育の特徴は、一つには、基本となる基礎科目を徹底的に教育することで、基礎知識が修得できれば、学生は将来その基礎知識に基づいて、いろいろな問題に対処することが可能である。二つには、6科目区分の中で総合宇宙航空理工学の区分に設定している工場見学、工場実習（現場実習）及び特別講義を通じて、学生が大学内では経験できない、航空宇宙機に関係する機体や部品、その加工や組み立て方法などを見たり、聞いたり、体験したりする機会を与えるとともに、学生のこれらの実践的な経験と関連づけて、宇宙航空産業関連企業の経営者、技術者等の指導的な立場の人、行政官などの産学官の関係者を招聘し、仕事の実情や豊富な経験談、地域の発展などについて、セミナー形式で授業を展開し、大学、企業、行政（国・県・市）と連携した教育を実施して、地域の宇宙航空産業を担う専門職業人の養成を目指している。

また、宇宙航空分野は本来グローバルで、英語をツールとして自由に使いこなせないと職業に就いたときに役立つ仕事ができない状況があり、グローバル人材の養成の観点からも、学生の英語のレベルアップを図るために、宇宙航空理工学科学技術英語A、B、Cを3学期に亘って集中的に学習させる。

これらの教育課程、教育方法の設定は、教養・基礎教育及び専門教育を通じ、職業に就いたときに役立つ実践力を育成することも目指している。これに基づいて宇宙航空理工学科の人材養成目標を実現するために、以下の教育方針を掲げている。

- ① 今後、中部地区で飛躍的に発展すると期待されている宇宙航空産業界からの人材需要に即応した学生を育成する。
- ② 中部地区の宇宙航空関連の企業と密接な関係を構築し、企業が求めている基本的な知識や技術を常に把握し、企業の具体的な人材ニーズなどに的確に対応して、学生が就職しやすい環境を整える。
- ③ 宇宙航空関連分野の基礎科目は徹底的に教育する。
- ④ 宇宙航空関連分野は複合・融合的で、かつ実践的に発展した分野で範囲が広く、大学のための教育による人材養成は困難である。そのため、企業等と連携して教育課程を編成し、学生の実践力を高める。
- ⑤ 実践教育の一環として、学内実習の更なる充実とともに企業における実際の施設・設備や仕事の見学に加え、実務実習（現場実習）を行って、企業の担当者から直接指導を受ける。
- ⑥ 宇宙航空産業は、本来グローバルであるので、英語での読み書き及びコミュニケーション能力を高める。

## ②履修指導方法

### ア 全学共通教育科目及び理工系教育圏科目

全学共通教育科目においては、1年次における全学共通教育科目の「初年次教育科目（スタートアップセミナー）」は、高校から大学の学びへの円滑な適応を促し「キャリア教育科目」は、全学的な方針に沿い、1・2年次段階からのキャリア教育に卒業生をはじめとする社会人を招くなど、卒業後の仕事、人生設計、社会とのかかわりの意味を大学生生活の早い時期から学びとるよう指導する。

また、全学的なSDGs教育・研究及び文理融合・リベラルアーツ教育の推進方針に基づき、教養課題教育科目や特別課題教育科目の1年次及び2年次における計画的な履修を指導するとともに、3年次前期におけるリベラルアーツ課題演習の履修を促す。

学部教育科目の理工系教育圏科目については、学科専門科目との関連や教育効果の観点から学科ごとに必修科目と選択科目の区分を定めて、学生の興味や関心、希望する進路等に応じて多様な学習が可能となるよう適切に履修を指導する。

学科専門教育科目における履修指導方法は以下のとおりである。

### イ 数理・物理サイエンス学科

- ① 学士課程一貫教育として、全学共通教育科目、理工系共通圏科目と関連付けながら、基礎的科目を重視した教育を行うこととしている。
- ② 1年次、2年次より全学共通科目および理工系教育圏科目を重点的に履修して専門基礎科目、教養科目から学習をスタートさせ、1年次終了時の専門基礎的な学科必修科目の成績評価に基づいて、2年次以降の数理科学系専門科目・物理科学系専門科目の履修指導を行う。
- ③ 1年次終了時には、学生に「数理サイエンス」「物理サイエンス」のいずれかひとつを主とする分野として選択させ、数理科学系専門科目・物理科学系専門科目の履修指導を行う。
- ④ 主とする分野の選択については、1年次終了時までには学生に、分野選択届を提出させる。原則として、希望どおりの分野から必要な科目や単位数を修得するよう指導するが、適性や希望進路等を考慮し、最終的には、学科主任が承認する。

- ⑤ 1年次後期より3年次にかけて、選択必修科目として指定している数理科学・物理科学の基幹となる講義・演習・実験科目を履修させ、3年次後期では研究室配属型の「サイエンスゼミナール」を配置し、各自の専門分野を学修させるよう指導する。
- ⑥ 卒業研究は、担当教員の指導の下で、3年次までに修得した知識に基づき、数理サイエンス・物理サイエンスに関する一つの研究テーマを設定し、そのテーマについて、掘り下げて研究を行う。この卒業研究を通じて論理的思考力を高め、課題探求と課題解決の方法を実践的に指導する。また、卒業研究のプレゼンテーションにより、自らの研究テーマの背景、目的、研究方法及び成果について発表し、説明・討論ができる能力を身につけさせる。

## ウ AIロボティクス学科

- ① 学士課程一貫教育として、全学共通教育科目、理工系共通圏科目と関連付けながら、基礎的科目を重視した教育を行うこととしている。
- ② 1年次前期の「ロボティクス入門Ⅰ（必修科目）」にて何度も簡単なロボットを作り直ししながら、「モノづくり」に対するデザイン力を身につけさせる素地の育成を行う。これまで工学部では、初めて学ぶ者に対しても一通りの加工・組み立て・制御理論・プログラミングをし、簡単なサッカーロボットを製作して、チームで競い合う工学部共通教育科目「創成工学 A」を開講してきたが、改組後の本学科では、この科目を深化させ「ロボティクス入門Ⅱ（必修科目）」としてより専門性の高い教育を行う。これに引き続く、「加工実習」「ロボティクス演習」「プロジェクト演習 A・B」にて実践力の底上げを行うよう指導する。
- ③ 少人数教育として2年次よりコースワーク型の「ゼミナール A」、3年次に研究室配属型の「ゼミナール B」及び上記②に示す科目区分「創成科目」を配置し、きめ細かな指導体制を展開する。
- ④ 本学科学生は、他学科の学生に比べると多岐に亘る分野の知識とその統合力を必要とするため、各講義においては専門知識を教授するだけでなく他の科目との関連性を教授する。さらに、上記③に示す少人数教育体制により学習支援体制を展開する。
- ⑤ 学習ポートフォリオを通じて、学生と教員間の意思の疎通を円滑に行えるよう配慮するとともに副指導制度による学生支援を行う。
- ⑥ 卒業研究を通じて、ロボット理工学を研究し、専門研究領域にまで関心を向けることができるよう教育を展開する。

## エ 宇宙航空学科

- ① 学士課程一貫教育として、全学共通教育科目、理工系共通圏科目と関連付けながら、基礎的科目を重視した教育を行うこととしている。
- ② 1、2年次で基礎科目をしっかり学修させて、必要な単位の取得を指導する。単位が取れない場合、3年次以降の専門科目の履修に支障をきたすことになる。
- ③ 主体的な学びを推進する観点から、選択科目を相対的に多くしているため、学生にとっては単位を修得する上での自由度は増えるが、各自がよく考えて選択するように体系的な履修指導を行う。
- ④ 1年次の必修科目として、学内工場実習として「機械実習 A」と「機械実習 B」を行う。この科目は、航空宇宙機のみならず「モノづくり」の基本であり、「加工して組み立てる能力」を身に付けさせるもので、徹底して指導する。
- ⑤ これに引き続き、宇宙航空関連企業の現場で、実務研修として2年次後期に「工場見学」及

び「工場実習」を行う。この科目は、職業に就いたときに役立つ実践的な体験学習であり、人間力（日本経済団体連合会提唱）、社会人基礎力（経済産業省提唱）等も合わせて鍛えるとともに、技術者の実際の役割等を学び、好奇心、探究心を引き出し、各授業への取り組みの向上や将来の就職の参考にさせるものである。

- ⑥ 「宇宙航空理工学特別講義A、B」は、産業界が求めているイノベーション創出を担う人材には、企業のニーズは何かを知っていることが求められており、産学官の指導的立場の人に授業への参画を依頼し、セミナー形式で開講する。大学、企業、行政（国・県・市）と連携した教育を実施して、地域の宇宙航空産業を担うのに相応しい人材の養成に繋げている。学生には、工場見学、工場実習と相俟って、将来社会に出たときに役に立つ実践的な知識が身に付くとともに、外部の企業、行政関係者等との関係を構築する絶好の機会となることが期待される。
- ⑦ 「航空宇宙機設計演習」は、3年次の後期で演習科目として開講する。ここでは、学生がグループに分かれて、航空機あるいは宇宙機を設計する。それまでに修得した知識、技術等を総合的に活用するとともに、自主的に調査研究して、設計を行う。これにより、問題発見能力、自主的学習能力、コミュニケーション能力が育成されるので、真剣に取り組むように指導する。授業担当には、専任教員と宇宙航空関連企業の第一線で活躍している兼任教員が当たる。
- ⑧ 卒業研究では、担当教員の実践的な研究指導のもとで、それまでに学んできた知識に基づき、宇宙航空理工学に関係する一つのテーマを設定し、より深く研究する。この研究を通じて、課題探求と課題解決の方法を指導する。また、学士課程教育の成果を体験させるために、全教員・全学生（4年次）参加のもとで卒業研究発表会を実施する。

### ③編入学後の履修指導方法及び教育上の配慮

編入学後の学習指導については、学則変更（収容定員変更）以前と同様に、教務委員及び指導教員を中心にプレオリエンテーション（編入学前の学校における学習内容の聴取及び本学科における教育課程、履修方法、履修モデルなどの説明等）及びオリエンテーション（単位認定とゼミの振り分け等）を実施し、卒業に必要な単位の修得について選択の幅を広げるなどの配慮を行い、2年間で卒業要件を満たすことができるように履修指導を行うとともに、常時相談に応じ、必要な助言を行うこととしている。

### （3）教員組織の変更内容

収容定員の増加に伴う教員組織に関する変更内容については以下のとおりであるが、各項目に示すとおり、本学では、これまでの大学教育の制度改正や本学の教育改革の推進を着実に実行するために、大学設置基準に規定する専任教員数の約1.5倍に相当する専任教員を配置し、少人数教育等により教育の充実を図り、教育の質の保証と向上に努めている。また、数理・物理サイエンス学科の新設に際してもこの方針を継続し、設置計画の策定段階から計画的な教員補充を行ってきた。【資料31 工学部及び理工学部専任教員配置状況表】

定員変更後もほぼ従前どおりの専任教員数を維持することとしており、変更前と同等以上の内容が担保されているとともに、他学部等の教育研究上の支障を来たすことはない。

### 資料31 工学部及び理工学部専任教員配置状況表

## ①数理・物理サイエンス学科

数理・物理サイエンス学科の専門教育科目を担当する専任教員は、数学・数理科学、物理学、物質科学、地球科学、宇宙科学を専門とする教員で構成しており、全員が当該分野の博士号を取得している。

理工系教育圏科目および数理・物理サイエンス学科の専門教育科目における必修科目および中核的な科目は、当該分野を専門とする専任教員 16 名（教授 10 名、准教授 4 名、講師 2 名）が担当する。

各科目区分の授業科目の担当は、以下のとおりである。

ア「理工学一般」の授業科目は、専任教員 16 名全員と工学部所属の兼任教員 3 名、生物科学を専門とする兼任教員 1 名、語学センター所属の兼任教員 1 名（「科学英語」担当者）が担当する。

イ「数学」の授業科目は工学部から異動となる専任教員 6 名と AI 数理データサイエンスセンター所属の兼任教員 1 名が担当する。

ウ「物理学」の授業科目は工学部工学基礎教室から異動となる専任教員 3 名と工学部創造理工学実験教育科から異動となる専任教員 6 名と、工学部所属の兼任教員 4 名が担当する。

エ「物質科学」の授業科目は工学部創造理工学実験教育科から異動となる専任教員 2 名と工学部所属の兼任教員 1 名、工学部応用化学科所属の兼任教員 2 名（「有機化学」「固体物理学」担当教員）が担当する。

オ「地学」の授業科目は工学部創造理工学実験教育科から異動となる専任教員 2 名と工学部所属の兼任教員 1 名、人間力創成総合教育院所属の兼任教員 1 名が担当する。

カ「卒業研究」は専任教員全員の 16 名で、それぞれ担当する。

専任教員 16 名は工学部工学基礎教室から異動する 9 名、工学部創造理工学実験教育科から異動する 7 名で構成されており、従前は主として工学部の共通教育科目を担当しており、授業担当分野において博士号を取得し、かつ、十分な教育研究業績を有している。このうち 3 名は企業や研究所での勤務実績のある実務家教員であり、数理・物理サイエンス学科の教育課程の実現に最適な教員配置である。

また、専任教員の年齢構成は、学科開設時には 30 歳台 2 名、40 歳台 4 名、50 歳台 6 名、60 歳台 4 名となっており、若手から教育研究実績の豊富な 50 歳台から 60 歳台の教員まで幅広く構成されている。

専任教員 16 名のうち 2 名は、完成年度までに定年年齢 70 歳に達するが、数理・物理サイエンス学科の教育課程の柱となる数学および物理学分野において、教育実績、先端的な研究実績、実務経験を有する専任教員であり、教員組織を編成し教育研究水準の維持向上、教育研究の活性化を図るためには不可欠な存在であることから、完成年度までの間は学校法人中部大学就業規則第 15 条に基づく定年規定第 4 条の規定により、定年を延長するなどの方策により対応することとしている。また、完成年度後はすみやかに同様の専門分野の後任を補充できるよう後継者の育成にも務める予定である。

## ② AI ロボティクス学科

AI ロボティクス学科の学科専門教育科目を担当する専任教員は、理学、工学設計、プログラミング、制御・信号処理、生体科学等を専門分野とする教員で構成する。

理工系教育圏科目（一部を除く。）の担当は、理工学部その他学科の教員（兼担）及び兼任教員が担当し、AI ロボティクス学科における中核的な科目や必修の理論科目については、当該

分野の適切な専任教員 9 人（教授 7、准教授 1、講師 1）を配置している。

各科目区分の授業科目の担当は、以下のとおりである。

ア「理学」の授業科目は、専任教員 2 名が担当する。

イ「工学設計」の授業科目は、専任教員 2 名と兼任教員 3 名が担当する。

ウ「プログラミング」の授業科目は、専任教員 3 名が担当する。

エ「制御・信号処理」の授業科目は、専任教員 7 名と兼任教員 2 名、兼任教員 1 名が担当する。

オ「AI」の授業科目は、専任教員 2 名が担当する

カ「創成科目」の授業科目は専任教員 9 名と兼任教員 2 名が担当する。

キ「卒業研究」は専任教員全員の 9 名で、それぞれ担当する。

以上のとおり、本学科では教育研究上の目的を実現する教員組織を編成している。

また、専任教員の年齢構成は、学科開設時には 30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、50 歳代 5 人、60 歳代 2 人と特定の年代に偏らないように留意し、若手、中堅、熟練の教員をバランスよく配置している。これにより高い教育研究実績によって広く高度な専門知識を教育することができ、先端的な研究活動を通じて学生の知的興味と関心を涵養し実践力を養成する。

なお、完成年度までに定年年齢を超える専任教員はいない。

### ③宇宙航空学科

宇宙航空学科の専門教育科目を担当する専任教員は、物理、制御、電気電子、情報、材料等の基礎領域分野、及び空気力学、構造力学、航空技術、宇宙利用等の宇宙航空領域分野を専門とする教員（全員が、当該分野の博士号を取得している。）で構成している。

理工系教育圏科目（一部を除く。）の担当は、理工学部の他学科の教員（兼任）及び兼任教員が担当し、宇宙航空学科の専門教育科目における中核的な科目と必修科目は、当該分野を専門とする専任教員 9 人（教授 5、准教授 4）が担当する。

各科目区分の授業科目の担当は、以下のとおりである。

ア「理学」の授業科目は、専任教員 4 人が担当する。

イ「空力・推進分野」の授業科目は、専任教員 3 人、航空機関連企業からの兼任教員 2 人が担当する。

ウ「材料・構造・生産工学」の授業科目は、専任教員 2 人、航空機関連企業からの兼任教員 1 人が担当する。

エ「制御・飛行力学・宇宙」の授業科目は、専任教員 7 人、他学部からの兼任教員 1 人が担当する。

オ「航空宇宙機設計」の授業科目は、専任教員 5 人、航空機関連企業からの兼任教員 5 人が担当する。

カ「総合宇宙航空理工学」の授業科目は、専任教員全員の 9 名が担当する。

キ「卒業研究」は、専任教員全員の 9 名で、それぞれ担当する。

これら 9 人の専任教員は、授業担当分野の博士号を取得し、かつ、十分な教育研究業績を有し、このうち 2 人については、航空宇宙産業等の現場において、世界に挑戦できるまでの技術開発の経験、実績を有する実務家教員であり、宇宙航空学科の教育課程の実現に最適な教員配置である。

また、専任教員の年齢構成は、学科開設時には 30 歳代 3 人、50 歳代 3 人、60 歳代 3 人と特定の年代に偏らないように留意し、バランスよく配置している。

なお、完成年度までに定年年齢を超える専任教員はいない。

#### (4) 施設・設備の変更内容

収容定員の増加に伴う、施設・設備に関する変更内容については以下のとおりであるが、各項目に示すとおり、大学全体の校地、校舎等の施設及び設備等については、変更前と同等以上の内容を担保しており、本学の教育研究上の支障をきたすことはない。

##### ①校地、運動場等の整備計画

本学は約 60 万㎡の校地等を有し、愛知県春日井市東部の丘陵地に位置する春日井校地に既に 8 学部・6 研究科の施設と全学共有施設としての図書館、講堂、体育館、武道体育館、全天候型のフィールド、運動施設、並びに食堂、売店、郵便局、休憩場所、茶室等を整えている。

運動施設は、既に全天候型のフィールド 2 面 (23,565.1 ㎡) と約 14,452 ㎡の野球場、534.26 ㎡の弓道場、4,314.02 ㎡の体育館、3,178.64 ㎡の武道体育館、テニスコート 4 面及び室内温水プール (25m×7 コース) を整えている。これらの施設は、常時開放され、多くの学生が余裕を持って課外活動を含むキャンパスライフに十分活用できるように整備されており、また、余裕のある空気を設けるとともに、学生が余裕をもって休息、交流、自主学習等ができるように自習室、ラウンジ等を整備している。

したがって、理工学部の教育研究上支障を生じることがないため、校地、運動場等については今回の変更に伴い、改めて整備する必要はない。

##### ②校舎等施設・設備の整備計画

###### ア 数理・物理サイエンス学科

数理・物理サイエンス学科の入学定員 (40 人) は、収容定員の増により対応することとしている。理工学部が主に使用する校舎は、2 号館、3 号館、5 号館、新 5 号館、6 号館、7 号館、8 号館、11 号館、15 号館及び 16 号館であるが、加えて収容定員増に対応するために理工学部新棟を新築 (完成年度には、大学全体の校舎面積は 2,343.64 ㎡増加し、179,015.26 ㎡となる。) し、本学科が主として使用する実験室 11 室、研究室 1 室、講義室 2 室、演習室 5 室を準備する計画である。

理工学部新棟 (他学部・共用部を含む) の新築工事工程表については、【資料 32 理工学部新棟 (他学部・共用部を含む) 新築工事工程表】のとおりである。

本学科の授業は、これらの建物を中心に実施することとなるが、これを含んで、本学は、講義室 112 室、演習室 198 室、実験実習室 856 室を有しており、これらの使用管理は全学的に一括管理を行っているので、今回の収容定員の増により、本学の教育課程の実施及び他学部等の教育研究に支障を来すことはない。

また、現在の工学部には、共通施設として CAD 教育施設、実習工場等を既に整理しているが、これらに加え学科関係の授業に必要な基本的な機械、器具類等についても、【資料 33 数理・物理サイエンス学科研究機器一覧】のとおり整備する。

**資料 32 理工学部新棟 (他学部・共用部を含む) 新築工事工程表**

**資料 33 数理・物理サイエンス学科研究機器一覧**

###### イ AI ロボティクス学科及び宇宙航空学科

AI ロボティクス学科の入学定員 (80 人) 及び宇宙航空学科の入学定員 (80 人) は、工学部ロボット理工学科及び宇宙航空理工学科の学生募集停止によるものであり、収容定員に変化はない。

理工学部が主に使用する校舎は、2 号館、3 号館、5 号館、新 5 号館、6 号館、7 号館、8 号館、11 号館、15 号館及び 16 号館であるが、これらの建物には、講義室、演習室、実験実習室、教員



研究室等が整備されている。なお、当該2学科が使用する校舎等の施設は本認可申請書の別項として添付する「校地校舎等の図面」のとおりである。

当該2学科の授業は、これらの建物を中心に実施することとなるが、これを含んで、本学は、講義室112室、演習室198室、実験実習室856室を有しており、これらの使用管理は全学的に一括管理を行っているので、今回の収容定員の増により、本学の教育課程の実施及び他学部等の教育研究に支障を来すことはない。

また、工学部には、共通施設としてCAD教育施設、実習工場等を既に整理しているが、当該2学科関係の授業に必要な基本的な機械、器具類等についても、【資料34 AIロボティクス学科研究機器一覧】【資料35 宇宙航空学科研究機器一覧】のとおり既に整備しており、引き続きこれらを活用するので、今回の変更に伴い特に整備する必要はない。

#### **資料34 AIロボティクス学科研究機器一覧**

#### **資料35 宇宙航空学科研究機器一覧**

### **ウ 全学共通施設**

本学は、課題発見・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材の育成を目指し、学生が主体的に徹底して学ぶことのできる環境を更に整備するために、2015（平成27）年4月に不言実行館（アクティブプラザ）（学生の能動的な活動を取り入れたラーニングコモンズ、スチューデント・コモンズ、多目的ホール等の整備、6階建 5,451.11 m<sup>2</sup>）を整備している。これらについては、今回の変更に伴い、改めて整備する必要はない。

### **③図書等の資料及び図書館の整備計画**

本学の図書館は、6階建て延べ12,203.43 m<sup>2</sup>を有し、収容可能冊数は80万冊で、閲覧席数は950席である。蔵書は毎年計画的整備を進めており、開設時には大学全体で74万冊余、完成年度には79万冊余りとなる計画である。また、図書館には文献検索用のパソコンを館内の各階に整備し、全ての閲覧者が自由に閲覧できるシステムを整え、書籍や文献の検索や借用を効率的に進めており、教育研究を適切に促進できる機能を備えている。

数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の教育研究を推進する上で必要な図書、学術雑誌等は既に図書館にも配備しており、新たに整備する必要がある図書、学術雑誌等は多くなく、今回の収容定員の増により、本学の教育課程の実施及び他学部等の教育研究に支障をきたすことはない。

以上

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類 資料目次

資料 1	収容定員変更の新旧対照表	2
資料 2	第 6 次 科学技術・イノベーション基本計画（概要）	3
資料 3	第 5 次 科学技術基本計画（概要）	4
資料 4	持続可能な開発目標（SDGs）について（概要）	5
資料 5	愛知県の産業構造（抄）	6
資料 6	あいちビジョン 2030（抄）	8
資料 7	理工系人材育成戦略（概要）	12
資料 8	AI 戦略 2019（概要）	13
資料 9	AI 戦略 2021（概要）	15
資料 10	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）	16
資料 11	あいち DX 推進プラン 2025（抄）	17
資料 12	学園ビジョン 2021-2025 実行計画 学校法人中部大学（抄）	19
資料 13	あいちロボット産業クラスター推進協議会の概要	21
資料 14	愛知県のロボット産業の概況	22
資料 15	航空機製造に関する人材の構成及び育成面の課題	23
資料 16	地域の航空機産業の目指す将来像のイメージ	24
資料 17	全国と中部地域の航空機・部品生産額の推移等	25
資料 18	東海地域の主要メーカーの立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況	27
資料 19	航空宇宙産業の伸び率	28
資料 20	海外クラスターとの比較	30
資料 21	理工学部に関するアンケート調査（高校）結果	31
資料 22	理工学部に関するアンケート調査（企業）結果	42
資料 23	中部大学における過去 5 年間の入学志願者動向	55
資料 24	全国求人倍率と中部大学求人社数の推移	56
資料 25	工学部求人社数（業種別・学科別）の状況	57
資料 26	学部別就職率の推移	58
資料 27	工学部就職状況	59
資料 28	教育課程等の概要（理工学部数理・物理サイエンス学科）	60
資料 29	教育課程等の概要（理工学部 AI ロボティクス学科）	65
資料 30	教育課程等の概要（理工学部宇宙航空学科）	70
資料 31	工学部及び理工学部専任教員配置状況表	75
資料 32	資料 32 理工学部新棟（他学部・共用部含む）新築工事 工程表	76
資料 33	数理・物理サイエンス学科研究機器一覧	77
資料 34	AI ロボティクス学科研究機器一覧	80
資料 35	宇宙航空学科研究機器一覧	84

資料1 収容定員変更の新旧対照表

(旧・現行) 令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	(新・変更後) 令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
<b>工学部</b>				<b>工学部</b>			
機械工学科	160	3年次 2	644	機械工学科	160	3年次 2	644
都市建設工学科	80	3年次 2	324	都市建設工学科	80	3年次 2	324
建築学科	110	3年次 2	444	建築学科	110	3年次 2	444
応用化学科	90	3年次 2	364	応用化学科	90	3年次 2	364
情報工学科	120	3年次 2	484	情報工学科	120	3年次 2	484
ロボット理工学科	80	3年次 2	324				
電気電子システム工学科	160	3年次 2	644	電気電子システム工学科	160	3年次 2	644
宇宙航空理工学科	80	3年次 2	324				
				<b>理工学部</b>			
				数理・物理サイエンス学科	40	3年次 2	164
				AIロボティクス学科	80	3年次 2	324
				宇宙航空学科	80	3年次 2	324
<b>経営情報学部</b>				<b>経営情報学部</b>			
経営総合学科	300	3年次 6	1,212	経営総合学科	300	3年次 6	1,212
<b>国際関係学部</b>				<b>国際関係学部</b>			
国際学科	140	3年次 5	570	国際学科	140	3年次 5	570
<b>人文学部</b>				<b>人文学部</b>			
日本語日本文化学科	80	3年次 2	324	日本語日本文化学科	80	3年次 2	324
英語英米文化学科	70	3年次 2	284	英語英米文化学科	70	3年次 2	284
コミュニケーション学科	70	3年次 2	284	コミュニケーション学科	70	3年次 2	284
心理学科	90	3年次 2	364	心理学科	90	3年次 2	364
歴史地理学科	90	3年次 2	364	歴史地理学科	90	3年次 2	364
<b>応用生物学部</b>				<b>応用生物学部</b>			
応用生物化学科	110	3年次 2	444	応用生物化学科	110	3年次 2	444
環境生物科学科	110	3年次 2	444	環境生物科学科	110	3年次 2	444
食品栄養科学科	140	3年次 2	564	食品栄養科学科	140	3年次 2	564
<b>生命健康科学部</b>				<b>生命健康科学部</b>			
生命医科学科	60	—	240	生命医科学科	60	—	240
保健看護学科	100	—	400	保健看護学科	100	—	400
理学療法学科	40	—	160	理学療法学科	40	—	160
作業療法学科	40	—	160	作業療法学科	40	—	160
臨床工学科	40	—	160	臨床工学科	40	—	160
スポーツ保健医療学科	80	—	320	スポーツ保健医療学科	80	—	320
<b>現代教育学部</b>				<b>現代教育学部</b>			
幼児教育学科	80	3年次 2	324	幼児教育学科	80	3年次 2	324
現代教育学科	80	3年次 2	324	現代教育学科	80	3年次 2	324
(大学全体) 計	2,600	3年次 47	10,494	(大学全体) 計	2,640	3年次 49	10,658

## 科学技術・イノベーション基本計画（概要）

### 現状認識

**国内外における情勢変化**

- 世界経済の回復の始まりと、科学技術・イノベーションを中核とする国際競争の激化
- 気候危機などグローバルな課題の顕在化
- ITプラットフォームによる情報独占と、巨大な富の偏在化

**新型コロナウイルス感染症の拡大**

- 国際社会の大きな変化
- 感染症大流行と経済活動の停滞がもたらした社会不安
- サイバーセキュリティの脆弱性の顕在化
- 激化する国内生活
- フレカワーやオンライン教育をはじめ、新しい生活様式への変化

### 科学技術・イノベーション政策の振り廻り

- デジタル化とデジタル人材の不足
- デジタル化は既存の産業の効率化が中心、その本来の力が未活用
- 論文に関する国際的地位の低下傾向や過剰な研究費の増加
- 科学技術基本法の改正
- 科学技術・イノベーション政策は、自然科学と人文・社会科学を統合した総合的により、人間と社会の総合的発展と課題解決に資するものへ

「グローバル課題への対応」と「国内の社会構造の改革」の両立が不可欠

### 我が国が目指す社会(Society 5.0)

**国民の安全と安心を確保する持続可能な進取な社会**

【持続可能性の確保】

- SDGsの達成を早見した持続可能な地球環境の実現
- 災害や感染症、サイバーテロ、サプライチェーン寸断等の脅威に対する持続可能な強固な社会の構築及び協力的な安全保障の実現
- 現世代のニーズを満たし、将来の世代が豊かに生きていく社会の実現

この社会像に「信頼」や「分かち合い」を重ねる我が国の伝統的価値観を重ね、**Society 5.0**を実現

サイバー空間とデジタル空間の融合による持続可能な進取な社会への変革

**Society 5.0の実現に必要なもの**

「総合知による社会変革」と「知・人への投資」の好循環

新たな社会を設計し、価値創造の源泉となる「知」の創造

新たな社会を支える人材の育成

「一人ひとりの多様な幸せ(well-being)が実現できる社会」

【経済的な豊かさや質的な豊かさの実現】

- 誰もが能力を伸ばせる教育と、それを活かした多様な働き方を可能とする労働・雇用環境の実現
- 人生100年時代に生涯にわたって生き生きと社会参加し続けられる環境の実現
- 人々が夢を持ち続け、コミュニティにおける自らの存在を常に肯定し活躍できる社会の実現

国際社会に発信し、世界の人材と投資を呼び込む

【知的フロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化】

- 多様な卓越した研究を生み出す環境の再構築
  - 博士課程学生の迅速向上とキャリアパスの拡大、若手研究者ポストの確保
  - 女性研究者の活躍促進、基礎研究・学術研究の振興、国際共同研究・国際共同研究の推進
  - 人文・社会科学の振興と総合知の創出（ファンディング強化、人文・社会科学研究のDX）
- 新たな研究システムの構築（オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進）
  - 研究データの管理・利活用、スマートラボ・AI等を活用した研究の加速
  - 研究施設・設備・機器の整備・共用、研究DXが開拓する新しい研究コミュニティ・環境の醸成
- 大学改革の促進と協働的経営に向けた組織変革
  - 多様で創意的な大学群の形成（真の経営主体への転換、世界と伍する研究大学の要となる成長）
  - 10兆円規模の大学ファンドの創設

「一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成」

【国民の安全と安心を確保する持続可能な進取な社会への変革】

- サイバー空間とデジタル空間の融合による新たな価値の創出
  - 政府のデジタル化、デジタル庁の発足、データ戦略の完遂（ベースレジストリ整備等）
  - Beyond 5G、5G、スバルコ、宇宙システム、量子技術、半導体等の次世代インフラ・技術の整備・開発
- 地球環境課題の克服に向けた社会変革と非連続なイノベーションの推進
  - カーボンニュートラルに向けた研究開発（基金活用等）、循環経済への移行
- レジリエントで安全・安心な社会の構築
  - 脅威に対応するための重要技術の特定と研究開発、社会実装及び流出対策の推進
- 価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成
  - SBR制度やアントレ教育の推進、スタートアップ拠点都市形成、産学共創システムの強化
- 次世代に引き継ぐ基盤となる都市と連携づくり（スマートシティの展開）
  - スマートシティイノベーションの創出、官民連携プラットフォームによる全国展開、万博での国際展開
- 様々な社会課題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用
  - 総合知の活用による社会実装、ITテックに基づく国家戦略の両立し、策定した研究開発等の推進
  - ムーンショットやSIP等の推進、知財・標準の活用等による市場開拓、科学技術外交の推進

【一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成】

研究力と学び続ける姿勢を強化する教育・人材育成システムへの転換

- 初等中等教育段階からのSTEAM教育やGIGAスクール構想の推進、教師の負担軽減
- 大学等における多様なキャリアプログラムやプログラムの提供、リカレント教育を促進する環境・文化の醸成

（出典：内閣府ホームページ）



## 持続可能な開発のための2030アジェンダ

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



- 普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し、「**誰一人取り残さない**」
- 参画型** **全てのステークホルダーが役割を**
- 統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**
- 透明性** **定期的にフォローアップ**

### 前身:ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
- 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。
  - ①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯
  - ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
    - 極度の貧困半減(目標①)やHIV・マラリア対策(同⑥)等を達成。
    - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減(同④、⑤)は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ

環境  
(リオ+20)

人権

平和

### 【参考】持続可能な開発目標 (SDGs) の概要

(①貧困)	(②飢餓)	(③保健)	(④教育)	(⑤ジェンダー)	(⑥水・衛生)
(⑦エネルギー)	(⑧成長・雇用)	(⑨イノベーション)	(⑩不平等)	(⑪都市)	(⑫生産・消費)
(⑬気候変動)	(⑭海洋資源)	(⑮陸上資源)	(⑯平和)	(⑰実施手段)	

ロゴ:国連広報センター作成

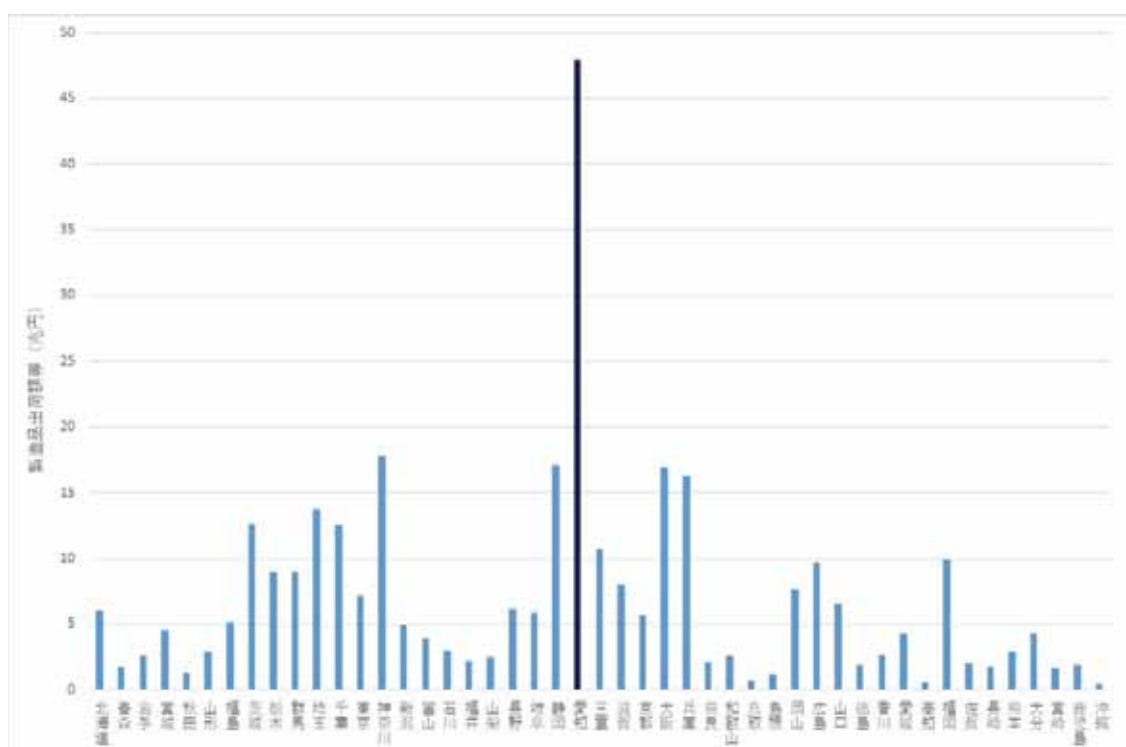
(出典: 外務省ホームページ)

## 資料 5 愛知県の産業構造（抄）

### ものづくり王国・愛知

「2020年工業統計表〔概要版〕」によると、令和元年の愛知県の製造品出荷額等は47兆9,243億円（従業者4人以上の事業所）と全国の約14.9%を占め、第2位の神奈川県（17兆7,461億円）とは大差で、43年連続日本一のものづくり県であります。

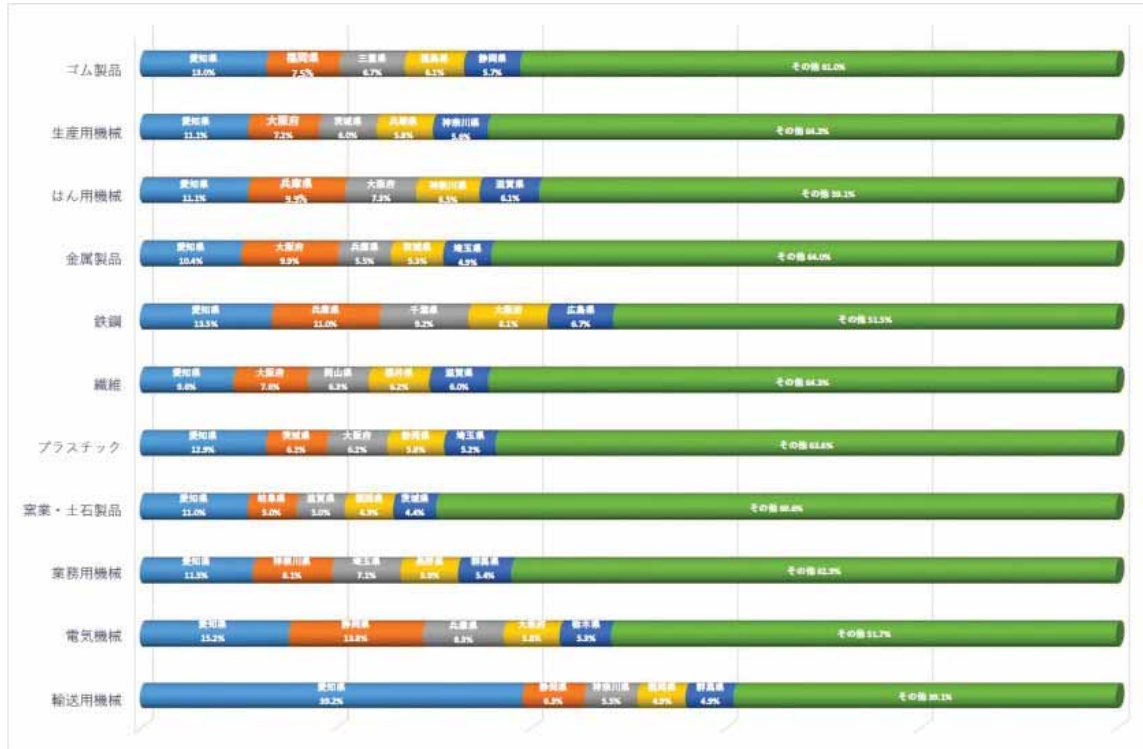
### 都道府県別製造品出荷額等



資料：経済産業省「2020年工業統計表〔概要版〕」

## 全国に対する主な 1 位業種

製造品出荷額等において 24 業種中 11 業種が全国 1 位です。



資料：経済産業省「2020年工業統計表〔概要版〕」

(出典：愛知県ホームページ)





# 目次

はじめに	1
<b>I 2040年頃の社会経済の展望</b>	2
<b>II めざすべき愛知の姿</b>	
1 危機に強い愛知	4
2 すべての人が生涯働き、活躍できる愛知	5
3 イノベーションを創出する愛知	6
4 世界から選ばれる魅力的な愛知	7
<b>III 2030年度に向けた基本目標</b>	8
<b>IV 地域づくりの推進に当たっての横断的な視点</b>	8
<b>V 重要政策の方向性</b>	
1 危機に強い安全・安心な地域づくり	9
2 次代を創る人づくり	10
3 すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり	11
4 安心と支え合いの社会づくり	12
5 豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり	13
6 イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり	14
7 世界とつながるグローバルネットワークづくり	15
8 スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり	16
9 選ばれる魅力的な地域づくり	17
10 持続可能な地域づくり	18
<b>VI 地域別の取組方向</b>	19
尾張地域	20
西三河地域	22
東三河地域	24

## 2 すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知

～多様性を尊重し、豊かな時間を楽しみながら、全員が活躍する社会へ～

今後、AI、IoT、ロボットなどの技術革新の急速な進展により、社会経済の大きな変化が見込まれる。ICT化による多様なライフスタイルの広がりや、外国人県民の更なる増加などを背景に、社会で多様性を受け入れていく必要性が益々高まっていく。人口減少や高齢化が進行する中でも、地域社会を支えていくためには、一人が複数の役割を担っていくことが期待される。

そのため、多様な価値観を認め合う寛容さを持ち、自分の可能性を高めて、次の時代を切り拓いていく人材を育成するとともに、すべての人が豊かな時間を楽しみながら、望む形で役割を担うことができる社会をつくっていく。そして、「人生100年時代」において、お互いが支え合いながら、地域で安心して暮らし、生涯にわたって輝き、活躍できる社会を実現していく。



### 3 イノベーションを創出する愛知

～柔軟な働き方の中で、世界とつながり、新たな挑戦と未来を拓く創造が可能な社会へ～

国内需要が減っていく一方、アジアでは富裕層が急増し、巨大なマーケットが形成されていく。そうした中、世界的な人材獲得競争の激化により、高度人材や必要な労働力が確保できなくなるおそれがある。また、第4次産業革命の進展により、AI、IoT、ロボット等の先端技術が経済活動を始め、幅広い分野において活用され、産業構造や人々の働き方、ライフスタイルを大きく変えていくことが見込まれる。

そのため、あらゆる産業で新技術の活用を進め、「産業首都あいち」として、国際的なイノベーションの創出拠点を形成していくとともに、未来を拓くイノベーションを生み出す人材を育成・確保していく。また、アジアを中心とした世界市場を獲得していくため、新たな投資や海外の留学生、高度人材を呼び込んでいく。さらに、テレワークや兼業・副業など多様で柔軟な働き方ができる社会を構築していく。



(出典：愛知県ホームページ)

# 理工系人材育成戦略（概要）

The first edition

労働力人口の減少の中で、付加価値の高い理工系人材の戦略的育成の取組を始動すべく、文部科学省において、**当面、2020年度末までにおいて集中して進めるべき方向性と重点項目を整理。**

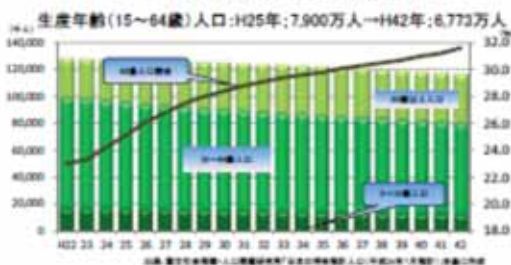
「理工系人材育成-産学官円卓会議」（仮称）を設置し、産学官協働により戦略を実行。

## 理工系人材に期待される四つの活躍

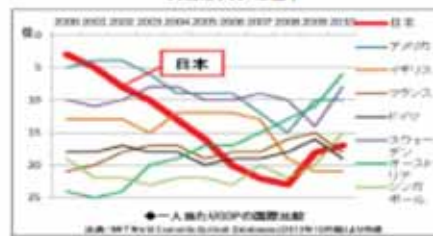
- 新しい価値の創造及び技術革新（イノベーション）
- 起業、新規事業化
- 産業基盤を支える技術の維持発展
- 第三次産業を含む多様な業界での力量発揮

理工系人材に期待される活躍の在り方は一律ではなく、時代の変遷とともに変化。現下及び今後の社会を展望すると、期待される活躍の姿は、四つに代表され、個人及び組織に、より高度な能力が求められていく。この四つの活躍の実現を念頭に、多角的な取組が必要。

平成22年以降の年齢区分別人口推計



一人当たりGDPは低下



# 理工系人材育成戦略（概要）

The first edition

## 【三つの方向性と10の重点項目】

初等中等教育段階から取組を講じ、特に高等教育段階の教育研究機能の活用を重視。

### 【戦略的方向性1】高等教育段階の教育研究機能の強化

#### 重点1. 理工系プロフェッショナル、リーダー人材育成システムの強化

産業界のコミットメントのもと実践的な課題解決型教育手法等による高等教育レベルの職業教育システムを構築し、理工系プロフェッショナル養成機能を抜本的に強化。産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成するため、産学官から国内外第一級の教員を募集し、専門分野の枠を超えた体系的な教育を構築するなど博士課程教育の抜本的改革と強化を推進。

#### 重点2. 教育機能のグローバル化の推進

大学等の教育機能の国際化を推進し、世界規模での課題発見・解決等ができる理工系人材を育成。理工系分野のカリキュラムにおける留学プログラムの設定や海外大学との単位互換を促進。

#### 重点3. 地域企業との連携による持続的・発展的イノベーション創出

#### 重点4. 国立大学における教育研究組織の整備・再編等を通じた理工系人材の育成

### 【戦略的方向性2】子供たちに体験を、若者・女性・社会人に挑戦を

#### 重点5. 初等中等教育における創造性・探究心・主体性・チャレンジ精神の涵養

主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）を促進するための教育条件整備や観察・実験環境の計画的整備、大学等との連携による意欲・能力のある児童生徒の発掘や才能を伸ばす取組を推進。

#### 重点6. 学生・若手研究者のベンチャーマインドの育成

ベンチャーマインドや事業化志向を身につける大学の人材育成プログラムの開発・実施を促進、大学発ベンチャー業界等に飛び込む人材や新規事業に挑戦できる人材を育成。

#### 重点7. 女性の理工系分野への進出の推進

#### 重点8. 若手研究者の活躍促進

#### 重点9. 産業人材の最先端・異分野の知識・技術の習得の推進～社会人の学び直しの促進～

### 【戦略的方向性3】産学官の対話と協働

#### 重点10. 「理工系人材育成-産学官円卓会議」（仮称）の設置

特に産業界で活躍する理工系人材を戦略的に育成するため、産学官が理工系人材に関する情報や認識を共有し、人材育成への期待が大きい分野への対応など、協働して取り組む「理工系人材育成-産学官円卓会議」（仮称）を設置。

産学官協働

（出典：文部科学省ホームページ）

# AI 戦略 2019 【概要】

令和元年7月9日  
内閣府政策統括官 (科学技術・イノベーション担当)

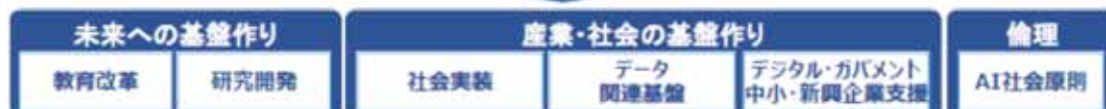


## AI 戦略 【基本的考え方】

- 「**人間尊重**」、「**多様性**」、「**持続可能**」の3つの理念を掲げ、Society 5.0を実現し、SDGsに貢献
- 3つの理念を実装する、**4つの戦略目標** (人材、産業競争力、技術体系、国際) を設定
- 目標の達成に向けて、「**未来への基盤作り**」、「**産業・社会の基盤作り**」、「**倫理**」に関する取組を特定



### 具体目標・取組



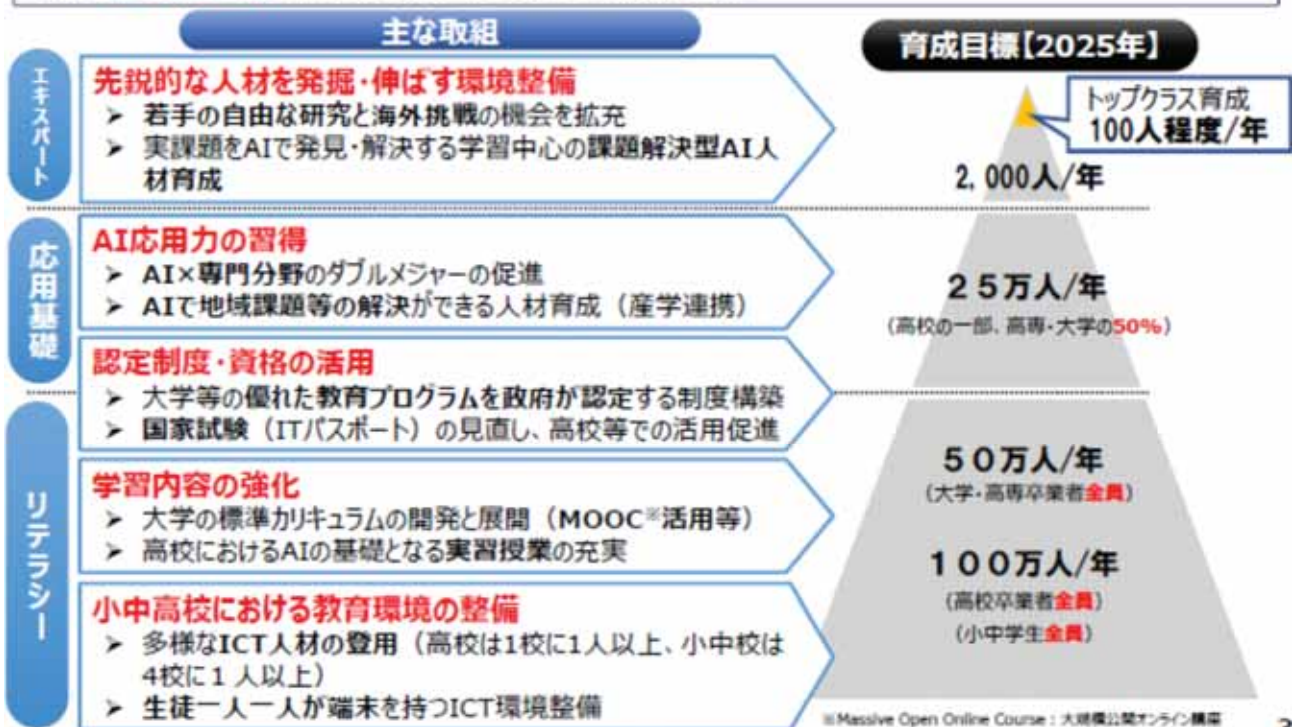
## AI戦略【主な具体目標と取組】

戦略目標の達成に向けて、「**未来への基盤作り**」、「**産業・社会の基盤作り**」、「**倫理**」の各分野（教育改革、研究開発、社会実装、データ、デジタル・ガバメント、中小・新興企業支援、社会原則）における各**具体目標と取組**を特定

		主な具体目標	主な取組
未来への基盤作り	教育改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「<b>数理・データサイエンス・AI</b>」の基礎などの必要な力を<b>全ての国民</b>が育み、あらゆる分野で人材が活躍</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リテラシー：外部人材の積極登用、生徒一人に端末一台</li> <li>応用基礎：AI×専門分野のダブルメジャーの促進</li> <li>エキスパート：若手の海外挑戦拡充、AI実践スクール制度</li> <li>優れた教育プログラムを政府が認定する制度の構築</li> </ul>
	研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の英知を結集する研究推進体制</li> <li>日本がリーダーシップを取れるAI技術</li> <li>AI研究開発の日本型モデルの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な研究者による創発研究の支援拡充</li> <li>世界をリードできる次世代AI基盤技術の確立</li> <li>AI中核センター改革、AI研究開発ネットワーク構築</li> </ul>
産業・社会の基盤作り	社会実装	<ul style="list-style-type: none"> <li>実世界産業のサービス構造への転換</li> <li>インクルージョン・テクノロジーの確立</li> <li>標準化を推進し、開発成果の社会実装を促すシステム・アーキテクチャを先導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康・医療・介護：世界の医療AIハブ、データ基盤整備</li> <li>農業：スマート農業技術の現場導入、成長産業化</li> <li>国土強靱化：インフラデータプラットフォームの構築</li> <li>交通・物流：AIターミナルの実現、物流関連データ基盤構築</li> <li>地方創生：スマートシティ共通アーキテクチャの構築</li> </ul>
	データ関連基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際連携による次世代AIデータ関連インフラの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ基盤：データ基盤の本格稼働と連携</li> <li>トラスト：トラストデータ流通基盤の開発</li> </ul>
	デジタル・ガバメント 中小・新興企業支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共サービス・自治体行政のコスト削減、業務効率化</li> <li>AIを活用した中小企業の生産性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体が安心して利用できるAIサービスの標準化</li> <li>中小企業支援方策の検討</li> </ul>
倫理	AI社会原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会原則普及と国際連携体制構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人間中心のAI社会原則」の定着化、多国間枠組構築</li> </ul>

## 教育改革に向けた主な取り組み

デジタル社会の「**読み・書き・そろばん**」である「**数理・データサイエンス・AI**」の基礎などの必要な力を**全ての国民**が育み、あらゆる分野で人材が活躍



## 「AI 戦略2019」の進捗状況及び「AI 戦略2021」への見直し、 並びに 新 AI 戦略の策定について

令和 3 年 5 月  
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局



### 戦略の進捗状況と見直し、及び新戦略策定の概要 ①

- ✓ 「AI 戦略2019」策定後2年を経過。その間、新型コロナウイルス感染症への対応、我が国社会全体のDXの加速等の状況変化を踏まえつつ、引き続き、戦略目標の実現を目指していく
- ✓ 「AI 戦略2019」のフォローアップとして、これまでの取組の進捗状況及び今後の対応の方向性をとりまとめ、**「AI 戦略2021」に改定し、取組を継続・推進**
- ✓ **これに加え、これまで前提としてきた社会・経済システムが大きく変革していること、諸外国におけるAI関連の動きが加速していること等を踏まえ、社会・経済活動に真に役立つAIの社会実装の促進に重点を置き、本年内を目途に、新たなAI戦略を策定**

各分野の主な取組の進捗状況と「AI 戦略2021」の主な取組の概要は、次のとおり。

	進捗	「AI 戦略2021」の主な取組
教育改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階の全学年の児童生徒一人一人が端末を所有し活用する環境を目指す「GIGAスクール構想」の前倒し実施</li> <li>・大学等における優れた教育プログラムを認定する「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の開始</li> <li>・教育 データ標準の枠組みと「学習指導要領 コード」からなる「教育データ標準」(第1版) (10月) の公表</li> <li>・EdTech導入補助金申請を68件採択。4,303校(小:中:高=5:3:2)にソフトウェア・サービス導入完了</li> <li>・課題解決型AI人材育成プログラム「AI Quest」にて、海外参加者を含めた732名が活発に学び合うオンラインの場を形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「GIGAスクール構想」の実現に関し、全国のICT環境整備や端末の利活用の状況の調査、安定的な実施環境の確保、児童生徒の個別最適な学びの充実、学校現場における教育データの利活用の促進、端末更新時の生活困窮者への対応等【新規・更新・継続】</li> <li>・「数理・データサイエンス・AI 認定制度」の認定プログラムを受講し、数理等に関する基礎的な能力を習得した人材が多く排出されることを産業界が支援するための取組の開始【更新】</li> <li>・人社系大学院教育におけるダブルメジャー・社会人への展開など、更なるデジタル人材の育成に向けて検討する場を設け、<u>具体施策の検討開始</u>【新規】</li> <li>・国の行政機関の職員に対するAI等に関する教育・研修の試行的実施（本年度）、及びそれを踏まえた3年以内の全職員対象を目途にした研修実施の検討【新規】</li> </ul>



## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）概要

**AI戦略2019**

- すべての大学・高専生（約50万人／年）が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得
- 大学・高専の正規課程教育のうち、優れた教育プログラムを政府が認定

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の創設について」報告書に基づき、制度設計

	認定教育プログラム (MOASH-Literacy)*	➡	認定教育プログラム プラス (MOASH-Literacy+)
<b>種類・主な要件</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学、短期大学、高等専門学校等の正規の課程</li> <li>学生に広く実施される教育プログラム（全学展開）</li> <li>具体的な計画の策定、公表</li> <li>学生の関心を高め、かつ、必要な知識及び技術を体系的に修得（モデルカリキュラム（リテラシーレベル）参照）</li> <li>学生に対し、履修を促す取組の実施</li> <li>自己評価・評価（履修率、学修成果、進路等）の実施、公表</li> <li>当該教育プログラムを実施した実績のあること（人文・社会科学等を含む複数学部等からの履修）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>左記認定要件を満たすこと</li> <li>学生の履修率が一定割合以上 全学生の50%以上（3年以内に達成見込みも可）</li> <li>大学等の特性に応じた特色ある取組が実施されていること</li> </ul>
<b>スケジュール</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年2月24日 公募開始（申請受付期間：2021年3月17日～2021年5月14日） 以後、毎年度募集</li> <li>2021年7月頃まで 第1次認定・選定</li> </ul> <p style="font-size: x-small; text-align: center;">* Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education</p>		

数理・データサイエンス・AI教育にコミットする大学・高専を応援！ 多くの大学・高専が数理・データサイエンス・AI教育に取り組むことを後押し！

学生

➡

大学

数理・データサイエンス・AIの  
需要のある学生を輩出

➡

企業

学生に選ばれる
企業に選ばれる

**認定手続き等**

- 審定は外部有識者（内閣府・文部科学省・経済産業省/協議）により構成される審査委員会（3府省共同事務局）において実施
- 審査の結果を踏まえ、文部科学大臣が認定・選定
- 取組の機運醸成を促進するため、3府省が連携して認定・選定された教育プログラムを積極的に広報・普及

（出典：文部科学省ホームページ）

## あいち DX 推進プラン 2025 (概要)

I 名称 あいち DX 推進プラン 2025～デジタルで生まれ変わる愛知～ II 計画期間 5 年間 (2021～2025 年度)

### III あいち ICT 戦略プラン 2020 策定後の変化と新たな取組の必要性

泉政を取り巻く ICT 環境の変化

ICT 施策見直しの必要性

#### < 社会情勢 >

Society5.0、デジタル化、デジタル・ディストラブ  
ション、産業DX (デジタル・トランスフォーメー  
ション)、少子高齢化、働き方改革等

#### < 国の動き >

デジタル・ガバメント、官民データ活用、行政手  
続オンライン化、デジタル庁、自治体DX推進計画  
(仮称)

- ◆ 社会全体のデジタル化は、今後ますます加速するものと考えられるため、行政の効率化 (デジタル化) を推進するとともに、社会全体のデジタル化に向けた公共データの積極的なオープン化を進めていく必要
- ◆ 新型コロナウイルスの感染防止対策として急速に広がったテレワークやオンライン会議の活用、さらには教育におけるICTの活用の動きに的確に対応していくため、県全体の情報基盤の強化に取り組む必要
- ◆ 先を見通すことが非常に難しい時代となる中、あらゆる分野においてDXを進展していくことが求められており、DXへの対応に必要となるICTなどの知識・技術を有するデジタル人材の育成・確保に取り組む必要

### IV プランの趣旨等

策定趣旨 ・ 県におけるICT利活用・DX推進の今後の展開の指針を示す。  
位置付け ・ 「あいちビジョン2030」 (2020年度策定) や「あいち行革プラン2020」 (2019年度策定) の取組をICTの利活用により加速させ、DXを推進する。

### V プランの視点・柱

① 県行政の効率化・DXの推進  
(県民の利便性向上)

② データの活用

③ 県域 ICT 活用支援

④ デジタル人材育成

### VI 視点・柱と主要取組事項の相関

①	1 先進的な ICT 技術を取り入れた業務変革
	2 ICT 環境のモバイル化
	3 行政手続のデジタル化
②	4 官・民における積極的データ活用
③	5 県全体の情報化の推進
④	6 デジタル人材の育成

## 6 デジタル人材の育成

### 取組の方向

- ◆ デジタル・ガバメント実現のための職員  
の ICT 活用能力の向上を図る。
- ◆ デジタル技術を活用することにより、ビ  
ジネスモデルの変革を推進できる産業人  
材の育成に努める。
- ◆ 将来のデジタル人材育成に向け、教育現場  
のデジタル化を進め、ICT 教育を充実させ  
る。
- ◆ 社会のデジタル化にとり残されないよう  
県民の情報リテラシーの向上を図るとと  
もに、ネット上に渦巻く悪意の渦にまき  
こまれないよう情報モラルの教育にも努  
める。

取組の内容	即戦力としての人材育成 (庁内)	産業人材育成	ICT 教育	県民情報リテラシーの向上
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正調達のためのシステム担当者支援</li> <li>・ 管理職向け及び実務者向けICT研修</li> <li>・ ICT支援員の活用や校務の情報化などによる教員のICT活用能力及びICT活用指導力の向上</li> <li>・ 教員のためのオンライン研修</li> <li>・ 企業におけるデジタル人材の育成・確保</li> <li>・ 新たなロボットの競技会の実施</li> <li>・ スマート農林水産業などの次世代の農林水産業を担う人材育成</li> <li>・ 大学対抗ハッカソンの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立高校一人一台タブレット端末の導入</li> <li>・ 各県立学校でWeb会議を実施できる環境の整備</li> <li>・ 特別支援学校で教育支援ソフトウェアの導入、活用</li> <li>・ ICTを活用した教育環境の充実</li> <li>・ 工業高校を工科高校に改称し、IT工学科や理工科を新設、ロボット工学科を拡大</li> <li>・ 民間のクラウドサービス活用によるオンライン学習支援</li> <li>・ 教育ICT環境を活用した児童生徒に対する防犯教育の推進</li> <li>・ イベントや講座等を通じて、インターネット上のマナーやルール、責任や危険性を啓発</li> <li>・ 高齢者等を対象としたICT教育の検討（再掲）</li> </ul>		

(出典：愛知県ホームページ)

ビジョン・目標		実行計画							
		取組み内容							
		ロードマップ							
		2021	2022	2023	2024	2025	2030		
3つの「教育圏（仮称）」の設置									○文理融合による幅広い教養と高度な専門性を備え、総合的な判断ができる人間を育成するため、学部間の横断的な括りとして理工系教育圏（仮称）、生物・生命科学系教育圏（仮称）、人文社会科学系教育圏（仮称）を設置
	中部大学独自のリベラルアーツ教育の全学的実践								○各学部等と協同して総合的な人間力を培うリベラルアーツ教育（創造的リベラルアーツ）を実践するため「創造的リベラルアーツセンター」を設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部横断型、学年縦断型の課題解決学習を中心とした教育プログラムを実践</li> <li>・学園として現在までに実践してきた人間力育成のための取り組み、ESD、SDGs 拠点としての実績を活かして中部大学として特色ある教育活動を展開</li> </ul>
AI 数理データサイエンスの推進								○数理科学の基礎的素養を備えた人材を育成するため、AI、数理科学、データサイエンスに関する教育研究推進を目的とする「AI 数理データサイエンスセンター」を設置 <b>【センターの役割】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI、数理科学、データサイエンスに関する教育研究</li> <li>〔理工学部設置準備と連携して、カリキュラム案の策定等〕</li> <li>〔全学向け e-Learning 教材の開発等〕</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の研究機関、民間企業との共同研究や成果の発信</li> <li>〔 AI、数理科学、データサイエンスに関する世界の研究動向を把握する〕</li> <li>〔とともに、世界的人材を招へいし、当該分野の高度な研究を推進〕</li> </ul>	

ビジョン・目標		実行計画					
		取り組み内容					
		ロードマップ					
		2021	2022	2023	2024	2025	2030
理工学部 の設置	<p>○最新の科学技術や社会の状況を的確に把握し、現在または将来起こり得る課題を発見し解決する能力を育成するために、先進的・創発的な理工学部を設置</p> <p>○工学部において実践している既存の理工学系(ロボット、宇宙航空)教育に加え、理工融合教育の要素である、AI、数理科学、データサイエンス教育を拡充しつつ、理工学の基礎科学教育・研究を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIロボティクス学科の設置(既設)</li> <li>・宇宙航空学科の設置(既設)</li> <li>・数理・物理サイエンス学科の設置(新設)</li> </ul>		設置準備	改組	新学部運営		
		<p>○課題解決できる人間の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI 数理データサイエンスセンター、創造的リベラルアーツセンター、人間力創成総合教育センターの連携により、課題解決できる人材の育成を強化</li> </ul> <p>○卒業要件のうちの自由科目枠を活用した他学科、他専攻の学びを促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副専攻制度の積極的活用</li> <li>・GPA(Grade Point Average/成績評定平均値)に代わる新たな成績評価制度導入に向けた検討</li> </ul> <p>○魅力ある新たな教育プログラムの開設(ESD,SDGs の理念を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既設の地域創成メディアエンタープログラム、グローバル人文教養プログラムなどの少人数による課題解決型授業の増設</li> </ul> <p>○学生の自主性を重視したアクティブラーニングの充実</p>		実行			
<p>文理の枠を越えた学問の総合化による「課題解決できる人間」の育成</p> <p>多様な分野で社会に貢献できる「あてになる人間」になるための創造性豊かな総合的人間力の涵養</p>		検討		実行			
		検討		実行			
		検討		実行			

(出典：中部大学ホームページ)

資料 13 あいちロボット産業クラスター推進協議会の概要

会 長：愛知県知事 大 村 秀 章

目 的：産学行政が連携して、ロボットの研究開発や生産の拠点を形成し、新技術・新製品を創出していくことにより、世界に誇れるロボット産業拠点の形成を目指しています。

会員数：524団体・社（2021年12月末現在）

事務局：愛知県経済産業局産業部産業振興課

あいちロボット産業クラスター推進協議会規約（抄）

（名称）

第1条 本会は、あいちロボット産業クラスター推進協議会（以下、「協議会」という。）と称する。

（目的）

第2条 協議会は、産学行政が連携して、ロボットの研究開発や生産の拠点を形成し、新技術・新製品を創出していくことにより、世界に誇れるロボット産業拠点を形成することを目的とする。

（事業）

第3条 協議会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）ロボット産業の集積に係る事業の推進
- （2）その他協議会の目的を達成するために必要な事業

（構成）

第4条 協議会の会員は、第2条の目的に賛同する法人又は団体、個人とする。

（出典：愛知県ホームページ）

## 資料 14 愛知県のロボット産業の概要

### ロボット産業集積の状況

日本有数のロボット製造業の集積地となっている。

#### ▶ 製造品出荷額等

順位	都道府県名	出荷額	割合
1	山梨県	4,294億円	44.4%
2	愛知県	1,706億円	17.7%
3	福岡県	932億円	9.6%
4	静岡県	456億円	4.7%
5	兵庫県	429億円	4.4%

出典：2020年工業統計調査

#### ▶ 事業所数

順位	都道府県名	所数	割合
1	愛知県	59ヶ所	14.9%
2	長野県	27ヶ所	6.8%
3	兵庫県	27ヶ所	6.8%
3	静岡県	26ヶ所	6.5%
5	神奈川県	21ヶ所	5.3%

出典：2020年工業統計調査

#### ▶ 従業者数

順位	都道府県名	人数	割合
1	山梨県	5,023人	26.7%
2	愛知県	2,478人	13.1%
3	福岡県	1,912人	10.1%
4	静岡県	1,539人	8.2%
5	長野県	1,047人	5.6%

出典：2020年工業統計調査

(出典：愛知県ホームページ)

## 航空機製造に関する人材の構成及び育成面の課題

※東海産業競争力協議会報告書（平成 26 年 3 月）より抜粋

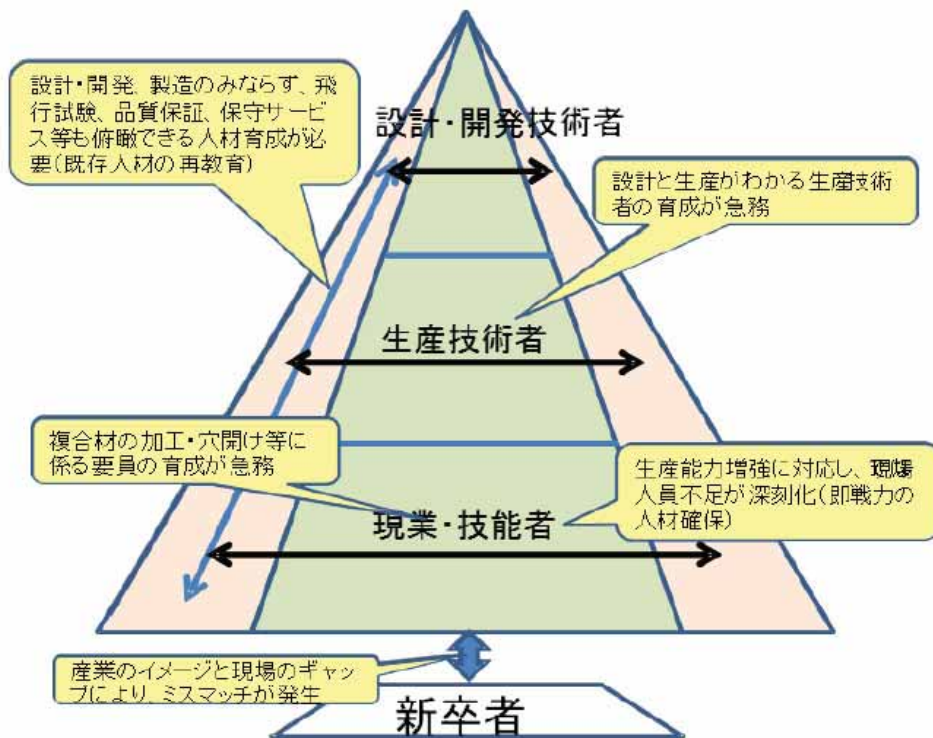
[人材の確保、定着、育成]

(短期的事項 (a) (b) 及び中長期的事項 (c) (d) に関わる課題)

各社においては、月産機数の大幅な増加により技能人材の確保ができておらず、設計・開発技術人材についても新機種の開発サイクルが長期にわたるため育成・承継が進んでいない。(図表 3-1-2-10) そのため会社の垣根を越えて業界横断的な取組による次のような対応が必要である。

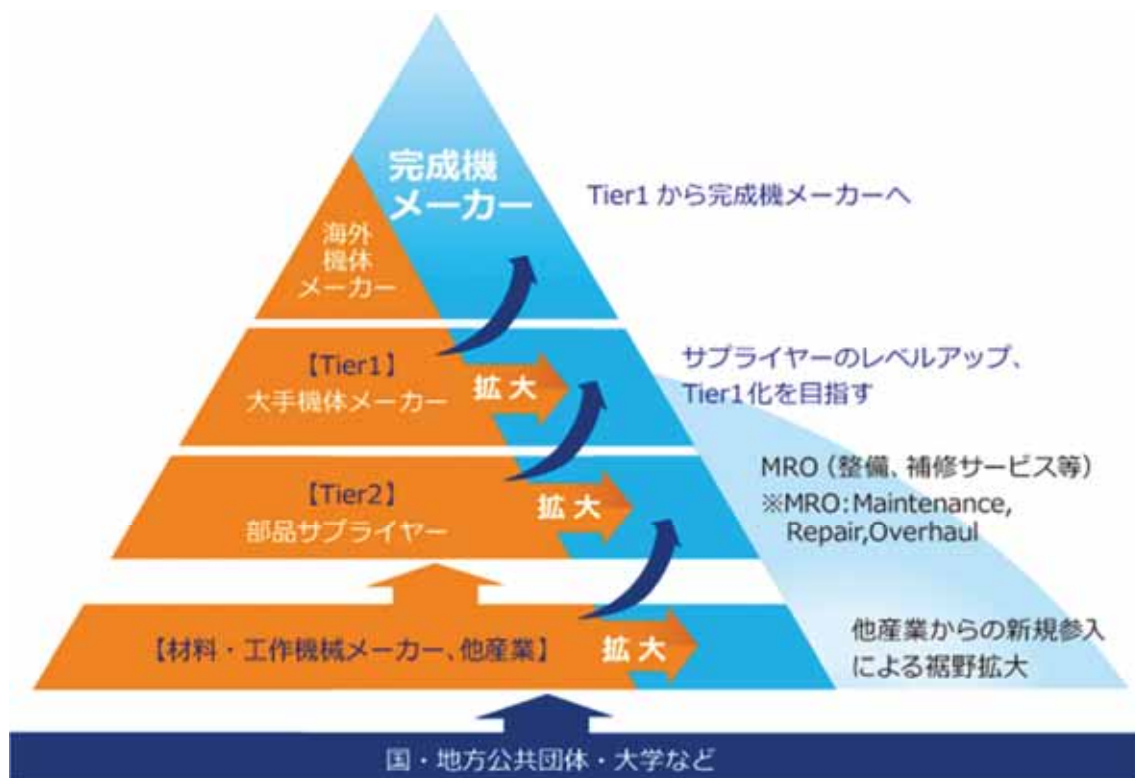
- ・喫緊の課題である航空機製造技能者の確保に向け、技能レベルの標準化、標準化した技能レベルに対する業界公的認定、既存教育施設の活用
- ・生産技術者、設計・開発技術者の維持・確保
- ・将来の航空機製造の担い手確保を目的とした理解促進、情報発信
- ・認証取得等を含む国際ビジネスで活躍できる人材の育成
- ・女性や派遣労働者のより効果的な活用方策の検討
- ・製造現場や将来を見据えた MRO で求められる整備士や製造技能者等の確保、定着、育成に向けた関係省庁、産業界、教育機関の連携強化

<図表 3-1-2-10 航空機製造に関する人材の構成及び育成面の課題>





## 地域の航空機産業の目指す将来像のイメージ



### 目標は航空宇宙産業の世界三大拠点の一つとなること

現在、海外の完成機メーカーをピラミッドの頂点として、当地域には、1次下請に位置するティア・ワン (Tier1) の大手機体メーカーのほか、2次下請のティア・ツー (Tier2) が数多く立地しています。

当地域では、更なる企業集積や航空機生産機能の拡大・強化を図り、ピラミッドの裾野を広げるとともに、ピラミッドの頂点となる全機インテグレーション (完成機製造) 技術を獲得し、アメリカのシアトル、フランスのトゥールーズと肩を並べる航空宇宙産業の世界的な拠点となることを目指しています。

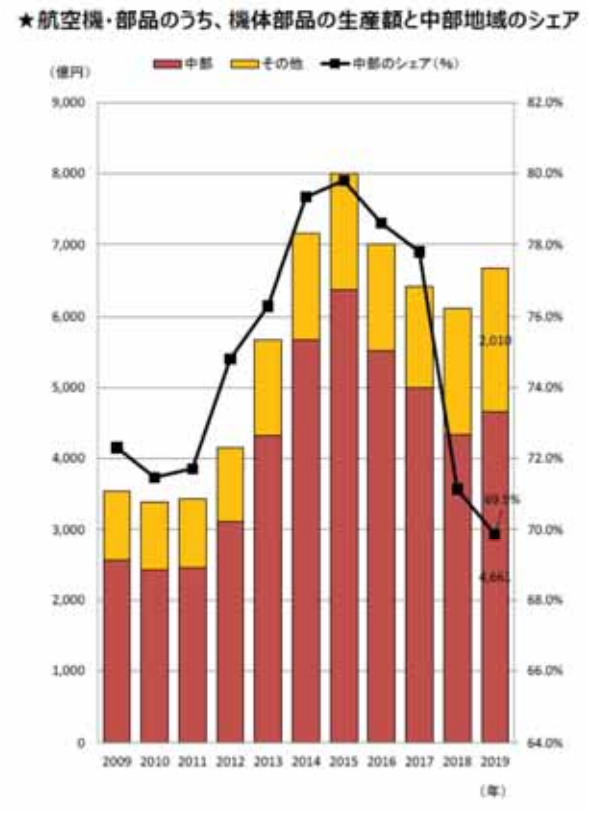
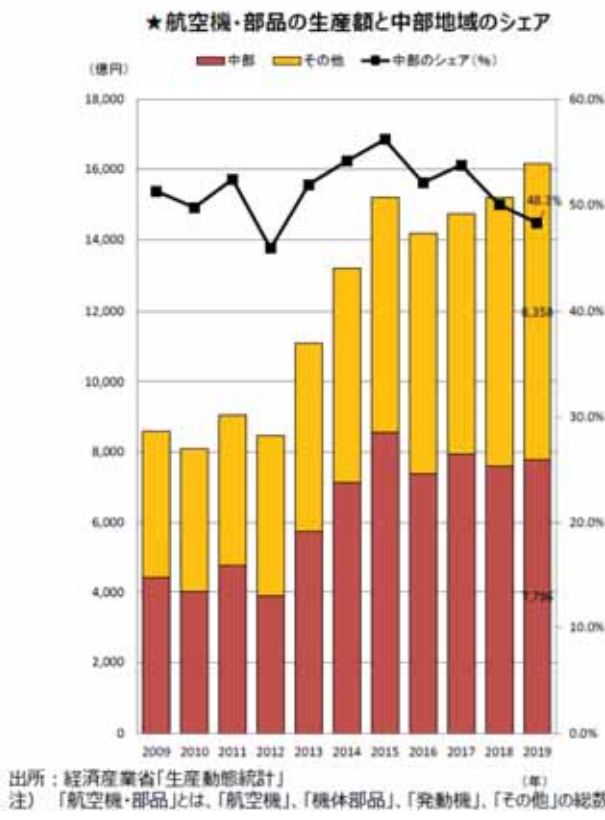
※ 2020年3月航空宇宙産業クラスター形成特区～航空宇宙産業の世界三大拠点をめざして～  
(アジアNo1航空宇宙産業クラスター形成特区推進協議会) より抜粋

資料 17 全国と中部地域の航空機・部品生産額の推移等

全国と中部地域の航空機・部品生産額の推移等

中部地域は、航空機産業を担う重工メーカーに加え、中堅中小企業も数多く立地し、サプライチェーンを形成していることを背景に、事業所数においては全国約4割を、従業者数及び生産額においては、全国の約5割を占めるわが国随一の産業集積を形成している。

<全国と中部地域の航空機・部品 生産額の推移>



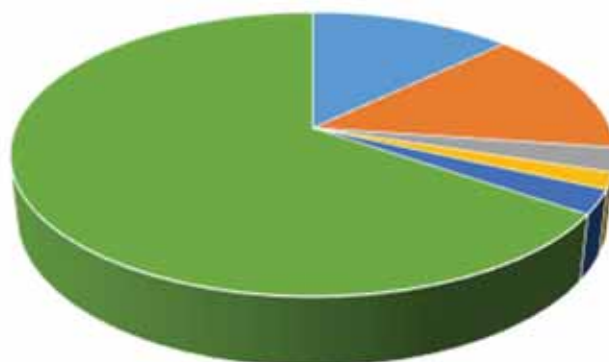
※「中部経済のポイント2020」（2021年1月経済産業省中部経済産業局）より抜粋

<航空機産業の事業所数、従業者数の全国比>

2019年 航空産業の事業所数

	愛知	岐阜	長野	静岡	三重	その他	全国計
事業所数	42	47	9	6	9	214	327
割合	13%	14%	3%	2%	3%	65%	100%

2019年 航空産業の事業者数

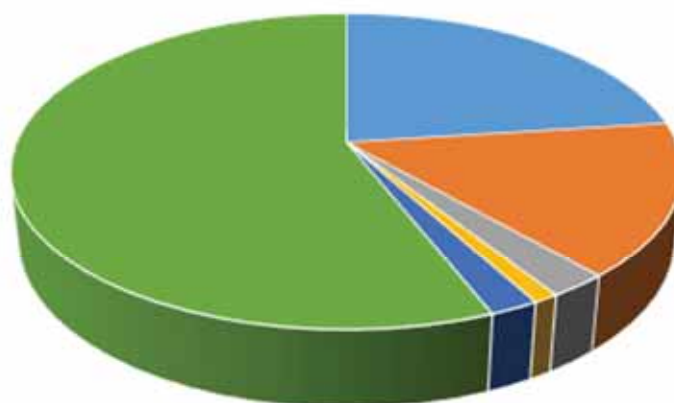


■ 愛知 ■ 岐阜 ■ 長野 ■ 静岡 ■ 三重 ■ その他

2019年 航空産業の従業員数

	愛知	岐阜	三重	静岡	長野	その他	全国計
従業員数	11,301	7,696	1,199	504	986	27,539	49,225
割合	23%	16%	2%	1%	2%	56%	100%

2019年 航空産業の従業員数



■ 愛知 ■ 岐阜 ■ 三重 ■ 静岡 ■ 長野 ■ その他

(2020 経済産業省 工業統計に基づき本学が作成。)



## 航空宇宙産業の伸び率

○ 日本経済の未来を担う、中部の航空宇宙分野の進展

### ◆日本経済のけん引役としても期待される航空宇宙産業

航空機産業は成長産業であり、今後 20 年の予想は次のとおり。

#### 伸びしろある航空宇宙産業

我が国の航空宇宙産業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、航空機需要が激減したことにより、民間航空機の製造サプライヤーは大きな打撃を受けています。

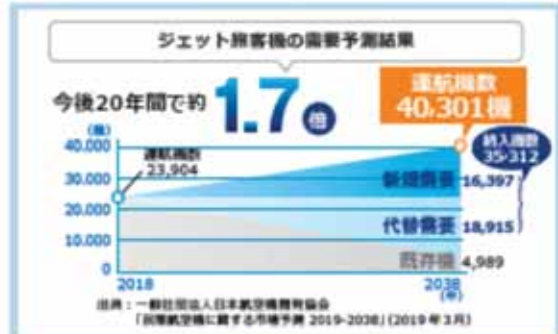
しかしながら、

- ① これまでも、SARS（サーズ：重症急性呼吸器症候群）等の外的要因により航空旅客需要に影響を受けてきたが、原因の収束後は回復してきたこと、
  - ② 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前の世界の民間航空機市場では、今後 20 年間で約 3 万 5 千機の新造機の需要が見込まれており、収束後は航空旅客需要が回復し、再び成長すると見込まれていること、
  - ③ 機体構造・エンジン・装備品で参画可能な事業領域が残されており伸びしろがあること、
  - ④ 自動車等の他産業分野で培った技術・ノウハウや、ものづくり中小企業の潜在力のさらなる活用余地があること
- などから、発展可能性が大いにあると考えられています。

また、航空宇宙産業は、自動車産業と比較して、部品点数が多く、技術波及効果が高いことが特徴として挙げられます。

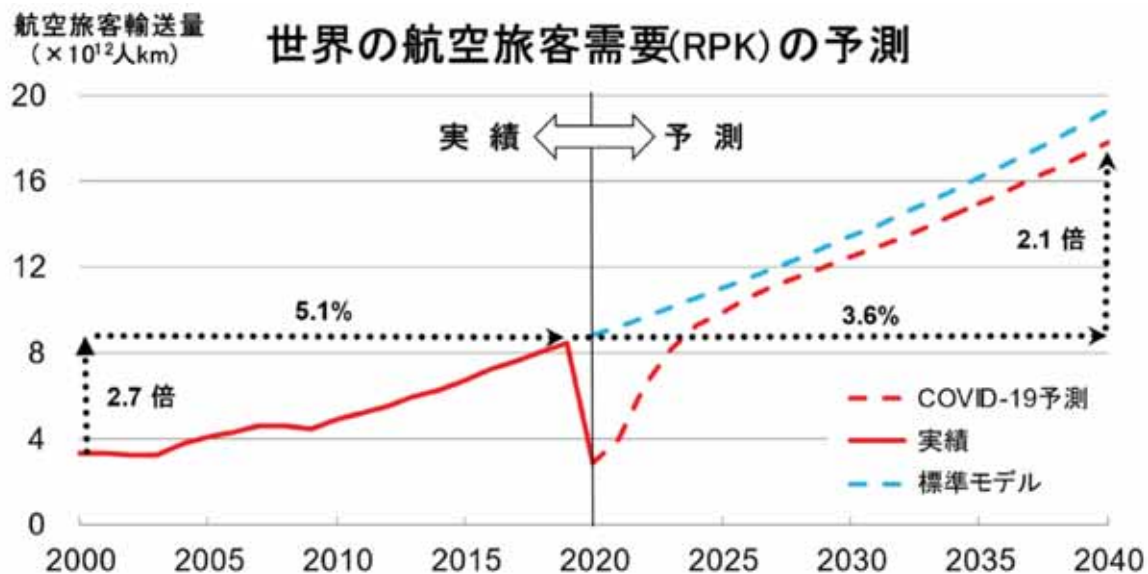
一方、世界の商業宇宙市場の規模は、今後拡大していく見通しであり、そのけん引役は新興国です。これらの国は、自国内に宇宙産業基盤を必ずしも有していないため、人工衛星や打上げサービスを商業市場から調達することが多くなっています。こうした国々の増加は、商業宇宙市場の拡大につながるものであり、我が国を始めとする各国の宇宙産業にとっても好機となりつつあります。

こうした中、我が国最大の航空宇宙産業集積地である愛知・岐阜・三重・長野・静岡地域においては、国際戦略総合特区や自治体独自の施策に基づいて支援措置が手厚く講じられており、さらなる企業集積や航空機・宇宙機器の生産機能の拡大・強化を図っていくための環境が整備されています。

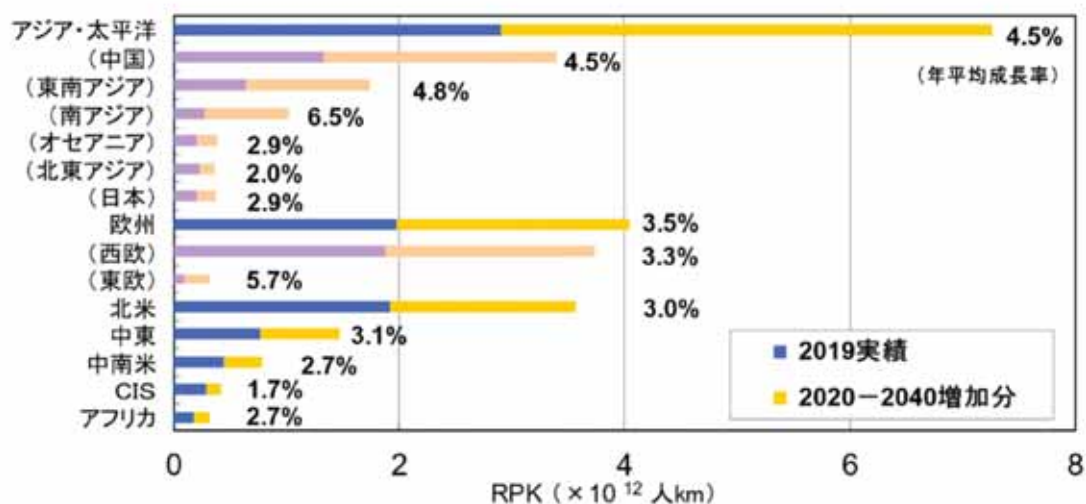


(出典：愛知県ホームページ)

◆世界の航空旅客予想



### 地域別航空旅客需要予測結果



(出典：(一財) 日本航空機開発協会「民間航空機に関する市場予測 2020-2040」(2021年3月))

## 海外クラスターとの比較

※東海産業競争力協議会資料（平成 26 年 3 月）より抜粋。

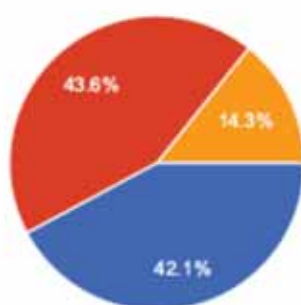
	ワシントン州 シアトル周辺 (アメリカ)	ミディピレネー及 びアキテーヌ地域 (フランス)	メトロポリタン・ ハンブルク (ドイツ)	ケベック州 モントリオール (カナダ)	中部地域
中核都市	シアトル ■面積：369.2km <sup>2</sup> ■人口：約579千人	トゥールーズ ■面積：118.3km <sup>2</sup> ■人口：約438千人	ハンブルグ ■面積：755.26km <sup>2</sup> ■人口：約1,744千人	モントリオール ■面積：363.52km <sup>2</sup> ■人口：約1,621千人	名古屋市 ■面積：326.43km <sup>2</sup> ■人口：約2,268千人
組織	ワシントン州航空 宇宙未来連盟 (AFA-WA)、北 西太平洋航空宇宙 連盟 (PNA)、グ レータースポケ ン地域航空宇宙 コンソーシアム、 Washington Aerospace partnership	エアロスペース・ バレー協会	ハンブルク・アビ エーション	エアロ・モントリ オール (大企 業)、ケベック州 航空宇宙協会 (AQA)	中部航空宇宙産業 技術センター
産業集積	ボーイングを核に 約1,250社がクラス ターを形成。	航空機に係る全て の産業が集積。エ アバス社を始め 1,600社でクラスター を構成。	エアバス、ルフト ハンザ・テクニ ック、ハンブルク空 港の大企業3社及び 300以上の中小企業	ボンバルディア、 プラット&ホイット ニー (エンジ ン)、CAE (フラ イトシミュレータ ー) など234社	三菱重工、川崎重 工、SUBARUの3 機体メーカー及び 中小サプライヤー
従業員数	約128千人	約120千人	約40千人	約42千人	約15千人
人材育成	ワシントン航空宇宙 トレーニング研究セ ンター (WATR)、24の COMMUNITY COLLEGE、 The Center of Excellence (COE)	エンジニア養成高 等教育機関 (グラ ンゼコール) (ISAE,ENAC)、 Montaudran Aerospace Campus、 THE AIRBUS LYCEE (高校)	航空トレーニング センター (HCAT)、応用航 空研究センター (ZAL)	ケベック航空宇宙 人材育成センター (CAMAQ)、 AEROSPACE TRADE SCHOOL (ÉMAM)、 NATIONAL AERONAUTIC SCHOOL (ÉNA)、 高等工学技術学校	中日本航空専門学 校、株式会社VRテ クノセンター
国際協力	パリ (仏)・ドバ イ (アラブ首長国 連邦) のエアショ ー出展、海外都市 訪問、年次会議・ イベント参加な ど。	ハンブルク・アビ エーション (独)、エアロ・ モントリオール (加) と提携	エアロスペースバ レー (仏)、エア ロ・モントリオ ール (加) をはじ め、欧州圏内13か 国のクラスターと 提携	バイエルン (独)、ハンブル ク・アビエーショ ン (独)、エアロ スペースバレー (仏) ワロン (ベ ルギー)、ジェシ ュフ (ポーラン)	なし
国際商談会	エアロスペース& ディフェンスサブ ライヤーサミッ ト・シアトル	エアロマート・ト ールーズ	エアクラフト・イ ンテリアズEXPO	エアロマート・モ ントリオール	エアロマート名古 屋

## 中部大学「理工学部」設置に関するアンケート

140 件の回答

A-1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

140 件の回答



- 1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

2 件の回答

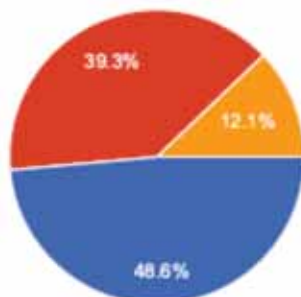
同様の学部・学科が愛知県内および近隣の大学で少ないから

現代の状況に合わせた学問をやることは意味があるが新しい学科を作ることに対しては疑問を感じる。新しいことを意識しつつ基本を大切にしないと単なる人集めになりかねない。



A-2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

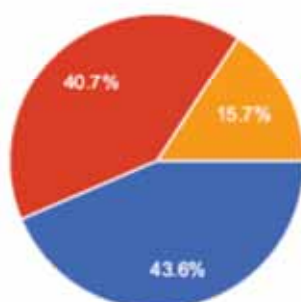
2件の回答

工学との親和性が高いと思うから

現代の状況に合わせた学問をやることは意味があるが新しい学科を作ることに対しては疑問を感じる。新しいことを意識しつつ基本を大切にしないと単なる人集めになりかねない。

A-3. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

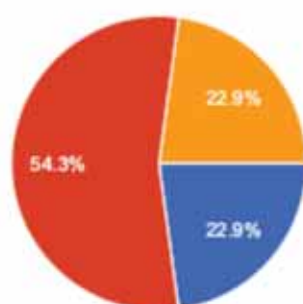
上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

1件の回答

宇宙も航空も広い分野の学びが必要で名大においても学部ではほとんど機械のことを学んでいる。宇宙や航空とつけることで人集めはして欲しくない。

B-1. 中部大学工学部の数理・物理サイエンス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

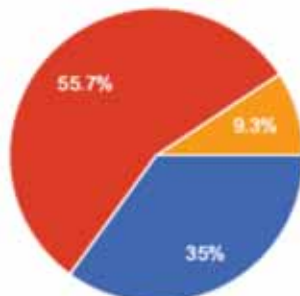
上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

B-2. 中部大学理工学部のアロボティクス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

140 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

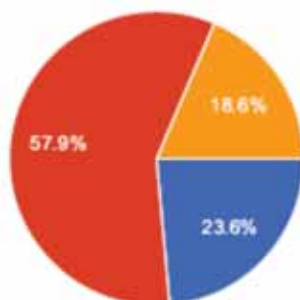
上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

B-3. 中部大学理工学部の宇宙航空学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

140 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

C-1. 中部大学理工学部の数理・物理サイエンス学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 数理・物理サイエンス学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
- 2. 数理・物理サイエンス学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
- 3. 数理・物理サイエンス学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
- 4. 数理・物理サイエンス学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
- 5. その他（具体的なご意見を下にご記入ください。）

上記の設問で「5」とお答えになった場合は、具体的なご意見をお書き頂ければ幸いです。

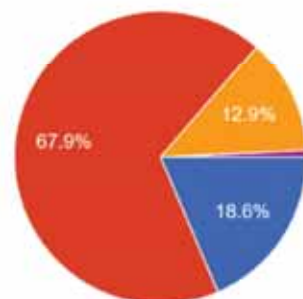
2件の回答

数理に対するの苦手意識がある生徒も多く、また進路に関しての明確なビジョンが立てられない者が多いように感じるためである。

人はある程度集まるがそれ程（今までと違う）人材が変化するとは思われない。

C-2. 中部大学理工学部のAIロボティクス学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. AIロボティクス学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
- 2. AIロボティクス学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
- 3. AIロボティクス学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
- 4. AIロボティクス学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
- 5. その他（具体的なご意見を下にご記入ください。）

上記の設問で「5」とお答えになった場合は、具体的なご意見をお書き頂ければ幸いです。

2件の回答

本校では来年度よりロボティクスコースが設置される。今後の産業に役立つと考えてのことであり希望する生徒も多いためである。

人はある程度集まるがそれ程（今までと違う）人材が変化するとは思われない。

C-3. 中部大学理工学部の宇宙航空学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 宇宙航空学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
- 2. 宇宙航空学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
- 3. 宇宙航空学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
- 4. 宇宙航空学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
- 5. その他（具体的なご意見を下にご記入ください。）

上記の設問で「5」とお答えになった場合は、具体的なご意見をお書き頂ければ幸いです。

3件の回答

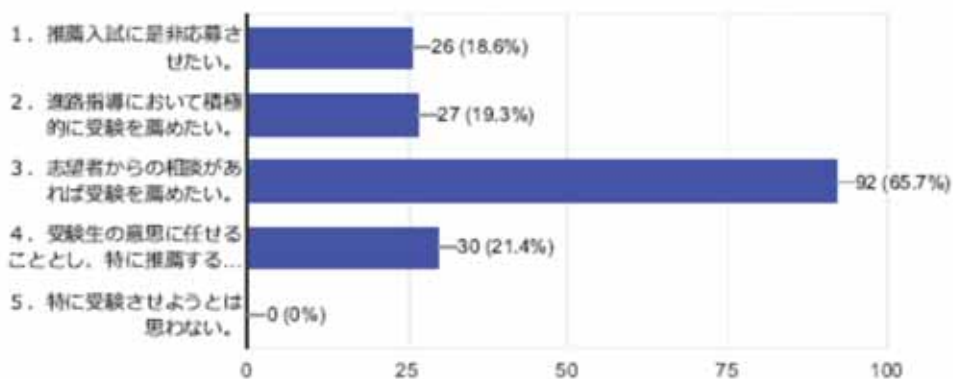
毎年いるかどうかはわからないが学修したいと思う生徒は何年かに1～2人はいると思います。

宇宙ビジネスと呼ばれるほど宇宙産業は発展している。本校は工業高校であり、興味のある生徒はいると思われる。

人はある程度集まるがそれ程（今までと違う）人材が変化するとは思われない。

D-1. 貴校卒業生の数理・物理サイエンス学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目にチェックを入れてください。)

140件の回答



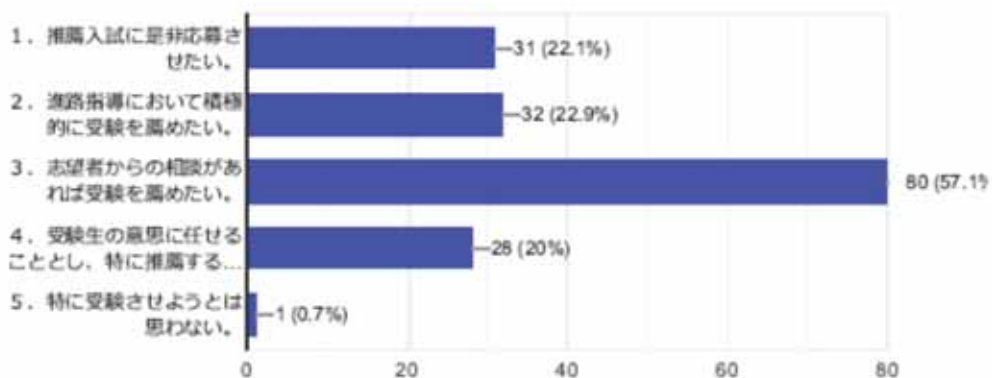
上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

D-2. 貴校卒業生のAIロボティクス学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目に○を付してください。)

140件の回答



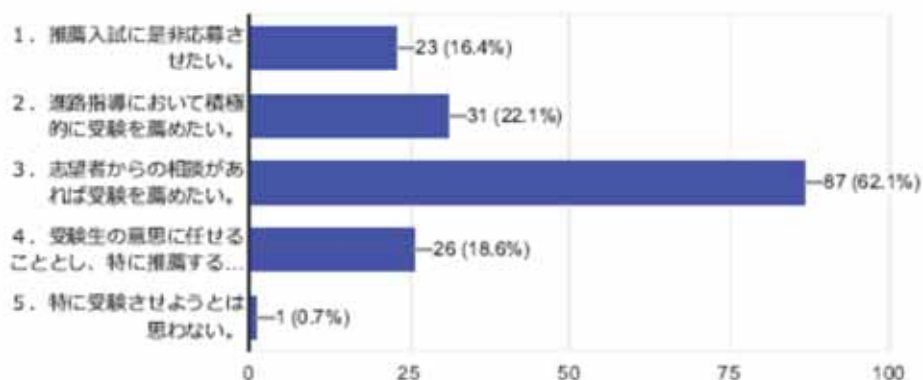
上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

D-3. 貴校卒業生の宇宙航空学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目に○を付してください。)

140件の回答



上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

1件の回答

どこについてもそれ程内容にちがいはなく基本を大切にしようとして指導します。つまり中部と名城の機械は同じものとしてみなさいが根底にあります。中部には宇宙について名城や愛工大に宇宙がつかなくても同じだという考え方を基本にして指導します。

E. 本学が計画する理工学部を設置に期待する事柄、ご助言等（教育内容、学生教育方針等）がございましたら、ぜひご意見・ご指導等をご教示ください。

- 教員免許などの資格がとれるといい。
- 理系の生徒にとってはとても興味深く設置について期待しています。
- データサイエンス、AIはSociety5.0において重要事項だし貴学はこれまでも宇宙工業でさまざまな研究を続けてこられていることを考えれば今回の理工学部を設置はもったいないことだと思います。
- 質問になりますが、こちらの理工学部は工学部からの吸い上げもしくは合併という形でしょうか。
- 県内私立大学で数学や物理学を主専攻とする学科が少ないので設置はよいと思います。教職等への支援があるとありがたいです。
- 都市部にキャンパスがあると勧めやすいです。
- 東海地方の私立の大学に工学を学べる大学は多いが、理学が学べる大学が少ないと感じる。貴学は理工学部としての設置であるようなので、ぜひこの地方の理学、数学や物理を学びたい、研究したいと志す生徒の期待に応えていただけたらうれしいです。
- 中部・東海地域の産業界に大きな役割を果たすことのできる人材を多く輩出していただける大学として今後も期待を寄せております。
- 高校生にとって選択肢が増えることは望ましい。
- 指定校応募の条件に奨学生入試受験を必須としていただきたいと思います。
- 中部地方の大学の、研究力の向上に邁進してもらいたい。期待しています。
- 新学部の設置で優秀な学生が集まり、学内がより活性化し更なる魅力ある大学には発展されることを期待しております。
- 中部地区のみならず日本を背負う人材の育成を期待しています。平均的学力以外でも、興味、関心の部分を高く評価し、広い分野で学生を受け入れてくださることを望みます。
- 第一に基礎学力の定着、第二に実践力の習得を期待します。
- 学生育成方針について 学生自ら課題を発見し解決策を考え実践する。そうした学生を育てるカリキュラムにしてほしい。本校もそうした生徒育成方針で行きたいと考えています。よろしく願います。
- 一般に理学部物理系の卒業生の就職先がよくわからない傾向にある。実際に中京圏での具体的な就職先のビジョンはどうなのかが聞きたい。工学部の就職先と基本的には被るものでしょうか。
- 本校においても教育内容、学校運営の方向性等を見直していこうと考えております。デジタル技術を用いた新たな社会や産業の育成は必要かと思います。いろいろと情報を与えていただければ幸いです。
- 愛知県には理学を学べる大学が少ないので、数理・物理サイエンス学科で「科学に基づいた論理的思考力・分析力」をもつ学生を養成されることに期待します。「人文・社会系学問を含む幅広い教養を習得させる」とあることにも好感を持ちました。
- データサイエンスはこれからの社会で重要な分野である。専門的な学びと、それを活用できるような出口（就職だけでなく大学院も）を意識した教育活動・研究活動をしていただけたらありがたい。
- 愛工大、大同大に負けない「売り」になるものがあると良いと思いますが、個人的には就職率などを競うより、国立大の大学院への進学者をふやすなどの教育内容の面に力を入れるほうが進学校にはアピ



ールできるのではないのかと考えます。

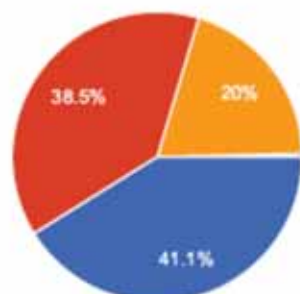
- 貴校は本校理系生徒が第一志望とする大学です。先進的な取組は生徒の興味、関心を引くと思われま  
す。
- 平素より、本校の卒業生がお世話になっております。今後ともよろしく申し上げます。
- 数学教員の免許を取得可能な大学が県内に少ないため貴学に期待したい。
- 新設学部の入学から出口戦略までのフローチャートやヴィジョンなどの見える化（可視化）をお願い  
したい。産学官連携の推進等も活性化して日本の産業構造を改革していただきたい。
- 産業界に貢献できる学生を積極的にご指導くださればありがたいです。
- 数理・物理サイエンスは科学の礎としては非常に重要であると考えているが現在の社会や企業が重視  
して人材採用するとは考えにくい。今後、卒業生の活躍に期待したいです。
- 理系の分野は日々進歩しており、新しい学科の設置が必要であるよう思われます。
- ご発展をお祈りします。本校は貴学に近い位置にありますので積極的な活動に反応しやすいと考えま  
す。
- 本校の職業課程の生徒が貴校のそれぞれの学科を志すきっかけとなるよう、貴校の設備や教員を活用  
した連携授業などができるとよいと思います。また、大学は研究機関でもあるので、企業と連携した最  
新の取り組みなどを魅せることにより、理工学部の学修内容により関心を持ってもらうことが、理工学  
部設置の理念、意義に合致してくると考えられます。
- 今後も社会状況の変化に合わせた学部、学科等の設置をお願いします。
- 多くの指定校推薦枠を毎年いただき感謝しております。学力的には決して高いと言える生徒ではあり  
ませんが熱意は十分ある生徒を送っているつもりではありますがご迷惑をおかけしている点などあれ  
ばご指摘いただければ幸いです。
- 生徒にとって選択肢が増えることは良いと思います。
- 愛工大、中部、大同と昔から工業大学としてした教育をしていると信じているので学部学科の名前を  
変えたり急に医療系学部を（人が集まるだろうからと）作ることは長い目で見たとときに堅実だと信じま  
す。
- 中部地区にこのような学部が設置され生徒の進路への道がひろがるのはたいへん望ましく、ぜひ指定  
校をいただけたら幸いです。
- 特にございません。
- 現場の教員にくる質問に「新設で就職はどのようなのですか？」（特に保護者）がある。この地域の中小企  
業にニーズありと思うが、その説明や広報が、受験者数や質につながると思う。
- 受験者および保護者への周知が高校教員任せにならないようにするのはどんな方法が？（えらそうで  
すみません）
- 地元産業を支える人材を多く輩出し、愛知県の「ものづくり」産業をさらに活性化されるよう、期待し  
ています。
- 卒業生がお世話になっています。大学としての特色作りの面もあるかと思いますが、名称について、  
学科名から学びの内容がすぐにわかる方が、現場の教員が勧めやすいと思います。
- 毎年興味をもつ生徒がおりますので設置に期待しております。よろしく申し上げます。
- 世界で活躍する人材を育成していただきますようお願いいたします。応援いたします。

- 東海地方における工学部系統の定員数について今後も供給の見込みが少ないため貴学にて増員していただけることは大変有難いと思います。これからもよろしくお願いします。
- 数理・物理サイエンス学科で中高数学の教員免許が取得できることが望ましい。
- 現在の工学部の各学科がどのように改変されるのかは不安のあるところです。本校から貴学への受験につきましては様々なご配慮を賜り誠にありがとうございます。今後とも格別のご指導を賜りますようお願い申し上げます
- 研究環境はよいと思います。一方、入試制度については特別奨学生制度（12月に行うもの）を改めて頂けるとありがたいです。
- 数理・物理サイエンス学科で数学や理科の教員免許が取得可能なら、生徒の選択肢が広がると思います。
- 中京圏に理学の数学、物理分野の学べるところが少なく非常に期待します。できるならば 教員免許の取得も可能になるとありがたいです。
- 一般受験枠の十分な確保が質の高い学生を集めるには不可欠と思われる。
- 高校でベクトルの内積や微分、積分の量的解釈ができない生徒が大学の高い見地からの講義によって目を覚ますことは大いに考えられる。それらを基盤として倫理観の伴った工学への応用を夢想して自分たちの明るい未来を築いてほしい。

## 資料 22 理工学部を設置に関するアンケート調査（企業）結果

A-1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6 件の回答

中部地区にこの学科がない為

数学のレベルが高い学生が入学するのか？

いま必要とされる人材を育てる学部であるため

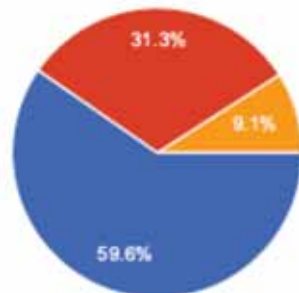
幅が広がる

データサイエンスを学んでいる学生さんを希望する為。

弊社の事業内容とはマッチしないため。世間一般的には望ましいのではと考えます。

A-2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

265件の回答



- 1. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6件の回答

将来にわたり有望な基幹産業になり得る。

0→1を創る人を育成するのか？今あるAI+ロボットを使える人を育成するのか？

いま必要とされる人材を育てる学部であるため

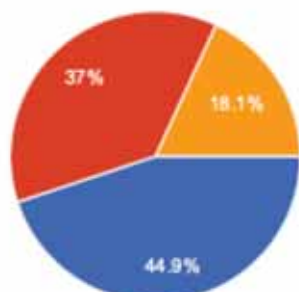
AI分野の人材が育成されるから

AIを学んでいる学生さんを希望する為。

弊社の事業内容とはマッチしないため。世間一般的には望ましいのではと考えます。

A-3. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部大学理工学部宇宙航空学科を設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部宇宙航空学科を設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6 件の回答

宇宙開発を進める人工衛星進化、確実性、有人人工衛星→日本は遅れている。

中部大を出て企画・設計が出来るのか？機械科もCFRPの加工の研究をしている。

いま必要とされる人材を育てる学部であるため

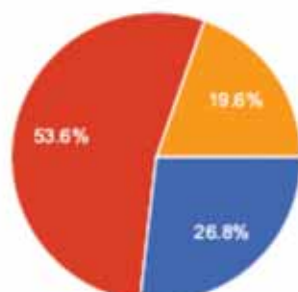
分からない

宇宙航空業のプロジェクトを有している為。

弊社の事業内容とはマッチしないため。世間一般的には望ましいのではと考えます。

B-1. 中部大学理工学部の数理・物理サイエンス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

7 件の回答

全国的な視点で物事を捉える為。

必要性は高いがトップレベルでないと仕事にならない。

核融合、量子コンピュータといった未来の仕組みを作るものであると考えるため

特にアジアクラスターが愛知県に設定されています中部地区は飛鳥もあり宇宙航空については望まれる所です。

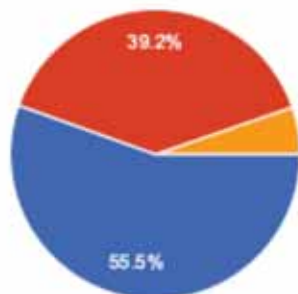
特になし

データサイエンスという分野は業界問わず、多方面に生きる為。

特にアジアクラスターが愛知県に設定されています中部地区は飛鳥もあり宇宙航空については望まれると  
ころです。(B-1は未回答)

B-2. 中部大学理工学部のAIロボティクス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6 件の回答

全国的に必要となる。中部地区限定ではない。

自動化、省力化のためのスタッフとして

自動化需要の高い中部地区に合致した知識・技術であると考えため

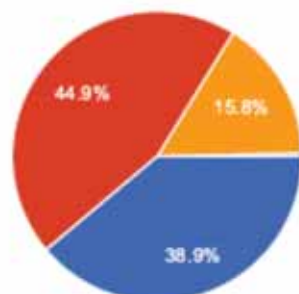
産業的な範囲でみると自動車関係、物流関係で必要性は大いに高いと思われる。

今後さらに必要となる分野だから

AI・ロボティクス分野は、自動車業界含めどの業界でも生きる為。

B-3. 中部大学理工学部宇宙航空学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

5 件の回答

全国的に必要となる。中部地区限定ではない。

航空産業の将来性が分からない。

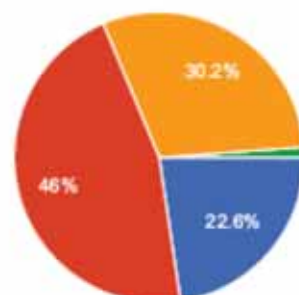
航空関係の業種が多い中部地区に合致した知識・技術であると考えため

今後必要とされる分野だから

中部地区でも宇宙航空業のプロジェクトを有している為。

C-1. 中部大学理工学部数理・物理サイエンス学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

265 件の回答



- 1. 強い関心がある。
- 2. 関心がある。
- 3. 特別の関心はない。
- 4. 全く関心がない。



上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

7件の回答

業務分野相違

入社試験の数学・物理が高得点でなければ自己否定になると思う。高ければ高評価。

採用予定がない

弊社とは業界（分野）が全く異なるため採用は難しいと考えております。

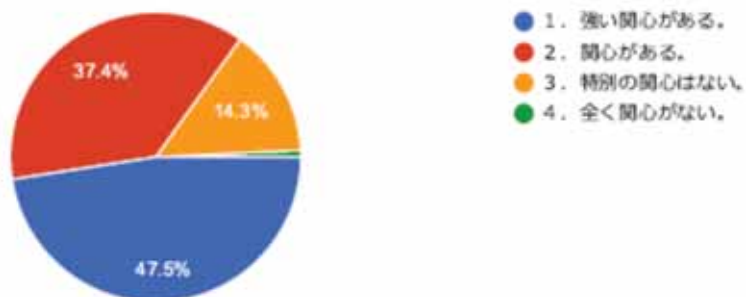
今後積極的に採用したいから

上記同様。

弊社の事業内容とはマッチしないため。

C-2. 中部大学理工学部AIロボティクス学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

265件の回答



上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

7件の回答

業務分野相違

現在活躍しているから。

採用予定がない

弊社の自動化事業において必要とされる人材であるため

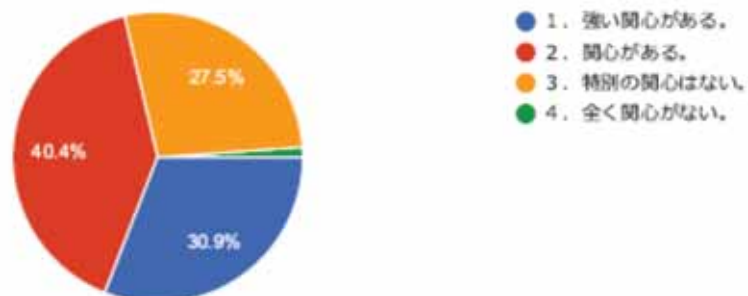
今後積極的に採用したいから

上記同様。

弊社の事業内容とは今のところマッチしないため。

C-3. 理工学部宇宙航空学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

265件の回答



上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

7件の回答

業務分野が全く違うため応募側（学生側）も関心なしと思います。

加工技術者として 設計者としては？

採用予定がない

弊社の業務内容とは異なるため

弊社の事業にはあまり関係がないから

上記同様。

弊社の事業内容とはマッチしないため。

D. 本学が設置しようとする理工学部にて期待する事柄、ご助言等（教育内容、学生育成方針等）がございましたら、是非ご意見・ご指導等をご教示ください。

○特にございません。

○産学連携等在学時より企業と接点を持った教育を望みます。（特に中小企業）

○学んだことに自信を持つことは大切ですが、それ以外の考えもあり得るという柔軟性も身に付けて頂きたいです。

○中部地区での設置は必要と思います。中部地区への定着。

○実践に即した教育

○弊社は航空宇宙関係の業務を実施していますので同じ春日井市内にこのような教育機関がありお互いに協力してゆける事になれば素晴らしいことだと思います。大変期待しておりますので今後ともよろしくお願い致します。

○今後も理工系の教育を受けた人材を多く輩出いただきたい。

○マンモス的な大学で学生数を揃えることなくこの分野なら中部大学と全国に伝わるような教育・学生を育ててくださいます様お願いします。特に少子化が顕著なので誰でも入学できるとならないように。

○優秀な学生の人材育成にご尽力いただき、ありがとうございます。

○仕事の仕方がジョブ型となっていく中、今後専門性はさらに必要となってくると考えられます。特に理工系分野の内容を充実していただきより社会に出た後の仕事と結びつくカリキュラムを組んでいただけるとありがたいです。

○習得した専門的知識を自己なりに発展し、中小企業の課題解決にとことん望める思想を養成していただきたい。

○機械・電気・電子・情報の総合的な知見のある学生の育成

- 特にはございません
- 既存の学部学科の強化・充実についてもお願いいたします。
- 数学は重要だと思います。(1%の人材だと思います。) 中途半端(使えない理論)なら工業高校(技能)のほうがいい(会社で育てやすい)。
- 理工学部出身なのに直流、交流がわからない。専門には強いが基礎がない。(中部大出身者ではありませんが。)
- 新たな学部を設置することにより遠方や三河地区の学生を多く誘致していただき、様々な分野の業種に興味を持つ学生を育成、輩出してほしいと思います。
- 産業社会を牽引できる科学技術者を養成するのは素晴らしいことですので是非頑張ってくださいたいです。
- 弊社の採用基準の一つとして「コミュニケーション能力」を重視しております。教育内容でグループディスカッションや合同研究等を取り入れて頂けると、社会人になって仕事をされる際に周りの人間と円滑なコミュニケーションが取れる人材へ成長されるかと思っておりますのでぜひご検討下さい。また、理工学部で学んだ学問が直接仕事に関わる事では無いとしても、専門的な知識を身につける力は大いに個人の強みになりますので研究に励んで頂ければと思います。
- 弊社は設計会社です。理系学生はおろか設計職に興味がある学生様は年々減っている印象。モノづくりに関する楽しみや喜び知識を学べる環境に期待致します。
- 専門的な知識や技能も必要ですが、会社によって又は会社の中では、いろんな業務があり、数学や物理など基礎的な知識を身に着けると、いろんな分野の業務が出来、応用もきくので、良いことだと思われまます。
- IT 人材のニーズは産業界にとって分野を問わず高いため御校の取り組みは大変有意義と考えます。航空宇宙領域においても参入する企業が県内にもあるため、中京圏のみならず周辺エリアでもニーズがあると思われまます。
- 最終的に知見を活かす場が、現場か研究で学ぶ事も大きく異なってくるのでは。当然共通する部分はあると思いますが、育成方針としてどちらかに特化した方が生徒にとっても未来を描きやすくモチベーションを持って取り組めると思っています。その結果、現場、研究のそれぞれの場でより強い人材が育つのではないかと思います。
- 熱力学等、物理・化学の基本的な理解度の高い学生の方への採用意欲を弊社としては持っております。これまでに引き続き貴校のよい学生の方々とのよきご縁が頂戴できますことを願っております。
- 物づくりの原点をしっかりと見ると今後必要な大切なことだと思います。
- 弊社は主に自動車に関わる機械設計技術の提供を行っております。自動車業界でも、人工知能の発展が今後期待されている中で、御校の新学科、特に「AI ロボティクス学科」は、大変魅力的だと感じました。弊社としても、積極的に採用を検討したいと存じます。
- 上記設問で「特別の関心はない」としているのは、現時点では新卒採用での実績がなく判断ができないためです。今後、採用活動の中で当社に関心を持っていただければコミュニケーションを図りたいと考えています。
- 既設学科との住み分け、強みを強く打ち出して欲しいと思います。
- 最新技術に対し抵抗がなく、知識に対して意欲の強い学生であることを望みます。

- 場所柄モノづくりに関心がある学生が集まるかもしれないので、企業研修、見学などもカリキュラムに導入することもいいかもしれません。
- 時代の変化をいち早く察知し適応し変化される貴校の取り組みは素晴らしく当社の採用業務においても常に化する姿勢を見習わせて頂きたいと思います。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。
- 理系学生の採用に大変苦勞していますが数少ない理系設置大学として今後も人材の育成をお願いします。特に建設、AI等で今後も必要不可欠です。
- AI ロボティクス学科は特に当社が取り組んでいるものと親和性が高いように思われ期待しております。
- 航空宇宙に携わる企業としまして分野は多々ありますが即戦力となる人材を求めています。
- 航空機の製造は市場の9割、運航、整備サービスを含めるとさらに航空機の産業規模が大きく人材需要も旺盛である。社会のニーズに沿った育成によって多くの学生を航空関連の就労、従事につなげていただく教育を展開されることを期待したい。
- 肯定されてもおごらず、否定されても腐らず、コミュニケーションがとれる学部、学生に育つことを楽しみにしております。
- メーカーの工場ではAI化を進めている会社も多いと思いますのでぜひ知見を活かしていただきたいと思います。
- 理系学生全般に言えると思いますが、研究職を目指すのであればとことん専門性を追い求めてもらうことが良いが、社会にでて活躍する人材を育成するのであれば専門性を重視するより応用力を身に付けてほしいです。
- 知識はそれを活かす主体性、行動力等のベースが必要と考えます。
- DX 社会の基礎となる部門の充実は今後の大学教育に欠かせないと思います。
- 製造会社として新たな発見、業界としての発展に期待致します。
- 大企業でなく特殊能力をもった中小企業と関係を深め早い段階で研究、モノづくりなど実践イメージを高めていける様な関係をもちたいと思っています。
- もの作りが好きな学生 工作機械に興味のある学生
- 当社はロボット業界と建設機械業界と強く関わっており、特にロボット業界は成長性の高い分野として注目されています。それは先進諸国の労働人口の減少や IOT・Ai などの技術革新を背景に製造業はもちろんの事、医療や飲食等様々な分野でロボット利用が浸透しつつあり、それによって作業の自動化も進み、その流れが更に新たなロボットの需要を喚起しているのが現状です。かかる状況下、当社は省人化・効率化を進めるため設備及び環境が許す範囲内で自動化（IOT）を推進することを目的に作業工程の見直し及び再設計を行っております。また、自動化を可能な限り自社社員で行うことを目標として日々研鑽を積む中、貴学の材料科学、電気・電子・情報工学、機械工学、AI 技術を融合したロボティクス分野を学ばれた卒業生諸氏と共に、当社の経営環境を更に強固なものにしたいと考えております。
- 「様々な分野への関連性を活かし、身に付けた知識や技術とその応用力を駆使して、持続可能な社会・環境が直面する様々な課題に対して自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力」に期待しています。
- より社会が求めている技術に対して実践的な教育や実習などに力をいれられることを期待します。
- 地元企業へのインターンシップを卒業の必須にさせていただけるとありがたいです。
- 今後とも貴校の幅広い知識を持った学生を採用していきたいと考えております。

- JD-LAE 資格取得の強化、数理・物理サイエンスにおいて金融工学も視野に、量子 CP レベルの研究強化 (AI コードレビューソフトの育成、AI アルゴリズム教育、測量 GPS 関連の IT システム教育)
- 新しいことが求められ進化していく製造業にとって、先端技術を身につけ、新しい時代の製造業で活躍していただけるような人材の育成を期待しております。また、そのために弊社でお手伝いできること (共同研究や工場実習等) がございましたら、ご連絡をいただけますと幸いです。
- 理工系学生の育成は将来に渡り我が国がものづくりで生き残るために優先して取り組まねばならないことと考えます。多くの優秀な学生が生まれますよう引続きご尽力願います。
- 読解力や文章作成能力、数学などの基礎学力の向上に取り組んでいただけるとありがたい。ひとつのことを理解したとしても、横のつながり等自分自身で気づかないまたは、理解しきれていない方が多い。
- 数理・物理サイエンス学科は、データサイエンスと複合型学科を合わせて活躍できると思われま。AI ロボティクス、宇宙航空学科は、愛知県を代表とする産業に深くかかわると思うので、出来れば地元企業と連携を取りながら、学生に将来性のある知識を身につけて頂きたいと思ひます。
- AI ロボティクスにおいて、ロボット、ソフトウェア、構成する機械や機構があり幅広く教育されることを期待します。
- 弊社のビジネスに直結しない事もあり回答が片寄ってしまい恐縮です。もう少しニッチなものに特化した学部があつても良いのではないのでしょうか。
- 最近の学生はおとなしい。積極性のある学生の育成。
- それぞれの学科で専門の知識を身につけていただく事も大切だと思いますが、理系の卒業生みなに求められる力 (答えのない問題により確からしい答えを理論的に導きだす力) をしっかり身につけてほしいなと思ひました。
- 中部地方には理工学部の大学が大変少ない印象があり、優秀な理系の学生が都会へ流出していると感じています。特に今後情報工学の重要性は増すはずですので、貴学の方針は大変すばらしいと存じます。あいにく弊社には貴学で学問を修められた学生さんをお迎えするだけの度量はございませんが、地域全般を盛り上げる大学になられることを心より期待しております。まだまだ女子の理系率は低いのが現実で、国立大の情報工学系学部にしめる女子の割合は 1 割程度と聞いております。中部地方在住の女子生徒のみなさんや親御さんが、自宅から安心して通える (通わせられる) 先進的な理工学部ができますと、理系を目指す女子にとってはありがたいはずで。貴学のご発展を陰ながらお祈りしております。
- 中部地区の発展のためぜひとも多くの優秀な学生さんを輩出いただきたい。
- 学ばれる内容は、特定業種だけでなく、広い業界職種で生かせると思ひます。視野も広くということも合わせてご指導いただければと思ひます。
- 最先端分野にリンクし研究を行うことで数字やデータの処理に長け、様々な業界や職種でニーズが高い学部であると思ひます。ソフトウェアの説明書を読んだりプログラミングの調査をしたりする際の英語力も必要だと考えます。よろしくお祈りします。
- AI の技術は今後活かせる業界が出てくると思ひます。弊社にも AI の部署があるので、学んでいただいた知識を活かせると思ひます。
- 学科によって弊社とのつながりの大小はありますが、産業界全般については大きなつながりがあると

思います。

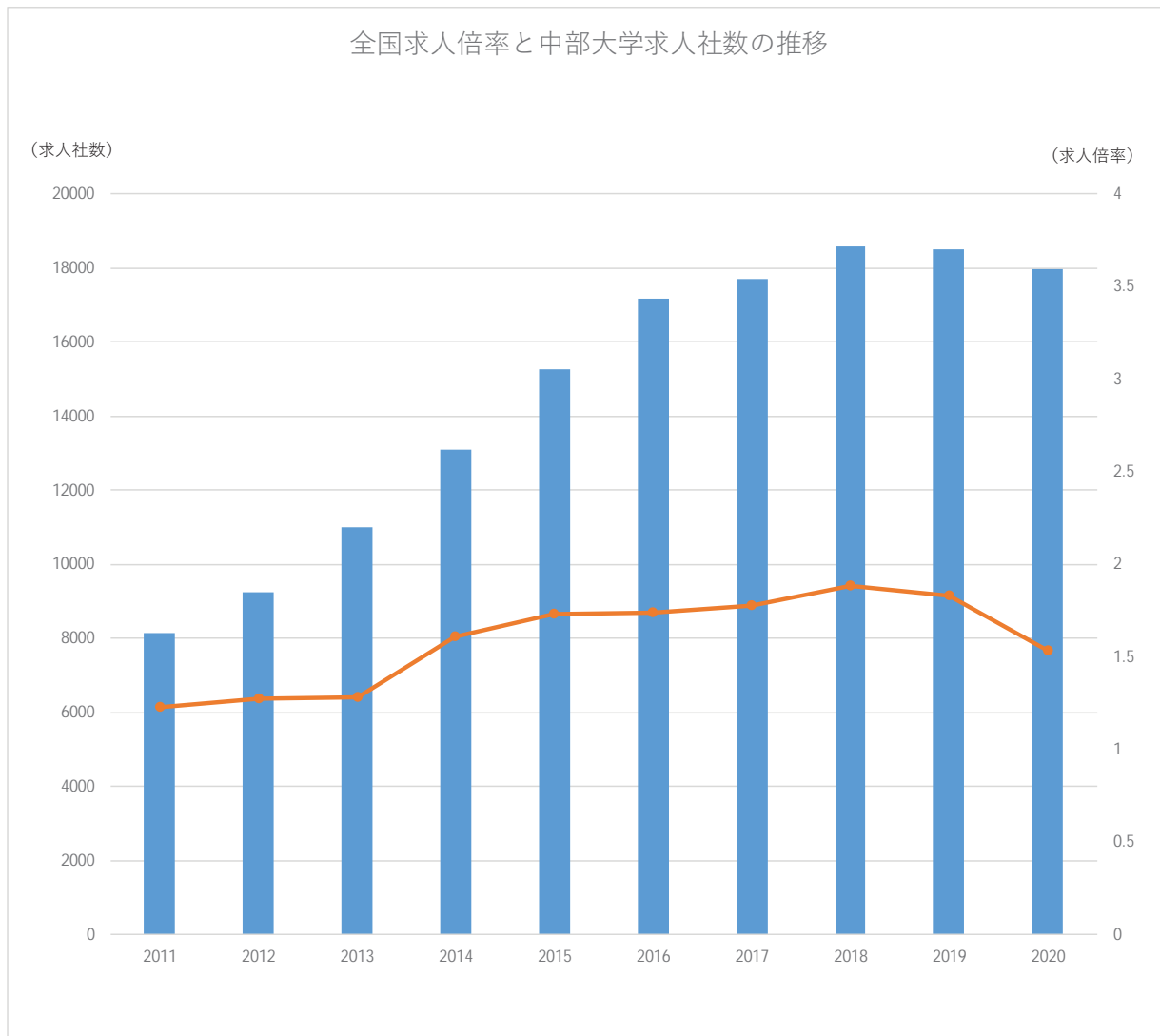
- 幅広い人材を教育・育成していただくようお願いします。
- 近年の科学技術の進歩をより高めるため専門的な知識を学生に習得していただきたいと思います。
- 特になし
- 社会の変化に対し社会貢献の仕方も多様化している。様々な分野で活躍出来る人材が必要。
- 製造業が牽引する中部圏において理工学系を専攻した学生が増えることに多大な期待をしております。  
是非、優秀な学生を多く輩出いただきますようお願い申し上げます。
- 理学と工学が融合した新しい理工学部が実社会に役立ち、さらに最先端技術の開発にも貢献できることを期待しています。
- 改組後もものづくりに関する実習・演習の単位は一定程度確保願います。生産技術に加点をおいたカリキュラムを期待致します。
- コミュニケーション力を兼ね備えたエンジニアの育成に期待します。
- 貴大学理工学部にて、多角的な分野における学部、学科の創設は望ましいことかと存じます。モノづくり地域の中部地方での将来を担う役割は多いことと思います。創設された学部・学科にて培われた知識等が、就職先で必ずしも活かせなかったことや、必要されないことは多々あるかと思えます。採用する上でどのような発想や、考え方を持っているのかを重視する企業様もあるかと思えますので、就職先では視野を狭めず、広い視野で出会いが生まれることを伝えていただければ幸いです。
- 主体性を持った学生の育成を期待します。
- 中部地区の主産業である自動車、航空機の輸送機器製品は電子制御等の電子化が進んでおり、今後も発展が見込まれています。貴学で設立を計画している理工学部の各学科においても電気・電子・情報の知識を有する人材の育成に期待しています。

中部大学における過去5年間の入学志願者動向

学部	学科	定員	2017(平成29)年度				2018(平成30)年度				2019(令和1)年度				2020(令和2)年度				2021(令和3)年度				5か年平均							
			志願者	合格者	入学者	志願者/合格者	合格者/入学者	志願者	合格者	入学者	志願者/合格者	合格者/入学者	志願者	合格者	入学者	志願者/合格者	合格者/入学者	志願者	合格者	入学者	志願者/合格者	合格者/入学者	志願者	合格者	入学者	志願者/合格者	合格者/入学者			
工	機械	160	2,028	506	153	12.67	0.39	1,451	535	172	3.06	1.07	1,898	489	133	11.86	0.83	1,780	564	197	11.18	1.16	1,620	590	160	10.12	1.00	10.98	1.01	
	電気電子	160	1,578	502	151	9.86	0.38	1,597	514	193	9.88	1.20	1,388	499	166	8.66	1.03	1,662	470	190	11.63	1.12	1,273	521	170	7.95	1.06	9.62	1.07	
	情報工學	80	555	153	60	6.93	1.00	414	230	82	5.17	1.02	722	179	81	9.02	1.01	598	219	97	7.47	1.08	446	244	74	5.57	0.92	6.83	1.00	
	建築	110	1,127	264	110	10.24	1.02	993	274	105	9.02	0.95	1,034	299	116	9.40	1.05	966	328	119	8.23	1.08	811	334	117	7.37	1.06	8.85	1.08	
	応用	80	918	377	93	10.20	1.03	744	357	94	8.26	1.04	982	300	82	10.91	0.91	941	312	91	10.45	1.01	733	366	80	8.14	0.88	8.59	0.97	
	情報	120	1,302	367	123	10.85	1.07	1,631	323	121	13.59	1.00	1,707	323	118	14.22	0.98	1,632	304	130	13.60	1.08	1,551	352	118	12.92	0.98	13.04	1.02	
	口采	80	648	207	81	8.07	1.02	618	260	83	7.72	1.03	872	225	85	10.90	1.06	865	229	91	12.06	1.13	519	233	92	6.48	1.15	9.05	1.07	
	平面	80	-	-	-	-	-	610	234	81	7.62	1.01	644	224	74	8.05	0.92	618	265	99	7.62	1.11	489	288	77	6.11	0.96	7.95	1.00	
	計	880	8,154	2,376	794	10.45	1.01	8,058	2,727	931	9.15	1.05	9,245	2,418	74	8.05	0.97	8,394	2,769	974	10.57	1.10	7,442	3,328	888	8.45	1.00	9.82	1.02	
	経営情報	300	1,875	657	325	6.25	1.08	1,766	546	298	5.88	0.99	1,399	564	317	4.66	1.05	1,891	559	308	6.30	1.02	1,697	591	305	5.65	1.01	5.75	1.03	
人文	国際	300	1,875	657	325	6.25	1.08	1,766	546	298	5.88	0.99	1,399	564	317	4.66	1.05	1,891	559	308	6.30	1.02	1,697	591	305	5.65	1.01	5.75	1.03	
	国際	140	516	269	147	3.68	1.05	463	248	144	3.30	1.02	489	263	144	3.49	1.02	722	295	142	5.15	1.01	446	332	120	3.18	0.85	3.76	0.99	
	国際	140	516	269	147	3.68	1.05	463	248	144	3.30	1.02	489	263	144	3.49	1.02	722	295	142	5.15	1.01	446	332	120	3.18	0.85	3.76	0.99	
	日文	80	515	190	84	6.43	1.05	435	212	79	5.43	0.98	512	160	78	6.40	0.97	388	169	85	4.97	1.06	342	203	78	4.27	1.11	5.50	1.03	
	英文	70	501	145	74	7.15	1.05	270	160	69	3.85	0.98	423	148	73	6.04	1.04	419	154	68	5.30	0.97	270	140	65	3.14	0.92	5.22	0.99	
	心理	70	310	150	78	4.42	1.08	303	161	76	4.32	1.06	465	143	71	6.64	1.01	338	148	77	4.82	1.10	228	143	71	4.11	0.78	4.86	1.01	
	心理	90	614	196	94	6.82	1.04	654	231	95	7.26	1.05	763	195	88	8.47	0.97	595	200	92	6.50	1.02	490	229	94	5.44	1.04	6.90	1.02	
	心理	30	590	257	100	6.55	1.11	697	204	76	7.74	0.84	746	210	92	8.28	1.02	611	186	90	6.78	1.00	607	250	91	6.74	0.22	7.22	0.83	
	計	400	2,530	938	423	6.32	1.07	2,359	968	395	5.89	0.98	2,909	854	402	7.27	1.00	2,345	857	412	5.86	1.09	1,947	965	389	4.86	0.99	6.04	1.01	
	応用生物	応生	110	1,191	396	131	10.28	1.19	1,069	348	122	9.71	1.10	1,092	386	117	9.32	1.06	1,024	365	99	9.30	0.90	796	485	106	7.23	0.96	9.29	1.04
環生		110	919	361	132	8.35	1.20	993	354	120	9.02	1.09	1,002	393	114	9.10	1.03	1,040	349	112	9.45	1.01	907	486	124	8.24	1.12	8.83	1.08	
食保		60	349	181	64	5.81	1.06	256	141	55	4.26	0.91	345	183	57	5.75	0.95	481	188	62	6.18	1.03	268	159	48	4.46	0.81	5.63	0.95	
計		360	2,864	1,163	400	7.95	1.13	2,718	1,087	369	7.55	1.02	2,848	1,107	357	7.91	0.99	2,565	1,132	359	8.20	0.98	2,320	1,347	344	6.44	0.95	7.61	1.01	
生命健康		生命	60	449	161	65	7.48	1.08	421	169	64	7.01	1.06	591	163	62	9.85	1.03	443	161	60	7.98	1.00	542	121	62	9.03	1.03	8.15	1.04
		保健	100	1,270	260	110	12.70	1.10	1,112	277	92	11.12	0.92	1,092	247	95	10.92	0.95	767	265	103	7.67	1.09	796	211	108	7.96	1.06	10.07	1.01
		理学	40	651	107	44	16.27	1.10	658	91	43	16.45	1.07	642	73	38	18.05	0.95	621	60	47	15.52	1.17	525	76	40	13.12	1.00	15.48	1.05
		作業	40	314	117	39	7.85	0.97	266	94	40	6.85	1.00	281	87	34	7.02	0.85	219	111	39	5.47	0.97	214	100	41	5.95	1.02	6.47	0.96
		臨床	40	301	103	38	7.52	0.97	461	86	39	11.52	0.97	406	85	39	10.15	0.97	368	112	45	9.20	1.12	363	90	40	9.57	1.00	9.59	1.00
		久保	80	959	120	83	4.48	1.03	859	111	80	4.48	1.00	279	121	80	3.48	1.00	410	122	87	5.12	1.08	963	122	88	4.53	1.10	4.42	1.04
	計	360	3,344	968	380	9.28	1.05	3,277	818	358	9.10	0.99	3,291	776	348	9.14	0.96	2,628	871	381	7.95	1.05	2,823	720	377	7.84	1.04	8.64	1.01	
	現代教育	幼児	80	298	161	71	3.57	0.96	278	173	84	3.47	1.05	271	150	75	3.98	0.93	359	171	71	4.41	0.88	312	178	87	3.90	1.08	3.75	0.98
		現代	60	720	223	64	12.00	1.06	711	234	67	11.85	1.11	684	158	68	11.40	1.15	638	171	66	10.63	1.10	431	200	52	7.18	0.86	10.61	1.05
		教育	20	236	79	18	11.80	0.90	427	90	21	21.35	1.05	497	71	16	24.85	0.80	401	94	24	20.05	1.20	322	104	23	16.10	1.15	18.83	1.02
計		160	1,242	457	153	7.76	0.99	1,416	497	172	8.85	1.07	1,452	379	160	9.07	1.00	1,392	426	181	9.70	1.00	1,065	482	162	6.65	1.01	8.21	1.01	
合計		2,600	26,525	6,754	2,841	7.89	1.05	26,057	6,891	2,667	7.71	1.02	21,633	6,381	2,583	8.32	0.99	21,497	6,768	2,731	8.24	1.05	17,140	7,365	2,535	6.82	0.99	7.80	1.02	



資料 24 全国求人倍率と中部大学求人社数の推移



年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
本学求人社数	8,143	9,261	10,995	13,105	15,259	17,171	17,708	18,564	18,509	17,966
全国求人倍率	1.23	1.27	1.28	1.61	1.73	1.74	1.78	1.88	1.83	1.53

※全国平均の求人倍率は、リクルートワークス調査より

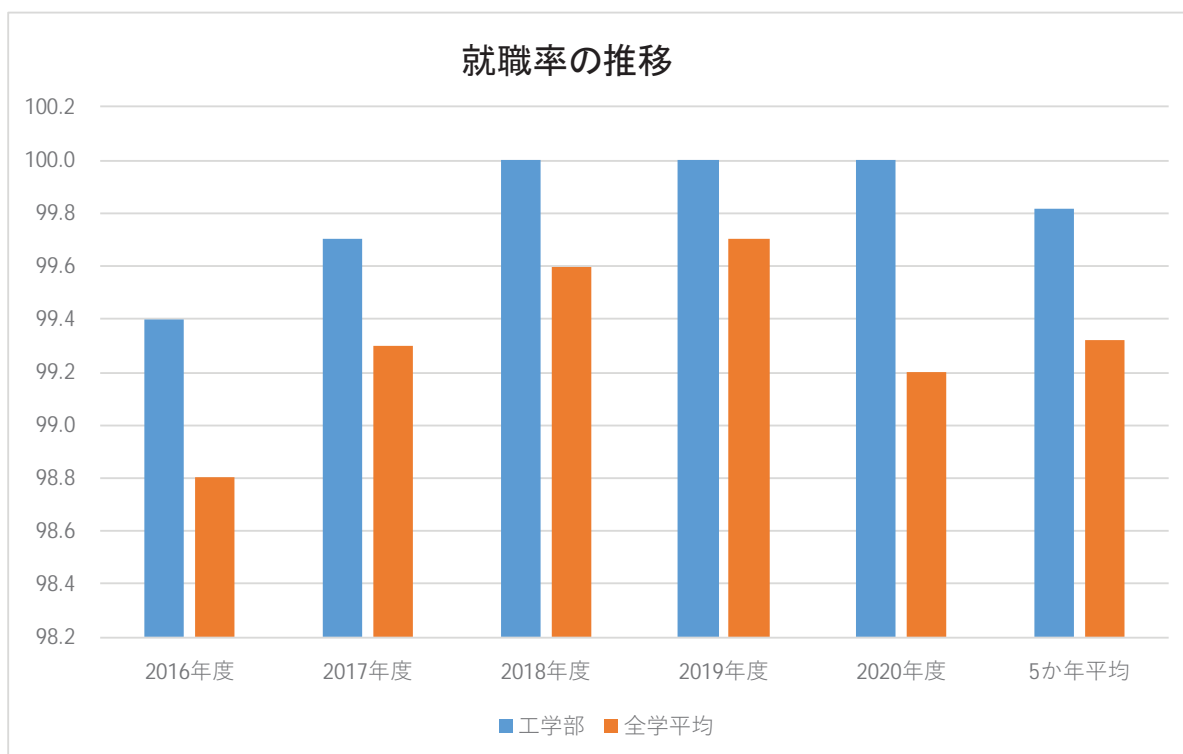


### 学部別就職率の推移

【就職率＝就職決定者/就職希望者】

(単位：%)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5か年平均
工学部	99.4	99.7	100.0	100.0	100.0	99.8
経営情報学部	99.7	99.6	99.2	99.6	99.6	99.5
国際関係学部	97.9	96.8	100.0	99.0	99.1	98.6
人文学部	96.6	98.2	98.7	99.1	97.8	98.1
応用生物学部	99.7	99.4	99.7	99.7	99.0	99.5
生命健康科学部	99.0	99.4	99.7	100.0	99.0	99.4
現代教育学部	100.0	100.0	100.0	99.4	100.0	99.9
全学平均	98.8	99.3	99.6	99.7	99.2	99.3



工学部就職状況

就職先 学科・年度	建設業			製造業						商業				金融業			サービス業	医療	教育	公務員	その他				合計				
	建築	土木	設備	食品・繊維・化学	鉄鋼・非鉄金属	機械・輸送機・精密	電気電子機器	出版・パルプ・その他	流通・外食産業	食品・薬品・繊維販売	機械・電機販売	金属・木材販売	デパート・その他	銀行	証券・商品取引	生命損害保険	信託・信組・その他	情報処理・機電設計	その他サービス業	医療（民間）	医療（公的機関）	教育（民間）	教育（公的機関）	公務員		不動産	運輸・通信	農林・水産・鉱業	電力・ガス・水道
機械工学科	平成29年度	1	6	1	29	56	5	10	1		3	2					12	16				2	2						146
	平成30年度	2		3	3	17	74	12	6		2	1					1	8	20			2				2			153
	平成31年度		1	4	3	17	82	7	5		2	1	2					11	12			3		2		1			153
	令和2年度			1	4	10	57	4	8			3	1						9	18				1					116
電気システム工学科	平成29年度		1	21	1	2	12	14	2		4	1						4	6								1		69
	平成30年度			15	1	5	14	19	1	1	3								5	6				2		1	1		74
	平成31年度			13		1	12	11	1		3	1	1						4	8									55
	令和2年度	1	3	23		1	4	10	2		2								5	4		1				2	1	1	59
電子情報工学科	平成29年度	2		13	3		10	5			5							10	10				1			3			62
	平成30年度		1	14			8	6			1	6	1						14	9						1			61
	平成31年度			16	1	1	6	5		1		6		1					13	16						1			67
	令和2年度	1		10		2	5	4			6								14	16				2	1	3			64
都市建設工学科	平成29年度	11	21	1					1									1	2			1	6	1	6				51
	平成30年度	9	26	5		1					1								1			2	5		8				58
	平成31年度	16	24	4		1			3										1	3		1	1	5	1	5			65
	令和2年度	8	29	2					1										2				4		5				51
建築学科	平成29年度	32	44	13														2	3				3	5					102
	平成30年度	23	34	20		1	3				1									2			2	6	1				93
	平成31年度	18	62	15					2		1	1							1	4			3	5	1	3			116
	令和2年度	24	40	13		1							4							4			4	2					92
応用化学科	平成29年度		1	1	17	2	5		12		1	2	1					2	9			4	2	1		1		4	65
	平成30年度	1		1	17	4	20	3	12	1		1		1		1			2	5		1		2		1			73
	平成31年度			2	11	3	17	4	5	1	2	1		1					3	5		1	1			1			59
	令和2年度				11	6	7	2	12	1		2	1						3	10		3	3	2		1	2		66
情報工学科	平成29年度		1	6		2	5	5	2	1	1	6		2			1	45	24			2	6		2				111
	平成30年度			5			4	5		1		4			2				34	17			1		4				77
	平成31年度			2		1	4	5		4	1	9	1	1			1	50	24						5				108
	令和2年度			2			3	2	1	3		8	1						38	12			1	1	3	1			76
ロボット理工学科	平成29年度				3	2	16	3	1		3					1		11	7										47
	平成30年度				2	3	14	10	2										12	16					1				60
	平成31年度			1	2	5	15	4	2		2								12	8						1			52
	令和2年度				5	12	4	4	1	2	1								12	12									54

※ 「公務員」は、公務員全体から、医療（公的機関）と教育（公的機関）を除いたもの。  
 ※ 電気電子システム工学科及び宇宙航空理工学科は、平成30年度設置のため、未掲載。

資料28 教育課程等の概要（理工学部 数理・物理サイエンス学科）  
別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要														
（理工学部 数理・物理サイエンス学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
初年 科目次	スタートアップセミナー	1前	1			○			4	1				
	小計（1科目）	—	1	0	0	—			4	1	0	0	0	兼0 —
キャリア 科目	自己開拓	1後		1		○								兼1
	社会人基礎知識	2前		2		○								兼1
	小計（2科目）	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼2 —
スキル 教育 科目	英語スキルⅠ	1前	1			○								兼2
	英語スキルⅡ	1後	1			○								兼2
	英語スキルⅢ	2前		1		○								兼2
	英語スキルⅣ	2後		1		○								兼2
	日本語スキルA	1前		2		○								兼2
	日本語スキルB	2後		2		○								兼1
	情報スキル入門	1前		2		○								兼1
	情報スキル活用	1後		2		○								兼1
小計（8科目）	—	2	10	0	—			0	0	0	0	0	兼8 —	
全学 共通 教育 科目	留学英語A（TOEFL）	2前		1		○								兼1
	留学英語B（TOEFL）	2後		1		○								兼1
	資格英語A（英検）	2前		1		○								兼1
	資格英語B（TOEIC）	2後		1		○								兼1
	イングリッシュワークショップ	3前		1		○								兼1
	パセオアカデミックL&S A	1前		2		○								兼1
	パセオアカデミックL&S B	1後		2		○								兼1
	パセオアカデミックR&W A	1前		2		○								兼1
	パセオアカデミックR&W B	1後		2		○								兼1
	パセオコンテンツA	1前		1		○								兼1
	パセオコンテンツB	1前		1		○								兼1
	ドイツ語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ドイツ語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	フランス語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	フランス語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	中国語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	中国語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	スペイン語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	スペイン語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	ポルトガル語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ポルトガル語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	韓国語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	韓国語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	実践外国語A	2前		1		○								兼1
	実践外国語B	2後		1		○								兼1
	語学研修A	1前		1		○								兼1
	語学研修B	1後		1		○								兼1
小計（27科目）	—	0	31	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12 —

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通 教育科目	人文リテラシー	世界の歴史と日本	1後	2		○									兼1	
		日本の歴史と文化	1後	2		○									兼1	
		芸術の世界	1後	2		○									兼1	
		芸術の表現	1後	1		○									兼2	
		映像を読む	1後	2		○									兼1	
		教育をみつめて	1後	2		○									兼1	
		哲学と思考	1後	2		○									兼1	
		小計 (7科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6
	社会リテラシー	現代社会と法	1後	2		○									兼1	
		日本の憲法	1後	2		○									兼1	
		政治と社会	1後	2		○									兼1	
		現代経済とビジネス	1後	2		○									兼1	
		生活環境と人間	1後	2		○									兼1	
		心と身体	1後	2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
	科学技術リテラシー	数学の思考法	1後	2		○									兼1	
		物理と自然	1後	2		○			1							
		化学と物質	1後	2		○									兼1	
		生物と環境	1後	2		○									兼1	
		生命と医療	1後	2		○									兼2	
		科学技術と社会	1後	2		○									兼1	
		地球と生命	1後	2		○									兼1	
		データサイエンスのための数理要論	1後	2		○			1							
		問題解決のための統計学入門	1後	2		○									兼1	
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			2	0	0	0	0	0	兼8	—
	リベラル 教育科目	リベラルアーツ課題演習A	3前	2		○									兼1	
		リベラルアーツ課題演習B	3前	2		○									兼1	
		リベラルアーツ課題演習C	3前	2		○									兼1	
小計 (3科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—	
特別課題 教育科目	人類と資源	2前	2		○									兼1		
	持続学のすすめ	2前	2		○									兼1		
	地域の防災と安全	2前	2		○									兼1		
	地球を観る	2前	2		○									兼2		
	グローバル環境論	2前	2		○									兼1		
	地域共生実践	1後	2		○									兼2		
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6	—		
健康 スポーツ と	健康科学	1前	1		○									兼1		
	スポーツA	2前	1			○								兼1		
	スポーツB	2後	1			○								兼1		
	スポーツC	2前	1			○								兼1		
小計 (4科目)	—	1	3	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—		
スポーツ 活動	スポーツ活動A	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動B	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動C	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動D	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動E	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動F	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動G	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動H	1後	1			○								兼2		
	小計 (8科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学部教育科目	共通基礎科目	数学基礎	1前	2		○					1							
		物理概論	1後	2		○				1								
		微分積分学Ⅰ	1前	3		○			1									
		微分積分学Ⅱ	1後	3		○			1									
		線形代数	1前	3		○				1								
		基礎力学	1前	2		○											兼1	
		基礎化学	1前	2		○											兼1	
		創造理工学実験	1前	2				○	1									
		基礎化学実験	1後	2				○									兼1	
	小計 (9科目)	—	13	8	0	—	—	3	2	1	0	0			兼3	—		
	理工系教育圏科目	専門基礎科目	ベクトル解析	2前	2		○			1								
			微分方程式	1後	2		○											兼1
			応用数学	2前	2		○			1								
			基礎電磁気学	1後	2		○			1								
			熱学	1後	2		○				1							
			基礎材料化学	1後	2		○											兼1
			生物と工学	2後	2		○											兼1
			応用線形代数	1後	2		○			1								
			数理科学A	2後	2		○											兼1
			数理科学B	3前	2		○											兼1
			データサイエンスの基礎	1後	2		○											兼1
			問題解決のためのアルゴリズムとデータ構造	3前	2		○											兼1
			人工知能アルゴリズムの活用	2後	2		○											兼1
	データサイエンスプログラミング	2後	1				○									兼1		
	小計 (14科目)	—	4	23	0	—	—	3	1	0	0	0			兼7	—		
	複合領域科目		管理工学	1後	2		○											兼1
			環境工学	2前	2		○											兼1
			安全工学	3前	2		○											兼1
			工学倫理	1前	2		○											兼1
			社会と工学	1前	2		○											兼1
			企業と工学	1前	2		○											兼1
			物質の量子論的基礎と量子コンピュータ入門	1後	2		○			1								
			AIのための脳神経科学	1後	2		○											兼1
インターンシップA			3前	1				○	1								集中	
インターンシップB			3前	2				○	1								集中	
小計 (10科目)	—	0	19	0	—	—	2	0	0	0	0			兼7	—			
学科専門教育科目	理工学一般	生物概論	2前	2		○											兼1	
		実験計測学概論	2前	2		○					1						兼1	
		電気・電子回路	2後	2		○											兼1	
		放射線科学	2後	2		○			1	1	1						オムニバス	
		計算機概論	2後	2		○			1								オムニバス	
		数値計算演習	2後	1				○	1									
		科学英語	3後	2		○											兼1	
		サイエンスコミュニケーション	4前	2		○											兼1	
		先端数理・物理サイエンス	4前	2		○			1									
		サイエンスゼミナール	3後	2				○	10	4	2							
小計 (10科目)	—	4	15	0	—	—	10	4	2	0	0			兼5	—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部 教育 科目	学科 専門 教育 科目	代数学	2前	2		○					1					
		代数学演習	2前	1			○				1					
		代数学統論	2後	2		○					1					
		代数学統論演習	2後	1			○				1					
		集合と位相	2前	2		○			1							
		集合と位相演習	2前	1			○		1							
		解析学	2前	2		○			1							
		解析学演習	2前	1			○		1							
		解析学統論	2後	2		○			1							
		解析学統論演習	2後	1			○		1							
		応用解析学A	3前	2		○			1							
		応用解析学演習A	3前	1			○		1							
		応用解析学B	3後	2		○			1							
		応用解析学演習B	3後	1			○		1							
		幾何学	2後	2		○				1						
		幾何学演習	2後	1			○			1						
		幾何学統論	3前	2		○				1						
		幾何学統論演習	3前	1			○			1						
		確率論	3後	2		○			1							
		確率論演習	3後	1			○		1							
		応用数理学	3前	2		○			1							兼1
		数理学講義	3前	1			○		4	1	1					
		数理サイエンス総合講義	3後	2		○			1							
小計 (23科目)	—	0	35	0	—	—	4	1	1	0	0	兼1	—			
学部 教育 科目	物理 学	物理数学	1後	2		○				1						
		物理学実験	2前	2				○			1				兼1	
		物理科学実験A	2後	2				○	1	1					兼2	
		物理科学実験B	3前	2				○	2	1	1					
		基礎力学演習	1前	1			○								兼1	
		熱力学	2後	2		○			1							
		熱力学演習	2後	1			○		1							
		力学	2前	2		○									兼1	
		力学演習	2前	1			○								兼1	
		基礎電磁気学演習	1後	1			○		1							
		電磁気学	2前	2		○			1							
		電磁気学演習	2前	1			○		1							
		振動と波動	1後	2		○									兼1	
		統計力学	3前	2		○			1							
		統計力学演習	3前	1			○		1							
		量子力学I	3前	2		○				1						
		量子力学演習I	3前	1			○			1						
		量子力学II	3後	2		○				1						
		量子力学演習II	3後	1			○			1						
		物理光学	3後	2		○									兼1	
		プラズマ物理学	3後	2		○			1							
		流体・連続体力学	3前	2		○									兼1	
		素粒子・原子核	4前	2		○									兼1	
小計 (23科目)	—	2	36	0	—	—	5	3	1	0	0	兼4	—			



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部教育科目	物質科学	化学基礎	2前	2		○			1							兼1 兼1 兼1
		有機化学	3後	2		○										
		無機固体化学	3後	2		○			1							
		半導体物理	2後	2		○										
		固体物理学	3前	2		○										
		電気化学	3前	2		○			1							
		材料科学概論	2後	2		○			1							
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	0	0	0	0	0	兼3	—
	地学	地学概論	2後	2		○										兼1
		地球物理学A	3前	2		○			1							
		地球物理学B	3後	2		○			1							
		宇宙物理学A	3前	2		○				1						兼1 オムニバス
宇宙物理学B		3後	2		○				1						兼1 オムニバス	
小計(5科目)	—	0	10	0	—			1	1	0	0	0	0	兼2	—	
卒業研究	4通	4				○		10	4	2	0	0				
小計(1科目)	—	4	0	0	—			10	4	2	0	0		兼0	—	
合計(183科目)			—	31	276	0	—		10	4	2	0	0	0	兼69	—
学位又は称号		学士(理学)		学位又は学科の分野			理学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>理工学部数理・物理サイエンス学科の卒業要件は、本課程に4年以上在学し、全学共通教育科目〔初年次教育科目1単位、スキル教育科目及び外国語教育科目(英語4単位(必修科目2単位を含む)、日本語スキル2単位、情報スキル2単位を含む。〕から8単位以上、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目及び特別課題教育科目から14単位以上、健康とスポーツから1単位以上を含む。〕24単位以上及び学部教育科目(理工系教育圏科目及び学科専門教育科目)を必修・選択必修科目を含めて80単位以上(卒業研究4単位を含む)、並びに自由に選択する科目を合わせて、合計124単位以上を修得すること。</p> <p>なお、学部教育科目の選択科目のうち、下記の「選択必修科目カテゴリー1」から15単位以上、「選択必修科目カテゴリー2」から5単位以上を選択必修とする。 (履修科目の登録の上限:24単位(1学期)、4年次は20単位)</p> <p>「選択必修科目カテゴリー1」※( )内は単位数 代数学(2)、代数学演習(1)、集合と位相(2)、集合と位相演習(1)、解析学(2)、解析学演習(1)、応用解析学A(2)、応用解析学演習A(1)、応用解析学B(2)、応用解析学演習B(1)、幾何学(2)、幾何学演習(1)、確率論(2)、確率論演習(1)、応用数理学(2)、物理数学(2)、熱力学(2)、熱力学演習(1)、力学(2)、力学演習(1)、電磁気学(2)、電磁気学演習(1)、振動と波動(2)、統計力学(2)、統計力学演習(1)、量子力学Ⅰ(2)、量子力学演習Ⅰ(1)、量子力学Ⅱ(2)、量子力学演習Ⅱ(1)</p> <p>「選択必修科目カテゴリー2」※( )内は単位数 数値計算演習(1)、先端数理・物理サイエンス(2)、数理科学講読(1)、数理サイエンス総合講義(2)、物理学実験(2)、物理科学実験A(2)、物理科学実験B(2)</p>							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

資料29 教育課程等の概要（理工学部 AIロボティクス学科）  
別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要														
（理工学部 AIロボティクス学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
初年 科目次	スタートアップセミナー	1前	1			○			4					
	小計（1科目）	—	1	0	0	—			4	0	0	0	0	兼0 —
キャリア 科目	自己開拓	1後		1		○								兼1
	社会人基礎知識	2前		2		○								兼1
	小計（2科目）	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼2 —
スキル 教育科目	英語スキルⅠ	1前	1			○								兼1
	英語スキルⅡ	1後	1			○								兼3
	英語スキルⅢ	2前		1		○								兼2
	英語スキルⅣ	2後		1		○								兼2
	日本語スキルA	1前		2		○								兼2
	日本語スキルB	2後		2		○								兼1
	情報スキル入門	1前		2		○			1					
	情報スキル活用	1後		2		○					1			
小計（8科目）	—	2	10	0	—			0	1	1	0	0	兼8 —	
全学共通 教育科目	留学英語A（TOEFL）	2前		1		○								兼1
	留学英語B（TOEFL）	2後		1		○								兼1
	資格英語A（英検）	2前		1		○								兼1
	資格英語B（TOEIC）	2後		1		○								兼1
	イングリッシュワークショップ	3前		1		○								兼1
	パセオアカデミックL&S A	1前		2		○								兼1
	パセオアカデミックL&S B	1後		2		○								兼1
	パセオアカデミックR&W A	1前		2		○								兼1
	パセオアカデミックR&W B	1後		2		○								兼1
	パセオコンテンツA	1前		1		○								兼1
	パセオコンテンツB	1前		1		○								兼1
	ドイツ語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ドイツ語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	フランス語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	フランス語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	中国語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	中国語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	スペイン語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	スペイン語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	ポルトガル語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ポルトガル語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	韓国語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	韓国語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	実践外国語A	2前		1		○								兼1
	実践外国語B	2後		1		○								兼1
	語学研修A	1前		1		○								兼1
	語学研修B	1後		1		○								兼1
小計（27科目）	—	0	31	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12 —

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	人文リテラシー	世界の歴史と日本	1後	2		○									兼1	
		日本の歴史と文化	1後	2		○									兼1	
		芸術の世界	1後	2		○									兼1	
		芸術の表現	1後	1		○									兼2	
		映像を読む	1後	2		○									兼1	
		教育をみつめて	1後	2		○									兼1	
		哲学と思考	1後	2		○									兼1	
		小計 (7科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6
	社会リテラシー	現代社会と法	1後	2		○									兼1	
		日本の憲法	1後	2		○									兼1	
		政治と社会	1後	2		○									兼1	
		現代経済とビジネス	1後	2		○									兼1	
		生活環境と人間	1後	2		○									兼1	
		心と身体	1後	2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
	科学技術リテラシー	数学の思考法	1後	2		○									兼1	
		物理と自然	1後	2		○									兼1	
		化学と物質	1後	2		○									兼1	
		生物と環境	1後	2		○									兼1	
		生命と医療	1後	2		○									兼2	
		科学技術と社会	1後	2		○									兼1	
		地球と生命	1後	2		○									兼1	
		データサイエンスのための数理要論	1後	2		○									兼1	
		問題解決のための統計学入門	1後	2		○									兼1	
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—
	リベラルアート教育科目	リベラルアーツ課題演習A	3前	2		○									兼1	
		リベラルアーツ課題演習B	3前	2		○									兼1	
		リベラルアーツ課題演習C	3前	2		○									兼1	
小計 (3科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—	
特別課題教育科目	人類と資源	2前	2		○									兼1		
	持続学のすすめ	2前	2		○									兼1		
	地域の防災と安全	2前	2		○									兼1		
	地球を観る	2前	2		○									兼2		
	グローバル環境論	2前	2		○									兼1		
	地域共生実践	1後	2		○									兼2		
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—	
健康スポーツと	健康科学	1前	1		○									兼3		
	スポーツA	2前	1			○								兼1		
	スポーツB	2後	1			○								兼1		
	スポーツC	2前	1			○								兼1		
小計 (4科目)	—	1	3	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	—	
スポーツ活動	スポーツ活動A	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動B	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動C	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動D	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動E	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動F	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動G	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動H	1後	1			○								兼2		
小計 (8科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学部 教育 科目	共通 基礎 科目	数学基礎	1前		2		○									兼1	
		物理概論	1後		2		○									兼1	
		微分積分学Ⅰ	1前	3			○									兼1	
		微分積分学Ⅱ	1後	3			○									兼1	
		線形代数	1前	3			○									兼1	
		基礎力学	1前		2		○									兼1	
		基礎化学	1前		2		○									兼1	
		創造理工学実験	1前	2					○							兼1	
		基礎化学実験	1後		2				○							兼1	
	小計 (9科目)	—	11	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼7	—	
	理工系 教育 圏 科目	専門 基礎 科目	ベクトル解析	2前		2		○									兼1
			微分方程式	2前		2		○									兼1
			応用数学	2前	2			○									兼1
			基礎電磁気学	1後		2		○									兼1
			熱学	1後		2		○									兼1
			基礎材料化学	1後		2		○									兼1
			生物と工学	2後		2		○									兼1
			応用線形代数	1後		2		○									兼1
			数理科学A	1後		2		○									兼1
			数理科学B	3前		2		○									兼1
			データサイエンスの基礎	1後		2		○									兼1
			問題解決のためのアルゴリズムと データ構造	2前		2		○									兼1
	人工知能アルゴリズムの活用	2後		2		○									兼1		
	データサイエンスプログラミング	2後		1			○								兼1		
	小計 (14科目)	—	2	25	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	—	
	複合 領域 科目	複合 領域 科目	管理工学	1後		2		○									兼1
			環境工学	2前		2		○									兼1
			安全工学	3前		2		○									兼1
			工学倫理	1前		2		○									兼1
			社会と工学	1前		2		○									兼1
			企業と工学	1前		2		○									兼1
			物質の量子論的基礎と 量子コンピュータ入門	1後		2		○									兼1
			AIのための脳神経科学	1後	2			○			1						
インターンシップA			3前		1				○	1						集中	
インターンシップB			3前		2				○	1						集中	
小計 (10科目)	—	2	17	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼7	—		
理 学	理 学	初等力学	1前		2		○			1							
		マルチボディダイナミクスⅠ	2後		2		○			1							
		マルチボディダイナミクスⅡ	3前		2		○			1							
		小計 (3科目)	—	4	2	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼0	—	
		工学設計	1前		2		○									兼1	
工 学 設 計	工 学 設 計	ロボット工学概論	1後		2		○			1							
		材料工学	2前		2		○			1							
		ロボット製図	2後		1		○								兼1		
		CAD・CAM・CAE	2後		2		○			1							
		加工学	2後		2		○								兼1		
小計 (6科目)	—	6	5	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼3	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部 教育科目	プログラミング	ロボットプログラミング入門	1前	2			○			1						
		ロボットプログラミングⅠ	1後	2			○			1						
		ロボットオペレーティングシステム	2前	2			○					1				
		ロボットプログラミングⅡ	2後	2			○			1						
		小計(4科目)	—	8	0	0	—	—	—	2	0	1	0	0	0	兼0
	制御・信号処理	電気回路	1後	2			○									兼1
		アナログ電子回路	2前	2			○				1					
		デジタル電子回路	2前	2			○			1						
		自動制御工学	2後	2			○			1						
		シーケンス制御	3後		2		○									兼1
		制御回路設計	3前	2			○									兼1
		デジタル信号処理	3前	2			○			1						
		センサ工学	3前		2		○				1					
		アクチュエータ工学	3前		2		○			1						
		ロボットモーション	3前		2		○			1						
		ロボットインテリジェンス	3後		2		○			1						
		ヒューマンロボットインタラクション	3後		2		○									兼1
		音声情報処理	3後		1		○			1						
		ロボットフロンティア	4前		2		○			1						
	小計(14科目)	—	14	13	0	—	—	—	6	1	0	0	0	0	兼3	—
AI	ロボットビジョン	2後	2			○			1							
	機械学習	3前		2		○			1							
	データサイエンス活用	3後		1		○			1							
	深層学習	3後		2		○			1							
	小計(4科目)	—	2	5	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼0	—
創 成 科 目	ロボティクス入門Ⅰ	1前	2					○	1		1					
	ロボティクス入門Ⅱ	1後	2					○	2							
	加工実習	2後	2					○	1							
	プロジェクト演習A	2前	1				○				1					
	プロジェクト演習B	3前	1				○		1							
	ロボティクス演習	2前	1				○				1					
	ゼミナールA	3前	1				○		7	1	1					
	ゼミナールB	3後	1				○		7	1	1					
	リフレッシュ英語A	1前		1		○									兼2	
	リフレッシュ英語B	1後		1		○									兼2	
	英語コミュニケーションA	2前	1			○									兼2	
	英語コミュニケーションB	2後	1			○									兼2	
	自主活動A	1前		1				○	1						集中	
	自主活動B	1後		1				○	1						集中	
小計(14科目)	—	13	4	0	—	—	—	7	1	1	0	0	0	兼2	—	
卒業研究	4通	4					○		7	1	1	0	0			
小計(1科目)	—	4	0	0	—	—	—	7	1	1	0	0	0	兼0	—	
合計(160科目)	—	70	197	0	—	—	—	7	1	1	0	0	0	兼73	—	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係・理学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
理工学部AIロボティクス学科の卒業要件は、本課程に4年以上在学し、全学共通教育科目〔初年次教育科目1単位、スキル教育科目及び外国語教育科目（英語スキルⅠ・Ⅱ科目2単位を含む。）から8単位以上、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目及び特別課題教育科目から14単位以上、健康とスポーツから1単位以上を含む。〕24単位以上及び学部教育科目（理工系教育圏科目15単位以上及び学科専門教育科目64単位以上を含む。）80単位以上（卒業研究4単位を含む）、並びに自由に選択する科目を合わせて、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）、4年次は20単位）			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	1 5 週
			1 時限の授業時間	9 0 分

資料30 教育課程等の概要（理工学部 宇宙航空学科）  
別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要														
（理工学部 宇宙航空学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
初年 科目次	スタートアップセミナー	1前	1			○			5	4				
	小計（1科目）	—	1	0	0	—			5	4	0	0	0	兼0 —
キャリア 科目ア	自己開拓	1後		1		○								兼1
	社会人基礎知識	2前		2		○								兼1
	小計（2科目）	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼2 —
スキル 教育科目	英語スキルⅠ	1前	1			○								兼3
	英語スキルⅡ	1後	1			○								兼3
	英語スキルⅢ	2前		1		○								兼2
	英語スキルⅣ	2後		1		○								兼2
	日本語スキルA	1前		2		○								兼2
	日本語スキルB	2後		2		○								兼1
	情報スキル入門	1前		2		○			1					
	情報スキル活用	1後		2		○								兼1
小計（8科目）	—	2	10	0	—			1	0	0	0	0	兼10 —	
全学共通 教育科目  外国語 教育科目	留学英語A（TOEFL）	2前		1		○								兼1
	留学英語B（TOEFL）	2後		1		○								兼1
	資格英語A（英検）	2前		1		○								兼1
	資格英語B（TOEIC）	2後		1		○								兼1
	イングリッシュワークショップ	3前		1		○								兼1
	パセオアカデミックL&S A	1前		2		○								兼1
	パセオアカデミックL&S B	1後		2		○								兼1
	パセオアカデミックR&W A	1前		2		○								兼1
	パセオアカデミックR&W B	1後		2		○								兼1
	パセオコンテンツA	1前		1		○								兼1
	パセオコンテンツB	1前		1		○								兼1
	ドイツ語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ドイツ語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	フランス語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	フランス語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	中国語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	中国語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	スペイン語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	スペイン語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	ポルトガル語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	ポルトガル語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	韓国語入門Ⅰ	1前		1		○								兼1
	韓国語入門Ⅱ	1後		1		○								兼1
	実践外国語A	2前		1		○								兼1
	実践外国語B	2後		1		○								兼1
	語学研修A	1前		1		○								兼1
	語学研修B	1後		1		○								兼1
小計（27科目）	—	0	31	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12 —

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	人文リテラシー	世界の歴史と日本	1後	2		○									兼1	
		日本の歴史と文化	1後	2		○									兼1	
		芸術の世界	1後	2		○									兼1	
		芸術の表現	1後	1		○									兼2	
		映像を読む	1後	2		○									兼1	
		教育をみつめて	1後	2		○									兼1	
		哲学と思考	1後	2		○									兼1	
		小計 (7科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6
	社会リテラシー	現代社会と法	1後	2		○									兼1	
		日本の憲法	1後	2		○									兼1	
		政治と社会	1後	2		○									兼1	
		現代経済とビジネス	1後	2		○									兼1	
		生活環境と人間	1後	2		○									兼1	
		心と身体	1後	2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
	科学技術リテラシー	数学の思考法	1後	2		○									兼1	
		物理と自然	1後	2		○									兼1	
		化学と物質	1後	2		○									兼1	
		生物と環境	1後	2		○									兼1	
		生命と医療	1後	2		○									兼2	
		科学技術と社会	1後	2		○									兼1	
		地球と生命	1後	2		○									兼1	
		データサイエンスのための数理要論	1後	2		○									兼1	
		問題解決のための統計学入門	1後	2		○									兼1	
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—
	リベラルアート教育科目	リベラルアーツ課題演習A	3前	2		○									兼1	
		リベラルアーツ課題演習B	3前	2		○									兼1	
		リベラルアーツ課題演習C	3前	2		○									兼1	
小計 (3科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—	
特別課題教育科目	人類と資源	2前	2		○									兼1		
	持続学のすすめ	2前	2		○									兼1		
	地域の防災と安全	2前	2		○									兼1		
	地球を観る	2前	2		○									兼2		
	グローバル環境論	2前	2		○									兼1		
	地域共生実践	1後	2		○									兼2		
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—	
健康スポーツと	健康科学	1前	1		○									兼3		
	スポーツA	2前	1			○								兼1		
	スポーツB	2後	1			○								兼1		
	スポーツC	2前	1			○								兼1		
小計 (4科目)	—	1	3	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	—	
スポーツ活動	スポーツ活動A	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動B	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動C	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動D	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動E	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動F	1後	1			○								兼2		
	スポーツ活動G	1前	1			○								兼2		
	スポーツ活動H	1後	1			○								兼2		
小計 (8科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	—	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部教育科目	共通基礎科目	数学基礎	1前		2		○									兼1	
		物理概論	1後		2		○									兼1	
		微分積分学Ⅰ	1前	3			○									兼1	
		微分積分学Ⅱ	1後	3			○									兼1	
		線形代数	1前	3			○									兼1	
		基礎力学	1前		2		○									兼1	
		基礎化学	1前		2		○									兼1	
		創造理工学実験	1後	2					○							兼1	
		基礎化学実験	1後		2				○							兼1	
	小計(9科目)	—	11	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	—	
	理工系教育圏科目	専門基礎科目	ベクトル解析	1後		2		○								兼1	
			微分方程式	2前		2		○								兼1	
			応用数学	2前		2		○								兼1	
			基礎電磁気学	1後		2		○								兼1	
			熱学	1後		2		○								兼1	
			基礎材料化学	1後		2		○								兼1	
			生物と工学	2後		2		○								兼1	
			応用線形代数	1後		2		○								兼1	
			数理学A	1後		2		○								兼1	
			数理学B	3前		2		○								兼1	
			データサイエンスの基礎	1後		2		○								兼1	
			問題解決のためのアルゴリズムとデータ構造	2前		2		○								兼1	
			人工知能アルゴリズムの活用	2後		2		○								兼1	
			データサイエンスプログラミング	2後		1			○							兼1	
	小計(14科目)	—	0	27	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	—	
	複合領域科目	複合領域科目	管理工学	1後		2		○								兼1	
			環境工学	2前		2		○								兼1	
			安全工学	3前		2		○								兼1	
			工学倫理	1前		2		○								兼1	
			社会と工学	1前		2		○								兼1	
			企業と工学	1前		2		○								兼1	
			物質の量子論的基礎と量子コンピュータ入門	1後		2		○								兼1	
			AIのための脳神経科学	1後		2		○								兼1	
インターンシップA			3前		1			○			1					集中	
インターンシップB			3前		2			○			1					集中	
小計(10科目)	—	0	19	0	—			0	1	0	0	0	0	兼8	—		
学科専門教育科目	理学	力学基礎	1前	2			○			1	1						
		力学基礎演習	1前	1				○		1	1						
		振動・波動学	2前		2		○				1						
		電磁気学	2前	2			○				2						
	小計(4科目)	—	5	2	0	—			1	3	0	0	0	0	兼0	—	
	空力・推進	空力・推進	流体力学	2前	2			○			2						
			流体力学演習	2前	1				○		2						
			空気力学	2後		2		○			2					兼1	
			熱力学	2後	2			○			2						
			熱力学演習	2後	1				○		2						
伝熱工学			3前		2		○			1							
宇宙航空プラズマ理工学	2後		2		○				1								
推進工学	3後		2		○			1						兼1			
小計(8科目)	—	6	8	0	—			2	1	0	0	0	0	兼2	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部 教育 科目	材料・ 構造・ 生産 工学	材料力学	1後	2			○			1	1						
		材料力学演習	1後	1				○		1	1						
		構造力学	2後		2			○		1							
		構造力学演習	2後		1				○	1							
		航空宇宙材料	3前		2				○		1						
		生産システム	3後		2				○								
		小計(6科目)	—	3	7	0			—	1	1	0	0	0	兼1	集中	
	制御・ 飛行 力学・ 宇宙	制御工学	2後	2				○		1	1						
		制御工学演習	2後	1					○	1	1						
		飛行力学	3前		2			○		3							
		電気・電子回路	2後	2				○		1	1						
		電気・電子回路演習	2後	1					○	1	1						
		数値解析演習	2前		1				○		1						
		メカトロニクス	3前		2			○									兼1
		宇宙航空デバイス	3前		2			○		1							
		ソフトウェア	3前		2			○			1						
		宇宙空間情報応用	3後		2			○		1							
	小計(10科目)	—	6	11	0			—	5	2	0	0	0	兼1	—		
	航空 宇宙 機 設計	航空宇宙機設計演習	3後	1					○	3	1						兼4
		ロケットシステム	3前		2			○		1							
		宇宙機システム	3後		2			○			1						
		航空機システム	3後		2			○									兼3
		機械製図演習	1後	1					○	1							
		CAD演習	2後		1				○		1						
	小計(6科目)	—	2	7	0			—	3	2	0	0	0	兼7	—		
	総合 宇宙 航 空 工 学	宇宙航空理工学概論	1前	2				○		5	4						オムニバス
		機械工作実習A	1前	2					○	2	1						
		機械工作実習B	1後	2					○	1	2						
		宇宙航空理工学実験A	2前	1					○	4	2						
		宇宙航空理工学実験B	2後	1					○	2	3						
		宇宙航空理工学特別講義A	3前		1			○		5	4						集中
		宇宙航空理工学特別講義B	3後		1			○		5	4						集中
		先端宇宙航空理工学	4前		2			○		5	4						オムニバス
工場見学		2後	1							1						集中	
工場実習		2後		1						1						集中	
宇宙航空理工学科学技術英語A		2後	2				○		1								
宇宙航空理工学科学技術英語B		3前		2			○			1							
宇宙航空理工学科学技術英語C		3後		2			○		1								
小計(13科目)		—	11	9	0			—	5	4	0	0	0	兼0	—		
卒業研究	4通	4					○		5	4							
小計(1科目)	—	4	0	0			—	5	4	0	0	0	兼0	—			
合計(162科目)		—	52	216	0			—	5	4	0	0	0	兼83	—		

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
理工学部宇宙航空学科の卒業要件は、本課程に4年以上在学し、全学共通教育科目〔初年次教育科目1単位、スキル教育科目及び外国語教育科目(英語4単位、日本語スキル2単位、情報スキル2単位を含む。〕から8単位以上、教養課題教育科目、リベラルアーツ教育科目及び特別課題教育科目から14単位以上、健康とスポーツから1単位以上を含む。〕24単位以上及び学部教育科目(理工系教育圏科目16単位以上及び学科専門教育科目64単位以上)80単位以上(卒業研究4単位を含む)、並びに自由に選択する科目を合わせて、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(1学期)、4年次は20単位)			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

資料 31 工学部及び理工学部の専任教員配置状況表

(単位：人)

学部・学科	収容定員 (完成時)	設置基準上 の専任教員数	令和4年度専任教員					令和5年度専任教員				
			教授	准教授	講師	助教	合計	教授	准教授	講師	助教	合計
工学部												
機械工学科	644	11	12	1	0	1	14	12	1	0	1	14
都市建設工学科	324	9	6	2	1	0	9	6	2	1	0	9
建築学科	444	9	6	3	0	1	10	6	3	0	1	10
応用化学科	364	9	9	2	2	0	13	9	2	2	0	13
情報工学科	484	10	9	1	1	1	12	9	1	1	1	12
ロボット理工学科	0	9	7	1	2	0	10	0	0	0	0	0
電気電子システム工学科	644	11	12	3	1	0	16	12	3	1	0	16
宇宙航空理工学科	0	9	8	3	0	0	11	0	0	0	0	0
創造理工学実験教育科	—	—	6	5	1	0	12	2	3	0	0	5
工学部付	—	—	11	4	4	0	19	5	2	3	0	10
理工学部												
数理・物理サイエンス学科	164	8	0	0	0	0	0	10	4	2	0	16
AIロボティクス学科	324	9	0	0	0	0	0	7	1	1	0	9
宇宙航空学科	324	9	0	0	0	0	0	5	4	0	0	9
合 計	3,716	85	86	25	12	3	126	83	26	11	3	123

※工学部ロボット理工学科及び宇宙航空理工学科は令和5年4月学生募集停止

理工学部新棟（他学部・共用部含む）新築工事 工程表													
	2023年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
既設解体 (28号館)													
設計													
申請関連													
新築工事													
備品搬入等													
移転													
備考													

資料 33 数理・物理サイエンス学科研究機器一覧

主な機械・器具等の設備一覧

理工学部数理・物理サイエンス学科

分類	品名（主な仕様、性能）	数量
レーザー・光学系実験装置	教育用レーザー干渉実験装置	3
	教育用レーザー偏光実験装置	3
	直流安定化電源	3
	マルチメーター	3
	実験作業台	4
	ワークチェア	7
	スチールラック	1
	ホワイトボード	1
X線回折装置	X線回折装置	1
低温・超伝導系実験装置	冷却装置（断熱容器＋液体窒素容器など）	1
	高温超電導体用測定装置（電流計・電圧計・温度計・磁束計）	1
	直流電源（200 A×1、20A×3）	1
	超電導線材	1
	据え付け酸欠モニター	4
地学系実験装置	屈折式望遠鏡（口径80mm）	8
	経緯台式三脚	8
	太陽投影板	8
	地震計・データロガー等部品	3
	気象計・データロガー等部品	3
	パラボラアンテナ・受信機	3
	オシロスコープ	3
	丸板ガラス・研磨材	8
放射線実験装置 ガンマ線スペクトル測定	Ge半導体検出器	1
	NaIシンチレーション検出器	2
	プリアンプ	2
	シェイピングアンプ	2
	HVモジュール	2
	多重波高分析器（MCA）	2
	小型NIM-BIN電源	2
	データ処理用計算機	2
	オシロスコープ	2
	放射線源（ <sup>22</sup> Na, <sup>60</sup> Co, <sup>137</sup> Cs）	1
	ケーブル類	2
	実験作業台	2

分類	品名（主な仕様、性能）	数量
真空・プラズマ実験装置	真空装置(真空容器、真空窓、真空配管、真空ポンプ、ピラニー真空計、電離真空計、ガイスラー管)	2
	ガス導入系（ガスボンベ、ボンベ立て、圧力調整弁、ガス配管、切替弁、マスフローメータ）	1
	プラズマ生成用高周波発振入射装置(発振器、発振器用高圧電源、立体回路、アンテナ、遮蔽装置)・プラズマ計測装置(探針計測装置(探針、任意波形発生器)	2
	データ収集装置(USBオシロスコープ、データ収集用パソコン)	2
燃料電池発電実験設備（SOFC用3式）	発電試験装置(加熱炉、ガス流量制御計、コック、等付設)	3
	ホワイトボード、他	
	実験作業台(1800×900×760)、椅子	
	ガス供給設備(屋外ボンベ庫～室内減圧弁)	
	ガス廃棄設備(局所排気設備、除外装置)	
	緊急停止装置(地震、水素検知、過昇温)	
宇宙線実験装置 (ミュオグラフィー)	光センサー（SiPM）	2
	プラスチックシンチレータ-	2
	光ファイバー	2
	回路素子	2
	ケーブル類	2
	データ収集用エレクトロニクス	2
	データ解析用計算機	2
	直流安定化電源	2
	高圧電源	2
	2段台車	2
	実験作業台	2
	オシロスコープ	2
	数値計算演習室用コンピュータ	サーバ
学生用コンピュータ		30
計算用コンピュータ		3
スタジオ型教室用設備	サーバ	1
	コンピュータ	5
	遠隔会議システム	1
	電源ネットワーク付き机・椅子	60
	無停電電源	

分類	品名（主な仕様、性能）	数量
印刷室プリンター	複合プリンター	1
	A0ポスタープリンター	1
数理系研究室卒業研究用設備	マスターコンピュータ	3
	ディスプレイ	12
	電源ネットワーク付き机・椅子	15
	ソフトウェア マスマティカ	1
物理理論系卒業研究用設備	デスクトップパソコン	3
	ディスプレイ	12
	電源ネットワーク付き机・椅子	15
	ソフトウェア LMS	1
	ソフトウェア SLACK	1
	ソフトウェア Git Hub	1
	マスターコンピュータ	2
	大型ディスプレイ	1
	プロジェクター	1
	電源ネットワーク付き机・椅子	20



## 資料 34 AI ロボティクス学科研究機器一覧

## 主な機械・器具等一覧

理工学部 AI ロボティクス学科

分類	機械名称	型番・型式	数量
計算機本体	ワークステーション、CAD 教育施設、デジタルラボ		3
計測機器	AD/DA 変換実習装置	ITF-203	
	CCD レーザ変位センサ	LK-030	
	EMG アンプ SX230		
	FFT アナライザ		
	ロジックアナライザ		10
	Polymate AP-1000		
	SpikerBox (簡易活動電位計測システム)		20
	オシロスコープ		10
	デジタルストレージオシロスコープ		
	眼球運動計測装置 (EyeLink II)		
	眼球運動測定装置	フリービューヘッドマウントセット	
	眼球回旋撮影装置	ET-60-L	
	ギャップセンサー		
	光学顕微鏡		
	実体顕微鏡	SZ-4045	
	実体顕微鏡 (CCD カメラ・キャプチャ付)	MSM-Z475T	
	ビデオカメラ付き顕微鏡	顕微鏡カメラシステム MTV-H	
	長焦点実体顕微鏡	M320 オプティカルキャリア	
	ゴニオメータ		
	真円度測定機	ロンコム 30A	
	デジタルマルチメータ		10
	デジタル式ハイトゲージ		
	脳波計 Synafit EE2500		
	パワーメータ	PE9 ハイブリッドトリックヘッド	
	表面粗さ測定機	サーフコーダ SE1700	
	ファンクションジェネレータ		
	ベースユニット 8ch アナログアンプ		
	レーザラインゲージ	VG-300	
	運動学習誘発・脳神経活動		
色彩照度計 (アダプタ付)	CL-200		

分類	機械名称	型番・型式	数量
工作機器	3Dプロッタ MODELA (モデラ)	MDX-540S、MDX-20	21
	CNC 旋盤	LB12C	1
	NC 旋盤	LC10	1
	大型旋盤	LEG-125	1
	汎用旋盤	LR-55A	10
	CO2 アーク溶接機	XS200、XSmk II	4
	MIG 溶接機	CPDP-350	1
	TIG 溶接機	TC-200	
	足踏みスポット溶接機	ST-20	
	スポット溶接機	S1-6-354	
	被覆アーク溶接機	YK-250NLD	1
	被覆アーク溶接機 2	KXA-2506	2
	被覆アーク溶接機 4	YK-250NLD	1
	NC フライス盤	FMV-30	1
	治具フライス盤	KJ	1
	立フライス盤	VF、MH-2V	4
	横フライス盤	UF-2、NK-1	2
	エアープラズマ切断機	A-70	
	レジ切断機	RC-16	1
	高速湿式切断機	(中部大学製)	1
	小型空気圧縮機	POD-5.5	3
	小型高速卓上ボール盤	KHD-6	1
	直立ボール盤	KRTG-540	1
	ラジアルボール盤	YRD-105D	1
	卓上ボール盤	NSD-340、中部大学製、 B13R	7
	コンタマシン	LE-300	1
	ドリル研削機	DL-3、ZB32	2
	精密平面研削盤	GS-515PF	1
	超硬工具研磨盤	DP-2NS	1
	工具研磨機	GT-200FC	1
ベルトグラインダー	BDS-100N、HV 型	2	
放電加工機	AGIE TRON	1	
マシニングセンタ (MC)	MC-40VA	1	
ワイヤ放電加工機	AQ400L	1	

分類	機械名称	型番・型式	数量
工作機器	鋸盤	NT-350D	1
	手動折曲げ機		1
	油圧折曲げ機	HPB2212	1
	直線シャー	N1504	1
	複合加工機	INTEGREXi-150	1
	面取り加工機	CF-165	1
	両頭グラインダー	SGE-T、 GBK	2
撮影装置	3次元モーションキャプチャシステム (Mac 3DSystem)		
什器	移動棚 (機材収納用、学生実験室)		
	実験机、机付き椅子	ノードチェア	100
制御機器	3自由度ヘリコプタ制御実験装置		1~3
	ステッピングモーターコントローラー	AZI-7205	
製作実験機器	計測、設計、回路試作用プラットフォーム	NI ELVIS Plus	20
測定機器	AD/DA変換器 (Powe1401)		
ソフトウェア	Lab View		100
	MC用ソフトウェア ADMAC	ADMAC	4
	NC旋盤用ソフトウェア ADMAC	ADMAC	8
	2次元CAD		100
	3次元CAD	V5	171
	回路設計用CAD		40
	構造解析		15
	有限要素法型解析	ABAQUS	
	Spike2 (データ収集ソフト)		
	高速回路シミュレータ PLECS		100
	数値計算ソフトウェア MATLAB	MATLAB (toolbox付)	100
通信機器	POEスイッチ		2
	学生実験室用無線LANアクセスポイント	WLX-302	8
	ルータ		2
投影機	3Dプロジェクタシステム		1
	プロジェクタ		4
ビデオカメラ	3次元画像撮影装置 (同期装置付)	DIGI-COL	
	高速度デジタル入力システム	ひまわり CL6740	
プリンター	プリンタ (両面印刷ユニット付)		5
ロボット	リアルタイム制御DSP実験システム		2~6
	Humanoid Robot Nao		10~20
	Robot Suit HAL		

分類	機械名称	型番・型式	数量
ロボット	ロボット初期教育用キット		100
	教育用ロボットアーム		40
	産業用多自由度ロボットアーム		1～3
	知能移動ロボット		5～10
運搬車	リフター		

## 資料 35 宇宙航空学科研究機器一覧

## 主な機械・器具等の設備一覧

理工学部宇宙航空学科

分類	機械名称	型番・型式	数量
計算機本体	PC		100
計測機器	オシロスコープ		10
	ロジックアナライザ		2
	デジタルマルチメータ		10
	ファンクションジェネレータ		10
工作機器	3Dプロッタ MODELA (モデラ)	MDX-540A、MDX-20	21
	汎用旋盤	LR-55A	10
	大型旋盤	LEG-125	1
	複合加工機	INTEGREXi-150	1
	NC旋盤	LC10	1
	マシニングセンター (MC)	MC-40VA	1
	CNC旋盤	LB12C	1
	立フライス盤	VF	4
	横フライス盤	UF-2、NK-1	2
	治具フライス盤	KJ	1
	NCフライス盤	FMV-30	1
	平面研削盤	GS-515PFL	1
	ワイヤ放電加工機	AQ400L	1
	型彫り放電加工機	PN-60	1
	卓上ボール盤	NSD-340、中部大学製、B13R	7
	直立ボール盤	KRTG-540	1
	ラジアルボール盤	YRD-105D	1
	鋸盤	NT-350D	2
	コンタマシン	LE-300	1
	直線シャー	N1504	1
	高速湿式切断機	(中部大学製)	1
	油圧折曲げ機	HPB2212	1
	手動折曲げ機		1
	両頭グラインダー	SGE-T、GBK	2
	ベルトグラインダー	BDS-100N、HV型	3
	面取り加工機	CF-165	1
	工作機器	ドリル研磨機	ZB32

分類	機械名称	型番・型式	数量
	工具研磨機	GT-200FC	1
	超硬工具研磨盤	DP-2NS	1
	被覆アーク溶接機	KXA2、250NLD4	4
	CO2 アーク溶接機	YD-350KR2	4
	足踏みスポット溶接機	ST-20	1
	スポット溶接機	S1-6-354	1
	MIG 溶接機	350	1
	TIG 溶接機	TC-200	1
	プラズマ切断機	A-70	1
	スクロールコンプレッサー	POD-7.5、-5.5、-3.7	4
	レシプロコンプレッサー	BEBICON	4
	表面粗さ測定機	SE1700	1
	真円度測定機	30A	1
	硬さ測定機		3
	投影機	PK-300	1
	3D プリンタ	Dimension BST 768, ProJet 460Plus	2
ソフトウェア	MC 用ソフトウェア ADMAC	ADMAC	4
	NC 旋盤用ソフトウェア ADMAC	ADMAC	8
	2次元 CAD	Auto CAD Mechanical	100
	3次元 CAD	SolidWorks, CATIA V5	150
	回路設計用 CAD	OrCAD	40
	構造解析	LS-DYNA	15
	プレゼン、文書作成ソフトウェア	MS Office	学生数
	数値計算ソフトウェア	MATLAB	学生数
	画像解析	OpenCV	学生数
	統計処理ソフトウェア	SPSS	100
	地理情報システム	Arc/GIS	学生数
	リモートセンシングデータ解析	ENVI License (Fx FL、PC FL、RT PC FL)	7
	UAV データ解析	PhotoScan	1
実験装置	風洞実験装置		1
	衝撃波管実験装置		1
	超音速ジェット実験装置		1
	電気推進実験装置		1
	構造試験装置		1
実験装置	材料実験装置		1

分類	機械名称	型番・型式	数量
	画像処理実験装置		5
	宇宙通信実験装置		5

## 学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(1) 学生確保の見通し	2
① 定員充足の見込み	2
ア 入学定員の設定の考え方	2
イ 定員充足の見込み	3
1) 全国及び地域・学部系統別の入学志願者動向から見た定員充足の見込み	3
2) 中部大学における入学志願者動向から見た定員充足の見込み	3
3) 高等学校へのアンケート調査から見た定員充足の見込み	5
② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	6
ア 私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）	6
イ 河合塾私立大学入試結果（系統別）	6
ウ 中部大学における入学志願者動向	7
エ 高等学校へのアンケート調査	8
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	8
2. 人材需要の動向等社会の要請	9
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	9
① 理工学部	9
② 数理・物理サイエンス学科	10
③ AI ロボティクス学科	10
④ 宇宙航空学科	10
(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	11
① 各種統計調査及び現在又は将来における人材需給に関する調査・研究等 における客観的根拠	11
ア 愛知県の産業構造（経済産業省及び愛知県）	11
イ IT 人材需給に関する調査（経済産業省）及びあいち DX 推進プラン 2025（愛知県）	12
ウ 愛知県のロボット産業の概要	12
エ 全国と中部地域の航空機・部品生産額の推移等及び東海地域の主要メーカーの 立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況	13
オ 中部大学における就職の状況	13
② 企業・関係機関等への採用意向調査	14
ア 企業に対するアンケート調査の実施	14
イ 企業に対するアンケート調査の概要	15



## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生確保の見通し

##### ① 定員充足の見込み

##### ア 入学定員の設定の考え方

中部大学（以下「本学」という）理工学部における入学定員の設定及びその考え方については、以下のとおりである。

（単位：人）

学科名	入学定員	3年次編入定員	収容定員
数理・物理サイエンス学科	40	2	164
AIロボティクス学科	80	2	324
宇宙航空学科	80	2	324

##### （数理・物理サイエンス学科）

数理・物理サイエンス学科は、数理科学・物理科学分野の知識と技術を身に付け、自律的に学び、考え、自ら課題を発見・設定し解決する実践力を持った、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」を養成することを目的として新設する学科である。このため、学生には、数理科学（数学、データサイエンス等）・物理科学（物理学、物質科学、宇宙・地球科学等）の分野の知識および技術を基盤として、自律的に学ぶ力、自由な発想力、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、課題の発見力と解決のための実践力、判断力、コミュニケーション能力を修得させることを教育研究上の目的としている。

これらの人材養成を行うために必要かつ教育効果の高い入学定員及び収容定員を確保し、同学科における教育の質の保証に努めることを目的として、また、過去の工学部の入学志願者の状況等に鑑み、入学定員を40名、3年次編入学定員2名を計画し、収容定員を変更したいと考えている。

##### （AIロボティクス学科）

AIロボティクス学科の設置に伴い、工学部ロボット理工学科の学生募集を停止する。これまでの工学部ロボット理工学科における教育研究を基盤として、同学科における教育の質の保証に努めつつさらに社会や地域の要請に応じていくために、また、過去の入学志願者の状況等に鑑み、入学定員を80名、3年次編入学定員2名を維持したいと考えている。

##### （宇宙航空学科）

宇宙航空学科の設置に伴い、工学部宇宙航空理工学科の学生募集を停止する。これまでの工学部宇宙航空理工学科における教育研究を基盤として、同学科における教育の質の保証に努めつつさらに社会や地域の要請に応じていくために、また、過去の入学志願者の状況等に鑑み、入学定員を80名、3年次編入学定員2名を維持したいと考えている。

## イ 定員充足の見込み

### 1) 全国及び地域・学部系統別の入学志願者動向から見た定員充足の見込み

日本私立学校振興・共済事業団の2021（令和3）年度私立大学・短期大学等入学志願動向によれば、2021（令和3）年度の全国の入学志願者動向の概況としては、志願者数、受験者数、入学者数は前年度から減少したが、入学定員、合格者数は増加した。入学者数は9,617人減少し494,213人、入学定員充足率は2.80ポイント下降し、99.81%となった。また、入学定員充足率が100%未満の大学は93校増加して277校となり、大学全体に占める未充足校の割合は15.4ポイント上昇して、46.4%となった。

このような厳しい状況の中、地域別の動向を見た場合、本学の所在する「愛知」では、過去5か年平均の志願倍率が8.93倍、入学定員充足率が103.50%となっている。また、学部系統別の動向では、本学理工学部が属する「理・工学系」では、過去5か年平均の志願倍率が12.29倍、入学定員充足率が102.56%となっている。

これをさらに詳細に見てみると、「愛知」の志願倍率は、2017（平成29）年度8.43倍、2018（平成30）年度8.95倍、2019（令和元）年度9.62倍、2020（令和2）年度9.63倍、2021（令和3）年度8.04倍（5か年平均では8.93倍）となっている。また、入学定員充足率は、2017（平成29）年度105.60%、2018（平成30）年度103.87%、2019（令和元）年度103.53%、2020（令和2）年度103.61%、2021（令和3）年度100.88%（5か年平均では103.50%）となっている。「理・工学系」の志願倍率は、2017（平成29）年度11.27倍、2018（平成30）年度11.76倍、2019（令和元）年度12.87倍、2020（令和2）年度13.56倍、2021（令和3）年度11.99倍（5か年平均では12.29倍）、また、入学定員充足率は、2017（平成29）年度105.04%、2018（平成30）年度101.55%、2019（令和元）年度102.35%、2020（令和2）年度102.97%、2021（令和3）年度100.90%（5か年平均では102.56%）となっている。【資料1 2021（令和3）年度私立大学・短期大学等入学志願動向〔抄〕】

また、河合塾が公表した2021年度私立大学入試結果（系統別）によると、数理・物理サイエンス学科が該当する「理学系」については、志願者数が2019（令和元）年度138,617人、2020（令和2）年度143,167人、2021（令和3）年度123,934人となっている。2019（令和元）年度と2020（令和2）年度を比較すると、対前年度103%、2020（令和2）年度と2021（令和3）年度を比較すると、対前年度83%となっており、2021（令和3）年度はコロナ禍の影響等により減少しているものの、競争率（志願者/合格者）は、2019（令和元）年度3.2倍、2020（令和2）年度3.2倍、2021（令和3）年度2.6倍となっている。【資料2 2021河合塾私立大学入試結果（系統別）〔抄〕】

以上のような全国及び地域・学部系統別の入学志願者動向から、理工学部の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科においては、長期的かつ安定的に定員充足の見込みを立てている。

**資料1 2021（令和3）年度私立大学・短期大学等入学志願動向〔抄〕**

**資料2 2021河合塾私立大学入試結果（系統別）〔抄〕**

### 2) 中部大学における入学志願者動向から見た定員充足の見込み

一方で、本学における過去5年間の入学志願者の動向については、全学の志願倍率は、2017（平

成 29) 年度 7.89 倍、2018 (平成 30) 年度 7.71 倍、2019 (令和元) 年度 8.32 倍、2020 (令和 2) 年度 8.24 倍、2021 (令和 3) 年度 6.82 倍 (5 か年平均では 7.80 倍) となっている。また、定員超過率は、2017 (平成 29) 年度 1.05 倍、2018 (平成 30) 年度 1.02 倍、2019 (令和元) 年度 0.99 倍、2020 (令和 2) 年度 1.05 倍、2021 (令和 3) 年度 0.99 倍 (5 か年平均では 1.02 倍) となっている。また、理工学部と同系統の工学部の志願倍率は、2017 (平成 29) 年度 10.45 倍、2018 (平成 30) 年度 9.15 倍、2019 (令和元) 年度 10.50 倍、2020 (令和 2) 年度 10.57 倍、2021 (令和 3) 年度 8.45 倍 (5 か年平均では 9.82 倍) となっている。また、定員超過率は、2017 (平成 29) 年度 1.01 倍、2018 (平成 30) 年度 1.05 倍、2019 (令和元) 年度 0.97 倍、2020 (令和 2) 年度 1.10 倍、2021 (令和 3) 年度 1.00 倍 (5 か年平均では 1.02 倍) となっている。

さらに、工学部ロボット理工学科の志願倍率は、2017 (平成 29) 年度 8.07 倍、2018 (平成 30) 年度 7.72 倍、2019 (令和元) 年度 10.90 倍、2020 (令和 2) 年度 12.06 倍、2021 (令和 3) 年度 6.48 倍 (5 か年平均では 9.05 倍) となっている。また、定員超過率は、2017 (平成 29) 年度 1.02 倍、2018 (平成 30) 年度 1.03 倍、2019 (令和元) 年度 1.06 倍、2020 (令和 2) 年度 1.13 倍、2021 (令和 3) 年度 1.15 倍 (5 か年平均では 1.07 倍) となっている。同じく工学部宇宙航空理工学科の 2018 (平成 30) 年度 7.62 倍、2019 (令和元) 年度 8.05 倍、2020 (令和 2) 年度 7.62 倍、2021 (令和 3) 年度 6.11 倍 (4 か年平均では 7.35 倍) となっている。また、定員超過率は、2018 (平成 30) 年度 1.01 倍、2019 (令和元) 年度 0.92 倍、2020 (令和 2) 年度 1.11 倍、2021 (令和 3) 年度 0.96 倍 (4 か年平均では 1.00 倍) となっている。※宇宙航空理工学科は、2018 (平成 30) 年 4 月設置。

### 【資料 3 中部大学における過去 5 年間の入学志願者動向】

このように、志願倍率では 5 か年の平均で全学が 7.80 倍、工学部が 9.82 倍と高い倍率を維持している。定員超過率では、2019 (令和元) 年度がわずかに 1.00 倍を下回っているものの、5 か年の平均では、全学、工学部ともに 1.02 倍と安定しているとともに、2020 (令和 2) 年度、2021 (令和 3) 年度は、コロナ禍における非常に困難な状況下で 1.00 倍を回復している。また、理工学部の AI ロボティクス学科及び宇宙航空学科の基礎となる工学部ロボット理工学科及び宇宙航空理工学科においても、同様におおむね安定した志願倍率と定員超過率を確保している。

加えて、「5-学則の変更の趣旨等を記載した書類」の「理工学部にて 3 学科を設置する背景及び必要性」及び本稿の「2. 人材需要の動向等社会の要請」に記載したとおり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、将来的にもますます「理工系人材」が必要な状況になっており、「理・工学系」の大学への進学を希望する学生の増加を十分に見込むことができる。

以上のような状況から、理工学部数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科においては、開設時及び完成年度はもちろんのこと、長期的かつ安定的に定員を充足する見込みを立てている。

また、各学科とも 3 年次編入学定員については、愛知県内には国立の工業高専 1 校の他、工業系専門学校が 20 校程度あり、さらに、2016 (平成 28) 年 4 月に愛知県の国家戦略特区により愛知総合工科高等学校専攻科 (産業システム科生産システムコース及び情報システムコース、先端技術システム科自動車・航空産業コース及びエネルギー産業コース) が設置されたことや、工学部の 3 年次編入学試験の状況として、編入学定員に係る志願者と入学者は、毎年一定の割合【資料 4 工学部 3 年次編入学試験の状況】を占めている。

### 資料3 中部大学における過去5年間の入学志願者動向

### 資料4 工学部3年次編入学試験の状況

#### 3) 高等学校へのアンケート調査から見た定員充足の見込み

本学では、理工学部を設置にあたり、2021年9月から11月にかけて、東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）を中心とする高等学校に対して、アンケート調査を実施した。289校に依頼文書を送付し回答を求めたところ、140校より回答（回答率48.5%）があった。

アンケート調査の実施に当たっては、学部及び学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所（アクセス）を明示したうえで、以下のような質問項目に対して回答を求めた。

- ①数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見
- ②数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の中部地区における必要性
- ③数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科での学修に対する生徒の関心
- ④数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科への入学の推薦の意向

その結果、

①の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見については、数理・物理サイエンス学科の設置を「大いに歓迎する」または「望ましい」との回答が85.7%、AIロボティクス学科の設置を「大いに歓迎する」または「望ましい」との回答が87.9%、宇宙航空学科の設置を「大いに歓迎する」または「望ましい」との回答が84.3%であった。

②の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の中部地区における必要性については、数理・物理サイエンス学科は「中部地区において必要性が高い」または「産業界の期待に応えられる可能性がある」との回答が77.2%、AIロボティクス学科は「中部地区において必要性が高い」または「産業界の期待に応えられる可能性がある」との回答が90.7%、宇宙航空学科は「中部地区において必要性が高い」または「産業界の期待に応えられる可能性がある」との回答が81.5%であった。

③の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科での学修に対する生徒の関心については、数理・物理サイエンス学科は「高い熱意を持つものが多い」または「興味と熱意を持つ者がいる」との回答が72.1%、AIロボティクス学科は「高い熱意を持つものが多い」または「興味と熱意を持つ者がいる」との回答が86.5%、宇宙航空学科は「高い熱意を持つものが多い」または「興味と熱意を持つ者がいる」との回答が75.7%であった。

上記①②③の結果から、本学理工学部及び3学科の設置については、近隣の高等学校から、おおむね好評価を得ていると考えられる。

最後に、④の数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科への入学の推薦の意向については、数理・物理サイエンス学科への入学について「積極的に受験を薦めたい」または「相談があれば受験を薦めたい」との回答が85.0%（119校/140校）であり、同様にAIロボティクス学科への入学について「積極的に受験を薦めたい」または「相談があれば受験を薦めたい」との回答が80.0%（112校/140校）であり、宇宙航空学科への入学について「積極的に受験を薦めた

い」または「相談があれば受験を薦めたい」との回答が 84.2% (118 校/140 校) であり、8 割以上の高等学校から受験を推薦する意向が示された。さらに「推薦入学にぜひ応募させたい」との回答が、数理・物理サイエンス学科 18.6%(26 校/140 校)、AI ロボティクス学科 22.1%(31 校/140 校)、宇宙航空学科 16.4%(23 校/140 校)であった。

以上のような状況から、数理・物理サイエンス学科 (入学定員 40 人)、AI ロボティクス学科 (入学定員 80 人)、宇宙航空学科 (入学定員 80 人) において、それぞれの定員充足を見込むことができる。**【資料 5 理工学部に関するアンケート (高校) 調査結果】**

## 資料 5 理工学部に関するアンケート (高校) 調査結果

### ② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

#### ア 私立大学・短期大学等入学志願動向 (日本私立学校振興・共済事業団)

この「私立大学・短期大学等入学志願動向」は、日本私立学校振興・共済事業団が 2021 (令和 3) 年度に実施した「学校法人基礎調査」から、入学定員、志願者数及び入学者数等を集計し、入学定員充足率や志願倍率の動向を規模別、地域別、学部系統別にまとめられたものである。集計の概要は以下のとおりである。

- ・調査基準日 各年度 5 月 1 日
- ・調査対象校 私立大学・短期大学 (株式会社が設置する学校は除く)
- ・集計の方法 平成 29 年度から令和 3 年度に実施した「学校法人基礎調査」から、私立大学・短期大学の入学者数等に関する項目のデータを集計。
- ・集計学校数 令和 3 年度 597 校
- ・各比率の算出方法
  - 志願倍率 (志願者数÷入学定員)
  - 合格率 (合格者数÷受験者数)
  - 歩留率 (入学者数÷合格者数)
  - 入学定員充足率 (入学者数÷入学定員)

「私立大学・短期大学等入学志願動向」において取りまとめられた大学の概況及び上記の「1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況(1) 学生確保の見通し① 定員充足の見込みイ 定員充足の見込み 1) 全国及び地域の入学志願者動向から見た定員充足の見込み」の説明に用いたデータは**【資料 1 2021 (令和 3) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向【抄】】**のとおりである。

## 資料 1 2021 (令和 3) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向【抄】

### イ 河合塾私立大学入試結果 (系統別)

この「私立大学入試結果 (系統別)」は、令和 3 年 7 月に河合塾が私立大学 568 大学のデータをもとに 2019 年度から 2021 年度までの志願者及び合格者について集計し、公表したものである。

本学理工学部は上記アのデータにおいては、「理・工学系」に分類されるものと考え、新設する数理・物理サイエンス学科においては、卒業生に学士 (理学) の学位を授与する計画であることから、「理学系」の入試動向についても確認をしたものである。

それによると、志願者数が2019（令和元）年度138,617人、2020（令和2）年度143,167人、2021（令和3）年度123,934人となっている。2019（令和元）年度と2020（令和2）年度を比較すると、対前年度103%、2020（令和2）年度と2021（令和3）年度を比較すると、対前年度83%となっており、2021（令和3）年度はコロナ禍の影響等により減少しているものの、競争率（志願者/合格者）は、2019（令和元）年度3.2倍、2020（令和2）年度3.2倍、2021（令和3）年度2.6倍となっている。

また、「工学系」については、志願者数が2019（令和元）年度678,775人、2020（令和2）年度724,470人、2021（令和3）年度650,029人となっている。2019（令和元）年度と2020（令和2）年度を比較すると、対前年度107%、2020（令和2）年度と2021（令和3）年度を比較すると、対前年度90%となっている。また、競争率（志願者/合格者）は、2019（令和元）年度3.8倍、2020（令和2）年度3.8倍、2021（令和3）年度3.1倍となっている。**【資料2 2021 河合塾私立大学入試結果（系統別）【抄】】**

## 資料2 2021 河合塾私立大学入試結果（系統別）【抄】

### ウ 中部大学における入学志願者動向

「中部大学における入学志願者動向」に用いたデータは、本学における、過去5年間の入学志願状況等（志願者数、合格者数、入学者数、定員超過率）を取りまとめたものである。

全学の入学定員は、2017（平成29）年度2,500人、2018（平成30）年度2,600人、2019（令和元）年度2,600人、2020（令和2）年度2,600人、2021（令和3）年度2,600人となっている。

全学の志願者数は、2017（平成29）年度20,525人、2018（平成30）年度20,057人、2019（令和元）年度21,633人、2020（令和2）年度21,437人、2021（令和3）年度17,740人となっている。

全学の合格者数は、2017（平成29）年度6,754人、2018（平成30）年度6,891人、2019（令和元）年度6,381人、2020（令和2）年度6,789人、2021（令和3）年度7,365人となっている。

全学の入学者数は、2017（平成29）年度2,641人、2018（平成30）年度2,667人、2019（令和元）年度2,583人、2020（令和2）年度2,731人、2021（令和3）年度2,595人となっている。

これにより、全学の志願倍率は、2017（平成29）年度7.89倍、2018（平成30）年度7.71倍、2019（令和元）年度8.32倍、2020（令和2）年度8.24倍、2021（令和3）年度6.82倍（**5か年平均では7.80倍**）となっている。また、定員超過率は、2017（平成29）年度1.05倍、2018（平成30）1.02倍、2019（令和元）年度0.99倍、2020（令和2）年度1.05倍、2021（令和3）年度0.99倍（**5か年平均では1.02倍**）となっている。

理工学部と同系統の工学部の入学定員は、2017（平成29）年度780人、2018（平成30）年度880人、2019（令和元）年度880人、2020（令和2）年度880人、2021（令和3）年度880人となっている。

工学部の志願者数は、2017（平成29）年度8,154人、2018（平成30）年度8,058人、2019（令和元）年度9,245人、2020（令和2）年度9,304人、2021（令和3）年度7,442人となっている。

工学部の合格者数は、2017（平成29）年度2,376人、2018（平成30）年度2,727人、2019（令和元）年度2,418人、2020（令和2）年度2,709人、2021（令和3）年度2,928人となっている。

工学部の入学者数は、2017（平成 29）年度 794 人、2018（平成 30）年度 931 人、2019（令和元）年度 855 人、2020（令和 2）年度 974 人、2021（令和 3）年度 888 人となっている。

これにより、工学部の志願倍率は、2017（平成 29）年度 10.45 倍、2018（平成 30）年度 9.15 倍、2019（令和元）年度 10.50 倍、2020（令和 2）年度 10.57 倍、2021（令和 3）年度 8.45 倍（5 か年平均では 9.82 倍）となっている。また、定員超過率は、2017（平成 29）年度 1.01 倍、2018（平成 30）年度 1.05 倍、2019（令和元）年度 0.97 倍、2020（令和 2）年度 1.10 倍、2021（令和 3）年度 1.00 倍（5 か年平均では 1.02 倍）となっている。

上記の「1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況(1) 学生確保の見通し① 定員充足の見込みイ定員充足の見込み 2) 中部大学における入学志願者動向から見た定員充足の見込み」の説明に用いた、これらのデータの基礎となる過去 5 年間の入学志願状況等（志願者数、合格者数、入学者数、定員超過率）は、【資料 3 中部大学における過去 5 年間の入学志願者動向】のとおりである。

### 資料 3 中部大学における過去 5 年間の入学志願者動向

#### エ 高等学校へのアンケート調査

本学では、理工学部を設置にあたり、2021 年 9 月から 11 月にかけて、東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）を中心とする高等学校に対して、アンケート調査を実施した。その概要は以下のとおりである。

- ・調査時期 2021（令和 3）年 9 月～11 月
- ・調査対象 東海三県を中心とする高等学校 289 校
- ・調査目的 本学の理工学部を設置計画に関する評価・期待度・学修意欲及び入学（推薦）の意向等を把握するため
- ・調査方法 調査対象校に郵送にて依頼状を送付し、回答を郵送及びインターネット上の回答により回収した。
- ・調査結果 【資料 5 理工学部に関するアンケート調査（高校）結果】とおり
- ・依頼文書 【資料 6 理工学部に関するアンケート調査（高校）依頼文書】とおり
- ・アンケート調査票 【資料 7 理工学部に関するアンケート調査（高校）調査票】とおり

#### 資料 5 理工学部に関するアンケート調査（高校）結果

#### 資料 6 理工学部に関するアンケート調査（高校）依頼文書

#### 資料 7 理工学部に関するアンケート調査（高校）調査票

#### (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、本学のアドミッション戦略、大学及び大学院の学生確保、入学試験、広報事業の円滑な推進を図ることを目的として、入学センター（センター長、副センター長、事務部長、担当次長、入試広報課、入試事務課で構成）を設置し、広報業務、入試業務を一体として学生募集を実施している。

また、学長を委員長とする「中部大学入試・選抜委員会」及び各学部長を委員長とする「各学部入学者選抜委員会」を設置し、学部及び大学院の入学試験及び入学者選抜に関する重要事項を審議決定している。

具体的な学生確保の主な取り組み状況は、次のとおりである。

#### 1. 広告出稿

- (1) 受験雑誌：新設コーナー等、約15社の受験媒体紙に出稿予定
- (2) Web（ホームページ）：新設コーナー等、受験ポータルサイトに出稿、バナー広告掲載
- (3) DM企画：河合塾、進研ゼミ等の会員に宛てDM企画に参画
- (4) 新聞広告等：連合広告中心

#### 2. その他告知・広報活動

- (1) 進学説明会：主に業者企画、受験生対象に実施、高校教員対象に独自企画も実施
  - (2) 高校訪問：高校教員対象に案内
  - (3) 講師派遣：高校内ガイダンス、高校にて直接生徒に説明
  - (4) オープンキャンパス：春・夏・秋、(年3回)を実施
3. 見学会：高校単位が中心で、本学の教育環境を案内
4. 高校訪問：愛知・三重・岐阜・静岡・滋賀など 約450校 年1～3回  
その他の県 約300校 年1回
5. 進学説明会（受験生対象）：系統別相談会も増加、相談コーナー参加 約110会場、  
資料コーナーのみ参加 約10会場
6. 進学説明会（教員対象）：本学会場2日、金沢、富山、浜松、静岡、津、松本、彦根
7. 講師派遣：高校からの依頼に応じて対応、依頼数は、年々増加傾向
8. 見学会：高校からの依頼に応じて対応（例年50回～70回）
9. 最大4年間の学費相当額を全額免除とする特別奨学生試験を実施
10. 受験生の要望に応じ、地区試験場を拡大
11. 中部大学独自の奨学金（給付制、貸与制）・支援金制度を実施

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学では、理工学部及び数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の設置の趣旨及び社会的なニーズや地域の要請に鑑み、それぞれにおいて養成する人材像及びそのために必要な教育研究上の目的を以下のとおり定めている。

#### ①理工学部

理工学部は、数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献する科学技術者を養成する。

そのため、理工学部では、科学技術の根幹をなす数学、自然科学、および幅広い工学分野の先進科学技術を基礎として、新しい時代に即した理学と工学を融合した教育・研究を展開し、推進する。数学や物理学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養を修得させると



ともに、数理科学・物理科学分野のより専門的な知識、また、応用分野として、材料科学、電気・電子・情報工学、機械工学、AI 技術等を融合したロボティクス分野、宇宙航空分野の専門知識を、講義、演習、実験・実習等を通して修得させる。これらのことにより、それぞれの分野を深化させ、先進的な技術力や論理的な思考力を備え、産業社会を牽引できる科学技術者を養成することを教育研究上の目的とする。

## ②数理・物理サイエンス学科

数理・物理サイエンス学科は、数理科学・物理科学分野の知識と技術を身に付け、自律的に学び、考え、自ら課題を発見・設定し解決する実践力を持った、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」を養成する。

そのため、数理・物理サイエンス学科では、数理科学（数学、データサイエンス等）・物理科学（物理学、物質科学、宇宙・地球科学等）の分野の知識および技術を基盤として、自律的に学ぶ力、自由な発想力、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、課題の発見力と解決のための実践力、判断力、コミュニケーション能力を修得させることを教育研究上の目的とする。

## ③AI ロボティクス学科

AI ロボティクス学科は、AI ロボティクス分野の基礎となる理学、工学設計、プログラミング、制御・信号処理、AI 等の基盤的専門知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術（人間生活に直結したサービス系、介護、診断系や産業系のロボット等）やシステム・インテグレーションでできる技術に関する教育を行い、理学的素養とロボット領域における知識・能力、技術を身に付けたロボット共存社会を支えるグローバルな科学技術者を養成する。

そのため、AI ロボティクス学科は、理学、工学設計、プログラミング、制御・信号処理、AI の各分野の基盤的専門知識・技術とともに、分野を横断した学術的専門知識・技術の統御能力を修得させ、自ら課題を発掘・分析し、これに挑戦し、その解決までを個人としてまたチームとして取り組む力やコミュニケーション能力を涵養することを教育研究上の目的とする。

## ④宇宙航空学科

宇宙航空学科は、理学、流体力学、熱力学、構造力学、材料力学、制御工学、情報工学、電気・電子工学等の基盤的専門知識を修得させるとともに、推進工学、生産システム、航空機システム、ロケットシステム、宇宙機システム、宇宙航行、航空宇宙機設計等の学際的・複合的な宇宙航空学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代航空宇宙産業における設計・開発・製造・利用技術に関わる科学技術者を養成する。

そのため、宇宙航空学科では、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代航空宇宙産業における設計・開発・製造技術に関わる科学技術者を養成するため、理学、空力・推進、材料・構造、制御・飛行力学、情報、電気・電子の各分野の基盤的専門知識や技術及び、生産システム、航空機システム、宇宙機システム、航空宇宙機設計等の分野を横断した学術的・実践的専門知識を修得させるとともに、これらの理論に裏打ちされた高度な技術等を強みに、生産現場の主力を担うとともに、事業活動における新たな価値の創造を先導する役割を担うことので

きる資質能力を育成することを教育研究上の目的とする。

## **(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠**

現在の日本の科学技術は、20世紀の後半に社会のニーズに応えるキャッチアップ時代を終え、新たなニーズを生み出し社会をリードするフロントランナー時代に突入し、真に人類の福祉の向上に貢献する新しいものを作り出す技術が社会から強く求められている。現在の工学部8学科及び工学研究科8専攻においては、建学の精神である「不言実行、あてになる人間」に基づき、このような21世紀の社会からあてにされる技術者を育成することを目指して、創造的実践能力を身に付けるための具体的な学修・教育目標を設定した教育プログラムを提供している。また、本学における工学教育では、①体験学修による「モノづくり」に対するデザイン能力、②社会環境の変化に対応するために必要な工学基礎、③チームで仕事をするためのコミュニケーション能力、④個の人間形成に必要な教養、高度化・複雑化する総合的視野の涵養などを教育研究の柱としている。

しかしながら、近年の急速な社会構造の変化や科学技術の進歩に伴い、それらの社会の変化に対応可能な科学技術の持続的発展と革新及びその科学技術の社会への応用を担う「理工系人材」の育成が急務となっている。このため、本学ではこれまでの本学工学部における教育研究の内容及び方法を基盤として、数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献できる科学技術者を養成するため、数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の3学科で構成される理工学部を設置するものである。

本学が所在する愛知県は日本列島のほぼ中央に位置し、高速道路、鉄道、港、空港をはじめとした主要な交通網が立体的に整備され一大拠点となすとともに、東京、大阪と並んで日本の三大都市圏を形成し、日本経済の原動力として機能している。中でも製造業は、製造品出荷額等で43年連続日本一を記録し、事業所数では全国第2位、従業員数でも全国第1位となるなど日本一のモノづくり県を自負している。また、航空宇宙産業や次世代自動車高度モノづくりの人材育成に取り組むなど次世代産業を支える人材の育成・確保を図るとともに、少子化や団塊世代の退職による技術者や研究者の減少や若年層の理科離れが予想される中、次世代を担う科学技術人材の育成にも力を入れているが、さらに、「あいちDX推進プラン2025」を策定し、官民におけるDXを強力に推進するとしている。この中で、IoT技術の著しい進展に鑑みモノづくりが盛んな当地域において、今後ますます地元でのIoT人材の育成が必要なることから、IoT人材の確保・育成を図るため大学生等がIT関連の新たな製品やサービスを開発するハッカソンを開催するとともに、県内産業の維持・発展に不可欠なIoT人材を育成するため、県内の大学や経済団体と連携して、企業への長期インターンシップや企業と連携したPBL（課題解決型学習）の実施を調整するなど、数理科学、AI、データサイエンスの知識を身に付けた「デジタル人材の育成」を目標のひとつとしており、人材養成に関する大学等に対する要請や期待も高い。

このように、上記(1)の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである。以下にその客観的根拠を示す。

### **①各種統計調査及び現在又は将来における人材需給に関する調査・研究等における客観的根拠**

#### **ア 愛知県の産業構造（経済産業省及び愛知県）**

「2020年工業統計表[概要版]」によると、令和元年の愛知県の製造品出荷額等は47兆9,243億円

(従業員 4 人以上の事業所) と全国の約 14.9% を占め、第 2 位の神奈川県 (17 兆 7,461 億円) に大差をつけて、43 年連続日本一を記録している。同様に、事業所数では全国第 2 位、従業員数でも全国第 1 位となるなど日本一のモノづくり県であることを数字が示している。また、製造品出荷額等において 24 業種中、11 業種 (ゴム製品、生産用機械、はん用機械、金属製品、鉄鋼、繊維、プラスチック、窯業・土石製品、業務用機械、電気機械、輸送用機械) が 1 位である。【資料 8 愛知県の産業構造 (抄)】

#### 資料 8 愛知県の産業構造 (抄)

#### イ IT 人材需給に関する調査 (経済産業省) 及びあいち DX 推進プラン 2025 (愛知県)

2019 (平成 31) 年 4 月に経済産業省が発表した「IT 人材需給に関する調査 (概要)」によると、IT 人材 (全体) の需給について、需要の伸びを年平均 2.7% 程度、労働生産性が年 0.7% 上昇することを前提としてその需給ギャップを試算したところ、2018 年が 22 万人、2020 年が 30 万人、2025 年が 36 万人、2030 年には 45 万人の不足が生じるとの結果が得られた。【資料 9 IT 人材需給に関する調査 (概要)】

さらに、「AI を実現する数理モデルについての研究者 (ただし、学術・研究機関を除く) や AI 機能を搭載したソフトウェアやシステムの開発者、AI を活用した製品・サービスの企画・販売者」を「AI 人材」と定義して、その需給ギャップを試算した結果、AI 人材の生産性が 0.7% 上昇し、かつ AI 需要の伸びが「平均」(16.1%/年) の場合は、2025 年に 8.8 万人、2030 年に 12.4 万人の需給ギャップ (不足) が生じ、AI 需要の伸びが「低位」(10.3%/年) の場合は、2025 年に 2.7 万人、2030 年に 1.2 万人の需給ギャップ (不足) まで緩和するとの報告がなされている。【資料 9 IT 人材需給に関する調査 (概要)】 (抄)

愛知県においては、2020 年 (令和 2) 年 12 月に、県行政の効率化・DX の推進、データの活用、県域 ICT 活用支援、デジタル人材育成を視点・柱とする「あいち DX 推進プラン 2025」を策定した。今後は、このプランに基づき、「デジタルで生まれ変わる愛知」をキャッチフレーズに、愛知県のデジタル・トランスフォーメーションを迅速かつ計画的に進めていくとしているが、とりわけ、デジタル人材育成においては、社会全体のデジタル化に向けて、デジタル人材の需要は供給を上回っており、学校教育、社会人教育、リカレント教育等様々な方法でデジタル人材を育成していく必要があるとして、積極的に取り組んでいる。【資料 10 あいち DX 推進プラン 2025 (抄)】

#### 資料 9 IT 人材需給に関する調査 (概要) (抄)

#### 資料 10 あいち DX 推進プラン 2025 (抄)

#### ウ 愛知県のロボット産業の概要

愛知県のロボット産業の現状としては、2020 年工業統計によると、ロボット製造業の製造品出荷額等は 1,706 億円で全国の 17.7% を占め、全国 2 位である。また、事業所数は 59 か所で全国の 14.9% を占め、全国 1 位、従業員数は 2,478 人で全国の 13.1% を占め、全国 2 位である。国内市場規模の推計 (医療や介護・福祉等のサービス分野で使われるロボット中心に市場に大きく拡大する見

込み。)等からも、愛知県は、自動車、航空宇宙に次ぐ第3の柱として次世代ロボット産業を大きく育て、当地域を世界に誇れるロボット産業拠点として発展させることに力を入れており、この分野の高度な人材需要が期待されている。【資料11 愛知県のロボット産業の現状】

### 資料11 愛知県のロボット産業の現状

#### エ 全国と中部地域の航空機・部品生産額の推移等及び東海地域の主要メーカーの立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況

本学の位置する中部地域は、日本の航空機・部品生産額の約5割、航空機体部品では約7割を生産し、我が国随一の航空宇宙産業の拠点となっている。大手機体メーカー（三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社SUBARU）のほか、機体の軽量化や燃費の向上を図るうえで利用が拡大している炭素繊維複合材料の製造・研究開発を行う企業（東レ株式会社等）や工作機械を供給する企業も多数集積している。さらに、航空機産業に関連する空港・飛行場、航空専門学校、JAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）名古屋空港飛行拠点、国土交通省航空局など、研究開発から設計、製造、安全審査、保守管理まで一貫して取り組めるインフラが存在している。【資料12 東海地域の主要メーカーの立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況】

これらの経験、立地状況に鑑み、国は、国内で唯一、世界に伍する航空機関連産業クラスターとして発展する可能性を有する地域として、東海地域を平成23年に国際戦略総合特区として、アジア等新興国の追随を許さない、欧米先進地域と肩を並べる日本で唯一の集積地「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定し、その位置づけを明確にしている。「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」においては、伸びしろのある航空宇宙産業の今後約20年の進展の予測を踏まえ、アメリカのシアトル、フランスのトゥールーズと並ぶ、航空宇宙産業の世界三大拠点の一つとなることを目標としている。また、最近では、2021年3月26日付けで特区計画の変更認定申請が認められ、新たに2021年度以降の評価指標及び数値目標が設定されている。【資料13 海外クラスターとの比較】

### 資料12 東海地域の主要メーカーの立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況

### 資料13 海外クラスターとの比較

#### オ 中部大学における就職の状況

中部大学における就職の状況は、求人社数については、全学で2016(平成28)年度17,171社、2017(平成29)年度17,708社、2018(平成30)年度18,564社、2019(令和元)年度18,809社、2020(令和2)年度17,966社（5か年平均17,983社）となっている。【資料14 全国求人倍率と中部大学求人者数の推移】

また、工学部の各学科においても、2017(平成29)年度から2020(令和2)年度にかけて、概ね13,000社から14,000社から求人があり、90倍から180倍の求人倍率となっている。【資料15 工学部の求人社数（業種別・学科別）の状況】

就職率（就職者数/就職希望者）については、2016(平成28)年度、全学では98.8%、工学部におい

ては 99.4%、2017(平成 29)年度、全学では 99.3%、工学部においては 99.7%、2018(平成 30)年度、全学では 99.6%、工学部においては 100%、2019(令和元)年度、全学では 99.7%、工学部においては 100%、2020(令和 2)年度において、全学では 99.2%、工学部においては 100%（5 年平均、全学 99.3%、工学部 99.8%）と高い就職率を維持している。【資料 16 学部別就職率の推移】【資料 17 工学部就職状況】

**資料 14 全国求人倍率と中部大学求人社数の推移**

**資料 15 工学部求人社数（業種別・学科別）の状況**

**資料 16 学部別就職率の推移**

**資料 17 工学部就職状況**

## ②企業・関係機関等への採用意向調査

### ア 企業に対するアンケート調査の実施

本学では、理工学部を設置にあたり、2021 年 9 月から 11 月にかけて、東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）及び一部関東甲信越地区に拠点を置く企業 692 社に対して、アンケート調査を実施したところ、265 社より回答（回答率 38.3%）があった。

アンケート調査の実施に当たっては、学部及び学科の名称、設置の理念、養成する人材像、教育研究上の目的等を明示したうえで、以下のような質問項目に対して回答を求めた。

- ①数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見
- ②数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の必要性
- ③数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の採用意向

①の数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科の設置に関する意見においては、数理・物理サイエンス学科の設置を「大いに歓迎する」または「設置が望ましい」との回答が 79.6%、AI ロボティクス学科の設置を「大いに歓迎する」または「設置が望ましい」との回答が 90.9%、宇宙航空学科の設置を「大いに歓迎する」または「設置が望ましい」との回答が 81.9%であった。

②数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の必要性については、数理・物理サイエンス学科で受けた学生の必要性は「高いと考えられる」または「産業界の期待に応えることが可能」との回答が 80.4%、AI ロボティクス学科で教育を受けた学生の必要性は「高いと考えられる」または「産業界の期待に応えることが可能」との回答が 94.7%、宇宙航空学科で教育を受けた学生の必要性は「高いと考えられる」または「産業界の期待に応えることが可能」との回答が 83.8%であった。

以上のように、回答した企業の 8 割から 9 割が、数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科の設置を望むとの意向を持ち、そこで教育を受けた学生の社会における必要性の高さを認識していることが分かる。

最後に、③の数理・物理サイエンス学科、AI ロボティクス学科、宇宙航空学科で教育を受けた学生の採用意向については、数理・物理サイエンス学科で教育を受けた学生の採用に「強い関心がある」または「関心がある」との回答が 68.6%、AI ロボティクス学科で教育を受けた学生の採用に

「強い関心がある」または「関心がある」との回答が84.9%、宇宙航空学科で教育を受けた学生の採用に「強い関心がある」または「関心がある」との回答が71.3%であった。

これにより、1社あたり1名と仮定して算出した場合、数理・物理サイエンス学科で教育を受けた学生181.8人（回答企業265社×68.6%）の採用意向（入学定員40人の4.5倍）が確認された。また、同様にAIロボティクス学科で教育を受けた学生225人（回答企業265社×84.9%）の採用意向（入学定員80人の2.8倍）が、宇宙航空学科で教育を受けた学生189人（回答企業265社×71.3%）の採用意向（入学定員80人の2.4倍）が確認された。

以上の結果から、本学理工学部及び3学科の設置に関する企業の興味やニーズ及び卒業生に対する採用意向は高いと考えている。

## イ 企業に対するアンケート調査の概要

本学では、理工学部の設置にあたり、2021年9月から11月にかけて、東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）及び関東甲信越地区に拠点を置く企業692社に対して、アンケート調査を実施した。その概要は以下のとおりである。

- ・ 調査時期 2021（令和3）年9月～11月
- ・ 調査対象 東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）及び一部関東甲信越地区に拠点を置く企業 692社
- ・ 調査目的 本学の理工学部の設置計画に関する評価・期待度・関心及び卒業生の採用意向等を把握するため
- ・ 調査方法 調査対象企業に郵送にて依頼状を送付し、回答を郵送及びインターネット上の回答により回収した。
- ・ 調査結果 **【資料18 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）結果】** とおり
- ・ 依頼文書 **【資料19 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）依頼文書】** のとおり
- ・ アンケート調査票 **【資料20 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）調査票】** のとおり

**資料18 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）結果**

**資料19 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）依頼文書**

**資料20 理工学部の設置に関するアンケート調査（企業）調査票**

以 上

## 学生の確保の見通しを記載した書類 資料目次

資料 1	2021（令和 3）年度私立大学・短期大学等入学志願動向〔抄〕	2
資料 2	2021 河合塾私立大学入試結果（系統別）〔抄〕	9
資料 3	中部大学における過去 5 年間の入学志願者動向	10
資料 4	工学部 3 年次編入学試験の状況	12
資料 5	理工学部を設置に関するアンケート調査（高校）結果	13
資料 6	理工学部を設置に関するアンケート調査（高校）依頼文書	24
資料 7	理工学部を設置に関するアンケート調査（高校）調査票	26
資料 8	愛知県の産業構造（抄）	33
資料 9	IT 人材需給に関する調査（概要）〔抄〕	35
資料 10	あいち DX 推進プラン 2025（抄）	38
資料 11	愛知県のロボット産業の現状	40
資料 12	東海地域の主要メーカーの立地状況、中部地域の航空宇宙産業の集積状況	41
資料 13	海外クラスターとの比較	42
資料 14	全国求人倍率と中部大学求人社数の推移	43
資料 15	工学部求人社数（業種別・学科別）の状況	44
資料 16	学部別就職率の推移	45
資料 17	工学部就職状況	46
資料 18	理工学部を設置に関するアンケート調査（企業）結果	47
資料 19	理工学部を設置に関するアンケート調査（企業）依頼文書	60
資料 20	理工学部を設置に関するアンケート調査（企業）調査票	62

## I 大学の概況

### 1. 志願者数等の増減状況

R3年度	R2年度	増減
集計学校数 597校	593校	4校
入学定員 495,162人	491,012人	4,150人 (0.8%)
志願者数 3,834,862人	4,368,215人	△ 533,353人 (△ 12.2%)
受験者数 3,663,962人	4,174,803人	△ 510,841人 (△ 12.2%)
合格者数 1,437,906人	1,348,517人	89,389人 (6.6%)
入学者数 494,213人	503,830人	△ 9,617人 (△ 1.9%)
志願倍率 7.74倍	8.90倍	△ 1.16ポイント
合格率 39.24%	32.30%	6.94ポイント
歩留率 34.37%	37.36%	△ 2.99ポイント
入学定員充足率 99.81%	102.61%	△ 2.80ポイント
入学定員充足率 100%未満の学校数 (46.4%)	184校 (31.0%)	93校 (15.4ポイント)

志願倍率=志願者数÷入学定員、合格率=合格者数÷受験者数、歩留率=入学者数÷合格者数、入学定員充足率=入学者数÷入学定員

#### 《今年度の特徴》

##### 1 大学の概況

- 志願者数、受験者数、入学者数は前年度から減少したが、入学定員、合格者数は増加した。
- 入学者数は9,617人減少して、494,213人となった。
- 入学定員充足率は2.80ポイント下降して、99.81%となった。
- 入学定員充足率が100%未満の大学は93校増加して277校となり、大学全体に占める未充足校の割合は15.4ポイント上昇して、46.4%となった。

##### 2 区分ごとの動向

- 規模別の動向
  - ・入学定員充足率が上昇した区分は、入学定員が「3,000人以上」のみで、0.84ポイント上昇した。
  - ・600人以上3,000人未満の4つの区分では、入学定員充足率が100%を超えた。
- 地域別の動向（学校別）
  - ・入学定員充足率が上昇した区分は「京都」のみで、0.46ポイント上昇した。
  - ・「北海道」、「宮城」、「関東(埼玉、千葉、東京、神奈川を除く)」、「東京」、「愛知」、「大阪」、「福岡」では、入学定員充足率が100%を超えた。
- 学部系統別の動向
  - 「医学」、「理・工学系」、「社会科学系」、「体育学」、「芸術系」では、入学定員充足率が100%を超えた。



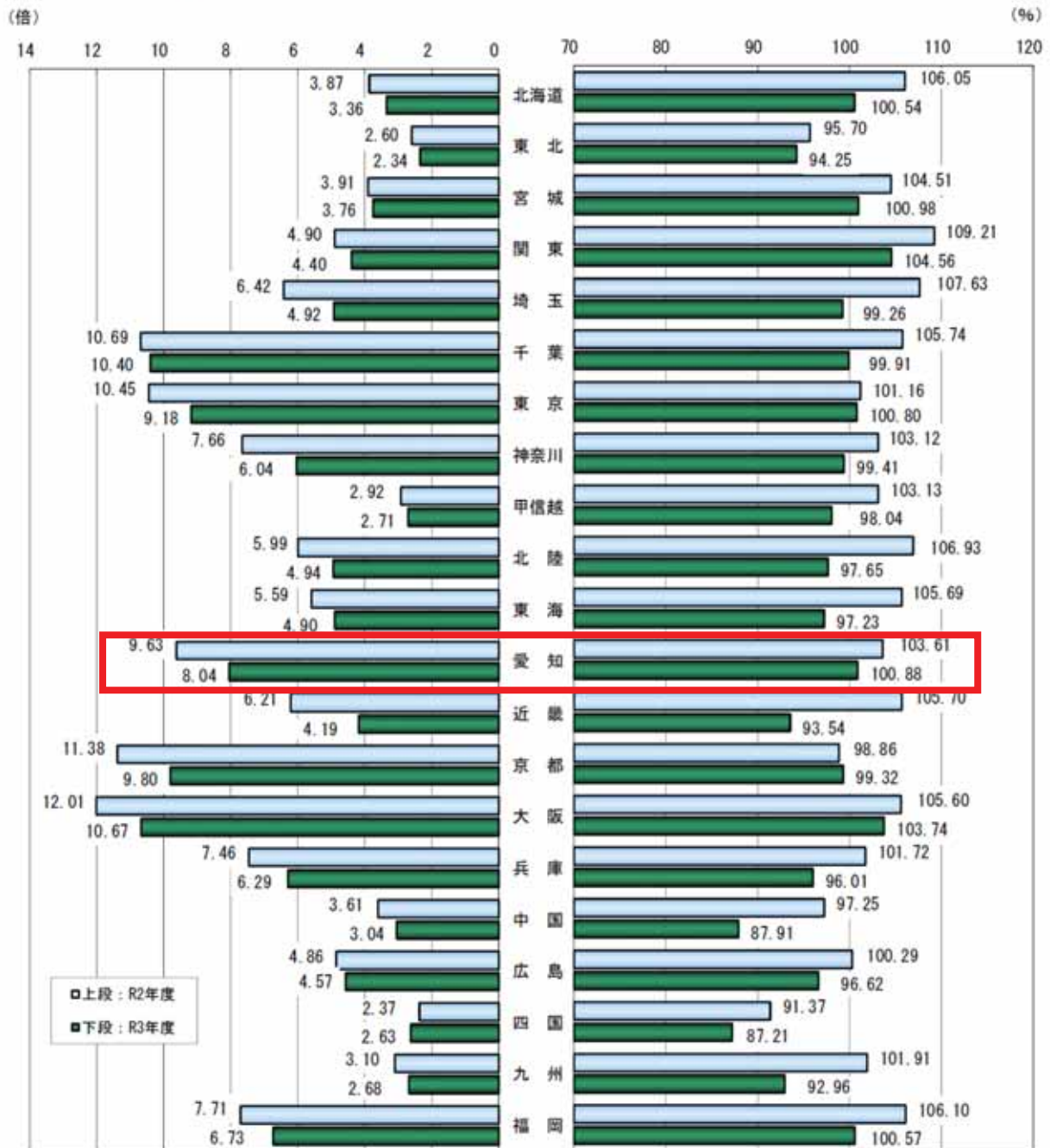
## 2. 地域別の動向（大学・学校別）

全国を21の地域に区分した。集計は学校所在地ごととした。

地域区分	年度	集計 学校数	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	合格率	歩留率	入学定員 充足率
			A	B	C	D	E	B/A	D/C	E/D	E/A
北海道	R2	24	10,838	41,916	41,026	25,255	11,494	3.87	61.56	45.51	106.05
	R3	24	10,978	36,844	36,025	23,447	11,037	3.36	65.09	47.07	100.54
	増減	0	140	△ 5,072	△ 5,001	△ 1,808	△ 457	△ 0.51	3.53	1.56	△ 5.51
東北 (宮城を除く)	R2	22	4,997	12,996	12,656	8,016	4,782	2.60	63.34	59.66	95.70
	R3	22	5,077	11,903	11,594	7,840	4,785	2.34	67.62	61.03	94.25
	増減	0	80	△ 1,093	△ 1,062	△ 176	3	△ 0.26	4.28	1.37	△ 1.45
宮城	R2	11	8,399	32,810	32,101	17,941	8,778	3.91	55.89	48.93	104.51
	R3	11	8,399	31,541	30,659	18,024	8,481	3.76	58.79	47.05	100.98
	増減	0	0	△ 1,269	△ 1,442	83	△ 297	△ 0.15	2.90	△ 1.88	△ 3.53
関東 (埼玉、千葉、東京、 神奈川を除く)	R2	24	11,429	56,036	53,367	22,418	12,482	4.90	42.01	55.68	109.21
	R3	24	11,518	50,644	48,239	22,266	12,043	4.40	46.16	54.09	104.56
	増減	0	89	△ 5,392	△ 5,128	△ 152	△ 439	△ 0.50	4.15	△ 1.59	△ 4.65
埼玉	R2	26	17,107	109,902	105,087	38,749	18,412	6.42	36.87	47.52	107.63
	R3	26	17,522	86,273	82,092	41,937	17,393	4.92	51.09	41.47	99.26
	増減	0	415	△ 23,629	△ 22,995	3,188	△ 1,019	△ 1.50	14.22	△ 6.05	△ 8.37
千葉	R2	25	14,736	157,481	152,523	42,672	15,582	10.69	27.98	36.52	105.74
	R3	25	14,654	152,367	146,554	49,417	14,641	10.40	33.72	29.63	99.91
	増減	0	△ 82	△ 5,114	△ 5,969	6,745	△ 941	△ 0.29	5.74	△ 6.89	△ 5.83
東京	R2	118	181,781	1,899,211	1,799,230	504,652	183,897	10.45	28.05	36.44	101.16
	R3	117	182,291	1,673,435	1,590,228	537,638	183,754	9.18	33.81	34.18	100.80
	増減	△ 1	510	△ 225,776	△ 209,002	32,986	△ 143	△ 1.27	5.76	△ 2.26	△ 0.36
神奈川	R2	25	22,492	172,177	164,504	56,843	23,194	7.66	34.55	40.80	103.12
	R3	25	22,619	136,595	129,755	61,388	22,485	6.04	47.31	36.63	99.41
	増減	0	127	△ 35,582	△ 34,749	4,545	△ 709	△ 1.62	12.76	△ 4.17	△ 3.71
甲信越	R2	22	5,568	16,247	15,832	10,239	5,742	2.92	64.67	56.08	103.13
	R3	23	5,774	15,651	15,232	10,287	5,661	2.71	67.54	55.03	98.04
	増減	1	206	△ 596	△ 600	48	△ 81	△ 0.21	2.87	△ 1.05	△ 5.09
北陸	R2	12	5,400	32,365	31,382	14,826	5,774	5.99	47.24	38.95	106.93
	R3	13	5,496	27,147	26,108	14,913	5,367	4.94	57.12	35.99	97.65
	増減	1	96	△ 5,218	△ 5,274	87	△ 407	△ 1.05	9.88	△ 2.96	△ 9.28
東海 (愛知を除く)	R2	21	8,750	48,903	47,939	23,151	9,248	5.59	48.29	39.95	105.69
	R3	21	8,850	43,389	42,244	23,181	8,605	4.90	54.87	37.12	97.23
	増減	0	100	△ 5,514	△ 5,695	96	△ 643	△ 0.69	6.36	△ 2.83	△ 8.46
愛知	R2	44	35,796	344,542	334,726	123,573	37,087	9.63	36.92	30.01	103.61
	R3	45	36,266	291,684	284,161	129,567	36,586	8.04	45.60	28.24	100.88
	増減	1	470	△ 52,858	△ 50,565	5,994	△ 501	△ 1.59	8.68	△ 1.77	△ 2.73
近畿 (京都、大阪、兵庫を除く)	R2	15	4,429	27,478	26,768	16,422	4,979	6.21	56.98	44.69	109.78
	R3	15	4,533	18,972	18,382	9,405	4,240	4.19	51.16	45.08	93.54
	増減	1	110	△ 8,503	△ 8,386	△ 1,017	△ 435	△ 2.02	12.23	0.22	△ 12.16
京都	R2	26	36,281	413,032	395,590	117,235	35,866	11.38	29.64	30.59	98.86
	R3	26	36,836	360,963	344,304	129,765	36,586	9.80	37.69	28.19	99.32
	増減	0	555	△ 52,069	△ 51,286	12,530	720	△ 1.58	8.05	△ 2.40	0.46
大阪	R2	50	46,683	560,500	534,169	150,832	49,298	12.01	28.24	32.68	105.60
	R3	52	47,894	511,245	485,090	170,256	49,687	10.67	35.10	29.18	103.74
	増減	2	1,211	△ 49,255	△ 49,079	19,424	389	△ 1.34	6.86	△ 3.50	△ 1.86
兵庫	R2	30	23,323	174,044	165,854	60,445	23,724	7.46	36.44	39.25	101.72
	R3	29	23,323	146,643	139,326	63,955	22,393	6.29	45.90	35.01	96.01
	増減	△ 1	0	△ 27,401	△ 26,528	3,510	△ 1,331	△ 1.17	9.46	△ 4.24	△ 5.71
中国 (広島を除く)	R2	22	8,887	32,053	30,929	17,725	8,643	3.61	57.31	48.76	97.25
	R3	22	8,880	27,038	26,174	16,727	7,806	3.04	63.91	46.67	87.91
	増減	0	△ 7	△ 5,015	△ 4,755	△ 998	△ 837	△ 0.57	6.60	△ 2.09	△ 9.34
広島	R2	14	8,948	43,444	42,557	22,391	8,974	4.86	52.61	40.08	100.29
	R3	14	8,948	40,929	40,174	23,370	8,646	4.57	58.17	37.00	96.62
	増減	0	0	△ 2,515	△ 2,383	979	△ 328	△ 0.29	5.56	△ 3.08	△ 3.67
四国	R2	9	4,355	10,337	9,826	7,187	3,979	2.37	73.14	59.36	91.37
	R3	9	4,355	11,461	11,260	8,977	3,798	2.63	79.72	42.31	87.21
	増減	0	0	1,124	1,434	1,790	△ 181	0.26	6.58	△ 13.05	△ 4.16
九州 (福岡を除く)	R2	28	11,905	36,942	36,347	21,913	12,132	3.10	60.29	55.36	101.91
	R3	28	11,905	31,947	31,494	21,060	11,067	2.68	66.87	52.55	92.96
	増減	0	0	△ 4,995	△ 4,853	△ 853	△ 1,065	△ 0.42	6.58	△ 2.81	△ 8.95
福岡	R2	26	18,914	145,802	142,390	52,032	20,067	7.71	36.54	38.57	106.10
	R3	26	19,044	128,191	124,867	54,486	19,152	6.73	43.64	35.15	100.57
	増減	0	130	△ 17,611	△ 17,523	2,454	△ 915	△ 0.98	7.10	△ 3.42	△ 5.53
全国計	R2	593	491,012	4,368,215	4,174,803	1,348,517	503,830	8.90	32.30	37.36	102.61
	R3	597	495,162	3,834,862	3,663,962	1,437,906	494,213	7.74	39.24	34.37	99.81
	増減	4	4,150	△ 533,353	△ 510,841	89,389	△ 9,617	△ 1.16	6.94	△ 2.99	△ 2.80

地域別の志願倍率（大学・学校別）

地域別の入学定員充足率（大学・学校別）

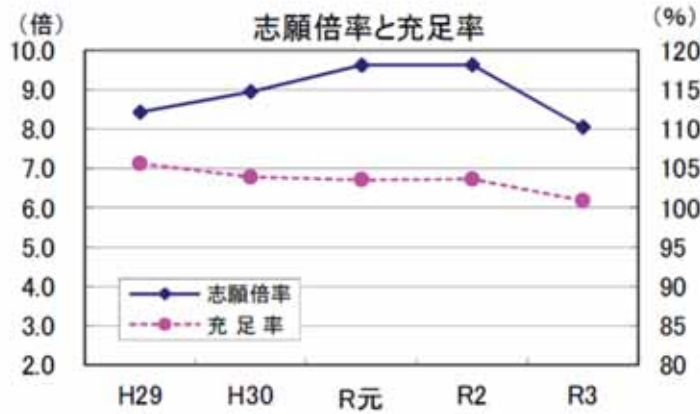


地域区分	
北海道	北海道
東北	青森・岩手・秋田・山形・福島
宮城	宮城
関東	茨城・栃木・群馬
埼玉	埼玉
千葉	千葉
東京	東京
神奈川	神奈川
甲信越	新潟・山梨・長野
北陸	富山・石川・福井

東海	岐阜・静岡・三重
愛知	愛知
近畿	滋賀・奈良・和歌山
京都	京都
大阪	大阪
兵庫	兵庫
中国	鳥取・島根・岡山・山口
広島	広島
四国	徳島・香川・愛媛・高知
九州	佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄
福岡	福岡

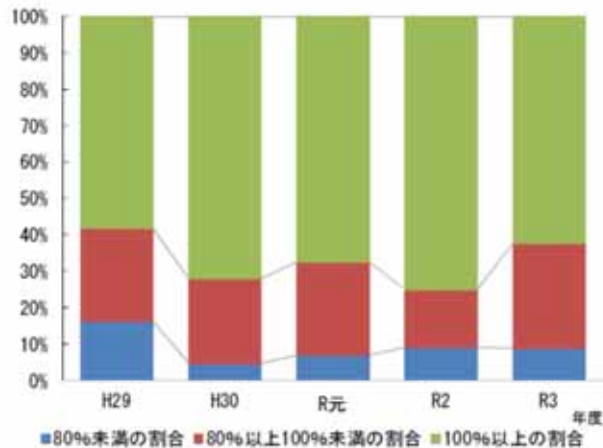
愛知

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 校 数	43	43	43	44	45
志願倍率	8.43	8.95	9.62	9.63	8.04
充 足 率	105.60	103.87	103.53	103.61	100.88



愛知

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	105.60%	103.87%	103.53%	103.61%	100.88%
120%以上	3校	2校	4校	7校	3校
110%以上120%未満	10	6	9	6	5
100%以上110%未満	12	23	16	20	20
90%以上100%未満	6	7	8	7	9
80%以上90%未満	5	3	3	0	4
70%以上80%未満	6	1	2	3	1
70%未満	1	1	1	1	3
合 計	43	43	43	44	45
100%以上の割合	58.1%	72.1%	67.4%	75.0%	62.2%
80%以上100%未満の割合	25.6%	23.3%	25.6%	15.9%	28.9%
80%未満の割合	16.3%	4.7%	7.0%	9.1%	8.9%



#### 4. 学部系統別の動向（大学）

全学部を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学部系統区分については、47ページを参照）。

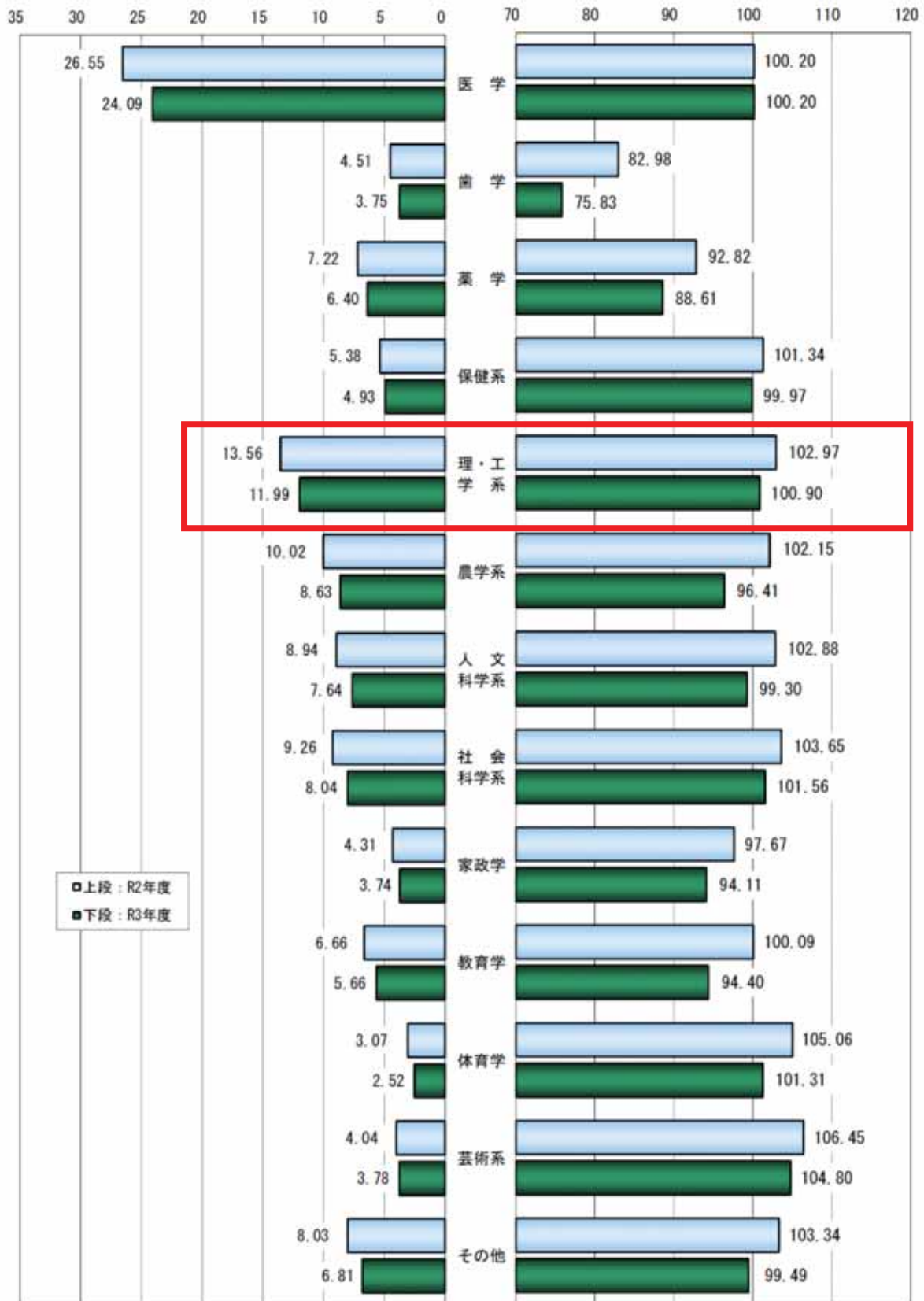
系統区分	年度	集計 学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R2	31	4,084	108,429	100,457	9,301	4,092	26.55	9.26	44.00	100.20
	R3	31	4,091	98,563	91,218	9,693	4,099	24.09	10.63	42.29	100.20
	増減	0	7	△ 9,866	△ 9,239	392	7	△ 2.46	1.37	△ 1.71	0.00
歯学	R2	17	2,039	9,187	8,330	3,843	1,692	4.51	46.13	44.03	82.98
	R3	17	2,015	7,564	6,832	3,563	1,528	3.75	52.15	42.89	75.83
	増減	0	△ 24	△ 1,623	△ 1,498	△ 280	△ 164	△ 0.76	6.02	△ 1.14	△ 7.15
薬学	R2	59	11,451	82,668	76,646	32,170	10,629	7.22	41.97	33.04	92.82
	R3	60	11,501	73,580	68,606	32,506	10,191	6.40	47.38	31.35	88.61
	増減	1	50	△ 9,088	△ 8,040	336	△ 438	△ 0.82	5.41	△ 1.69	△ 4.21
保健系	R2	244	37,221	200,366	192,496	78,539	37,721	5.38	40.80	48.03	101.34
	R3	254	38,143	188,155	180,494	80,307	38,130	4.93	44.49	47.48	99.97
	増減	10	922	△ 12,211	△ 12,002	1,768	409	△ 0.45	3.69	△ 0.55	△ 1.37
理・工学系	R2	157	62,107	842,140	807,262	257,766	63,949	13.56	31.93	24.81	102.97
	R3	162	62,626	751,179	719,116	281,649	63,192	11.99	39.17	22.44	100.90
	増減	5	519	△ 90,961	△ 88,146	23,883	△ 757	△ 1.57	7.24	△ 2.37	△ 2.07
農学系	R2	23	8,784	87,982	81,478	33,253	8,973	10.02	40.61	26.98	102.19
	R3	25	9,042	78,039	72,644	34,714	8,717	8.63	47.79	25.11	96.41
	増減	2	258	△ 9,943	△ 8,834	1,461	△ 256	△ 1.39	6.98	△ 1.87	△ 5.74
人文科学系	R2	245	68,104	608,854	584,635	186,184	70,067	8.94	31.85	37.63	102.88
	R3	245	68,184	520,901	501,151	199,642	67,710	7.64	39.84	33.92	99.30
	増減	0	80	△ 87,953	△ 83,484	13,458	△ 2,357	△ 1.30	7.99	△ 3.71	△ 3.58
社会科学系	R2	520	170,182	1,576,350	1,505,607	450,552	176,402	9.26	29.92	39.15	103.65
	R3	526	171,506	1,379,159	1,317,801	490,212	174,183	8.04	37.20	35.53	101.56
	増減	6	1,324	△ 197,191	△ 187,806	39,660	△ 2,219	△ 1.22	7.28	△ 3.62	△ 2.09
家政学	R2	84	16,373	70,601	67,542	34,403	15,992	4.31	50.94	46.48	97.67
	R3	83	16,133	60,407	56,819	33,126	15,183	3.74	58.30	45.83	94.11
	増減	△ 1	△ 240	△ 10,194	△ 10,723	△ 1,277	△ 809	△ 0.57	7.36	△ 0.65	△ 3.56
教育学	R2	103	17,855	118,849	113,950	41,340	17,871	6.66	36.28	43.23	100.09
	R3	104	17,832	100,983	96,453	40,613	16,834	5.66	42.11	41.45	94.40
	増減	1	△ 23	△ 17,866	△ 17,497	△ 727	△ 1,037	△ 1.00	5.83	△ 1.78	△ 5.69
体育学	R2	11	5,040	15,462	14,844	7,560	5,295	3.07	50.93	70.04	105.06
	R3	11	5,040	12,680	12,240	7,480	5,106	2.52	61.11	68.26	101.31
	増減	0	0	△ 2,782	△ 2,604	△ 80	△ 189	△ 0.55	10.18	△ 1.78	△ 3.75
芸術系	R2	58	14,332	57,849	55,885	23,540	15,257	4.04	42.12	64.81	106.45
	R3	56	14,069	53,220	51,130	23,320	14,744	3.78	45.61	63.22	104.80
	増減	△ 2	△ 263	△ 4,629	△ 4,755	△ 220	△ 513	△ 0.26	3.49	△ 1.59	△ 1.65
その他	R2	297	73,440	589,478	565,671	190,066	75,890	8.03	33.60	39.93	103.34
	R3	304	74,980	510,432	489,458	201,081	74,596	6.81	41.08	37.10	99.49
	増減	7	1,540	△ 79,046	△ 76,213	11,015	△ 1,294	△ 1.22	7.48	△ 2.83	△ 3.85
合計	R2	1,849	491,012	4,368,215	4,174,803	1,348,517	503,830	8.90	32.30	37.36	102.61
	R3	1,878	495,162	3,834,862	3,663,962	1,437,906	494,213	7.74	39.24	34.37	99.81
	増減	29	4,150	△ 533,353	△ 510,841	89,389	△ 9,617	△ 1.16	6.94	△ 2.99	△ 2.80

学部系統別の志願倍率（大学）

学部系統別の入学定員充足率（大学）

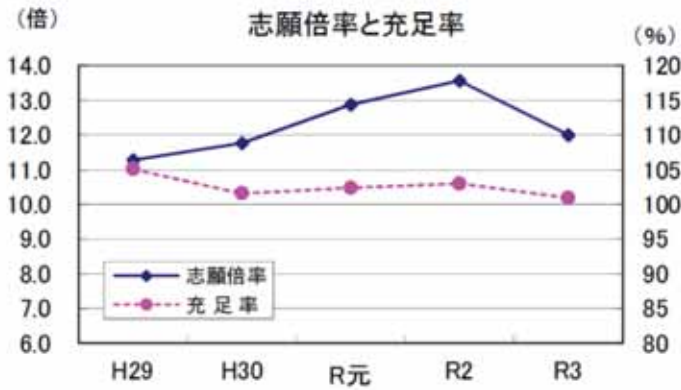
(倍)

(%)



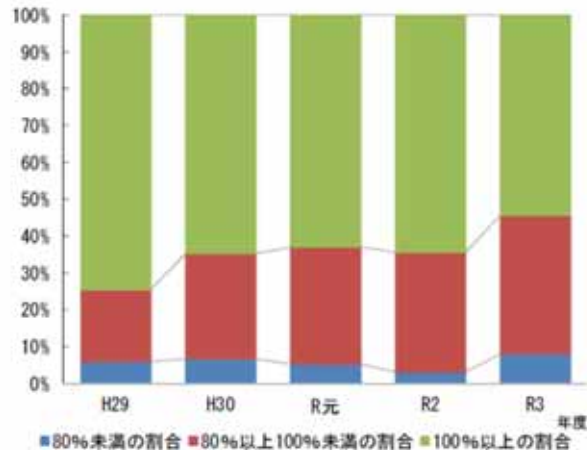
理・工学系

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	149	150	151	157	162
志願倍率	11.27	11.76	12.87	13.56	11.99
充 足 率	105.04	101.55	102.35	102.97	100.90



理・工学系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	105.04	101.55	102.35	102.97	100.90
120%以上	9	6	9	8	3
110%以上120%未満	37	24	25	35	24
100%以上110%未満	65	67	61	58	61
90%以上100%未満	23	34	38	44	47
80%以上90%未満	6	9	10	7	14
70%以上80%未満	6	8	5	3	10
70%未満	3	2	3	2	3
合 計	149	150	151	157	162
100%以上の割合	74.5	64.7	62.9	64.3	54.3
80%以上100%未満の割合	19.5	28.7	31.8	32.5	37.7
80%未満の割合	6.0	6.7	5.3	3.2	8.0



資料 2 2021 河合塾私立大学入試結果（系統別）〔抄〕

私立大入試結果(系統別)(7/20現在)

※数値は7/20現在、私立568大学の集計

※2019～21年度の志願者数・合格者数公表大学を集計(合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く)

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

※「全体」の数値が他の集計と一致しないのは、入試方式により大学計しか公表しない大学があるため

①全体(一般+共通テスト)

学部系統	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)		
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度
文・人文	729,508	698,774	572,295	96%	82%	178,003	187,465	198,217	105%	106%	4.1	3.7	2.9
社会・国際	421,092	380,887	321,052	90%	84%	88,258	97,076	105,048	110%	108%	4.8	3.9	3.1
法・政治	295,450	267,023	229,041	90%	86%	65,838	74,325	81,162	113%	109%	4.5	3.6	2.8
経済・経営・商	815,787	786,716	664,739	96%	84%	158,108	179,849	197,531	114%	110%	5.2	4.4	3.4
理	138,617	143,167	123,934	103%	87%	43,820	44,618	47,821	102%	107%	3.2	3.2	2.6
工	678,775	724,470	650,029	107%	90%	178,707	191,954	210,676	107%	110%	3.8	3.8	3.1
農	96,223	102,844	82,753	105%	80%	31,489	36,308	33,158	115%	91%	3.1	2.8	2.5
医・歯・薬・保健	346,508	338,411	301,618	98%	89%	87,531	89,646	87,472	102%	98%	4.0	3.8	3.4
医	102,897	100,610	91,225	98%	91%	6,651	6,862	6,792	100%	99%	15.0	14.7	13.4
歯	8,216	7,356	5,856	90%	80%	2,847	2,866	2,588	101%	90%	2.9	2.6	2.3
薬	75,081	68,514	60,434	91%	88%	24,611	25,090	25,248	102%	101%	3.1	2.7	2.4
看護	88,701	85,674	77,634	97%	91%	27,480	28,222	27,035	103%	96%	3.2	3.0	2.9
医療技術・他	71,613	76,257	66,469	106%	87%	25,742	26,606	25,809	103%	97%	2.8	2.9	2.6
生活科学	76,671	71,434	57,764	93%	81%	29,834	29,586	27,015	99%	91%	2.6	2.4	2.1
芸術・スポーツ科学	108,244	111,786	94,200	103%	84%	28,996	30,682	32,757	106%	107%	3.7	3.6	2.9
総合・環境・情報・人間	166,721	149,028	130,809	89%	88%	32,370	32,792	34,936	101%	107%	5.2	4.5	3.7
全体	3,876,476	3,774,540	3,228,254	97%	86%	922,935	994,601	1,055,803	108%	106%	4.2	3.8	3.1

資料3 中部大学における過去5か年の入学志願者動向

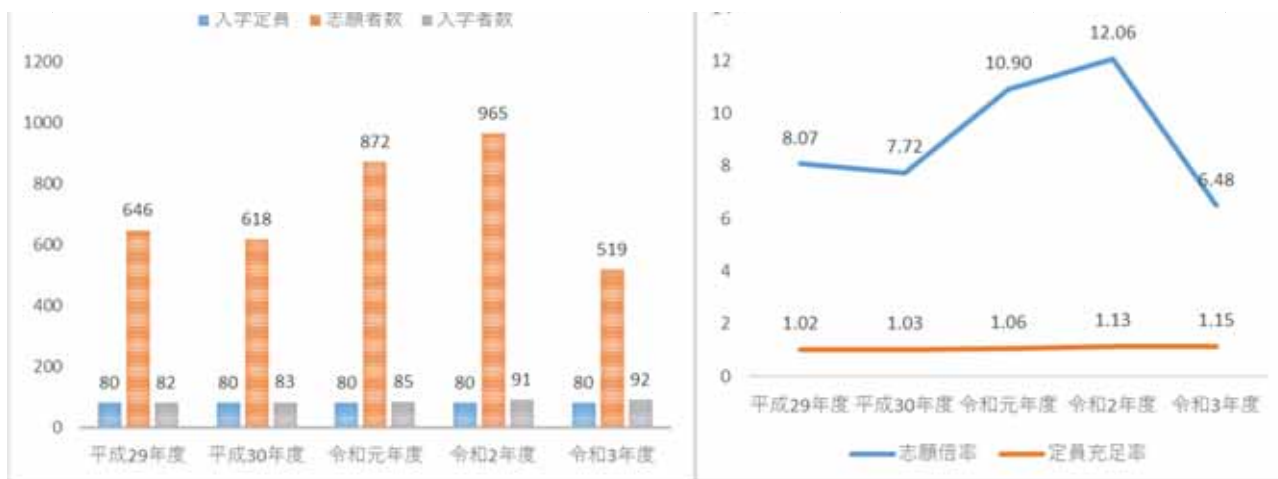
中部大学における過去5年間の入学志願者動向

学部	学科	定員	2017(平成29)年度				2018(平成30)年度				2019(令和1)年度				2020(令和2)年度				2021(令和3)年度				5か年平均						
			志願者	合格者	入学者	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率	志願倍率				
工	機械	160	2,028	506	159	12.67	0.99	1.451	535	172	1,898	489	133	11.86	0.83	1.822	564	187	11.18	1.16	1.620	590	160	10.12	1.00	10.98	1.01		
	電気電子	160	1,578	502	158	9.86	0.98	1,597	514	193	1,386	439	166	8.66	1.03	1,862	470	180	11.63	1.12	1,273	521	170	7.95	1.06	9.62	1.07		
	都市建設	80	555	153	60	6.93	1.00	414	230	82	5.17	1.02	722	179	81	9.02	1.01	598	87	7.47	1.08	446	74	5.57	0.92	6.83	1.00		
	建築	110	1,127	264	113	10.24	1.02	993	274	105	9.02	0.95	1,034	239	116	9.40	1.05	906	326	119	8.23	1.08	811	334	117	7.37	1.06	8.85	1.09
	応用	90	918	377	93	10.20	1.03	744	357	94	8.26	1.04	982	300	82	10.91	0.91	941	312	91	10.45	1.01	733	366	80	8.14	0.88	9.59	0.97
	情報	120	1,302	367	129	10.85	1.07	1,631	323	121	13.59	1.00	1,707	323	118	14.22	0.98	1,632	304	130	13.60	1.08	1,551	352	118	12.92	0.98	13.04	1.02
	口弁	80	646	207	82	8.07	1.02	618	260	83	7.72	1.03	872	225	85	10.90	1.06	965	229	91	12.06	1.13	519	233	92	6.48	1.15	9.05	1.07
	宇宙	80	—	—	—	—	—	610	234	81	7.62	1.01	644	224	74	8.05	0.92	610	285	89	7.62	1.11	489	288	77	6.11	0.96	7.35	1.00
	計	880	8,154	2,376	794	10.45	1.01	8,058	2,727	931	9.15	1.05	9,245	2,418	855	10.50	0.97	9,304	2,709	974	10.57	1.10	7,442	2,928	888	8.45	1.00	9.82	1.02
	経営情報	300	1,875	657	325	6.25	1.08	1,766	546	298	5.88	0.99	1,399	584	317	4.66	1.05	1,891	559	308	6.30	1.02	1,697	591	305	5.65	1.01	5.75	1.03
国際	300	1,875	657	325	6.25	1.08	1,766	546	298	5.88	0.99	1,399	584	317	4.66	1.05	1,891	559	308	6.30	1.02	1,697	591	305	5.65	1.01	5.75	1.03	
国際関係	140	516	269	147	3.68	1.05	463	248	144	3.30	1.02	489	263	144	3.49	1.02	722	235	142	5.15	1.01	446	332	120	3.18	0.85	3.76	0.99	
計	140	516	269	147	3.68	1.05	463	248	144	3.30	1.02	489	263	144	3.49	1.02	722	235	142	5.15	1.01	446	332	120	3.18	0.85	3.76	0.99	
人文	日文	80	515	190	84	6.43	1.05	435	212	79	5.43	0.98	512	160	78	6.40	0.97	398	169	85	4.97	1.06	342	203	78	4.27	1.11	5.50	1.03
	英文	70	501	145	74	7.15	1.05	270	160	69	3.85	0.98	423	146	73	6.04	1.04	413	154	68	5.90	0.97	220	140	65	3.14	0.92	5.22	0.99
	コミ	70	310	150	76	4.42	1.08	303	161	76	4.32	1.08	465	143	71	6.64	1.01	338	148	77	4.82	1.10	288	143	71	4.11	0.78	4.86	1.01
	心理	90	614	196	94	6.82	1.04	654	231	95	7.26	1.05	763	195	88	8.47	0.97	585	200	92	6.50	1.02	490	229	94	5.44	1.04	6.90	1.02
	歴史	90	590	257	100	6.55	1.11	697	204	76	7.74	0.84	746	210	92	8.28	1.02	611	186	90	6.78	1.00	607	250	91	6.74	0.22	7.22	0.83
	計	400	2,530	938	428	6.32	1.07	2,359	988	395	5.89	0.98	2,909	854	402	7.27	1.00	2,345	857	412	5.86	1.03	1,947	965	399	4.86	0.99	6.04	1.01
	応生	110	1,131	396	131	10.28	1.19	1,069	348	122	9.71	1.10	1,092	366	117	9.92	1.06	1,024	365	99	9.30	0.90	796	485	106	7.23	0.96	9.29	1.04
	環生	110	919	361	132	8.35	1.20	993	354	120	9.02	1.09	1,002	333	114	9.10	1.03	1,040	349	112	9.45	1.01	907	486	124	8.24	1.12	8.83	1.09
	食栄養	60	349	181	64	5.81	1.06	256	141	55	4.26	0.91	345	183	57	5.75	0.95	491	188	62	8.18	1.03	268	159	49	4.46	0.81	5.69	0.95
	計	360	2,364	1,189	408	7.95	1.13	2,718	1,087	369	7.55	1.02	2,848	1,107	357	7.91	0.99	2,955	1,132	353	8.20	0.98	2,320	1,347	344	6.44	0.95	7.61	1.01
生命健康	生命	60	449	161	65	7.48	1.08	421	159	64	7.01	1.06	591	163	62	9.85	1.03	443	161	60	7.38	1.00	542	121	62	9.03	1.03	8.15	1.04
	保健	100	1,270	260	110	12.70	1.10	1,112	277	92	11.12	0.92	1,092	247	95	10.92	0.95	767	285	103	7.67	1.03	796	211	106	7.96	1.06	10.07	1.01
	理学	40	651	107	44	16.27	1.10	658	91	43	16.45	1.07	642	73	38	16.05	0.95	621	80	47	15.52	1.17	525	76	40	13.12	1.00	15.48	1.05
	作業	40	314	117	39	7.85	0.97	266	94	40	6.65	1.00	281	87	34	7.02	0.85	219	111	39	5.47	0.97	214	100	41	5.35	1.02	6.47	0.96
	臨床	40	301	103	39	7.52	0.97	461	86	39	11.52	0.97	406	85	39	10.15	0.97	368	112	45	9.20	1.12	383	90	40	9.57	1.00	9.59	1.00
	入保	80	359	120	83	4.48	1.03	359	111	80	4.48	1.00	279	121	80	3.48	1.00	410	122	87	5.12	1.08	363	122	88	4.53	1.10	4.42	1.04
	計	360	3,344	868	380	9.28	1.05	3,277	818	358	9.10	0.99	3,291	776	348	9.14	0.96	2,828	871	381	7.85	1.05	2,823	720	377	7.84	1.04	8.64	1.01
	幼児	80	286	161	77	3.57	0.96	278	173	84	3.47	1.05	271	150	75	3.38	0.93	353	171	71	4.41	0.88	312	178	87	3.90	1.08	3.75	0.98
	現代選	60	720	223	64	12.00	1.06	711	234	67	11.85	1.11	684	158	69	11.40	1.15	638	171	66	10.63	1.10	431	200	52	7.18	0.86	10.61	1.05
	中等選	20	236	73	18	11.80	0.90	427	90	21	21.35	1.05	497	71	16	24.85	0.80	401	84	24	20.05	1.20	322	104	23	16.10	1.15	18.83	1.02
計	160	1,242	457	159	7.76	0.99	1,416	497	172	8.85	1.07	1,452	379	160	9.07	1.00	1,392	426	161	8.70	1.00	1,085	482	162	6.65	1.01	8.21	1.01	
合計	2,600	20,525	6,764	2,641	7.89	1.05	20,057	6,891	2,667	7.71	1.02	21,633	6,381	2,583	8.32	0.99	21,437	6,789	2,731	8.24	1.05	17,740	7,365	2,595	6.82	0.99	7.80	1.02	



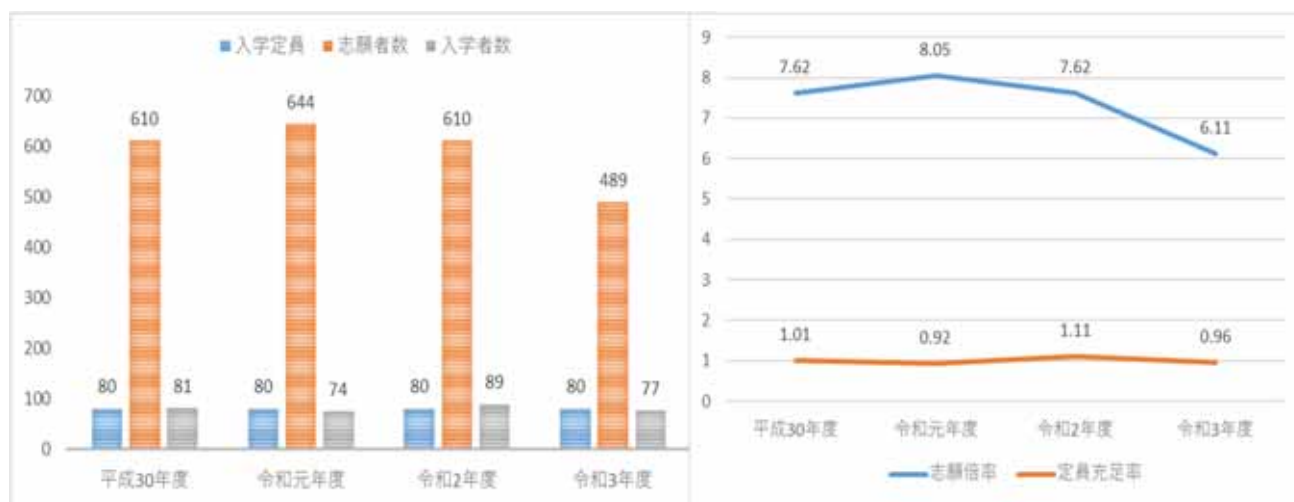
工学部ロボット理工学科

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入学定員	80	80	80	80	80
志願者数	646	618	872	965	519
入学者数	82	83	85	91	92
志願倍率	8.07	7.72	10.90	12.06	6.48
定員充足率	1.02	1.03	1.06	1.13	1.15



工学部宇宙航空理工学科

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入学定員	—	80	80	80	80
志願者数	—	610	644	610	489
入学者数	—	81	74	89	77
志願倍率	—	7.62	8.05	7.62	6.11
定員充足率	—	1.01	0.92	1.11	0.96



資料 4 工学部 3 年次編入学試験の状況

工学部 3 年次編入学試験の状況

(単位：人)

区 分	平成 3 0 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
3 年次 編入学定員	(8学科) 1 6	(8学科) 1 6	(8学科) 1 6	(8学科) 1 6
志願者数	7	7	9	9
合格者数	4	6	5	6
入学者数	3	4	4	5

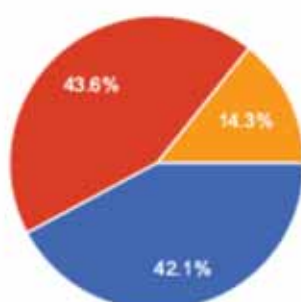
資料 5 理工学部の設置に関するアンケート（高校）結果

## 中部大学「理工学部」設置に関するアンケート

140 件の回答

A-1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

140 件の回答



- 1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

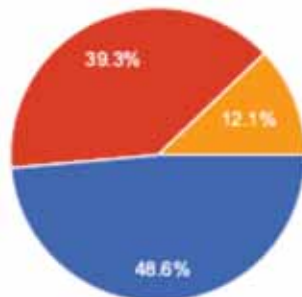
2 件の回答

同様の学部・学科が愛知県内および近隣の大学で少ないから

現代の状況に合わせた学問をやることは意味があるが新しい学科を作ることに対しては疑問を感じる。新しいことを意識しつつ基本を大切にしないと単なる人集めになりかねない。

A-2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

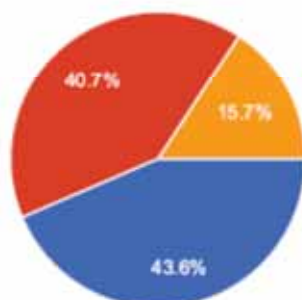
2件の回答

工学との親和性が高いと思うから

現代の状況に合わせた学問をやることは意味があるが新しい学科を作ることに対しては疑問を感じる。新しいことを意識しつつ基本を大切にしないと単なる人集めになりかねない。

A-3. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

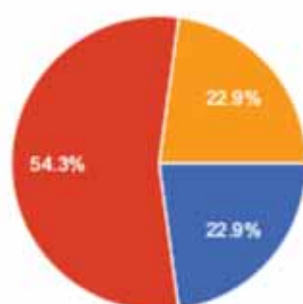
上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

1件の回答

宇宙も航空も広い分野の学びが必要で名大においても学部ではほとんど機械のことを学んでいる。宇宙や航空とつけることで人集めはして欲しくない。

B-1. 中部大学工学部の数理・物理サイエンス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

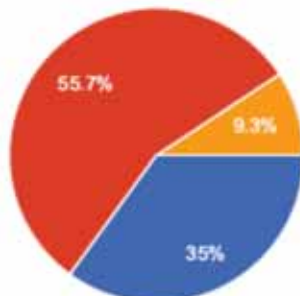
上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

B-2. 中部大学理工学部のAIロボティクス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

140 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

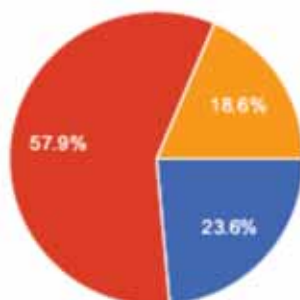
上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

B-3. 中部大学理工学部の宇宙航空学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

140 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

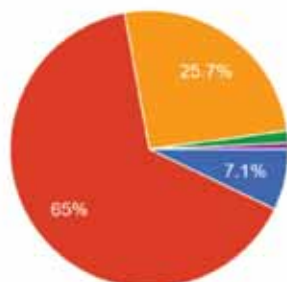
上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

C-1. 中部大学理工学部の数理・物理サイエンス学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 数理・物理サイエンス学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
- 2. 数理・物理サイエンス学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
- 3. 数理・物理サイエンス学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
- 4. 数理・物理サイエンス学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
- 5. その他（具体的なお意見を下にご記入ください。）

上記の設問で「5」とお答えになった場合は、具体的なお意見をお書き頂ければ幸いです。

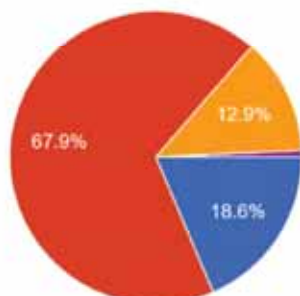
2件の回答

数理に対するの苦手意識がある生徒も多く、また進路に関しての明確なビジョンが立てられない者が多いように感じるためである。

人はある程度集まるがそれ程（今までと違う）人材が変化するとは思われない。

C-2. 中部大学理工学部のAIロボティクス学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. AIロボティクス学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
- 2. AIロボティクス学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
- 3. AIロボティクス学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
- 4. AIロボティクス学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
- 5. その他（具体的なお意見を下にご記入ください。）

上記の設問で「5」とお答えになった場合は、具体的なご意見をお書き頂ければ幸いです。

2件の回答

本校では来年度よりロボティクスコースが設置される。今後の産業に役立つと考えてのことであり希望する生徒も多いためである。

人はある程度集まるがそれ程（今までと違う）人材が変化するとは思われない。

C-3. 中部大学理工学部宇宙航空学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

140件の回答



- 1. 宇宙航空学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
- 2. 宇宙航空学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
- 3. 宇宙航空学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
- 4. 宇宙航空学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
- 5. その他（具体的なご意見を下にご記入ください。）

上記の設問で「5」とお答えになった場合は、具体的なご意見をお書き頂ければ幸いです。

3件の回答

毎年いるかどうかはわからないが学修したいと思う生徒は何年かに1～2人はいると思います。

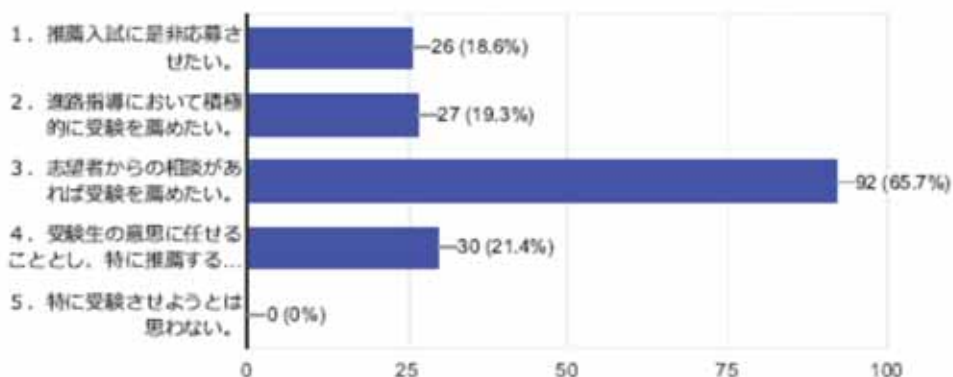
宇宙ビジネスと呼ばれるほど宇宙産業は発展している。本校は工業高校であり、興味のある生徒はいると思われる。

人はある程度集まるがそれ程（今までと違う）人材が変化するとは思われない。



D-1. 貴校卒業生の数理・物理サイエンス学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目にチェックを入れてください。)

140件の回答



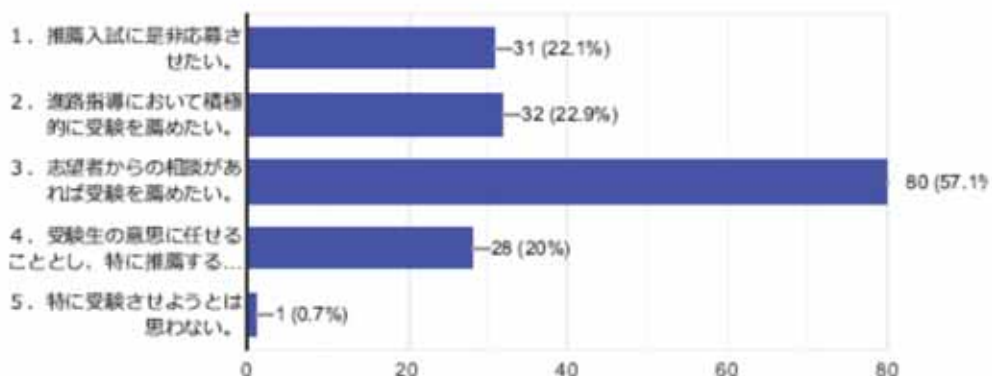
上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

D-2. 貴校卒業生のAIロボティクス学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目に○を付してください。)

140件の回答



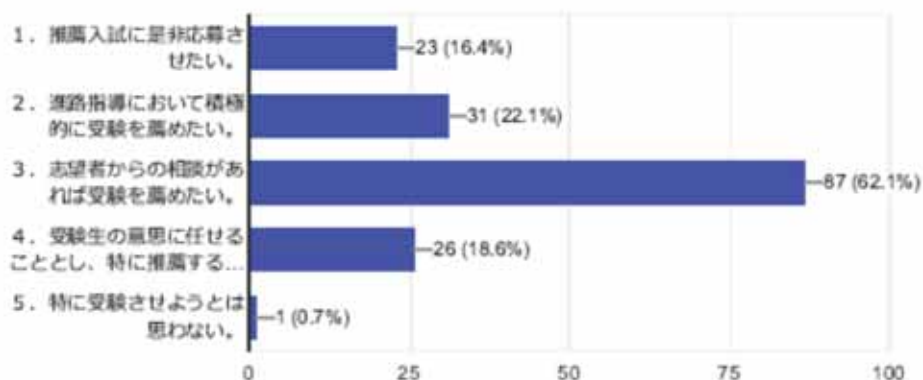
上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

D-3. 貴校卒業生の宇宙航空学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目に○を付してください。)

140件の回答



上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

1件の回答

どこについてもそれ程内容にちがいはなく基本を大切にしようとして指導します。つまり中部と名城の機械は同じものとしてみなさいが根底にあります。中部には宇宙について名城や愛工大に宇宙がつかなくても同じだという考え方を基本にして指導します。

E. 本学が計画する理工学部を設置に期待する事柄、ご助言等（教育内容、学生教育方針等）がございましたら、ぜひご意見・ご指導等をご教示ください。

- 教員免許などの資格がとれるといい。
- 理系の生徒にとってはとても興味深く設置について期待しています。
- データサイエンス、AIはSociety5.0において重要事項だし貴学はこれまでも宇宙工業でさまざまな研究を続けてこられていることを考えれば今回の理工学部を設置はもったいないことだと思います。
- 質問になりますが、こちらの理工学部は工学部からの吸い上げもしくは合併という形でしょうか。
- 県内私立大学で数学や物理学を主専攻とする学科が少ないので設置はよいと思います。教職等への支援があるとありがたいです。
- 都市部にキャンパスがあると勧めやすいです。
- 東海地方の私立の大学に工学を学べる大学は多いが、理学が学べる大学が少ないと感じる。貴学は理工学部としての設置であるようなので、ぜひこの地方の理学、数学や物理を学びたい、研究したいと志す生徒の期待に応えていただけたらうれしいです。
- 中部・東海地域の産業界に大きな役割を果たすことのできる人材を多く輩出していただける大学として今後も期待を寄せております。
- 高校生にとって選択肢が増えることは望ましい。
- 指定校応募の条件に奨学生入試受験を必須としていただきたいと思います。
- 中部地方の大学の、研究力の向上に邁進してもらいたい。期待しています。
- 新学部の設置で優秀な学生が集まり、学内がより活性化し更なる魅力ある大学には発展されることを期待しております。
- 中部地区のみならず日本を背負う人材の育成を期待しています。平均的学力以外でも、興味、関心の部分を高く評価し、広い分野で学生を受け入れてくださることを望みます。
- 第一に基礎学力の定着、第二に実践力の習得を期待します。
- 学生育成方針について 学生自ら課題を発見し解決策を考え実践する。そうした学生を育てるカリキュラムにしてほしい。本校もそうした生徒育成方針で行きたいと考えています。よろしく願います。
- 一般に理学部物理系の卒業生の就職先がよくわからない傾向にある。実際に中京圏での具体的な就職先のビジョンはどうなのかが聞きたい。工学部の就職先と基本的には被るものでしょうか。
- 本校においても教育内容、学校運営の方向性等を見直していこうと考えております。デジタル技術を用いた新たな社会や産業の育成は必要かと思います。いろいろと情報を与えていただければ幸いです。
- 愛知県には理学を学べる大学が少ないので、数理・物理サイエンス学科で「科学に基づいた論理的思考力・分析力」をもつ学生を養成されることに期待します。「人文・社会系学問を含む幅広い教養を習得させる」とあることにも好感を持ちました。
- データサイエンスはこれからの社会で重要な分野である。専門的な学びと、それを活用できるような出口（就職だけでなく大学院も）を意識した教育活動・研究活動をしていただけたらありがたい。
- 愛工大、大同大に負けない「売り」になるものがあると良いと思いますが、個人的には就職率などを競うより、国立大の大学院への進学者をふやすなどの教育内容の面に力を入れるほうが進学校にはアピ

ールできるのではないのかと考えます。

- 貴校は本校理系生徒が第一志望とする大学です。先進的な取組は生徒の興味、関心を引くと思われま  
す。
- 平素より、本校の卒業生がお世話になっております。今後ともよろしく申し上げます。
- 数学教員の免許を取得可能な大学が県内に少ないため貴学に期待したい。
- 新設学部の入学から出口戦略までのフローチャートやビジョンなどの見える化（可視化）をお願い  
したい。産学官連携の推進等も活性化して日本の産業構造を改革していただきたい。
- 産業界に貢献できる学生を積極的にご指導くださればありがたいです。
- 数理・物理サイエンスは科学の礎としては非常に重要であると考えているが現在の社会や企業が重視  
して人材採用するとは考えにくい。今後、卒業生の活躍に期待したいです。
- 理系の分野は日々進歩しており、新しい学科の設置が必要であるよう思われます。
- ご発展をお祈りします。本校は貴学に近い位置にありますので積極的な活動に反応しやすいと考えま  
す。
- 本校の職業課程の生徒が貴校のそれぞれの学科を志すきっかけとなるよう、貴校の設備や教員を活用  
した連携授業などができるとよいと思います。また、大学は研究機関でもあるので、企業と連携した最  
新の取り組みなどを魅せることにより、理工学部の学修内容により関心を持ってもらうことが、理工学  
部設置の理念、意義に合致してくると考えられます。
- 今後も社会状況の変化に合わせた学部、学科等の設置をお願いします。
- 多くの指定校推薦枠を毎年いただき感謝しております。学力的には決して高いと言える生徒ではあり  
ませんが熱意は十分ある生徒を送っているつもりではありますがご迷惑をおかけしている点などあれ  
ばご指摘いただければ幸いです。
- 生徒にとって選択肢が増えることは良いと思います。
- 愛工大、中部、大同と昔から工業大学としてした教育をしていると信じているので学部学科の名前を  
変えたり急に医療系学部を（人が集まるだろうからと）作ることは長い目で見たとときに堅実だと信じま  
す。
- 中部地区にこのような学部が設置され生徒の進路への道がひろがるのはたいへん望ましく、ぜひ指定  
校をいただけたら幸いです。
- 特にございません。
- 現場の教員にくる質問に「新設で就職はどのようなのですか？」（特に保護者）がある。この地域の中小企  
業にニーズありと思うが、その説明や広報が、受験者数や質につながると思う。
- 受験者および保護者への周知が高校教員任せにならないようにするのはどんな方法が？（えらそうで  
すみません）
- 地元産業を支える人材を多く輩出し、愛知県の「ものづくり」産業をさらに活性化されるよう、期待し  
ています。
- 卒業生がお世話になっています。大学としての特色作りの面もあるかと思いますが、名称について、  
学科名から学びの内容がすぐにわかる方が、現場の教員が勧めやすいと思います。
- 毎年興味をもつ生徒がおりますので設置に期待しております。よろしく申し上げます。
- 世界で活躍する人材を育成していただきますようお願いいたします。応援いたします。

- 東海地方における工学部系統の定員数について今後も供給の見込みが少ないため貴学にて増員していただけることは大変有難いと思います。これからもよろしくお願いします。
- 数理・物理サイエンス学科で中高数学の教員免許が取得できることが望ましい。
- 現在の工学部の各学科がどのように改変されるのかは不安のあるところです。本校から貴学への受験につきましては様々のご配慮を賜り誠にありがとうございます。今後とも格別のご指導を賜りますようお願い申し上げます
- 研究環境はよいと思います。一方、入試制度については特別奨学生制度（12月に行うもの）を改めて頂けるとありがたいです。
- 数理・物理サイエンス学科で数学や理科の教員免許が取得可能なら、生徒の選択肢が広がると思います。
- 中京圏に理学の数学、物理分野の学べるところが少なく非常に期待します。できるならば 教員免許の取得も可能になるとありがたいです。
- 一般受験枠の十分な確保が質の高い学生を集めるには不可欠と思われる。
- 高校でベクトルの内積や微分、積分の量的解釈ができない生徒が大学の高い見地からの講義によって目を覚ますことは大いに考えられる。それらを基盤として倫理観の伴った工学への応用を夢想して自分たちの明るい未来を築いてほしい。

高等学校長 殿

### アンケート調査への協力依頼について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

中部大学では、数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献する科学技術者を養成するために、2023年4月から愛知県春日井市のキャンパス（JR中央本線神領駅から直通バスを運行）に新たに「**理工学部**」の設置を計画しております。

本学部は、数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の3学科で構成され、科学技術の根幹をなす数学、自然科学、および幅広い工学分野の先進科学技術を基礎として、新しい時代に即した理学と工学を融合した教育・研究を展開し、推進します。また、数学や物理学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養を習得させるとともに、数理科学・物理科学分野のより専門的な知識、さらには、応用分野として、材料科学、電気・電子・情報工学、機械工学、AI技術等を融合したロボティクス分野、宇宙航空分野の専門知識を、講義、演習、実験・実習等を通して習得させ、先進的な技術力や論理的な思考力を備え、産業社会を牽引できる科学技術者を養成することを教育研究上の目的としております。

なお、3学科のうちAIロボティクス学科及び宇宙航空学科は、それぞれ既存の「工学部ロボット理工学科」及び「工学部宇宙航空理工学科」を基礎として改組・設置するものです。

各学科の教育目標は次のとおりです。

#### [数理・物理サイエンス学科]

- ①数理科学、物理科学の知識と技術を基盤として、自由な発想力と実践力で科学技術の発展とイノベーションを担うことのできる能力を習得させる。
  - ②幅広い産業界で活躍できる、科学に基づいた論理的思考力・分析力を習得させる。
  - ③数理科学、物理科学の様々な分野への関連性を活かし、身に付けた知識や技術とその応用力を駆使して、持続可能な社会・環境が直面する様々な課題に対して自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力を習得させる。
- ※数理科学は、数学および、データサイエンスなど、その応用分野を含む学術分野を、物理科学は、物理学および、材料科学、宇宙・地球科学など、その応用分野を含む学術分野をそれぞれ示す。

#### [AIロボティクス学科]

- ①AIロボティクス分野に関する知見、そして、これを利用する技術などの学術領域における高度な知識を習得させる。また、特定の専門領域だけでなく、関連する学際的な領域における広範な知識を習得させる。

- ②修得した高度な知識・技能を活かし多面的に事象をとらえ、評価することにより、既知の課題だけでなく新たな問題点を見出し、その解決に対して積極的自立的に計画を立案・実施・評価そして改善へとつなげる態度や能力を習得させる。
- ③社会の要求する種々の課題に対して、上級生や多方面の研究者などと協力し、その問題解決に取り組み、その結果を論理的に取りまとめ他者に説明することや助言を得る等のコミュニケーション能力を習得させる。
- ④ロボットとの共存社会の実現と社会や産業の持続的な発展のために必要とされる知識・技術や幅広い視野を習得させる。
- ⑤JDLA（日本ディープラーニング協会）のE資格(エキスパート)の受験資格も取得できるカリキュラムにより、より実践的な基礎技術をハンドリングできる能力を習得させる。

[宇宙航空学科]

- ①宇宙航空産業及び関連する分野において、生産現場や中小企業でのモノづくりをリードできる能力を有する人材を育成する。
- ②宇宙航空分野の国際的な広がりに対応できる英語力を有するグローバルな人材を育成する。
- ③これらの人材を育成するために、宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識を習得させるとともに、企業等と連携して実践的な技術や幅広い視野を身に付けさせる教育を行う。

つきましては、今後の設置計画推進のための貴重な資料とさせていただきたく、アンケート調査を実施いたします。

何かとご多忙中のところ誠に恐縮ですが、是非とも以下のアンケートにお答えいただき、11月末日までに同封の返信用封筒にてご回答いただきますよう、お願い申し上げます。  
以下 URL から直接アンケートにご回答いただきましても結構です。

<https://bit.ly/3Cl7q7J>



いずれかの方法でご協力いただけますと幸いです。

末筆となりましたが、貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

資料7 理工学部に関するアンケート調査（高校）調査票

中部大学「理工学部」設置に関するアンケート

A-1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

(該当するとお考えの番号を○で囲んでください。次項以下の設問についても同様とさせていただきます。)

1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
2. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることは、望ましい。
3. 望ましいかどうかは分からない。
4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--	--

A-2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

1. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることは、望ましい。
3. 望ましいかどうかは分からない。
4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--	--

A-3. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。



1. 中部大学工学部に宇宙航空学科が設置されることを、大いに歓迎する。
2. 中部大学工学部に宇宙航空学科が設置されることは、望ましい。
3. 望ましいかどうかは分からない。
4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

B-1. 中部大学工学部の数理・物理サイエンス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

B-2. 中部大学工学部の AI ロボティクス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。

3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

B-3. 中部大学工学部の宇宙航空学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

C-1. 中部大学工学部の数理・物理サイエンス学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

1. 数理・物理サイエンス学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
2. 数理・物理サイエンス学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
3. 数理・物理サイエンス学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
4. 数理・物理サイエンス学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。

5. その他（具体的なご意見を下にご記入ください。）

[ ]

C-2. 中部大学工学部のAIロボティクス学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

1. AIロボティクス学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
2. AIロボティクス学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
3. AIロボティクス学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
4. AIロボティクス学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
5. その他（具体的なご意見を下にご記入ください。）

[ ]

C-3. 中部大学工学部の宇宙航空学科に入学して、前述のような学修をすることについて、貴校の生徒はどのように考えると思われるでしょうか、ご意見をお伺いします。

1. 宇宙航空学科での学修に高い熱意を持つ者が多いと考えられる。
2. 宇宙航空学科での学修に興味と熱意を持つ者がいると考えられる。
3. 宇宙航空学科での学修に興味と熱意を持つかどうか分からない。
4. 宇宙航空学科での学修に特段の興味と熱意を持たないと考えられる。
5. その他（具体的なご意見を下にご記入ください。）

[ ]

D-1. 貴校卒業生の数理・物理サイエンス学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目に○を付してください。)

1. 推薦入試に是非応募させたい。
2. 進路指導において積極的に受験を薦めたい。
3. 志望者からの相談があれば受験を薦めたい。
4. 受験生の意思に任せることとし、特に推薦することはない。
5. 特に受験させようとは思わない。

上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

[ ]

D-2. 貴校卒業生のAIロボティクス学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目に○を付してください。)

1. 推薦入試に是非応募させたい。
2. 進路指導において積極的に受験を薦めたい。
3. 志望者からの相談があれば受験を薦めたい。
4. 受験生の意思に任せることとし、特に推薦することはない。
5. 特に受験させようとは思わない。

上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--	--

D-3. 貴校卒業生の宇宙航空学科への入学に関して、どのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。(該当するものが複数あれば、2つ以上の項目に○を付してください。)

1. 推薦入試に是非応募させたい。
2. 進路指導において積極的に受験を薦めたい。
3. 志望者からの相談があれば受験を薦めたい。
4. 受験生の意思に任せることとし、特に推薦することはない。
5. 特に受験させようとは思わない。

上記の問いに「5」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--	--

E. 本学が計画する理工学部を設置に期待する事柄、ご助言等（教育内容、学生育成方針等）がございましたら、是非ご意見・ご指導等をご教示ください。

--

貴校名	
-----	--

ご協力有り難うございました。

\* 本件に関するお問合せ先：中部大学工学部事務室

TEL : 0568-51-4319 (ダイヤルイン), FAX : 0568-51-3833

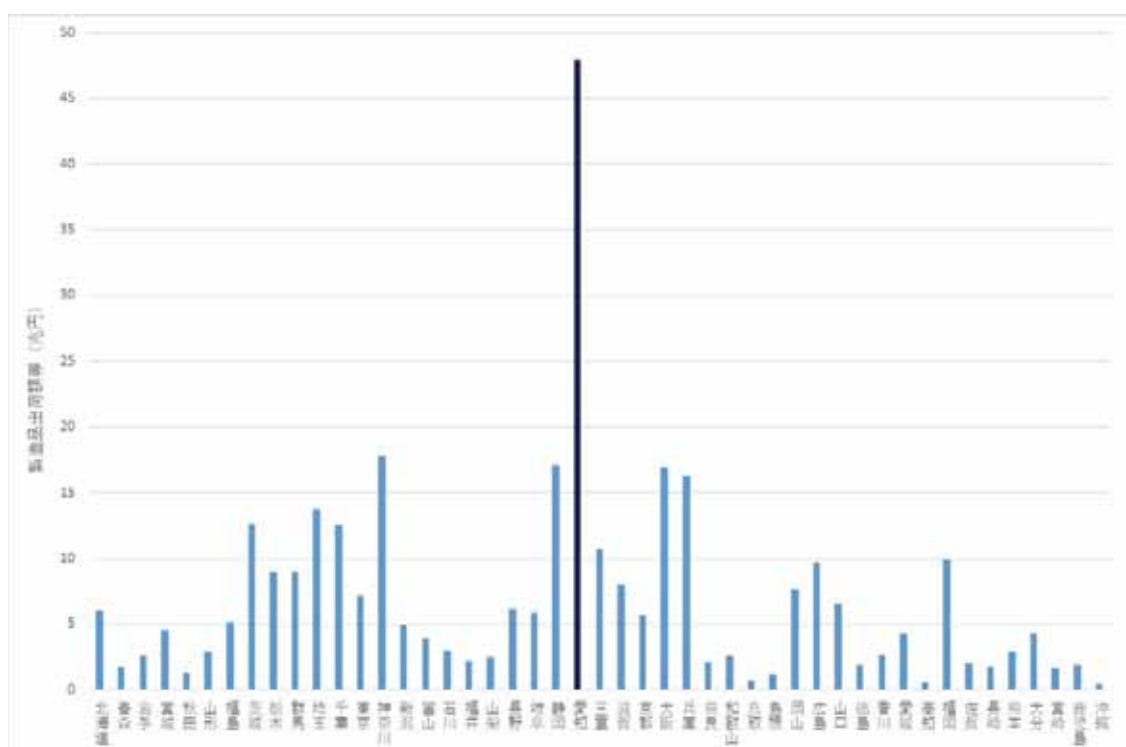
E-mail : kogakubu@office.chubu.ac.jp

## 資料 8 愛知県の産業構造（抄）

### ものづくり王国・愛知

「2020年工業統計表〔概要版〕」によると、令和元年の愛知県の製造品出荷額等は47兆9,243億円（従業者4人以上の事業所）と全国の約14.9%を占め、第2位の神奈川県（17兆7,461億円）とは大差で、43年連続日本一のものづくり県であります。

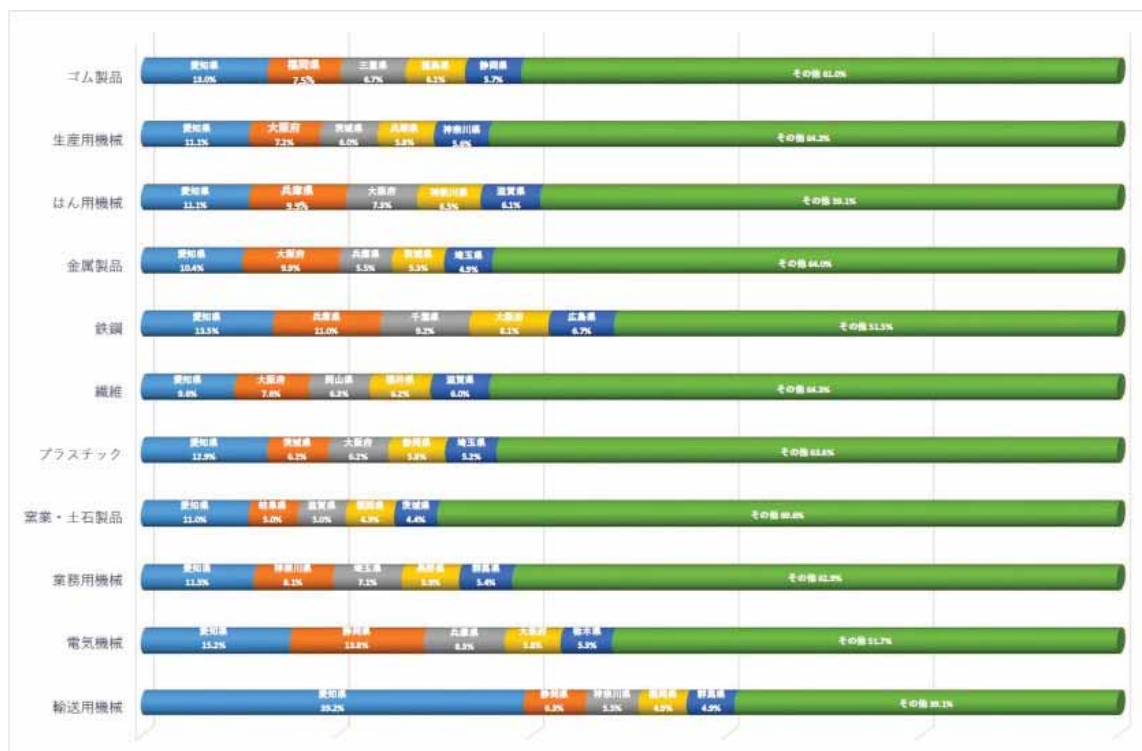
### 都道府県別製造品出荷額等



資料：経済産業省「2020年工業統計表〔概要版〕」

## 全国に対する主な 1 位業種

製造品出荷額等において 24 業種中 11 業種が全国 1 位です。



資料：経済産業省「2020年工業統計表〔概要版〕」

(出典：愛知県ホームページ)



## IT 人材需給に関する調査（概要）

平成 31 年 4 月  
経済産業省  
情報技術利用促進課

### 1. 調査の目的・実施体制

「未来投資戦略 2017」（平成 29 年 6 月 9 日閣議決定）に基づき、第四次産業革命下で求められる人材の必要性やミスマッチの状況を明確化するため、経済産業省、厚生労働省、文部科学省の三省連携で人材需給の試算を行った。試算にあたっては、経済産業省情報技術利用促進課とみずほ情報総研株式会社が事務局となり、6 名の有識者を構成員とする形で、2018 年 6 月-2019 年 3 月の期間で、計 4 回の検討会を開催した。

### 2. 調査概要

調査では、2018 年から 2030 年の期間において、以下の項目について試算した。

- ① IT 人材全体数の需要・供給
- ② Re スキルによる従来型 IT 人材及び先端 IT 人材の構成変化
- ③ AI 人材の需要・供給

（参考）本調査における調査対象の概念整理図



(※1) 本調査では、国勢調査を基に、IT 企業及び、ユーザー企業の情報システム部門等に属する職業分類上の「システムコンサルタント・設計者」、「ソフトウェア作成者」、「その他の情報処理・通信技術者」を IT 人材として試算した。

(※2) ③の「AI 人材」はアンケート調査等をもとに試算を実施しており、ユーザー企業の事業部門や研究開発部門に属する人材も含まれている。したがって、①の「IT 人材」に完全には包含されない。

### 3. 調査結果のポイント

#### (1) IT人材（全体）の需給

##### a) IT人材の需要と供給の差（需給ギャップ）

IT人材について、需要の伸びを年平均2.7%程度、労働生産性が年0.7%上昇することを前提とし、その需給ギャップを試算したところ、下記の表1の結果が得られた。（試算方法・試算前提については後述）

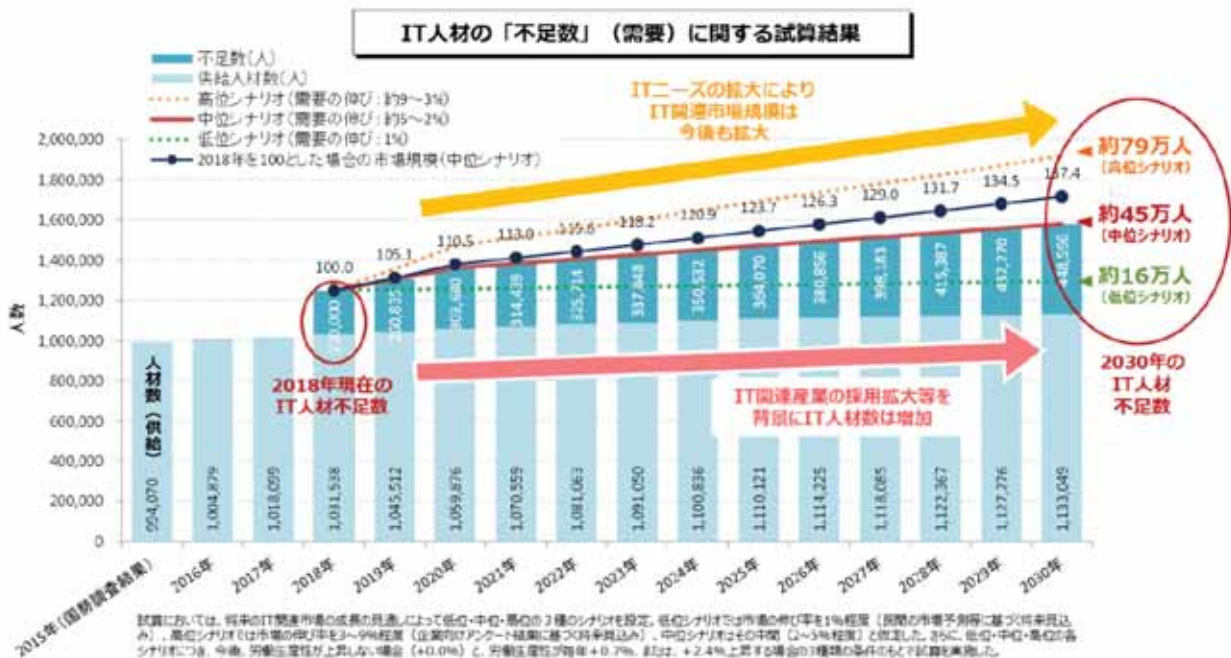
(表1) IT人材の需給ギャップ

2018年	2020年	2025年	2030年	2030年（前回調査※）
22万人	30万人	36万人	45万人	59万人

※前回調査：2016年「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（経済産業省）における需要の伸び1.5-2.5%シナリオの需給ギャップを記載。

ただし、年3.54%の労働生産性上昇を実現した場合には、2030年時点のIT人材の需要と供給は均衡することが見込まれる。

<参考1> IT人材需給の試算結果



### (3) AI 人材の需給について

AI を実現する数理モデルについての研究者（ただし、学術・研究機関を除く）や AI 機能を搭載したソフトウェアやシステムの開発者、AI を活用した製品・サービスの企画・販売者を「AI 人材」として定義し、その需給及び需給ギャップを試算した。

#### a) AI 人材の需給ギャップ

AI 人材の需要と供給について、後述の方法で試算を行いそのギャップを試算したところ、下記の表の結果が得られた。

なお、需給ギャップの試算にあたっては、AI 市場の需要の伸びについて複数の市場調査結果を参考したが、調査によって予測が大きく異なることから、そのうち最も低い伸びを低位シナリオに、平均値を平均シナリオとし、2つのパターンで試算を行った。

- 低位シナリオ(低位の伸びの市場調査結果) : 年率 10.3%
- 平均シナリオ(複数の市場調査結果の平均値) : 年率 16.1%

(表 5) AI 人材需給ギャップの見通し

AI 需要の伸び	2018 年	2020 年	2025 年	2030 年
低位(10.3%/年)	3.4 万人	2.8 万人	2.7 万人	1.2 万人
平均(16.1%/年)		4.4 万人	8.8 万人	12.4 万人

AI 人材の生産性が 0.7%上昇し、かつ、AI 需要の伸びが「平均」の場合は、2025 年には 8.8 万人、2030 年には 12.4 万人の需給ギャップが生じる。また、AI 需要の伸びが「低位」の場合、2018 年の 3.4 万人から需給ギャップは徐々に減少し、2025 年には 2.7 万人、2030 年には 1.2 万人まで緩和する。

# あいち DX 推進プラン 2025 (概要)

I 名称 あいち DX 推進プラン 2025～デジタルで生まれ変わる愛知～ II 計画期間 5 年間 (2021～2025 年度)

## III あいち ICT 戦略プラン 2020 策定後の変化と新たな取組の必要性

県政を取り巻く ICT 環境の変化

### < 社会情勢 >

Society5.0、デジタル化、デジタル・ディスラプション、産業DX (デジタル・トランスフォーメーション)、少子高齢化、働き方改革等

### < 国の動き >

デジタル・ガバメント、官民データ活用、行政手続オンライン化、デジタル庁、自治体DX推進計画 (仮称)

ICT 施策見直しの必要性

- ◆ 社会全体のデジタル化は、今後ますます加速するものと考えられるため、行政の効率化 (デジタル化) を推進するとともに、社会全体のデジタル化に向けた公共データの積極的なオープン化を進めていく必要
- ◆ 新型コロナウイルスの感染防止対策として急速に広がったテレワークやオンライン会議の活用、さらには教育におけるICTの活用の動きに的確に対応していくため、県全体の情報基盤の強化に取り組む必要
- ◆ 先を見通すことが非常に難しい時代となる中、あらゆる分野においてDXを進展していくことが求められており、DXへの対応に必要となるICTなどの知識・技術を有するデジタル人材の育成・確保に取り組む必要

## IV プランの趣旨等

策定趣旨 ・ 県におけるICT利活用・DX推進の今後の展開の指針を示す。  
 位置付け ・ 「あいちビジョン2030」(2020年度策定) や「あいち行革プラン2020」(2019年度策定) の取組をICTの利活用により加速させ、DXを推進する。

## V プランの視点・柱

① 県行政の効率化・DXの推進  
(県民の利便性向上)

② データの活用

③ 県域 ICT 活用支援

④ デジタル人材育成

## VI 視点・柱と主要取組事項の相関

①	1 先進的な ICT 技術を取り入れた業務変革
	2 ICT 環境のモバイル化
	3 行政手続のデジタル化
②	4 官・民における積極的データ活用
③	5 県全体の情報化の推進
④	6 デジタル人材の育成

## 6 デジタル人材の育成

### 取組の方向

- ◆ デジタル・ガバナメント実現のための職員の ICT 活用能力の向上を図る。
- ◆ デジタル技術を活用することにより、ビジネスモデルの変革を推進できる産業人材の育成に努める。
- ◆ 将来のデジタル人材育成に向け、教育現場のデジタル化を進め、ICT 教育を充実させる。
- ◆ 社会のデジタル化にとり残されないよう県民の情報リテラシーの向上を図るとともに、ネット上に渦巻く悪意の渦にまきこまれないよう情報モラルの教育にも努める。

### 取組の内容

即戦力としての人材育成（庁内）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正調達のためのシステム担当者支援</li> <li>・ 管理職向け及び実務者向け ICT 研修</li> <li>・ ICT 支援員の活用や校務の情報化などによる教員の ICT 活用能力及び ICT 活用指導力の向上</li> <li>・ 教員のためのオンライン研修</li> <li>・ 企業におけるデジタル人材の育成・確保</li> <li>・ 新たなロボット競技会の実施</li> <li>・ スマート農林水産業などの次世代の農林水産業を担う人材育成</li> <li>・ 大学対抗ハッカソンの開催</li> </ul>
産業人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立高校一人一台タブレット端末の導入</li> <li>・ 各県立学校で Web 会議を実施できる環境の整備</li> <li>・ 特別支援学校で教育支援ソフトウェアの導入、活用</li> <li>・ ICT を活用した教育環境の充実</li> <li>・ 工業高校を工科高校に改称し、IT 工学科や理工科を新設、ロボット工学科を拡大</li> <li>・ 民間のクラウドサービス活用によるオンライン学習支援</li> <li>・ 教育 ICT 環境を活用した児童生徒に対する防犯教育の推進</li> </ul>
ICT 教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントや講座等を通じて、インターネット上のマナーやルール、責任や危険性を啓発</li> <li>・ 高齢者等を対象とした ICT 教育の検討（再掲）</li> </ul>
県民情報リテラシーの向上	

（出典：愛知県ホームページ）

## 資料 11 愛知県のロボット産業の現状

### ロボット産業集積の状況

日本有数のロボット製造業の集積地となっている。

#### ▶ 製造品出荷額等

順位	都道府県名	出荷額	割合
1	山梨県	4,294億円	44.4%
2	愛知県	1,706億円	17.7%
3	福岡県	932億円	9.6%
4	静岡県	456億円	4.7%
5	兵庫県	429億円	4.4%

出典：2020年工業統計調査

#### ▶ 事業所数

順位	都道府県名	所数	割合
1	愛知県	59ヶ所	14.9%
2	長野県	27ヶ所	6.8%
3	兵庫県	27ヶ所	6.8%
3	静岡県	26ヶ所	6.5%
5	神奈川県	21ヶ所	5.3%

出典：2020年工業統計調査

#### ▶ 従業者数

順位	都道府県名	人数	割合
1	山梨県	5,023人	26.7%
2	愛知県	2,478人	13.1%
3	福岡県	1,912人	10.1%
4	静岡県	1,539人	8.2%
5	長野県	1,047人	5.6%

出典：2020年工業統計調査

(出典：愛知県ホームページ)

資料 12 東海地域の主要メーカーの立地条件、中部地域の航空宇宙産業の集積状況

◆ 東海地域の主要メーカーの立地状況



◆ 中部地域の航空宇宙産業の集積状況



(出典：愛知県ホームページ)

資料 13 海外クラスターとの比較

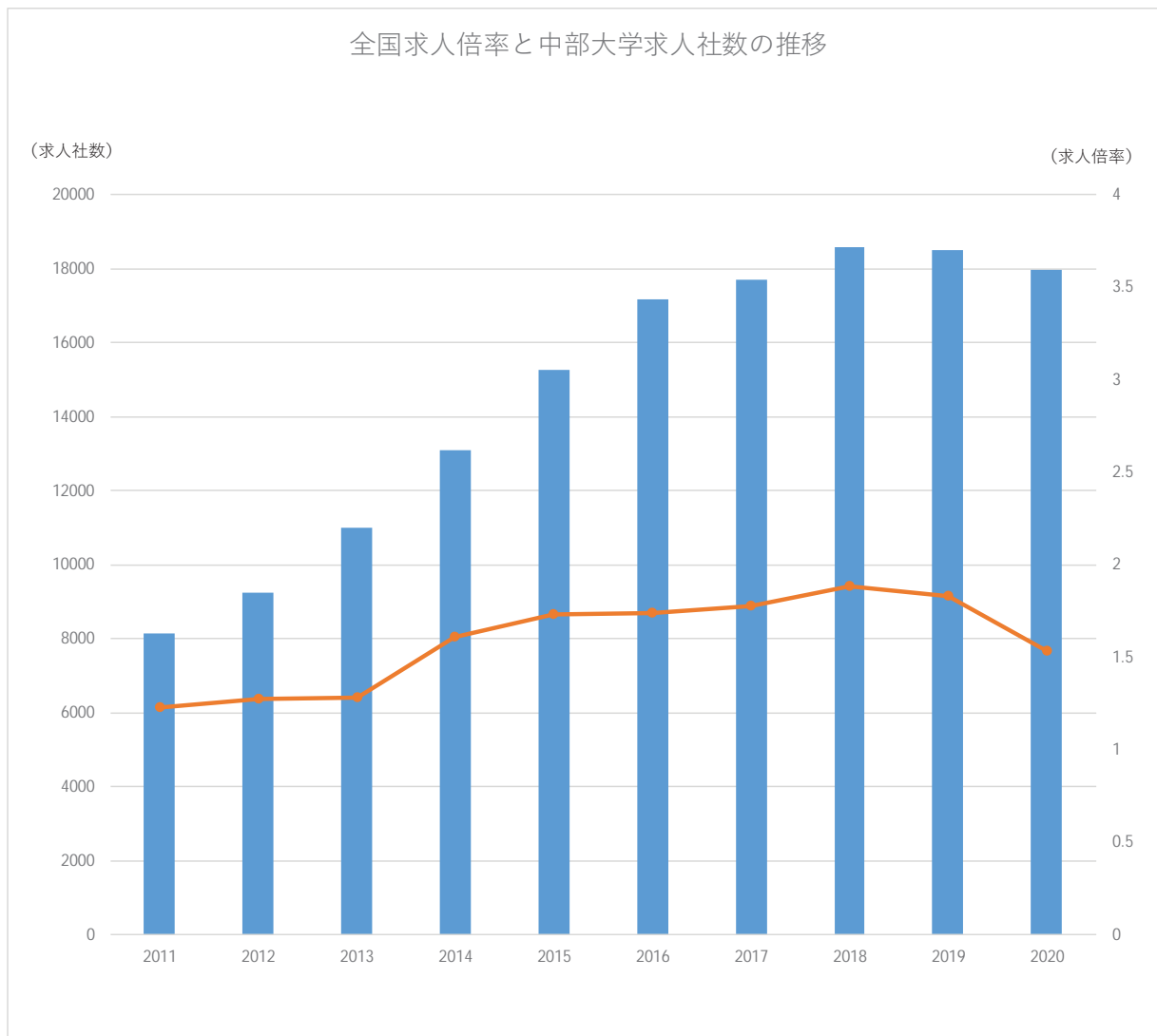
## 海外クラスターとの比較

※東海産業競争力協議会資料（平成 26 年 3 月）より抜粋。

	ワシントン州 シアトル周辺 (アメリカ)	ミディピレネー及 びアキテーヌ地域 (フランス)	メトロポリタン・ ハンブルク (ドイツ)	ケベック州 モントリオール (カナダ)	中部地域
中核都市	シアトル ■面積：369.2km <sup>2</sup> ■人口：約579千人	トゥールーズ ■面積：118.3km <sup>2</sup> ■人口：約438千人	ハンブルグ ■面積：755.26km <sup>2</sup> ■人口：約1,744千人	モントリオール ■面積：363.52km <sup>2</sup> ■人口：約1,621千人	名古屋市 ■面積：326.43km <sup>2</sup> ■人口：約2,268千人
組織	ワシントン州航空宇宙未来連盟 (AFA-WA)、北西太平洋航空宇宙連盟 (PNAAC)、グレートスポークン地域航空宇宙コンソーシアム、Washington Aerospace partnership	エアロスペース・バレー協会	ハンブルク・アビエーション	エアロ・モントリオール (大企業)、ケベック州航空宇宙協会 (AQA)	中部航空宇宙産業技術センター
産業集積	ボーイングを核に約1,250社がクラスターを形成。	航空機に係る全ての産業が集積。エアバス社を始め1,600社でクラスターを構成。	エアバス、ルフトハンザ・テクニク、ハンブルク空港の大企業3社及び300以上の中小企業	ボンバルディア、プラット&ホイットニー (エンジン)、CAE (フライトシミュレーター) など234社	三菱重工、川崎重工、SUBARUの3機体メーカー及び中小サプライヤー
従業員数	約128千人	約120千人	約40千人	約42千人	約15千人
人材育成	ワシントン航空宇宙トレーニング研究センター (WATR)、24のCOMMUNITY COLLEGE、The Center of Excellence (COE)	エンジニア養成高等教育機関 (グランゼコール) (ISAE, ENAC)、Montaudran Aerospace Campus、THE AIRBUS LYCEE (高校)	航空トレーニングセンター (HCAT)、応用航空研究センター (ZAL)	ケベック航空宇宙人材育成センター (CAMAQ)、AEROSPACE TRADE SCHOOL (ÉMAM)、NATIONAL AERONAUTIC SCHOOL (ÉNA)、高等工学技術学校	中日本航空専門学校、株式会社VRテクノセンター
国際協力	パリ (仏)・ドバイ (アラブ首長国連邦) のエアショー出展、海外都市訪問、年次会議・イベント参加など。	ハンブルク・アビエーション (独)、エアロ・モントリオール (加) と提携	エアロスペースバレー (仏)、エアロ・モントリオール (加) をはじめ、欧州圏内13か国のクラスターと提携	バイエルン (独)、ハンブルク・アビエーション (独)、エアロスペースバレー (仏) ワロン (ベルギー)、ジェシユフ (ポーランド)	なし
国際商談会	エアロスペース&ディフェンスサプライヤーサミット・シアトル	エアロマート・トゥールーズ	エアクラフト・インテリアズEXPO	エアロマート・モントリオール	エアロマート名古屋



資料 14 全国求人倍率と中部大学求人社数の推移



年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
本学求人社数	8,143	9,261	10,995	13,105	15,259	17,171	17,708	18,564	18,509	17,966
全国求人倍率	1.23	1.27	1.28	1.61	1.73	1.74	1.78	1.88	1.83	1.53

※全国平均の求人倍率は、リクルートワークス調査より

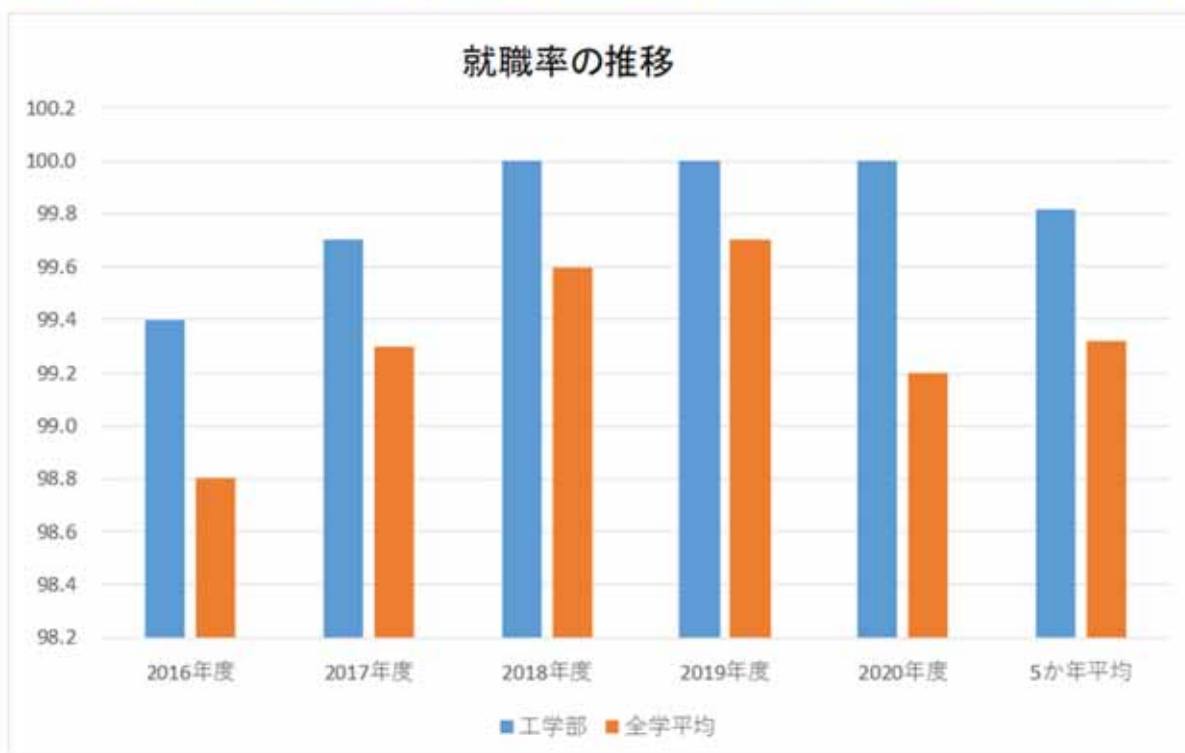


### 学部別就職率の推移

【就職率＝就職決定者/就職希望者】

(単位：%)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5か年平均
工学部	99.4	99.7	100.0	100.0	100.0	99.8
経営情報学部	99.7	99.6	99.2	99.6	99.6	99.5
国際関係学部	97.9	96.8	100.0	99.0	99.1	98.6
人文学部	96.6	98.2	98.7	99.1	97.8	98.1
応用生物学部	99.7	99.4	99.7	99.7	99.0	99.5
生命健康科学部	99.0	99.4	99.7	100.0	99.0	99.4
現代教育学部	100.0	100.0	100.0	99.4	100.0	99.9
全学平均	98.8	99.3	99.6	99.7	99.2	99.3



工学部就職状況

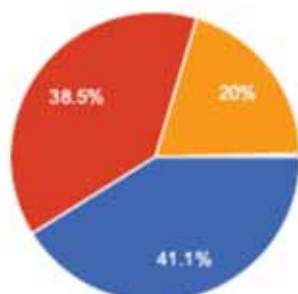
就職先	学年・年度	建設業			製造業				商業				金融業			サービス業		医療		教育		公務員		その他				合計		
		建設業	土木	建設業	食品・繊維・化学	機械・輸送機・精密	電気電子	出版・マス・その他	流通・外食	食品・薬品・繊維販売	機械・電機販売	金属・木材販売	デパート・その他	銀行	証券・商品取引	生命・損害保険	信託・信託・その他	情報処理・機器設計	その他サービス業	医療（公的機関）	医療（民間）	教育（公的機関）	教育（民間）	公務員	公務員	不動産	運輸・通信		農林・水産・鉱業	電力・ガス・水道
機械工学科	平成29年度	1		6	1	29	56	5	10	1		3		2			12	16			2		2							146
	平成30年度	2		3	3	17	74	12	6			2	1				1	8	20		2					2			153	
	平成31年度		1	4	3	17	82	7	5			2	1	2				11	12			3	2			1			153	
	令和2年度			1	4	10	57	4	8			3		1				9	18					1						116
電気電子システム工学科	平成29年度		1	21	1	2	12	14	2			4	1				4	6									1		69	
	平成30年度			15	1	5	14	19	1	1		3					5	6					2			1		1	74	
	平成31年度			13		1	12	11	1			3	1	1			4	8											55	
	令和2年度	1	3	23		1	4	10	2			2					5	4			1					2		1	59	
情報工学科	平成29年度	2		13	3		10	5			5						10	10					1			3			62	
	平成30年度		1	14			8	6			1	6	1				14	9									1		61	
	平成31年度			16	1	1	6	5	1		6		1				13	16									1		67	
	令和2年度	1		10		2	5	4			6						14	16						2	1	3			64	
都市建設工学科	平成29年度	11	21	1				1									1	2			1	6	1	6					51	
	平成30年度	9	26	5		1					1							1			2	5		8					58	
	平成31年度	16	24	4		1		3									1	3			1	1	5	1	5				65	
	令和2年度	8	29	2				1									2						4		5				51	
建築環境学科	平成29年度	32	44	13													2	3					3	5					102	
	平成30年度	23	34	20		1	3				1							2					2	6	1				93	
	平成31年度	18	62	15				2			1	1					1	4					3	5	1	3			116	
	令和2年度	24	40	13		1							4										4	2					92	
応用化学学科	平成29年度		1	1	17	2	5	12		1	2	1					2	9			4	2	1	1	1			1	4	65
	平成30年度	1		1	17	4	20	3	12	1		1	1			1	2	5			1	2		2	1			1	73	
	平成31年度			2	11	3	17	4	5	1	2	1	1		1		3	5			1	1				1		1	59	
	令和2年度				11	6	7	2	12	1		2	1				3	10			3	3	2		2	1		2	66	
情報工学科	平成29年度		1	6	2	5	5	2	1	1	6	2				1	45	24			2		6	2					111	
	平成30年度			5		4	5	1		4				2			34	17					1		4				77	
	平成31年度			2	1	4	5	4	1	9	1	1				1	50	24							5				108	
	令和2年度			2		3	2	1	3	8		1					36	12					1	1	3	1			76	
ロボティクス工学科	平成29年度				3	2	16	3	1		3				1		11	7											47	
	平成30年度				2	3	14	10	2								12	16							1				60	
	平成31年度			1	2	5	15	4	2		2						12	8								1			52	
	令和2年度					5	12	4	4	1	2	1					12	12										1	54	

※ 「公務員」は、公務員全体から、医療（公的機関）と教育（公的機関）を除いたもの。  
 ※ 電気電子システム工学科及び宇宙航空工学科は、平成30年度設置のため、未掲載。

資料 18 理工学部を設置に関するアンケート調査（企業）結果

A-1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6 件の回答

中部地区にこの学科がない為

数学のレベルが高い学生が入学するのか？

いま必要とされる人材を育てる学部であるため

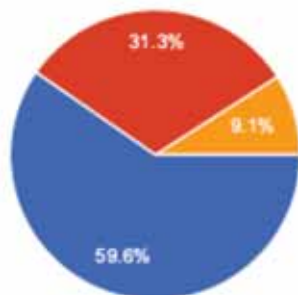
幅が広がる

データサイエンスを学んでいる学生さんを希望する為。

弊社の事業内容とはマッチしないため。世間一般的には望ましいのではと考えます。

A-2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

265件の回答



- 1. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部にAIロボティクス学科が設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6件の回答

将来にわたり有望な基幹産業になり得る。

0→1を創る人を育成するのか？今あるAI+ロボットを使える人を育成するのか？

いま必要とされる人材を育てる学部であるため

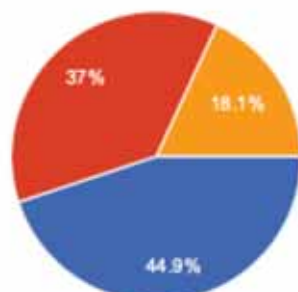
AI分野の人材が育成されるから

AIを学んでいる学生さんを希望する為。

弊社の事業内容とはマッチしないため。世間一般的には望ましいのではと考えます。

A-3. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部大学理工学部宇宙航空学科を設置されることを、大いに歓迎する。
- 2. 中部大学理工学部宇宙航空学科を設置されることは、望ましい。
- 3. 望ましいかどうかは分からない。
- 4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6 件の回答

宇宙開発を進める人工衛星進化、確実性、有人人工衛星→日本は遅れている。

中部大を出て企画・設計が出来るのか？機械科もCFRPの加工の研究をしている。

いま必要とされる人材を育てる学部であるため

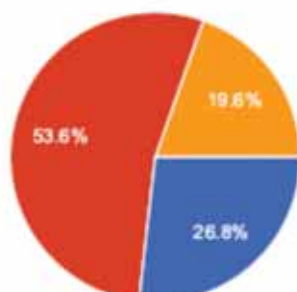
分からない

宇宙航空業のプロジェクトを有している為。

弊社の事業内容とはマッチしないため。世間一般的には望ましいのではと考えます。

B-1. 中部大学理工学部の数理・物理サイエンス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは思えない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

7 件の回答

全国的な視点で物事を捉える為。

必要性は高いがトップレベルでないと仕事にならない。

核融合、量子コンピュータといった未来の仕組みを作るものであると考えるため

特にアジアクラスターが愛知県に設定されています中部地区は飛鳥もあり宇宙航空については望まれる所です。

特になし

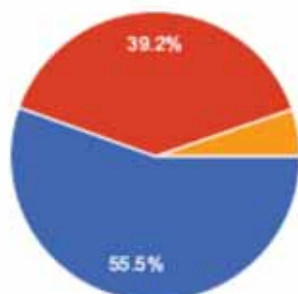
データサイエンスという分野は業界問わず、多方面に生きる為。

特にアジアクラスターが愛知県に設定されています中部地区は飛鳥もあり宇宙航空については望まれるところです。(B-1は未回答)



B-2. 中部大学理工学部のAIロボティクス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

6 件の回答

全国的に必要となる。中部地区限定ではない。

自動化、省力化のためのスタッフとして

自動化需要の高い中部地区に合致した知識・技術であると考えため

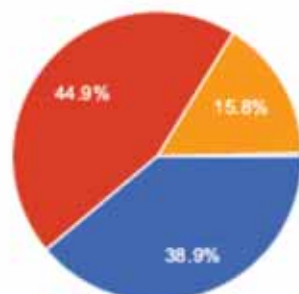
産業的な範囲でみると自動車関係、物流関係で必要性は大いに高いと思われる。

今後さらに必要となる分野だから

AI・ロボティクス分野は、自動車業界含めどの業界でも生きる為。

B-3. 中部大学理工学部宇宙航空学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

265 件の回答



- 1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
- 2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
- 3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
- 4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

5 件の回答

全国的に必要となる。中部地区限定ではない。

航空産業の将来性が分からない。

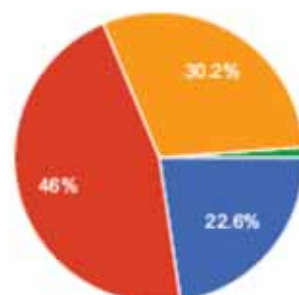
航空関係の業種が多い中部地区に合致した知識・技術であると考えため

今後必要とされる分野だから

中部地区でも宇宙航空業のプロジェクトを有している為。

C-1. 中部大学理工学部数理・物理サイエンス学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

265 件の回答



- 1. 強い関心がある。
- 2. 関心がある。
- 3. 特別の関心はない。
- 4. 全く関心がない。

上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

7件の回答

業務分野相違

入社試験の数学・物理が高得点でなければ自己否定になると思う。高ければ高評価。

採用予定がない

弊社とは業界（分野）が全く異なるため採用は難しいと考えております。

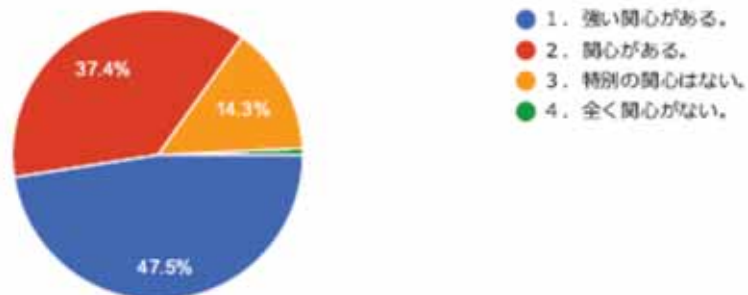
今後積極的に採用したいから

上記同様。

弊社の事業内容とはマッチしないため。

C-2. 中部大学理工学部AIロボティクス学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

265件の回答



上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

7件の回答

業務分野相違

現在活躍しているから。

採用予定がない

弊社の自動化事業において必要とされる人材であるため

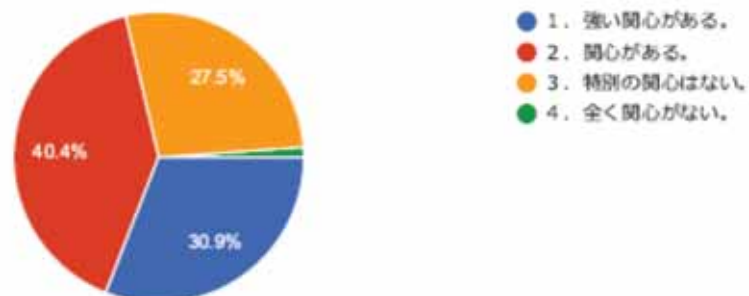
今後積極的に採用したいから

上記同様。

弊社の事業内容とは今のところマッチしないため。

C-3. 理工学部宇宙航空学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

265件の回答



上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

7件の回答

業務分野が全く違うため応募側（学生側）も関心なしと思います。

加工技術者として 設計者としては？

採用予定がない

弊社の業務内容とは異なるため

弊社の事業にはあまり関係がないから

上記同様。

弊社の事業内容とはマッチしないため。

D.

本学が設置しようとする理工学部期待する事柄、ご助言等（教育内容、学生育成方針等）がございましたら、是非ご意見・ご指導等をご教示ください。

○特にございません。

○産学連携等在学時より企業と接点を持った教育を望みます。（特に中小企業）

○学んだことに自信を持つことは大切ですが、それ以外の考えもあり得るという柔軟性も身に付けて頂きたいです。

○中部地区での設置は必要と思います。中部地区への定着。

○実践に即した教育

○弊社は航空宇宙関係の業務を実施していますので同じ春日井市内にこのような教育機関がありお互いに協力してゆける事になれば素晴らしいことだと思います。大変期待しておりますので今後ともよろしくお願い致します。

○今後も理工系の教育を受けた人材を多く輩出いただきたい。

○マンモス的な大学で学生数を揃えることなくこの分野なら中部大学と全国に伝わるような教育・学生を育ててくださいます様お願いします。特に少子化が顕著なので誰でも入学できるとならないように。

○優秀な学生の人材育成にご尽力いただき、ありがとうございます。

○仕事の仕方がジョブ型となっていく中、今後専門性はさらに必要となってくると考えられます。特に理工系分野の内容を充実していただきより社会に出た後の仕事と結びつくカリキュラムを組んでいただけるとありがたいです。

○習得した専門的知識を自己なりに発展し、中小企業の課題解決にとことん望める思想を養成していただきたい。

○機械・電気・電子・情報の総合的な知見のある学生の育成

- 特にはございません
- 既存の学部学科の強化・充実についてもお願いいたします。
- 数学は重要だと思います。(1%の人材だと思います。) 中途半端(使えない理論)なら工業高校(技能)のほうがいい(会社で育てやすい)。
- 理工学部出身なのに直流、交流がわからない。専門には強いが基礎がない。(中部大出身者ではありませんが。)
- 新たな学部を設置することにより遠方や三河地区の学生を多く誘致していただき、様々な分野の業種に興味を持つ学生を育成、輩出してほしいと思います。
- 産業社会を牽引できる科学技術者を養成するのは素晴らしいことですので是非頑張ってくださいたいです。
- 弊社の採用基準の一つとして「コミュニケーション能力」を重視しております。教育内容でグループディスカッションや合同研究等を取り入れて頂けると、社会人になって仕事をされる際に周りの人間と円滑なコミュニケーションが取れる人材へ成長されるかと思っておりますのでぜひご検討下さい。また、理工学部で学んだ学問が直接仕事に関わる事では無いとしても、専門的な知識を身につける力は大いに個人の強みになりますので研究に励んで頂ければと思います。
- 弊社は設計会社です。理系学生はおろか設計職に興味がある学生様は年々減っている印象。モノづくりに関する楽しみや喜び知識を学べる環境に期待致します。
- 専門的な知識や技能も必要ですが、会社によって又は会社の中では、いろんな業務があり、数学や物理など基礎的な知識を身に着けると、いろんな分野の業務が出来、応用もきくので、良いことだと思われまます。
- IT 人材のニーズは産業界にとって分野を問わず高いため御校の取り組みは大変有意義と考えます。航空宇宙領域においても参入する企業が県内にもあるため、中京圏のみならず周辺エリアでもニーズがあると思われまます。
- 最終的に知見を活かす場が、現場か研究で学ぶ事も大きく異なってくるのでは。当然共通する部分はあると思いますが、育成方針としてどちらかに特化した方が生徒にとっても未来を描きやすくモチベーションを持って取り組めると思っています。その結果、現場、研究のそれぞれの場でより強い人材が育つのではないかと思います。
- 熱力学等、物理・化学の基本的な理解度の高い学生の方への採用意欲を弊社としては持っております。これまでに引き続き貴校のよい学生の方々とのよきご縁が頂戴できますことを願っております。
- 物づくりの原点をしっかりと見ると今後必要な大切なことだと思います。
- 弊社は主に自動車に関わる機械設計技術の提供を行っております。自動車業界でも、人工知能の発展が今後期待されている中で、御校の新学科、特に「AI ロボティクス学科」は、大変魅力的だと感じました。弊社としても、積極的に採用を検討したいと存じます。
- 上記設問で「特別の関心はない」としているのは、現時点では新卒採用での実績がなく判断ができないためです。今後、採用活動の中で当社に関心を持っていただければコミュニケーションを図りたいと考えています。
- 既設学科との住み分け、強みを強く打ち出して欲しいと思います。
- 最新技術に対し抵抗がなく、知識に対して意欲の強い学生であることを望みます。

- 場所柄モノづくりに関心がある学生が集まるかもしれないので、企業研修、見学などもカリキュラムに導入することもいいかもしれません。
- 時代の変化をいち早く察知し適応し変化される貴校の取り組みは素晴らしく当社の採用業務においても常に化する姿勢を見習わせて頂きたいと思います。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。
- 理系学生の採用に大変苦勞していますが数少ない理系設置大学として今後も人材の育成をお願いします。特に建設、AI等で今後も必要不可欠です。
- AI ロボティクス学科は特に当社が取り組んでいるものと親和性が高いように思われ期待しております。
- 航空宇宙に携わる企業としまして分野は多々ありますが即戦力となる人材を求めています。
- 航空機の製造は市場の9割、運航、整備サービスを含めるとさらに航空機の産業規模が大きく人材需要も旺盛である。社会のニーズに沿った育成によって多くの学生を航空関連の就労、従事につなげていただく教育を展開されることを期待したい。
- 肯定されてもおごらず、否定されても腐らず、コミュニケーションがとれる学部、学生に育つことを楽しみにしております。
- メーカーの工場ではAI化を進めている会社も多いと思いますのでぜひ知見を活かしていただきたいと思います。
- 理系学生全般に言えると思いますが、研究職を目指すのであればとことん専門性を追い求めてもらうことが良いが、社会にでて活躍する人材を育成するのであれば専門性を重視するより応用力を身に付けてほしいです。
- 知識はそれを活かす主体性、行動力等のベースが必要と考えます。
- DX 社会の基礎となる部門の充実は今後の大学教育に欠かせないと思います。
- 製造会社として新たな発見、業界としての発展に期待致します。
- 大企業でなく特殊能力をもった中小企業と関係を深め早い段階で研究、モノづくりなど実践イメージを高めていける様な関係をもちたいと思っています。
- もの作りが好きな学生 工作機械に興味のある学生
- 当社はロボット業界と建設機械業界と強く関わっており、特にロボット業界は成長性の高い分野として注目されています。それは先進諸国の労働人口の減少や IOT・Ai などの技術革新を背景に製造業はもちろんの事、医療や飲食等様々な分野でロボット利用が浸透しつつあり、それによって作業の自動化も進み、その流れが更に新たなロボットの需要を喚起しているのが現状です。かかる状況下、当社は省人化・効率化を進めるため設備及び環境が許す範囲内で自働化（IOT）を推進することを目的に作業工程の見直し及び再設計を行っております。また、自働化を可能な限り自社社員で行うことを目標として日々研鑽を積む中、貴学の材料科学、電気・電子・情報工学、機械工学、AI 技術を融合したロボティクス分野を学ばれた卒業生諸氏と共に、当社の経営環境を更に強固なものにしたいと考えております。
- 「様々な分野への関連性を活かし、身に付けた知識や技術とその応用力を駆使して、持続可能な社会・環境が直面する様々な課題に対して自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力」に期待しています。
- より社会が求めている技術に対して実践的な教育や実習などに力をいれられることを期待します。
- 地元企業へのインターンシップを卒業の必須にさせていただけるとありがたいです。
- 今後とも貴校の幅広い知識を持った学生を採用していきたいと考えております。

- JDLAE 資格取得の強化、数理・物理サイエンスにおいて金融工学も視野に、量子 CP レベルの研究強化 (AI コードレビューソフトの育成、AI アルゴリズム教育、測量 GPS 関連の IT システム教育)
- 新しいことが求められ進化していく製造業にとって、先端技術を身につけ、新しい時代の製造業で活躍していただけるような人材の育成を期待しております。また、そのために弊社でお手伝いできること (共同研究や工場実習等) がございましたら、ご連絡をいただけますと幸いです。
- 理工系学生の育成は将来に渡り我が国がものづくりで生き残るために優先して取り組まねばならないことと考えます。多くの優秀な学生が生まれますよう引続きご尽力願います。
- 読解力や文章作成能力、数学などの基礎学力の向上に取り組んでいただけるとありがたい。ひとつのことを理解したとしても、横のつながり等自分自身で気づかないまたは、理解しきれていない方が多い。
- 数理・物理サイエンス学科は、データサイエンスと複合型学科を合わせて活躍できると思われま。AI ロボティクス、宇宙航空学科は、愛知県を代表とする産業に深くかかわると思うので、出来れば地元企業と連携を取りながら、学生に将来性のある知識を身につけて頂きたいと思ひます。
- AI ロボティクスにおいて、ロボット、ソフトウェア、構成する機械や機構があり幅広く教育されることを期待します。
- 弊社のビジネスに直結しない事もあり回答が片寄ってしまい恐縮です。もう少しニッチなものに特化した学部があっても良いのではないのでしょうか。
- 最近の学生はおとなしい。積極性のある学生の育成。
- それぞれの学科で専門の知識を身につけていただく事も大切だと思いますが、理系の卒業生みなに求められる力 (答えのない問題により確からしい答えを理論的に導きだす力) をしっかり身につけてほしいなと思ひました。
- 中部地方には理工学部の大学が大変少ない印象があり、優秀な理系の学生が都会へ流出していると感じています。特に今後情報工学の重要性は増すはずですので、貴学の方針は大変すばらしいと存じます。あいにく弊社には貴学で学問を修められた学生さんをお迎えするだけの度量はございませんが、地域全般を盛り上げる大学になられることを心より期待しております。まだまだ女子の理系率は低いのが現実で、国立大の情報工学系学部にしめる女子の割合は 1 割程度と聞いております。中部地方在住の女子生徒のみなさんや親御さんが、自宅から安心して通える (通わせられる) 先進的な理工学部ができますと、理系を目指す女子にとってはありがたいはずで。貴学のご発展を陰ながらお祈りしております。
- 中部地区の発展のためぜひとも多くの優秀な学生さんを輩出いただきたい。
- 学ばれる内容は、特定業種だけでなく、広い業界職種で生かせると思ひます。視野も広くということも合わせてご指導いただければと思ひます。
- 最先端分野にリンクし研究を行うことで数字やデータの処理に長け、様々な業界や職種でニーズが高い学部であると思ひます。ソフトウェアの説明書を読んだりプログラミングの調査をしたりする際の英語力も必要だと考えます。よろしくお祈りします。
- AI の技術は今後活かせる業界が出てくると思ひます。弊社にも AI の部署があるので、学んでいただいた知識を活かせると思ひます。
- 学科によって弊社とのつながりの大小はありますが、産業界全般については大きなつながりがあると



思います。

- 幅広い人材を教育・育成していただくようお願いします。
- 近年の科学技術の進歩をより高めるため専門的な知識を学生に習得していただきたいと思います。
- 特になし
- 社会の変化に対し社会貢献の仕方も多様化している。様々な分野で活躍出来る人材が必要。
- 製造業が牽引する中部圏において理工学系を専攻した学生が増えることに多大な期待をしております。  
是非、優秀な学生を多く輩出いただきますようお願い申し上げます。
- 理学と工学が融合した新しい理工学部が実社会に役立ち、さらに最先端技術の開発にも貢献できることを期待しています。
- 改組後もものづくりに関する実習・演習の単位は一定程度確保願います。生産技術に加点をおいたカリキュラムを期待致します。
- コミュニケーション力を兼ね備えたエンジニアの育成に期待します。
- 貴大学理工学部にて、多角的な分野における学部、学科の創設は望ましいことかと存じます。モノづくり地域の中部地方での将来を担う役割は多いことと思います。創設された学部・学科にて培われた知識等が、就職先で必ずしも活かせなかったことや、必要されないことは多々あるかと思えます。採用する上でどのような発想や、考え方を持っているのかを重視する企業様もあるかと思えますので、就職先では視野を狭めず、広い視野で出会いが生まれることを伝えていただければ幸いです。
- 主体性を持った学生の育成を期待します。
- 中部地区の主産業である自動車、航空機の輸送機器製品は電子制御等の電子化が進んでおり、今後も発展が見込まれています。貴学で設立を計画している理工学部の各学科においても電気・電子・情報の知識を有する人材の育成に期待しています。

企業（人事担当者） 各位

### アンケート調査への協力依頼について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

中部大学では、数学、自然科学の基礎、時代の先端の科学技術を身につけ、新しい産業と科学技術を創出し、持続的に発展できる社会の構築に貢献する科学技術者を養成するために、2023年4月から愛知県春日井市のキャンパスに新たに「**理工学部**」の設置を計画しております。

本学部は、数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科の3学科で構成され、科学技術の根幹をなす数学、自然科学、および幅広い工学分野の先進科学技術を基礎として、新しい時代に即した理学と工学を融合した教育・研究を展開し、推進します。また、数学や物理学などの基礎的な理学系学問だけでなく人文・社会系学問を含む幅広い教養を習得させるとともに、数理科学・物理科学分野のより専門的な知識、さらには、応用分野として、材料科学、電気・電子・情報工学、機械工学、AI技術等を融合したロボティクス分野、宇宙航空分野の専門知識を、講義、演習、実験・実習等を通して習得させ、先進的な技術力や論理的な思考力を備え、産業社会を牽引できる科学技術者を養成することを教育研究上の目的としております。

なお、3学科のうちAIロボティクス学科及び宇宙航空学科は、それぞれ既存の「工学部ロボット理工学科」及び「工学部宇宙航空理工学科」を基礎として改組・設置するものです。

各学科の教育目標は次のとおりです。

#### 〔数理・物理サイエンス学科〕

- ①数理科学、物理科学の知識と技術を基盤として、自由な発想力と実践力で科学技術の発展とイノベーションを担うことのできる能力を習得させる。
  - ②幅広い産業界で活躍できる、科学に基づいた論理的思考力・分析力を習得させる。
  - ③数理科学、物理科学の様々な分野への関連性を活かし、身に付けた知識や技術とその応用力を駆使して、持続可能な社会・環境が直面する様々な課題に対して自ら発見、設定、挑戦し、解決にあたるコミュニケーション能力と実践力を習得させる。
- ※数理科学は、数学および、データサイエンスなど、その応用分野を含む学術分野を、物理科学は、物理学および、材料科学、宇宙・地球科学など、その応用分野を含む学術分野をそれぞれ示す。

#### 〔AIロボティクス学科〕

- ①AIロボティクス分野に関する知見、そして、これを利用する技術などの学術領域における高度な知識を習得させる。また、特定の専門領域だけでなく、関連する学際的な領域における広範な知識を習得させる。

- ②修得した高度な知識・技能を活かし多面的に事象をとらえ、評価することにより、既知の課題だけでなく新たな問題点を見出し、その解決に対して積極的自立的に計画を立案・実施・評価そして改善へとつなげる態度や能力を習得させる。
- ③社会の要求する種々の課題に対して、上級生や多方面の研究者などと協力し、その問題解決に取り組み、その結果を論理的に取りまとめ他者に説明することや助言を得る等のコミュニケーション能力を習得させる。
- ④ロボットとの共存社会の実現と社会や産業の持続的な発展のために必要とされる知識・技術や幅広い視野を習得させる。
- ⑤JDLA（日本ディープラーニング協会）のE資格(エキスパート)の受験資格も取得できるカリキュラムにより、より実践的な基礎技術をハンドリングできる能力を習得させる。

[宇宙航空学科]

- ①宇宙航空産業及び関連する分野において、生産現場や中小企業でのモノづくりをリードできる能力を有する人材を育成する。
- ②宇宙航空分野の国際的な広がりに対応できる英語力を有するグローバルな人材を育成する。
- ③これらの人材を育成するために、宇宙航空分野に関して、理学から工学まで幅広く総合的な知識を習得させるとともに、企業等と連携して実践的な技術や幅広い視野を身に付けさせる教育を行う。

つきましては、今後の設置計画推進のための貴重な資料とさせていただきたく、アンケート調査を実施いたします。

何かとご多忙中のところ誠に恐縮ですが、是非とも以下のアンケートにお答えいただき、11月末日までに同封の返信用封筒にてご回答いただきますよう、お願い申し上げます。

以下 URL から直接アンケートにご回答いただきましても結構です。

<https://bit.ly/3Cjv302>



いずれかの方法でご協力いただけますと幸いです。

末筆となりましたが、貴社の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

資料 20 理工学部設置に関するアンケート調査（企業）調査票

中部大学「理工学部」設置に関するアンケート

A-1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

（該当するとお考えの番号を○で囲んでください。次項以下の設問についても同様とさせていただきます。）

1. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
2. 中部大学理工学部に数理・物理サイエンス学科が設置されることは、望ましい。
3. 望ましいかどうかは分からない。
4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--	--

A-2. 中部大学理工学部に AI ロボティクス学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

1. 中部大学理工学部に AI ロボティクス学科が設置されることを、大いに歓迎する。
2. 中部大学理工学部に AI ロボティクス学科が設置されることは、望ましい。
3. 望ましいかどうかは分からない。
4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--	--

A-3. 中部大学理工学部に宇宙航空学科が設置されることに関して、ご意見をお伺いします。

1. 中部大学工学部に宇宙航空学科が設置されることを、大いに歓迎する。
2. 中部大学工学部に宇宙航空学科が設置されることは、望ましい。
3. 望ましいかどうかは分からない。
4. 特に望まない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

B-1. 中部大学工学部の数理・物理サイエンス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

B-2. 中部大学工学部のAIロボティクス学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。

3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

B-3. 中部大学工学部宇宙航空学科において教育を受けた学生の、今後の必要性について、ご意見をお伺いします。

1. 中部地区において必要性が高いと考えられる。
2. 中部地区における産業界などの期待に応えることが可能と考えられる。
3. 中部地区における必要性があるかどうかは分からない。
4. 中部地区における必要性があるとは考えられない。

上記の問いに「4」とお答えになった場合に、その理由をお書きいただければ幸いです。

--

C-1. 中部大学工学部数理・物理サイエンス学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

1. 強い関心がある。
2. 関心がある。
3. 特別の関心はない。
4. 全く関心がない。

上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

[ ]

C-2. 中部大学理工学部 AI ロボティクス学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

1. 強い関心がある。
2. 関心がある。
3. 特別の関心はない。
4. 全く関心がない。

上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

[ ]

C-3. 理工学部宇宙航空学科で教育を受けた学生を社員として採用することについて、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

1. 強い関心がある。
2. 関心がある。
3. 特別の関心はない。
4. 全く関心がない。

上記の設問で「4」とお答えになった場合は、その理由もお書き頂ければ幸いです。

--

D. 本学が設置しようとする理工学部期待する事柄、ご助言等（教育内容、学生育成方針等）がございましたら、是非ご意見・ご指導等をご教示ください。

--

貴社名 および ご対応部署名	
----------------------	--

ご協力ありがとうございました。

\* 本件に関するお問合せ先：中部大学工学部事務室

TEL : 0568-51-4319 (ダイヤルイン), FAX : 0568-51-3833

E-mail : kogakubu@office.chubu.ac.jp



## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	タケノチヨシ 竹内 芳美 <令和5年4月>		工学博士		中部大学学長 (令和3.4～令和7.3)

## 審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）中部大学 収容定員（生命健康科学部 スポーツ保健医療学科）

1. 既設の生命健康科学部スポーツ保健医療学科において、大学設置基準13条に定める専任教員数のうち、半数以上は原則として教授とする規定を満たしていないため、適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

(是正事項) 中部大学 収容定員 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科)

1. 既設の生命健康科学部スポーツ保健医療学科において、大学設置基準13条に定める専任教員数のうち、半数以上は原則として教授とする規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対 応)

このような誤りが生じたのは、3月23日付けの収容定員の増加に伴う学則変更認可申請書の作成にあたり、スポーツ保健医療学科の令和3年度末時点の定員データを基に、完成年度及び定員を変更する年度の教員数を算出したことが主な原因である。

具体的には、スポーツ保健医療学科において、令和3年度末に教授1名が退職することとなったため、生命医科学科から教授1名を配置換する計画となったが、その計画を反映させないままの状態、学則変更認可申請書を作成し、提出してしまったものである。

現在はすでに、教授1名を生命医科学科からスポーツ保健医療学科に配置換し、教授が4名となっており、大学設置基準13条に定める専任教員数のうち、半数以上は原則として教授とする規定を満たしている。

このたびの審査意見を踏まえ、上記の配置換後の定員データを基に、基本計画書の教員組織の概要(新設分)〔基本計画書 p 4～p 5〕を次表のとおり補正する。(補正部分は下線で表示。)

なお、当該教授はスポーツ保健医療学科の「兼任教員等」からはずれ、生命医科学科の「兼任教員等」に計上されることとなるため、これもあわせて補正する。

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等					兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計		助手
新設分	生命健康科学部							
	生命医科学科	<u>10</u> <u>(10)</u>	4 (4)	1 (1)	0 (0)	<u>15</u> <u>(15)</u>	4 (4)	<u>92</u> <u>(92)</u>
	スポーツ保健医療学科	<u>4</u> <u>(4)</u>	4 (4)	2 (2)	0 (0)	<u>10</u> <u>(10)</u>	0 (0)	<u>110</u> <u>(110)</u>

(新旧対照表) 基本計画書 (4、5ページ)

新								旧								
学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
	教授	准教授	講師	助教	計	助手			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
(省 略)	(省 略)							(省 略)	(省 略)							
新設分	生命健康科学部							生命健康科学部								
	生命医科学科	<u>10</u> <u>(10)</u>	4 (4)	1 (1)	0 (0)	<u>15</u> <u>(15)</u>	4 (4)	<u>92</u> <u>(92)</u>	生命医科学科	11 (11)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	4 (4)	91 (91)
(省 略)	(省 略)							(省 略)	(省 略)							
新設分	スポーツ保健医療学科	<u>4</u> <u>(4)</u>	4 (4)	2 (2)	0 (0)	<u>10</u> <u>(10)</u>	0 (0)	<u>110</u> <u>(110)</u>	スポーツ保健医療学科	3 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	111 (111)

(参 考)

中部大學生命健康科学部は、生命医科学科、保健看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科、スポーツ保健医療学科の6学科からなり、このうち、スポーツ保健医療学科の教育課程における学部教育科目は、「学部共通科目」「生命健康科学基盤科目」及び「学科専門科目」により構成している。「学部共通科目」「生命健康科学基盤科目」は、医学系の基盤となる科目を中心に配置しており、生命医科学科の専任教員が主として担当している。

なお、当該教授は過去においてスポーツ保健医療学科に配置されていたことがあり、生命医科学科在籍中も兼担教員として、スポーツ保健医療学科の授業を担当していた。

当該教員のプロフィールは以下のとおりである。

氏 名：伊 藤 守 弘

年 齢：

職 位：教授

従前の所属：生命健康科学部生命医科学科

従前の兼務：人間力創生教育院課題教育プログラム

生命健康科学部スポーツ保健医療学科

学生部長

健康増進センター、体育・文化センター

最終学歴：

学 位：博士（医学）

専門分野：微生物学（特にウイルス学）、放射線技術学、予防医学